西都市埋蔵文化財発掘調査報告書　第44集

西都原地区遺跡 II

農業基盤改良事業（たばこ耕作天地返し）に伴う埋蔵文化財
発掘調査〔市内遺跡発掘調査事業〕

2006

宮崎県西都市教育委員会

序

西都市教育委員会では、平成10年度から平成15年度まで、農業基盤改良事業（たばこ耕作天地返し）に伴う発掘調査を実施いたしました。本書は、その発掘調査の本報告であります。

今回の調査では、寺原地区において、大集落跡の存在が想定される古墳時代前半を中心にした竪穴式住居跡群が検出されました。また、弥生時代後期から終末期の竪穴式住居跡が各地点から検出されたのに加え、中世の掘立柱建物跡群等も検出することができました。さらに、縄文時代早期の遺構・遺物も検出され、古い時代から生活の適地として利用されていたことを再確認することができました。

いずれにしても、これらは貴重な発見であり、少しずつではありますが西都原の謎を解く資料が得られ、大きな成果をあげることができました。

本報告が考古学の研究のみでなく、社会教育や学校教育の面にも広く活用されるとともに、埋蔵文化財に対する理解と認識を深めるための資料となれば幸いと存じます。

なお、調査にあたってご指導・ご協力をいただいた方々をはじめ、発掘調査・整理作業にたずさわったいただいた方々、並びに地元の方々に衷心から感謝申し上げます。

平成18年３月31日

西都市教育委員会

教育長　三　ケ　尻　　茂　樹

例　　言

1．本書は、西都市教育委員会が国庫補助を受けて、平成10年度から平成15年度までたばこ耕作の天地返しに伴い実施した市内遺跡発掘調査（西都原地区遺跡）の本報告書である。

2．発掘調査は西都市教育委員会が主体となり実施した。

3．本書使用の遺構実測図及び浄書は蓑方が行った。

4．本書使用の遺物実測図は蓑方が作成した。

5．本書の掲載した遺構・遺物写真は蓑方が撮影した。また、遺跡の空中写真は年次別に㈱スカイサーベイ九州と九州航空株式会社の２業者に委託して行った。

6．本書の執筆・編集は蓑方が行った。

7．本書に使用した方位は、図10が平面直角座標系第Ⅱ座標系であり、その他は磁北である。

8．本書に使用した標高は、海抜絶対高である。

9．本書に使用した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局ほか監修の『新版　標準土色帳に準拠した。

目　　次

第Ⅰ章　序　　説
　第１節　調査に至る経緯 ……1
　第２節　調査の体制 ……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境
　第１節　概要 ……3
　第２節　本報告に関連する周辺の主な遺跡 ……3
第Ⅲ章　現況と調査区の設定
　第１節　現況 ……11
　第２節　調査区の設定 ……11
　第３節　基本層序 ……12
第Ⅳ章　調査の記録
　第１節　平成10年度の調査
　　１．第８地点 ……17
　　２．第10・11・14地点 ……20
　　３．第17地点 ……20
　　４．第24地点 ……20
　第２節　平成11年度の調査
　　１・第10・11地点（本調査）……23
　　２．第14地点（本調査）……29
　　３．第26地点（本調査）……34
　第３節　平成12年度の調査
　　１．第39地点 ……39
　　２．第51地点 ……39
　　３．第52地点 ……41
　　４．第53地点 ……44
　第４節　平成13年度の調査
　　１．第60地点 ……46
　　２．第62地点 ……48
　　３．第65地点 ……49
　第５節　平成14年度の調査
　　１．第65地点（本調査）……50
　　２．第69地点 ……57
　　３．第72地点 ……57
　　４．第74地点 ……58
　第６節　平成15年度の調査
　　１．第69地点（本調査）……61
　　２．第81地点（本調査）……68
第Ⅴ章　ま　と　め ……93

報告書抄録

表　目　次

表１　主な検出遺構一覧表
表２　出土遺物観察表

挿　図　目　次

図１　寺原第1遺跡住居跡実測図
図２　新立遺跡遺構分布図（1/1,000）
図３　新立遺跡２号住居跡・出土遺物実測図
図４　西都原地区遺跡２号小道路SA1・出土遺物実測図（1/120・1/12）
図５　〃　8号支線道路SA１～SA３実測図（1/400・1/120）
図６　西都原地区遺跡Ｅ区遺構分布図
図７　〃　27号支線道路住居跡・出土遺物実測図（1/320・1/24・1/12）
図８　〃　39号支線道路SA１・出土遺物実測図（1/120・1/8）
図９　酒元遺跡遺構分布図（1/500）
図10　西都原古墳群周辺位置図（1/25,000）
図11　基本層序図
図12　西都原地区遺跡調査区域（地点）図（1/5,000）
図13　西都原地区遺跡遺構分布図（1/5,000）
図14　第8地点調査状況（トレンチ）図（1/600）
図15　第8地点住居跡・出土遺物実測図（1/40・1/4）
図16　第８地点住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図17　第17地点住居跡・出土遺物実測図（1/40・1/4・1/2）
図18　第24地点住居跡実測図（1/40）
図19　第10・11地点遺構分布図（1/800）
図20　第10地点集石遺構実測図（1/40）
図21　第10・11地点集石遺構実測図（1/40）
図22　第10・11地点出土遺物実測図（1/4・1/2）
図23　第14地点周辺位置図（1/800）
図24　第14地点遺物分布図（1/200）
図25　第14地点出土遺物実測図（1/4・1/2）
図26　第14地点消失円墳周溝実測図（1/100）
図27　破砕甕実測図（1/20）
図28　消失円墳周溝層序図（1/20）
図29　第14地点消失円墳周溝内出土遺物実測図（1/4）
図30　第26地点遺構分布図（1/200）
図31　１号掘立柱建物跡実測図（1/100）
図32　２～４号掘立柱建物跡実測図（1/100）
図33　５～７号掘立柱建物跡実測図（1/100）
図34　８・９号掘立柱建物跡実測図（1/100）
図35　第26地点出土遺物実測図（1/4）
図36　第39地点住居跡実測図（1/40）
図37　第39地点住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図38　第51地点住居跡実測図（1/40）
図39　第51地点住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図40　第52地点土壙墓・出土遺物実測図（1/20・1/4）
図41　第53地点掘立柱建物跡・出土遺物実測図（1/100・1/4）
図42　第60地点調査状況（トレンチ）図（1/800）
図43　第60地点住居跡・出土遺物実測図（1/40・1/4）
図44　第62地点住居跡実測図（1/40）
図45　第62地点住居跡内出土遺物実測図（1/4）

図46　第65地点遺構分布図（1/200）
図47　第65地点集石遺構実測図（1/40）
図48　1号・2号住居跡実測図（1/80）
図49　3号住居跡実測図（1/80）
図50　1号住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図51　2号住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図52　第72地点掘立柱建物跡実測図（1/100）
図53　第74地点調査状況（トレンチ）図（1/800）
図54　第74地点住居跡・出土遺物実測図（1/80・1/4）
図55　第74地点住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図56　第69地点遺構分布図（1/200）
図57　第69地点集石遺構実測図（1/40）
図58　第69地点出土遺物実測図（1/4・1/2）
図59　第69地点1号住居跡・５号土壙墓実測図（1/40）
図60　1号住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図61　2号住居跡・出土遺物実測図（1/40・1/4）
図62　第69地点土壙墓・出土遺物実測図（1/40・1/4）
図63　第81地点遺構分布図（1/200）
図64　１号住居跡・出土遺物実測図（1/60・1/4）
図65　２号住居跡・出土遺物実測図（1/60・1/4）
図66　３号・４号住居跡実測図（1/60）
図67　３号・４号住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図68　４号住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図69　５号住居跡・出土遺物実測図（1/60・1/8・1/4）
図70　６号～８号住居跡実測図（1/60）
図71　６号・７号住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図72　７号住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図73　８号住居跡内出土遺物実測図（1/4）
図74　１号住居跡内墨書土器実測図（1/4）

図　版　目　次

図版１　１．西都原地区遺跡全景（真上より）
２．西都原地区遺跡全景（北より）
図版２　３．トレンチ内調査状況（第1地点）
４．サブトレンチ内調査状況（第1地点）
５．第８地点住居跡内遺物出土状況
６．第８地点住居跡検出状況
７．西都原遺跡遠景（北より）
８．トレンチ内調査状況（第14地点）
９．第17地点住居跡検出状況
10．第24地点住居跡検出状況
図版３　11．第10・11地点遠景（東より）
12．第10地点１号集石遺構検出状況
13．第10地点２号集石遺構検出状況
14．第10地点４号集石遺構検出状況
15．第10地点４号集石遺構底面配石検出状況
図版４　16．第10地点５号集石遺構検出状況
17．第10地点５号集石遺構底面配石検出状況
18．第10地点５号集石遺構検出状況
19．第10地点６号集石遺構底面配石検出状況
20．第11地点１号集石遺構検出状況
21．第11地点３号集石遺構検出状況
22．第14地点焼礫群検出状況
23．第14地点消失円墳周溝検出状況
図版５　24．第14地点消失円墳周溝内破砕甕出土状況
25．第26地点１～４号掘立柱建物跡検出状況
26．第26地点遺構分布状況（真上より）

27. 第26地点５・６号掘立柱建物跡検出状況
28. 第26地点1号土壙墓検出状況
図版６　29. トレンチ内調査状況（第38地点）
30. サブトレンチ内調査状況（第38地点）
31. 第31地点住居跡検出状況
32. 第51地点住居跡内遺物出土状況
33. 第51地点住居跡検出状況
34. 第52地点土壙墓検出状況
35. 第52地点土壙墓内遺物出土状況
36. 第53地点掘立柱建物跡検出状況
図版７　37. 第60地点住居跡検出状況
38. 第62地点住居跡検出状況
39. 第65地点１号集石遺構検出状況
40. 第65地点２号集石遺構検出状況
41. 第65地点３号集石遺構検出状況
42. 第65地点４号集石遺構検出状況
43. 第65地点５号集石遺構検出状況
44. 第65地点６号集石遺構検出状況
図版８　45. 第65地点遠景（西より）
46. 第65地点遺構分布状況（真上より）
図版９　47. 第69地点１号集石遺構検出状況
48. 第69地点２号集石遺構検出状況
49. 第69地点2号集石遺構底面検出状況
50. 第69地点1号土壙検出状況
51. 第69地点遺構分布状況（真上より）
図版10　52. 第69地点１号住居跡検出状況
53. 第69地点２号住居跡検出状況
54. 第74地点掘立柱建物跡検出状況
55. 第74地点住居跡検出状況
56. 第81地点遺構掘削前状況
57. 第81地点１号住居跡検出状況
58. 第81地点２号住居跡検出状況
59. 第81地点３・４号住居跡検出状況
図版11　60. 第81地点３号住居跡カマド検出状況
61. 第81地点５号住居跡検出状況
62. 第81地点６～８号住居跡検出状況①
63. 第81地点６～８号住居跡検出状況②
64. ６号住居跡遺物出土状況
65. ７号住居跡遺物出土状況①
66. ７号住居跡遺物出土状況②
67. ７号住居跡遺物出土状況③
68. 第81地点遺構検出状況
図版13～23　各遺構出土遺物

第Ⅰ章　序　　説

第１節　調査に至る経緯

西都市は、県内でも指折りのたばこ等の生産地であるが、長年の作付けにより土地が弱り、病気も多くなっていることから、天地返しをする地域が増えてきている。すでに、都於郡の長園、三財の小豆野原台地等では実施され、品質的・生産的のもかなり向上してきている。

しかし、天地返しをすることよって地下遺構に与える影響は大きく、遺跡の消滅が懸念されている。このような中、西都原台地にもその波が及ぶこととなり、たばこ耕作組合と埋蔵文化財の現状保存について協議を重ねたが、生産者の生活権等を考慮すると、現状を保存するということは困難であると判断し、遺構・遺物が検出された場合には、現状保存を前提とした協議をすること等を条件に、確認調査及び本調査を実施することとなった。

第２節　調査の体制

○平成10年度

調査主体	教育長	菊池彬文
	社会教育課長	佐々木美徳
	同　文化財主事	日高憲一
	同　主事補	筌瀬明宏
	同　主事補	長友英樹
調査員	同　文化財係長	蓑方政幾
調査指導員	日高正晴（西都原古墳研究所長）	

○平成11年度

調査主体	教育長	菊池彬文
	社会教育課長	阿万定治
	同　文化財主事	日高憲一
	同　主事	筌瀬明宏
	同　主事補	土持留理
調査員	同　文化財係長	蓑方政幾
調査指導員	日高正晴（西都原古墳研究所長）	

○平成12年度

調査主体	教育長	菊池彬文
	文化課課長	阿万定治
	同　補佐	奥野拓美
	同　主事	鹿嶋修一
	同　主事	筌瀬明宏
	同　主事補	土持留理
調査員	同　係長	蓑方政幾
調査指導員	日高正晴（西都原古墳研究所長）	

○平成13年度

調査主体	教育長	菊池彬文
	文化課課長	阿万定治
	同補佐	奥野拓美
	同主事	鹿嶋修一
	同主事	筌瀬明宏
	同主事補	津曲大祐
調査員	同係長	蓑方政幾
調査指導員	日高正晴（西都原古墳研究所長）	

○平成14年度

調査主体	教育長	黒木康郎
	文化課課長	阿万定治
	同補佐	奥野拓美
	同主事	鹿嶋修一
	同主事	筌瀬明宏
	同主事補	津曲大祐
調査員	同係長	蓑方政幾
調査指導員	日高正晴（西都原古墳研究所長）	

○平成15年度

調査主体	教育長	黒木康郎
	文化課課長	森康雄
	同補佐	村岡満徳
	同主事	鹿嶋修一
	同主事	筌瀬明宏
	同主事	津曲大祐
調査員	同係長	蓑方政幾
調査指導員	日高正晴（西都原古墳研究所長）	

○発掘作業

井上六雄・緒方タケ子・押川ツル・廻田勉・廻田和子・金丸美保・川野照夫・菊池隆行・黒木トシ子・児玉征子・佐伯民孝・椎葉重満・椎葉智佐子・篠原時江・島地美保・銀鏡佳・杉田ヨシ・関治代・長友エイ子・長谷川クミエ・浜田スミ・疋田はる子・松本　和・光森スミ子・横山ナオ子・和田厚子

○整理作業

緒方裕子・杉田英子・中原昭美・長谷川明美

第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境

第１節　概要

西都市街地の西方には、標高50～80ｍの通称西都原と呼ばれる台地がある。その台地東側には標高20～30ｍの南北に延びた中間台地があり、さらに、その下には沖積平野が広がっている。

この西都原台地を中心にした地域には、陵墓参考地として治定されている男狭穂塚・女狭穂塚の巨大古墳をはじめ、前方後円墳30基、方墳１基、円墳278基で構成された特別史跡・西都原古墳群が分布している。また、南九州独自の墓性である地下式横穴墓が現在までに12基、横穴墓と地下式横穴墓の折衷型とされるタイプの酒元ノ上横穴墓[1]も確認されている。

このように西都原台地上には数多くの古墳が所在しているが、諸各種開発等に伴う調査の結果、古来から生活が営まれたことが確認されている。縄文時代としては、台地北東端の新立遺跡[2]をはじめ、２号小道路・Ｅ区・23支線道路（圃場整備に伴う発掘調査[3]）があり、集石遺構に共伴して縄文土器等が出土している。弥生時代としては、寺原第１遺跡[4]、２号小道路・８号・33号支線（圃場整備に伴う発掘調査）・西都原遺跡[5]があり、竪穴式住居跡等が検出されているが、その他弥生時代終末から古墳時代初頭の集落群跡が新立遺跡で確認されている。古墳時代としては、27号支線道路（圃場整備に伴う発掘調査）から21軒もの竪穴式住居跡が検出され、古墳時代初頭には現寺原集落の南側に大集落跡の存在が確認された。古墳時代以降の遺跡としては３号・34号支線道路（圃場整備に伴う発掘調査）等がある。

西都原台地東側の中間台地には、５世紀初頭頃の集落跡が確認された酒元遺跡[6]をはじめ、北側の寺崎地区には日向国府跡[7]（国指定史跡）、南側には日向国分寺跡[8]（県指定史跡）や日向国分尼寺跡[9]（推定）などが所在している。

第２節　本報告に関連する主な遺跡

１．寺原第１遺跡[4]（昭和58年度）

本調査は、個人住宅建築に伴い実施した発掘調査で、西都原台地南西部に位置する寺原集落内から確認された。

東西5.8ｍ、南北は北辺で6.0ｍ、南辺5.2ｍで多少歪みを持った方形状プランの竪穴式住居跡である。特徴的なのは東辺と西辺の中央部に突出壁を有していることで、長さ約0.8ｍ・幅0.75ｍの舌状を呈している。検出面はアカホヤ火山灰層で、主柱は４本、床面は平坦である。

この突出壁を有する竪穴式住居跡は、当時、「日向型間仕切り住居跡」や「花弁状住居跡」などの特殊なものも含め、日向地方の住居跡としては変化に富み、形態も極めて特異な住居跡として注目されていた。

時期的には、共伴遺物等から弥生時代後期か終末期頃に比定されている。

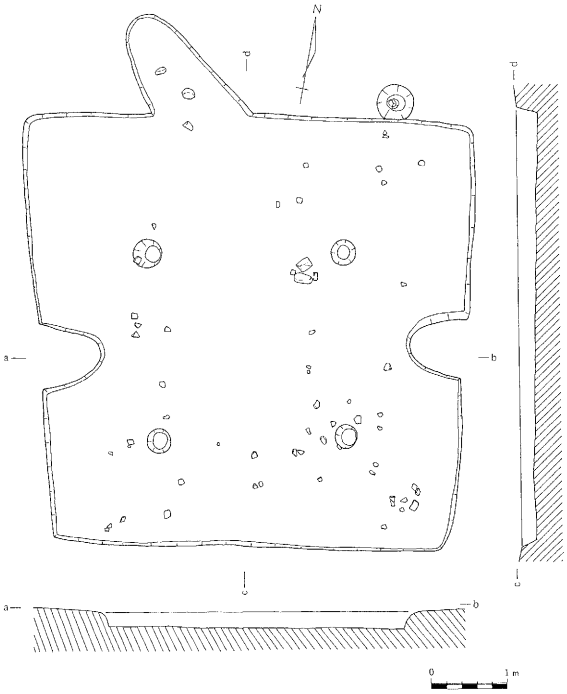


図１　寺原第１遺跡住居跡実測図

２．新立遺跡[2]（平成３年度）

市営墓地造成工事に伴い実施した発掘調査で、縄文時代早期の集石遺構をはじめ弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴式住居跡・円形土坑・方形土坑・掘立柱建物跡等を検出した。

集石遺構は、掘込みを有するタイプと有しないタイプに分かれる。礫はほとんどが角礫で構成され、無規則に集積されている。共伴遺物は、ほとんどが無文土器で、その他貝殻条痕文系土器や石鏃等が出土している。

竪穴式住居跡は、１号住居跡のみ不整形の円形プランで、その他は四隅のうち一隅がせり出すか台形に近い方形プランを呈し、張り出しを有するものも含まれている。中でも、２号住居跡は、長軸3.18m・短軸2.67mの小さなものであるが、多種多様の土器が多量に出土した。口縁部断面が凸字状で、櫛描波状文が施された二重口縁の装飾高坏や胴部が球状を呈した大型壺やミニチュア土器等バラエティーに富んでいる。また、10号住居跡は、本遺跡最大のもので、長軸7.15m・短軸6.70mを測る。住居跡内からは、推定器高1.00m前後で、櫛描波状文が施され、二重口縁を呈し、胴部の最大径を上位にもつスマートな大型壺をはじめ、甕・鉢等が出土している。

掘立柱建物跡は、２間×３間で、主軸の方向はN－65°－W、桁行（NS）11.40m・梁行（EW）7.50mを測る。

その他、土坑については、共伴遺物が極端に少なく、時期的なことなど不明な点が多い。

いずれにしても、弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴式住居跡が検出されたことは、これまで不明な点が多かった同時代における人々の生活の様子を知り得る貴重な資料となった。

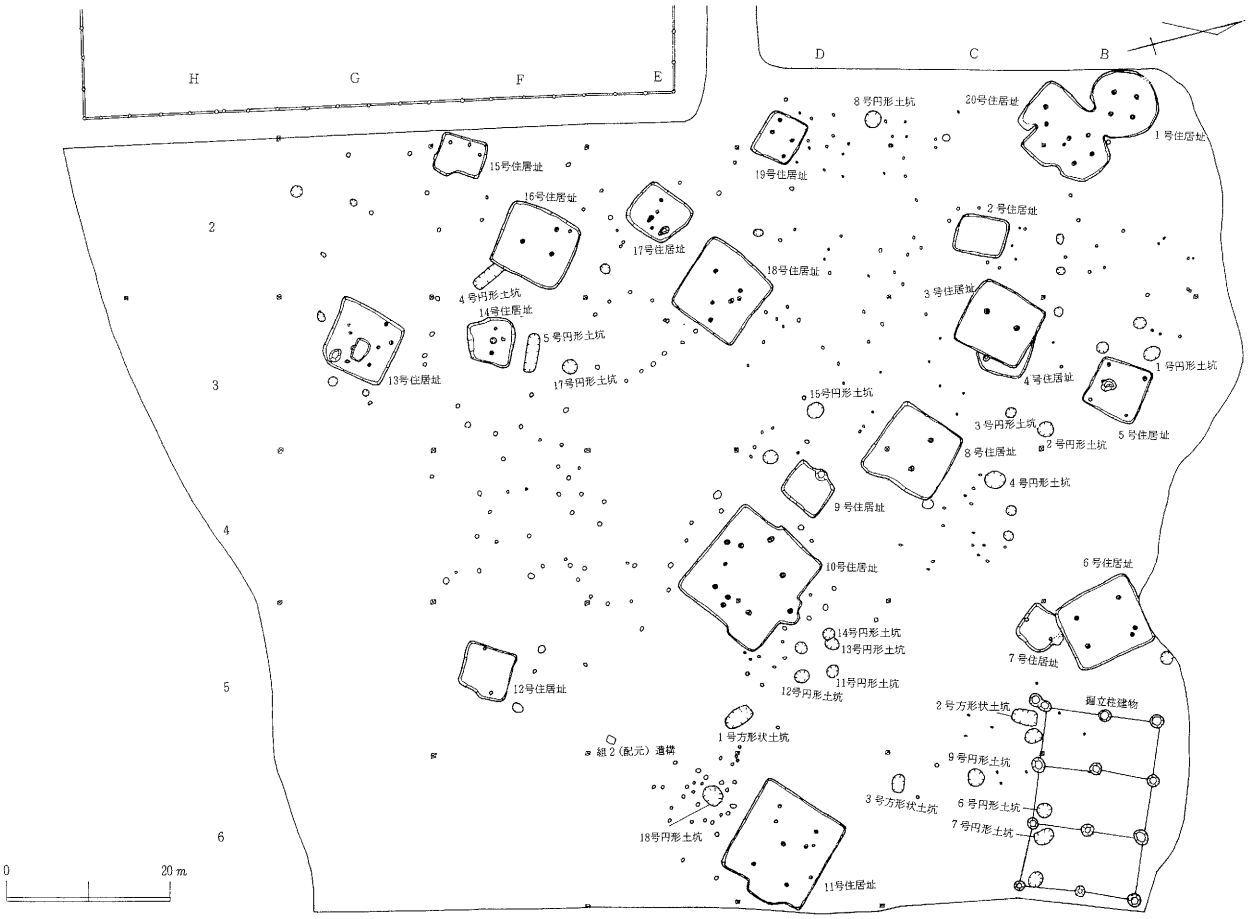


図２　新立遺跡遺構分布図（1/1,000）

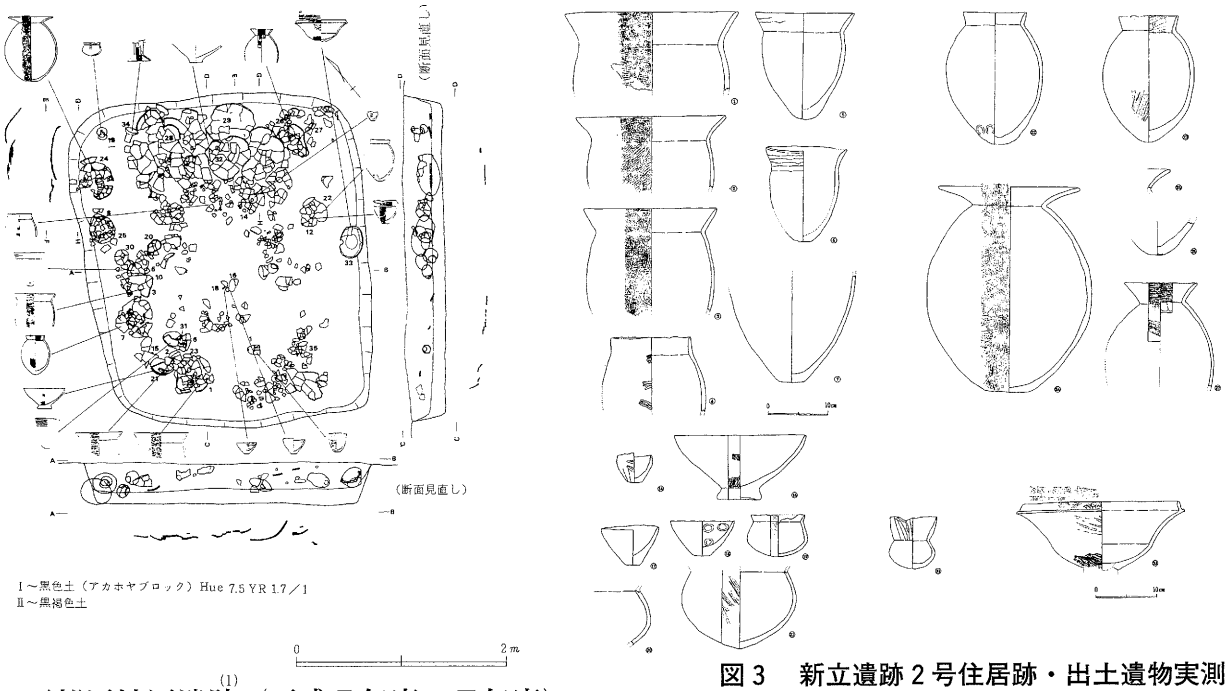


図３　新立遺跡２号住居跡・出土遺物実測図

３．西都原地区遺跡[1]（平成５年度～７年度）

平成５年度から７年度まで実施された県営農村基盤総合整備パイロット事業（尾鈴地区西都原工区）に伴い行った発掘調査である。西都原台地の北側がⅠ工区、中央部がⅡ工区、南側がⅢ工区で、道路部分と造成工事によって地下遺構に影響を及ぼす部分が対象となった。

（１）Ⅰ工区

１号支線道路（平成６年度）

アカホヤ火山灰下層の黒褐色土から縄文土器が多量に出土した。今回調査した第14地点の東側に位置している道路部分にあたる。遺構は検出できなかったが、貝殻条痕文系土器や無文土器が主体を成している。その他、敲石・石鏃・打製石斧などの石器が出土している。

２号小道路（平成６年度）

縄文時代早期の集石遺構1基をはじめ、弥生時代中期の竪穴式住居跡1軒・土坑1基等を検出した。中でも、土坑は多量の土器片が混入した土器溜りで、長軸1.64ｍ・短軸1.47ｍ、検出面からの深さ0.38ｍを測る。主体を成しているのは甕形土器や壺形土器で、高坏や鉢形土器等約500点が出土した。甕形土器は、口縁部が逆「L」字状を呈したものや刻目突帯を有するもの、壺形土器は鋤先状口縁のものなどが出土している。今回の第65地点の北側に隣接した道路部分にあたる。

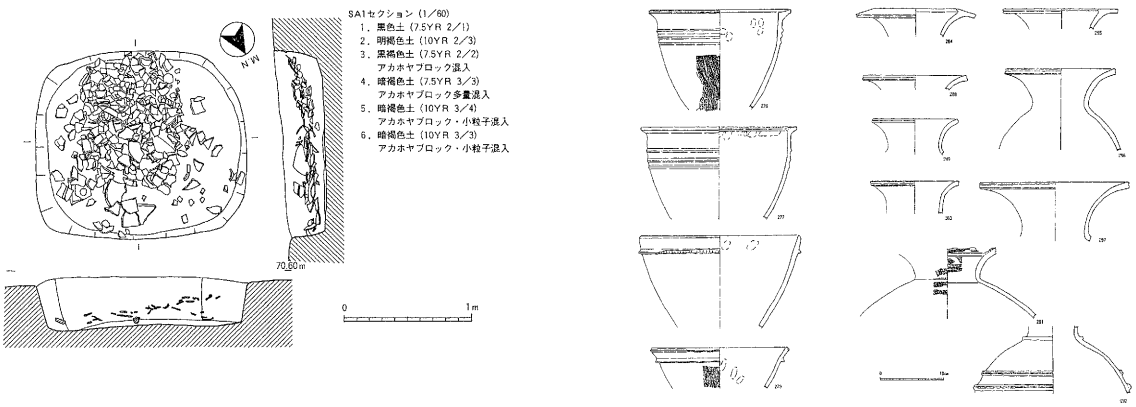


図４　西都原地区遺跡２号小道路SA１・出土遺物実測図（1/120・1/12）

（2）Ⅱ工区

８号支線道路（平成６年度）

陵墓の東側の東西に延びた道路が８号支線道路で、弥生時代中期末と推定される竪穴式住居跡３軒等を検出した。

１号住居跡は、長軸5.20m・短軸4.70mの方形プランのもので、検出面からの深さ0.50mを測る。床中央部から南東壁にかけて段差が見られる。主柱は２本で、幅約0.15m・深さ0.05mの壁帯溝が施されていた。弥生土器・磨製石鏃・砥石・石皿等が出土した。

２号住居跡は、長軸7.40m・短軸5.80mの長方形プランのもので、北東隅は内側に入り込んでいる。主柱は２本で、床面中央部から南壁にかけて浅い落ち込みがある。遺物はわずかで、弥生土器や磨製石鏃等が出土している。

３号住居跡は、長軸5.10m・短軸3.90mの長方形プランのものである。北東壁が外にやや張り出し、南西壁がやや内側に入り込んでいる。床面中央部から南西壁にかけて「L」字状に約0.25m程低くなり、周囲がベット状になっている。主柱は２本で、南西壁際に浅い落ち込みが見られる。遺物は石皿が１点出土したのみである。

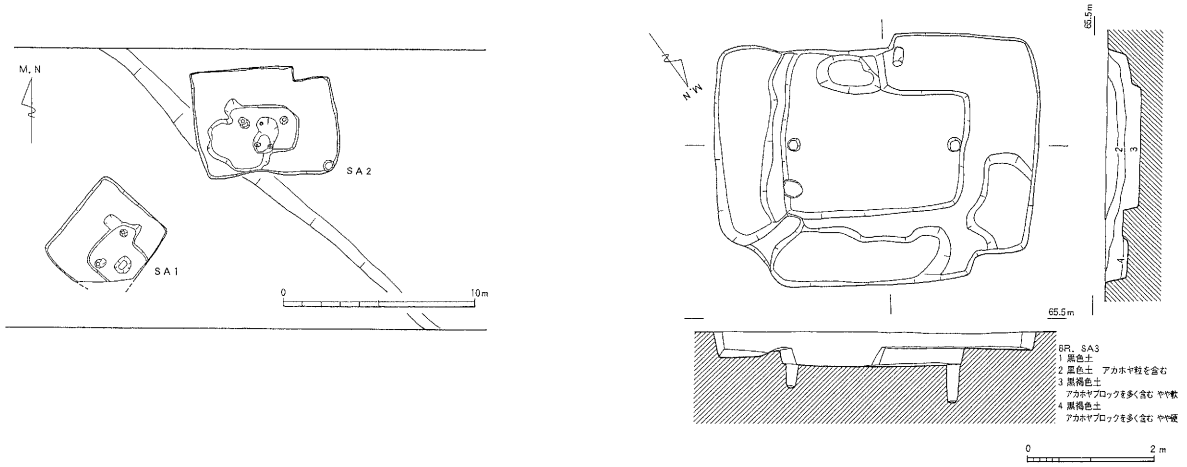


図５　西都原地区遺跡８号支線道路SA１～SA３実測図（1/400・1/120）

（3）Ⅲ工区

Ｅ区（平成５年度）

西都原台地の南東、台地縁辺部で、今回の第65地点の西側に隣接した地区である（同畑地内）。アカホヤ火山灰層は遺存しておらず、その下層の黒褐色土から縄文時代早期の集石遺構７基と溝状遺構２条を検出した。

集石遺構は、掘り込みを有するタイプと有しないタイプに分かれ、底面に配石を施しているものも見られた。礫はいずれも角礫が多く、火を受け、赤く変色している。

遺物は、縄文土器がわずかに出土した。無文土器がほとんどで、貝殻条痕文系土器が若干含まれている。

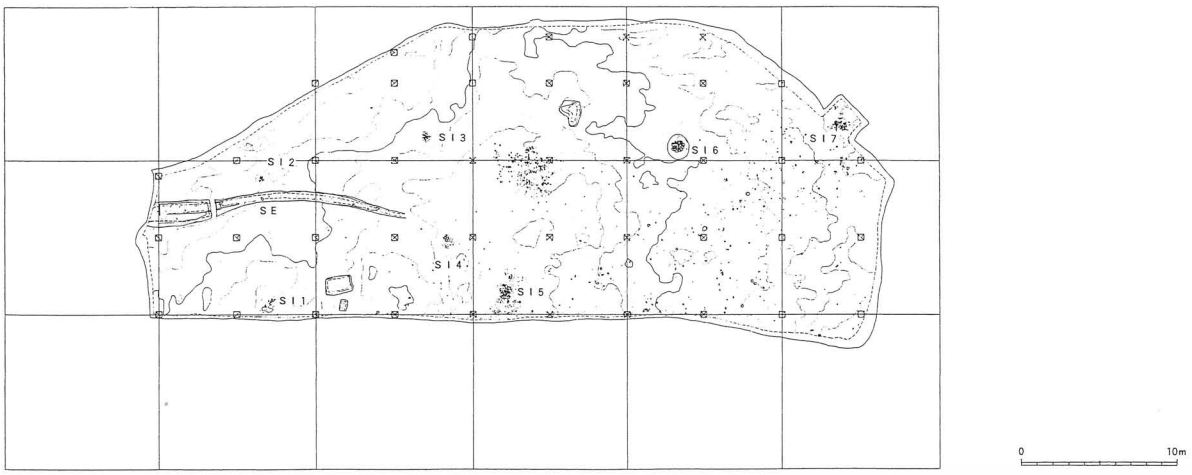


図６　西都原地区遺跡Ｅ区遺構分布図

27号支線道路（平成５年度・７年度）

寺原地区のほぼ中央部、東西に延びた道路で、平成５年度の調査で14軒、平成７年度の調査で７軒の総数21軒の竪穴式住居跡を検出した。いずれも、道路の拡幅部分のみの調査で、道路の部分については、今後の保存整備の中で取り組む方向で進めることとなったことから、現状維持のままで保存する工法で工事が実施された。

いずれにしても、幅1.60m～3.00m、長さ127.0mの範囲に重複して検出しており、周辺を含めた地域には大集落跡の存在が想定される。

方形プラン及び長方形プランで、床中央部に掘り込みを有するもの、壁帯溝を有するもの、張り出しを有するものなどがある。時期的には古墳時代初頭から前期後半まで、比較的短い期間存続した集落であると推定される。

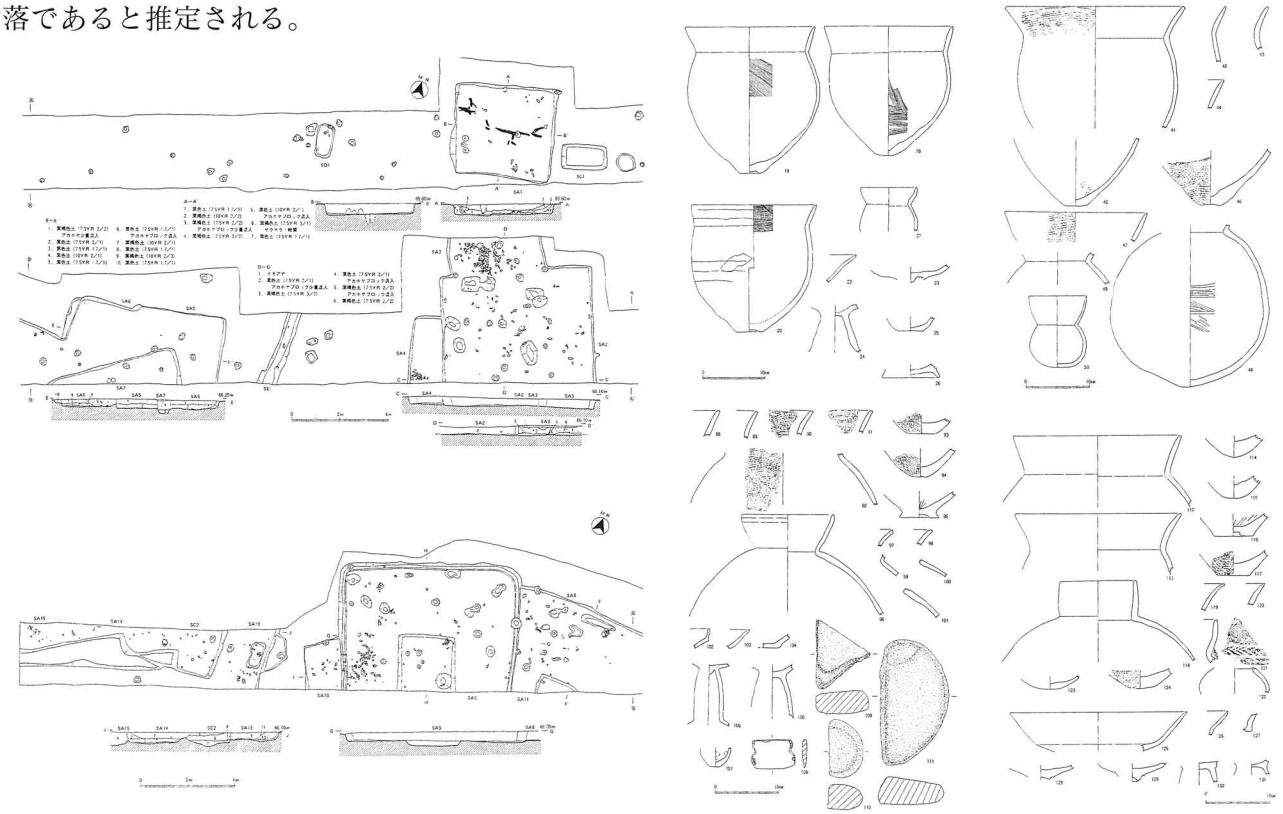


図７　西都原地区遺跡27号支線道路住居跡・出土遺物実測図（1/320・1/24・1/12）

（5）39支線道路（平成５年度）

39号支線道路は、29号支線道路の南側に位置する道路で、弥生時代後期後半の竪穴式住居跡を１軒した。長軸3.70m・短軸3.20m、検出面からの深さ0.30mを測る方形プランのものである。主柱は２本で、床中央には円形の窪みを有している。

遺物は、甕や櫛描波状文・ヘラ描きの鋸歯状文が施された二重口縁壺を含む壺形土器をはじめ、高坏等の弥生土器が出土している。

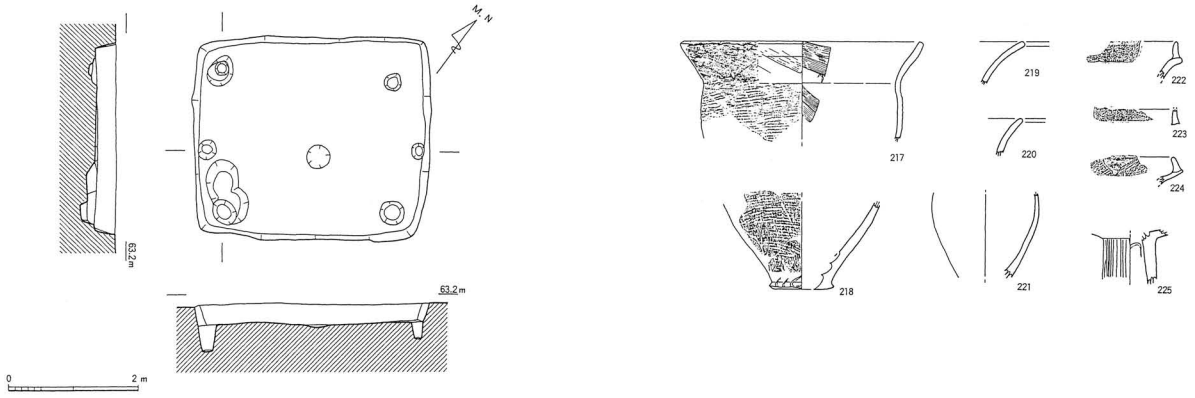
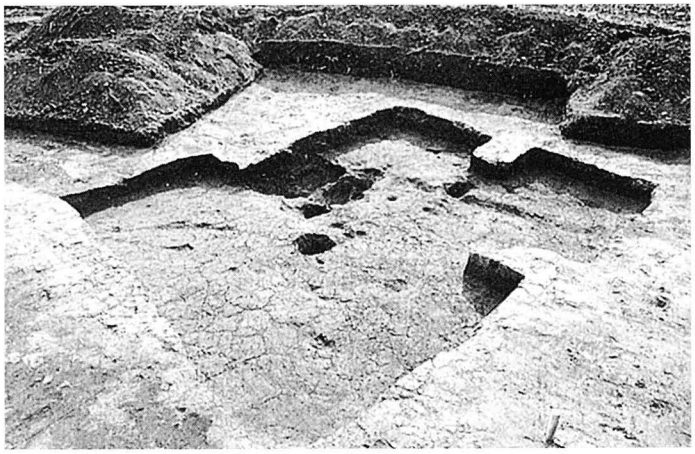


図８　西都原地区遺跡39号支線道路SA１・出土遺物実測図（1/120・1/8）

４．西都原遺跡[5]（平成６年度）

本調査は、市道拡幅工事に伴い実施した発掘調査で、竪穴式住居跡２軒と地下式横穴墓１基等を検出した。

１号住居跡は、西辺と北辺に突出壁、南東部には方形状の張り出しを有する長方形プランのもので、長軸5.00m・短軸4.05m、検出面からの深さ0.25mを測る。床面は平坦で、主柱は２本である。２号住居跡は、長軸5.57m・短軸5.05mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.40mを測る。床面は平坦であるが、中央部が方形状に掘り込まれている。いずれも、弥生時代中期から後期のものと推定される。



西都原遺跡　１号住居跡

地下式横穴墓は、天井が陥没したことから発見されたものである。平入りで、玄室の平面プランは楕円形状を呈している。玄室は、長さ2.22m・幅2.70mの規模を有し、天井はほとんどが崩落しているが、ドーム状と思われる。遺物は須恵器坏及び坏蓋、耳環２個が頭部側から出土した。

５．酒元遺跡[6]（昭和63年度）

本調査は、市道新設工事に伴う発掘調査で、全長約130m・幅約18mが対象になった。西都原台地から東に舌状に突出した微高地の段丘上に位置している。

調査は、アカホヤ火山灰層を基本に遺構等の検出を行った。調査の結果、アカホヤ火山灰層面にて

竪穴式住居跡６軒・土坑７基・溝状遺構２条、アカホヤ火山灰下層（アカホヤ火山灰層はすでに掘削）にて集石遺構２基等を検出した。

この中で、竪穴式住居跡は、いずれも方形状プランを有し、規模的には最大のものが長軸5.67m・短軸5.35m、最小のものが長軸3.50m・短軸3.02mを測る。共伴遺物は、土師器が主体で、広口壺・鉢・甕・高坏等が出土しているが、特に、高坏が多く出土していることから、筆者は極めて信仰儀礼的な生活が営まれていたと推察している。また、器形の特徴等から時期的には５世紀前半から中葉後半頃に比定している。

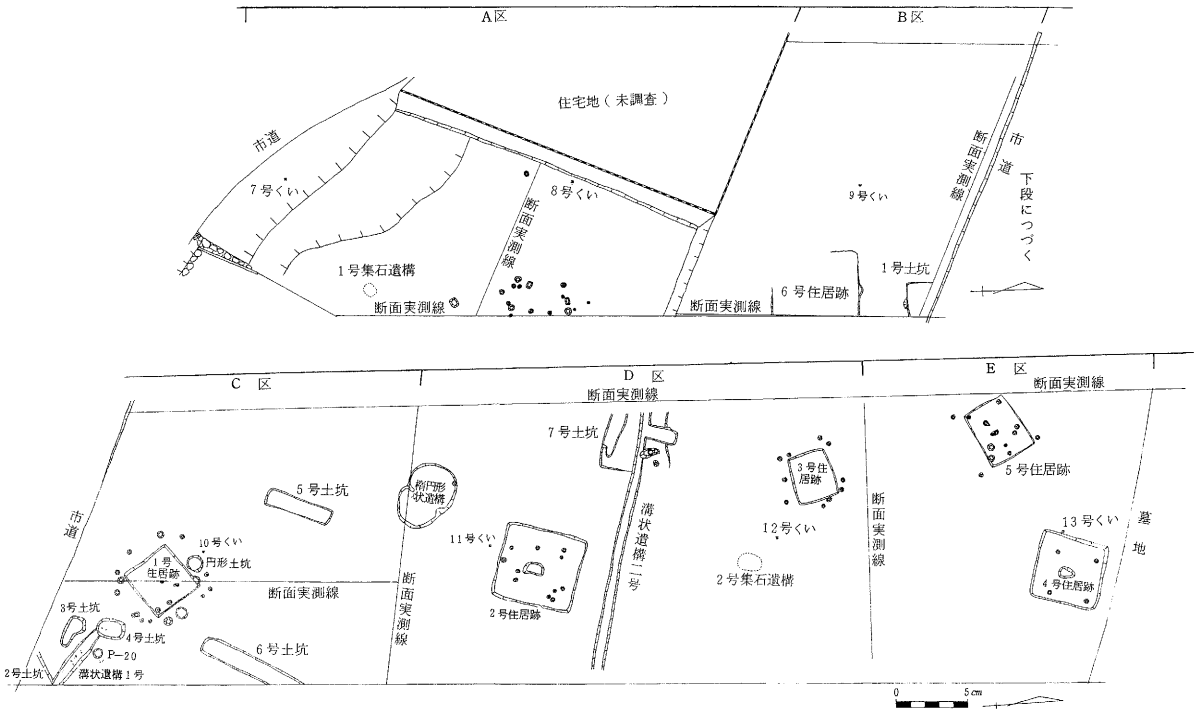


図９　酒元遺跡遺構分布図（1/500）

註

(1)　宮崎県・西都市教育委員会「西都原地区遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第22集　1996

(2)　西都市教育委員会「新立遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第18集　1992

(3)　(1) と同じ

(4)　〃　「寺原第１遺跡他」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第１集　1985

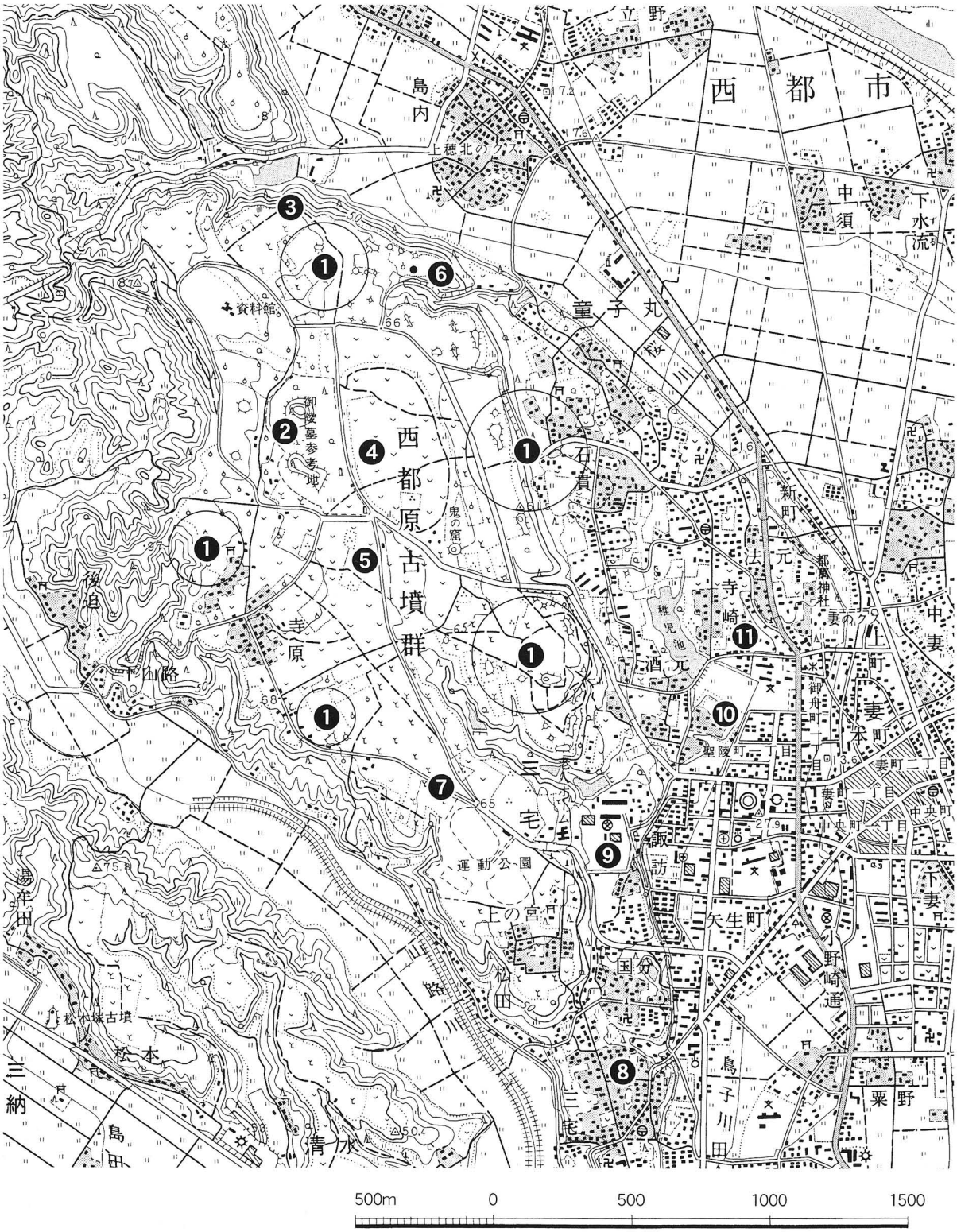
(5)　西都市教育委員会『西都原古墳研究所・年報』第11号　2000

(6)　〃　『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第8集　1989

(7)　宮崎県教育委員会「寺崎遺跡」『国衙跡保存整備基礎調査報告書』　2001

(8)　〃　『国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査報告書』Ⅴ　1996

(9)　西都市教育委員会「市内遺跡発掘調査概要報告書Ⅰ～Ⅷ」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第23～36集　1996～2003



1．特別史跡・西都原古墳群　2．御陵墓（男狭穂塚・女狭穂塚）

3．丸山遺跡　**4．西都原遺跡**　**5．寺原遺跡**

6．新立遺跡　**7．原口遺跡**　8．日向国分寺跡

9．日向国分尼寺跡　10．酒元遺跡　11．日向国府跡（寺崎遺跡）

図10　西都原地区遺跡周辺位置図（1/25,000）

第Ⅲ章　現況と調査区の設定

第１節　現況

西都原地区遺跡については、これまでに圃場整備をはじめ駐車場整備や道路拡幅工事に伴う発掘調査によって、縄文時代早期の集石遺構及び焼礫群、弥生時代中期から後期の竪穴式住居跡、古墳時代初頭から前期の竪穴式住居跡、古墳時代の地下式横穴墓、さらには、横穴墓と地下式横穴墓との折衷形として注目された古墳時代後期の墓道を有する横穴墓など各時代を通じた多種多様の遺構を検出している。

これらは、位置的には、そのほとんどが西都原台地縁辺部に集中しており、台地中央部からは弥生時代の竪穴式住居跡等が検出されているものの、遺構密度はかなり薄いことが判明している。また、西都原台地上からは古墳の築造に関連した人々の遺構があまり確認されないことから、台地上特に御陵墓の東側を中心とした地域は当時、古墳を築造する特別な空間、いわゆる聖域として認識していたものと想定した。

これら遺構のなかで横穴墓については、国の「地方拠点史跡等総合整備事業」（歴史ロマン再生事業）のなかで保存・活用されることになり、「西都原古墳群遺構覆屋」が平成11年度に建設され、一般公開されている。

なお、この事業は宮崎県教育委員会が主体となり、平成７年度から進められているもので、これまでに「鬼ノ窟古墳」をはじめ「13号墳」・「100号墳」・「171号墳」・「地下式４号墳」等の調査研究及び保存整備が図られ、平成16年度の「宮崎県立西都原考古博物館」の完成で一応の事業完了となった。

現在は、宮崎県立西都原考古博物館が主体となり、これまでのように大規模ではないが、陵墓である男狭穂塚の形態を特定するための地下レーダー探査や46号墳・170号墳の確認調査等が年次的に進められている。

このような中、平成９年頃からたばこ耕作に伴う天地返しの波が西都原台地にも押し寄せ、それを、西都たばこ耕作組合が取りまとめ、西都原台地における天地返しが大々的に行われることになり、総数82地点もの確認及び本調査を実施することとなった。

西都原遺跡は、寺原・丸山・原口・西都原遺跡の４遺跡を総称した呼称で、寺原遺跡は台地の南西部で寺原集落を含む地域、原口遺跡はその南側で西都原運動公園の北側一帯を含む地域、丸山遺跡は台地北部地域、西都原遺跡は台地中央部から南東部を含む地域である。

第２節　調査区の設定

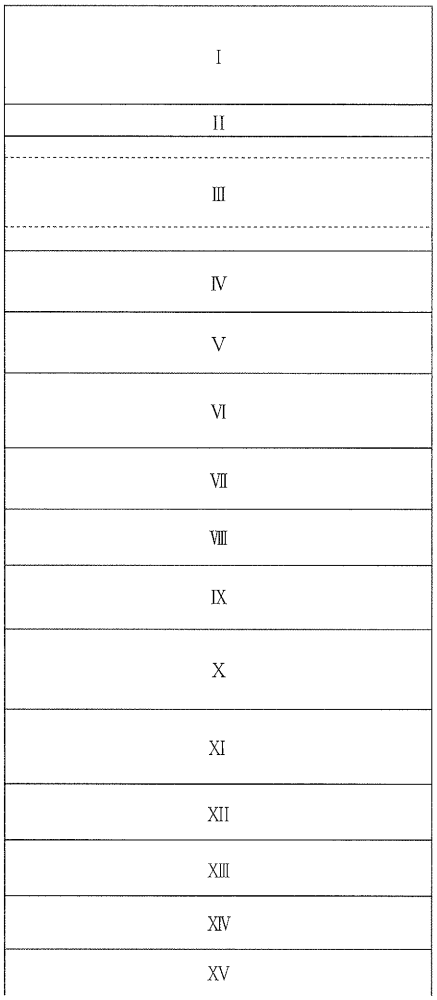
調査方法は、畑地の形状に合わせ、幅２ｍのトレンチを８～10ｍ間隔に設定し、遺構・遺物の遺存状況等の確認を行った。そして、遺構・遺物等が確認された場合には、トレンチをさらに拡幅及び増設して詳細な調査を行った。この詳細なトレンチ調査によって確実に遺構であると判断した場合、あるいは同畑地内に広範囲に分布していると判断した場合には、地権者の方と現状保存について協議を行い、それが困難なところ（地点）について本調査を実施した。

検出は、アカホヤ火山灰層面を基本に行った。また、アカホヤ火山灰下層の文化層については、各トレンチ内に幅２ｍ・長さ２ｍのサブトレンチを設定して、遺構・遺物の遺存状況等の確認を行った。

第３節　基本層序

今回の調査地点における層序はある程度一定しており以下のとおりで、第Ⅲ層に相当するアカホヤ火山灰層が遺構検出面である。なお、アカホヤ火山灰層は、フワフワでしまりがなく、キメ細かい上層と、少ししまりのある黄橙色の中層、そして、少しザラザラでしまりのある黒褐色部分の下層に細分される。

遺構及び遺物はこのアカホヤ火山灰層面と、第Ⅳ層及び第Ⅴ層に相当する黒色土・黒褐色から縄文時代早期の集石遺構や焼礫群等を検出することができた。



第Ⅰ層　耕作土
第Ⅱ層　黒色土（クロボク）
第Ⅲ層　アカホヤ火山灰層（上層）黄橙色　10YR8/8　しまりなし
アカホヤ火山灰層（中層）黄橙色　10YR7/8　しまりなし
アカホヤ火山灰層（下層）黒褐色　10YR2/2　しまりあり
第Ⅳ層　黒色土　10YR2/1　しまりなし　白色・黒色・灰色の粒子含む
第Ⅴ層　黒褐色土　10YR3/2　しまりあり　白色・透明の粒子含む
第Ⅵ層　暗褐色土　10YR3/4　少ししまりあり　白色・透明の粒子含む
第Ⅶ層　黄褐色土10YR5/4　にぶい黄褐色土10YR4/3　しまりあり　白色・橙色・透明・黒色粒子混入
第Ⅷ層　褐色土　10YR4/4 しまりなし　白色・黄橙色・黒色粒子混入
第Ⅸ層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　しまりあり　白色・黄橙色・灰色・透明の粒子多量混入
第Ⅹ層　明黄褐色土　しまりあり　目が粗くザラザラ　白色・黄橙色・灰色・透明の粒子多量混入
第Ⅺ層　黄橙色土（AT）しまりなし　きめ細かくザラザラ　白色・黄橙色・灰色・透明の粒子多量混入
第Ⅻ層　にぶい黄褐色土　10YR5/3　しまりあり　白色・黄橙色・灰色・透明の粒子多量混入
第XIII層　灰黄褐色土　10YR4/2　しまりあり　白色・灰色粒子混入
第XIV層　橙色土　7.5YR6/8　しまりあり　黒色・褐色・灰色の粒子混入
第XV層　黄橙色土　7.5YR7/8　しまりあり　黒色・灰色・白色の粒子多量混入　キメ荒くザラザラ

図11　基本層序図

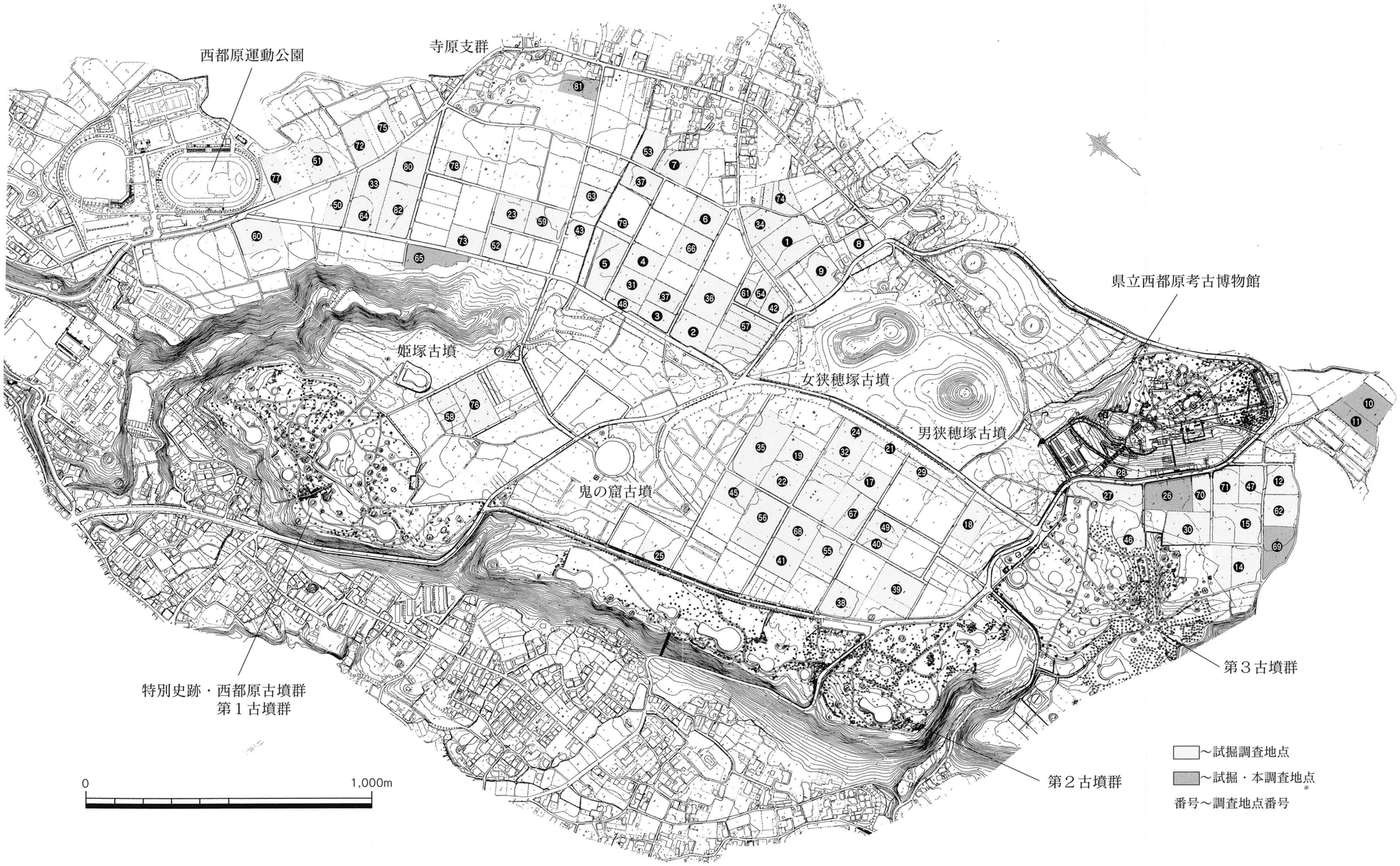


図12　西都原地区遺跡調査区域（地点）図（1/15,000）

図13　西都原地区遺跡遺構分布図（1/15,000）

第Ⅳ章　調査の記録

発掘調査は、あまりにも広範囲で、調査箇所も82地点とかなり多く、しかも、各地点より多種多様な遺構や遺物が検出され、混乱を生じる恐れがあることから、時代・遺構に関係なく、年度毎に地点の早い順に報告することとした。

第１節　平成10年度の調査

本年度は、陵墓の西側及び南側の既に圃場整備された地域を中心に29箇所（第１～29地点）の調査を行った。調査対象面積は約12,500㎡である。

アカホヤ火山灰層の遺存率は全体の50％程度で、かなり削平されている地点が多い。

調査の結果、第10・11・14地点から縄文時代早期の焼礫群をはじめ、台地のほぼ中央部、陵墓の西側に位置する第17地点から弥生時代後期のものと推定される竪穴式住居跡、台地の北部の第26地点からは柱穴群を確認した。

このなかで、焼礫群を検出した第10・11・14地点、柱穴群を検出した第26地点については、地権者のご協力を得て、次年度本調査することとなった。

１．第８地点

第８地点は、陵墓である女狭穂塚の南西約200ｍに位置しており、周辺地は緩やかな傾斜地となっている。

（１）遺構と遺物

竪穴式住居跡

ⅰ立地

第８地点の北側で検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

ⅱ規模と構造

方形プランを有しているが、東側は耕作によりかなり削平されており、床面とほぼ同じレベルとなっている。その他のところもかなり浅く、検出面から深さ0.1ｍ程度である。床面は一部少し窪んでいるものの平坦で、主柱は２本である。

ⅲ出土遺物

遺物は、総数約200点が出土しているが、ほとんどが弥生土器で、器形的には甕・壺があり、量的には甕が圧倒的に多い。

１～８は、いずれも刻目突帯を有する下城式系の甕であるが、１～４は口縁部が外反するタイプのもので、２は推定口径30.3㎝を測る。５～８は口縁部が直行するタイプのもので、５は推定口径35.0㎝を測る。

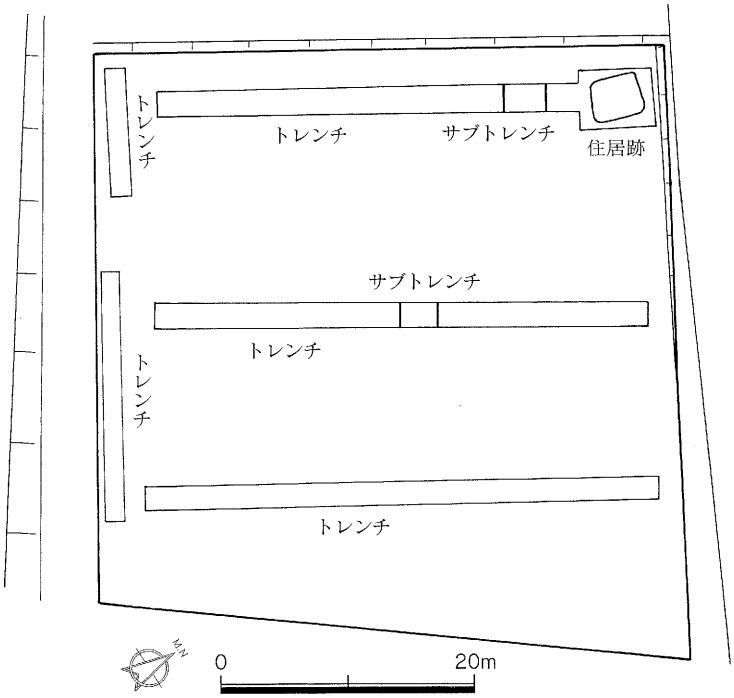


図14　第８地点調査状況（トレンチ）図（1/600）

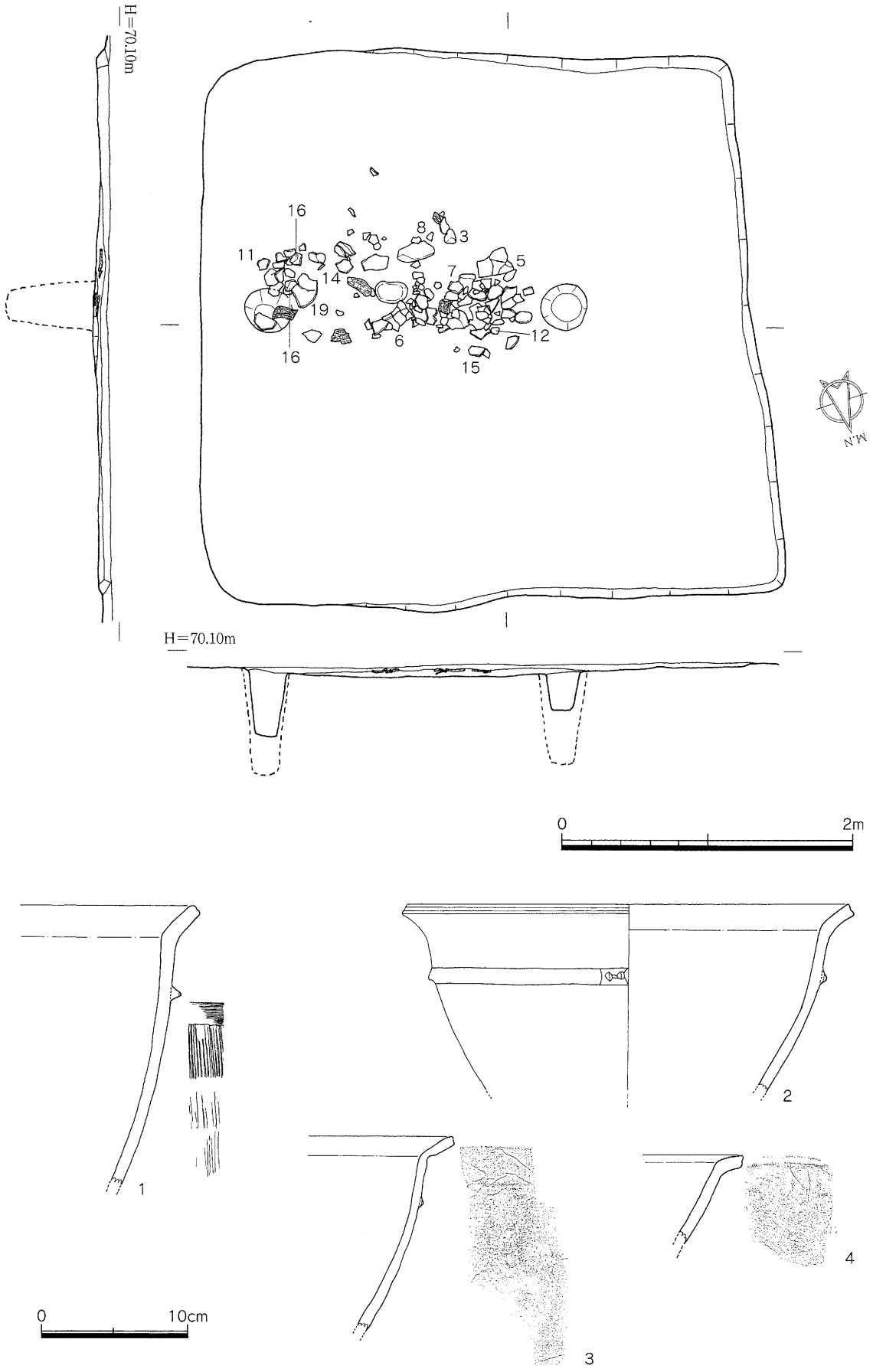


図15　第8地点住居跡　出土遺物実測図（1/40・1/4）

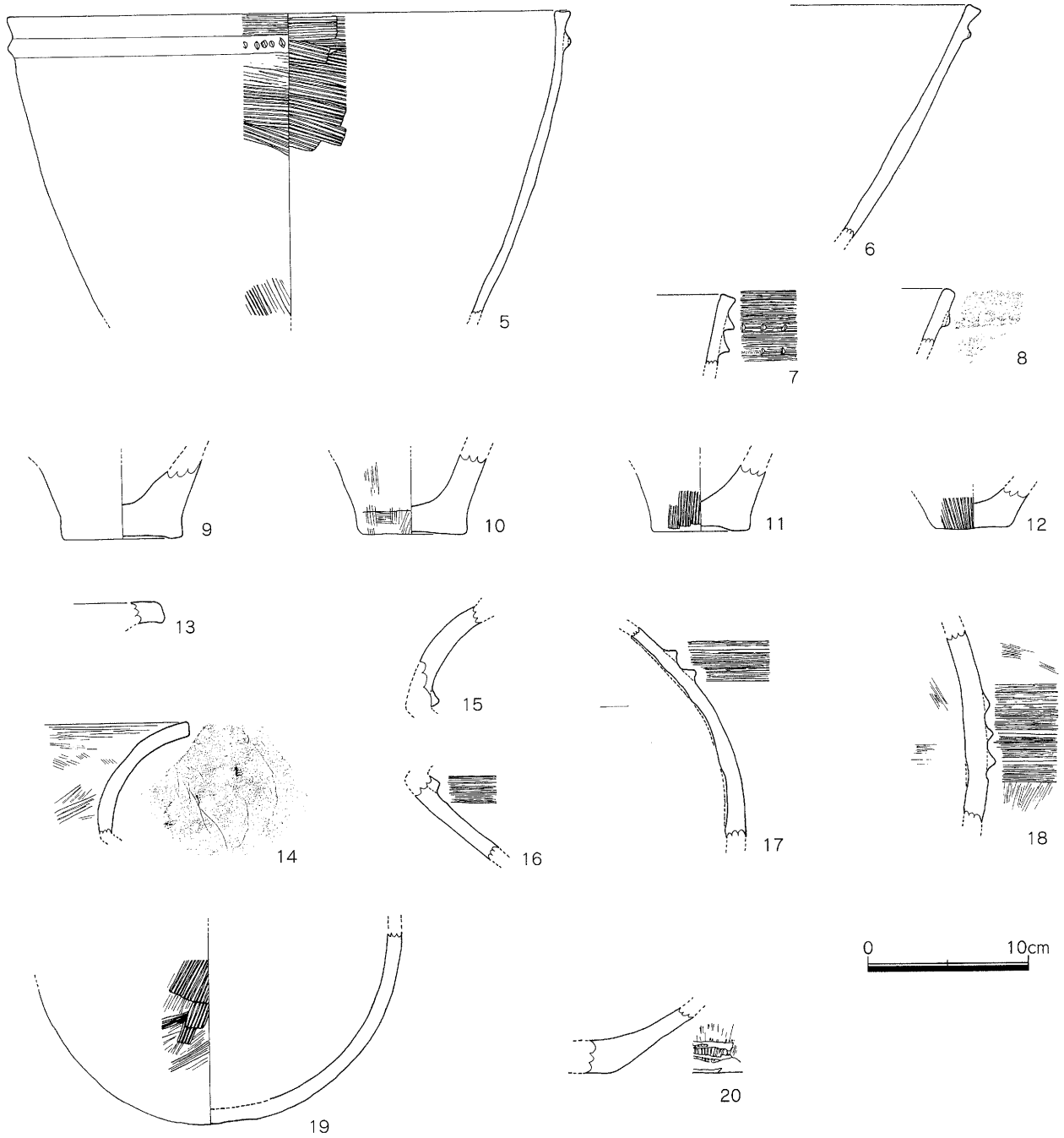


図16　第８地点住居跡内出土遺物実測図（1/4）

８は小片であるが、突帯の他に口唇部にも刻目が施されている。９～12は、甕の底部で、底面が平らなもの（12）と、わずかに窪んでいるもの（９・10）、中央部が円形に窪んでいるもの（11）がある。13～20は壺で、13は鋤先状口縁、14は大きく外反した口縁を有している。15は口縁下部、16は頸部で1条の突帯を有しているが、おそらく鋤先状口縁の壺のものと思われる。15は縦方向のナデ、16はヘラ磨きで調整が施されている。17は胴上部に２条の突帯、18は胴部最大幅のところに３条の突帯を有

している。19は丸底、20は平底の底部である。

なお、これら遺物の詳細については、今後のものも含めて、「表２　出土遺物観察表」を参照していただきたい。

これらの共伴遺物の特徴から、時期的には弥生時代後期初頭に比定される。

２．第10・11・14地点

西都原台地の北部及び北西部にあたる地点で、なかでも第14地点は平成５～７年度圃場整備に伴い調査した地区（２号支線道路）に隣接しており、その際にも焼礫群や集石遺構が検出されている。よって、台地北部及び北西縁辺部には、かなり広範囲に分布しているものと思われる。

このようなことから、これらの地点については来年度に本調査をすることとなった。

３．第17地点

第17地点は、陵墓の東約150mに位置している。周辺は平坦な地形で、圃場整備に伴う調査の際、弥生時代後期の竪穴式住居跡を検出した地点（８号支線道路）の南西部約70mでもある。

（１）遺構と遺物

竪穴式住居跡

ｉ立地

第17地点の北東部の平坦地から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

ii規模と構造

長軸4.35m・短軸4.05mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さは0.35mを測る。床面は平坦で、主柱は２本で深い。また、南側中央部には楕円形状の窪みを有している。

iii出土遺物

遺物は量的には少なく、緑色頁岩の石鏃及び剥片が主体で、その他に弥生土器甕、石錘等が出土している。21は「く」字状に外反する甕の口縁部、22は胴部、23は頁岩製の石錘、24・25は緑色頁岩製の石鏃である。

４．第24地点

第24地点は、陵墓の東側畑地内で第17地点から南西約100mに位置している。ちなみに、その東側には第20地点、北側には第21地点が所在しているが、残念ながら、そこからは遺構・遺物等は検出されなかった。

（１）遺構と遺物

竪穴式住居跡

ｉ立地

第24地点の南西部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。周辺は平坦で、この竪穴式住居跡以外、遺構・遺物等は検出できなかった。

ii規模と構造

長軸4.70m・短軸3.00m、南辺と西辺の中央部に突出壁を有する長方形プランのものである。検出面からの深さは0.40mを測る。床面は平坦で、柱穴は３個検出しているが、主柱は２本と思われる。特徴的なのは、その主柱の位置と掘方である。西都市内のおける竪穴式住居跡のほとんどが主柱は中

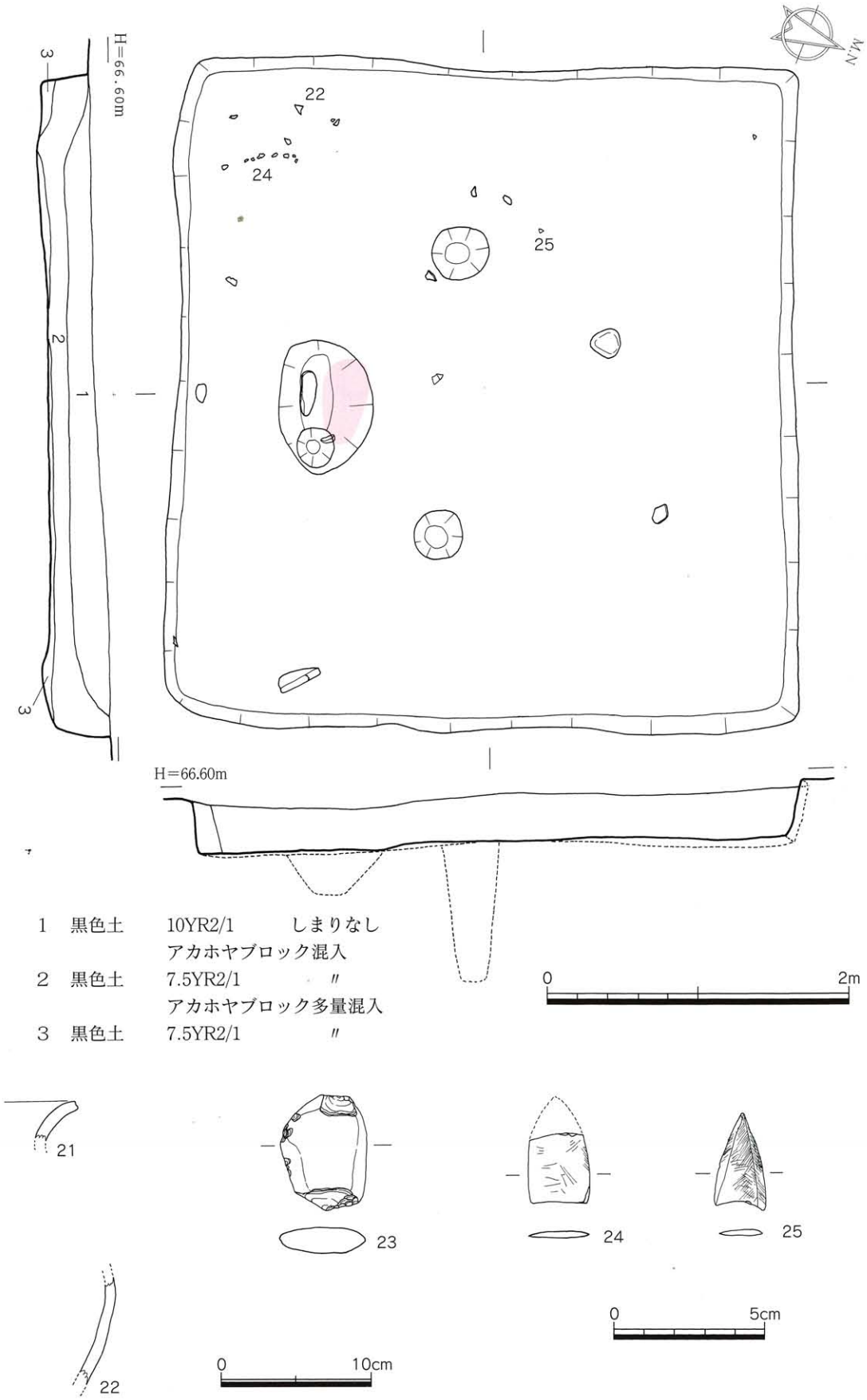
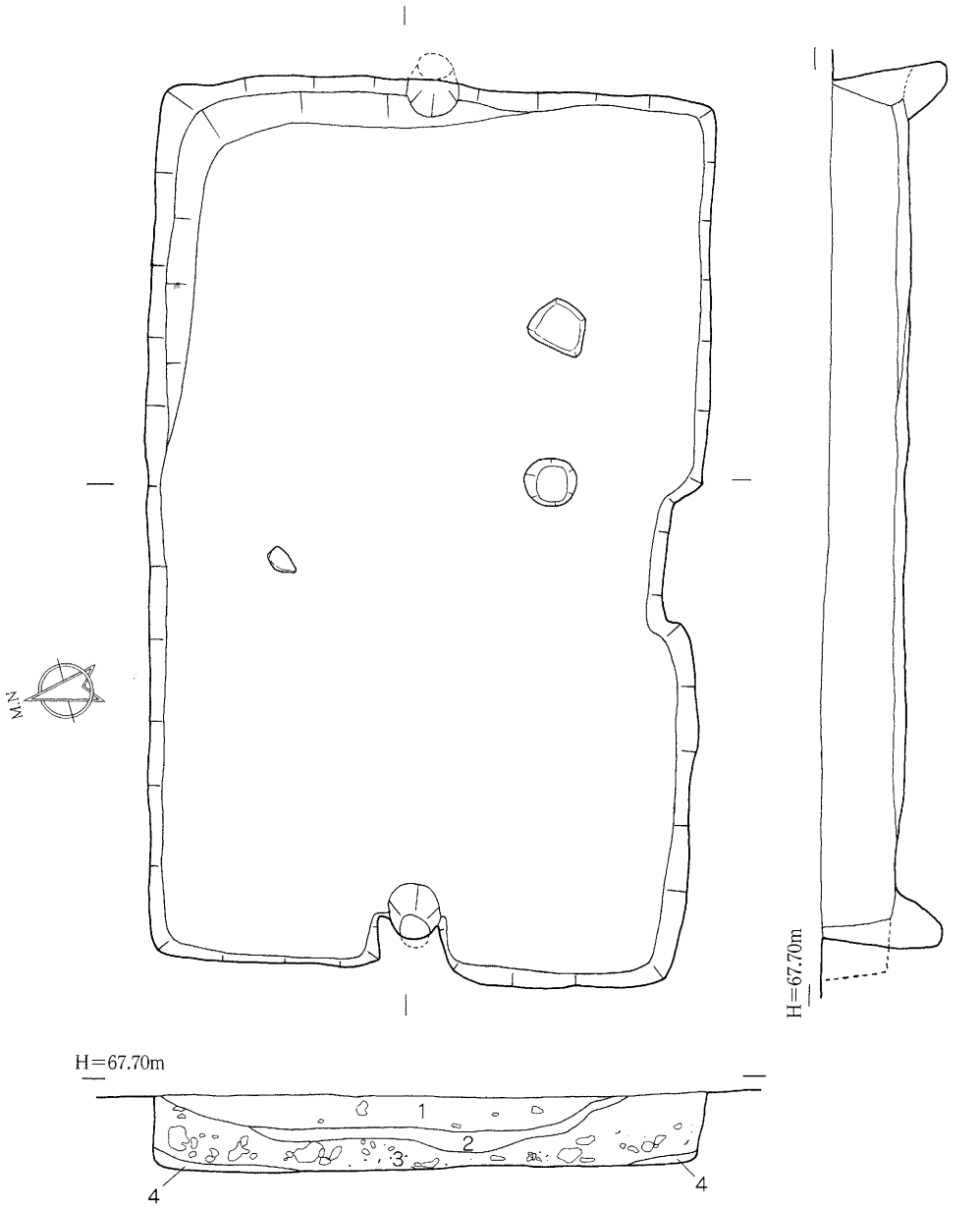


図17　第17地点住居跡・出土遺物実測図（1/40・1/4・1/2）



1	黒色土	7.5YR1.7/1	しまりなし	アカホヤブロック混入
2	黒色土	10YR1.7/1	〃	キメ細かい
3	黒褐色土	10YR2/2	〃	アカホヤブロック多量混入
4	黒褐色土	10YR2/2	〃	アカホヤブロック含まず

0　2m

図18　第24地点住居跡実測図（1/40）

央部近くに設置しているが、本竪穴式住居跡のように両サイドの壁面に接して、しかも、外側に向かって掘られているのは珍しく、竪穴式住居跡の構造を考えるうえでは貴重な資料である。

ⅲ出土遺物

遺物はまったく出土しておらず、時期的なことは不明である。

第２節　平成11年度の調査

平成11年度の調査は、平成10年度に遺構・遺物等を確認した第10・11・14・26地点の本調査と、新たに天地返しが予定されている陵墓の西側及び南側８地点（第30～37地点）の確認調査を行った。調査対象面積は約57,000㎡である。

検出面としているアカホヤ火山灰層の遺存率は、前年同様全体の50％程度であり、かなり削平されている地域が多かった。

調査の結果、第10・11・14地点から縄文時代早期の集石遺構や焼礫群、第14地点から古墳時代後期の消失円墳の周溝、第26地点から16世紀頃の掘立柱建物跡群等を検出した。

１．第10・11地点

第10・11地点は、西都原台地の北端部で、県立西都原考古博物館の北側に位置している。昨年度の調査で、焼礫群を検出している。

（１）遺構と遺物

10－１号集石遺構

ｉ立地

本地点の南東部に位置している。

ii規模と構造

径1.10m・深さ0.22mの円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。礫はそれほど密集していないが、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii出土遺物

遺物は出土していない。

10－２号集石遺構

ｉ立地

本地点の東部で、１号集石遺構の北西6.0mに位置している。

ii規模と構造

径1.00m・深さ0.21mの円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。床底面の中央部に大きな礫を置き、その上に礫が積まれている。礫はわりと密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii出土遺物

遺物は出土していない。

10－３号集石遺構

ｉ立地

本地点のほぼ中央部で、２号集石遺構の西北西約2.3mに位置している。

ii規模と構造

径1.31m・深さ0.31mの円形プランのもので、「U」字状の掘込みを有している。床底面の中央部に平たい礫を置き、その周囲にさらに大きな礫を花弁状に配するタイプのものである。礫は密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

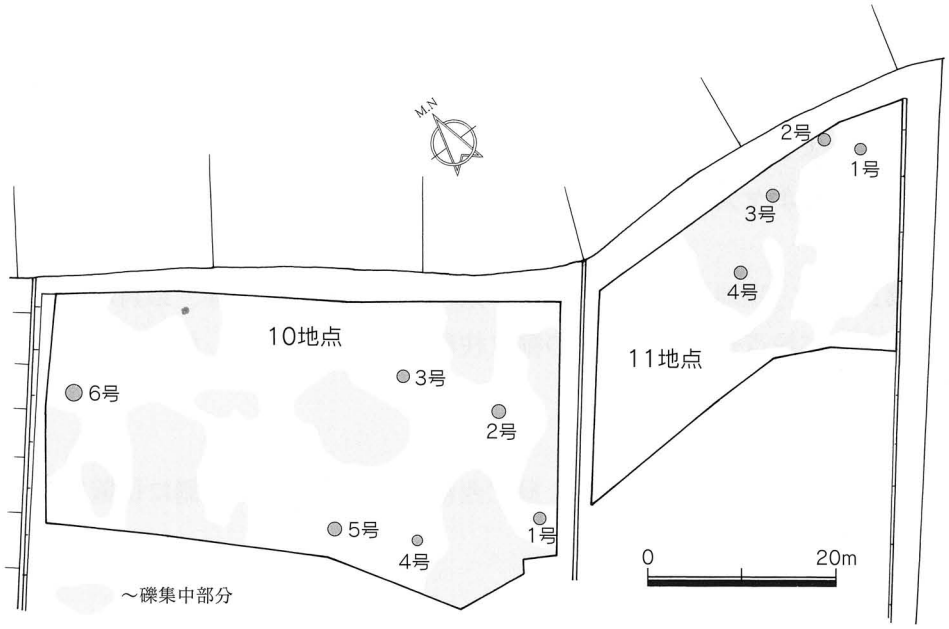


図19　第10・11地点遺構分布図（1/800）

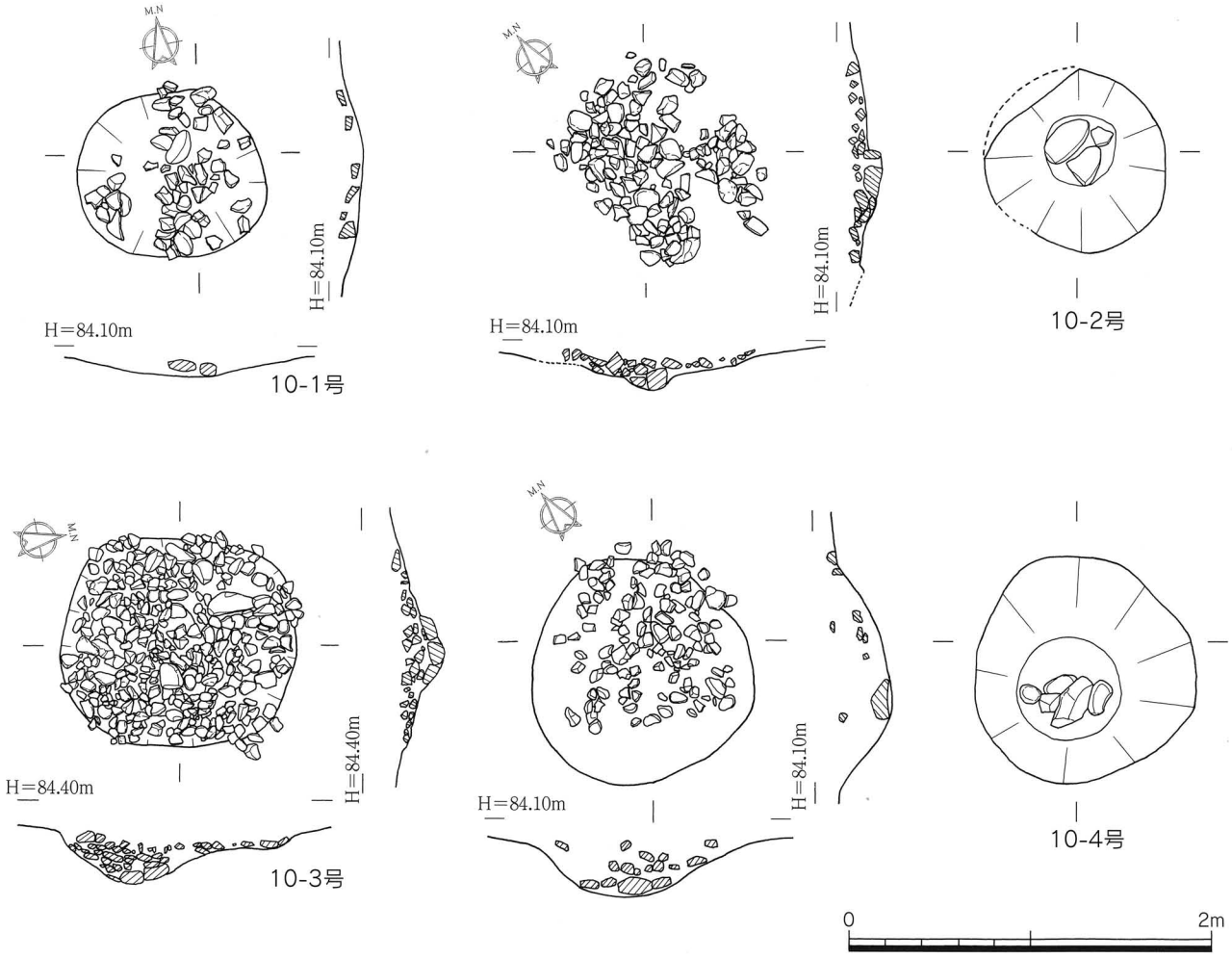


図20　第10地点集石遺構実測図（1/40）

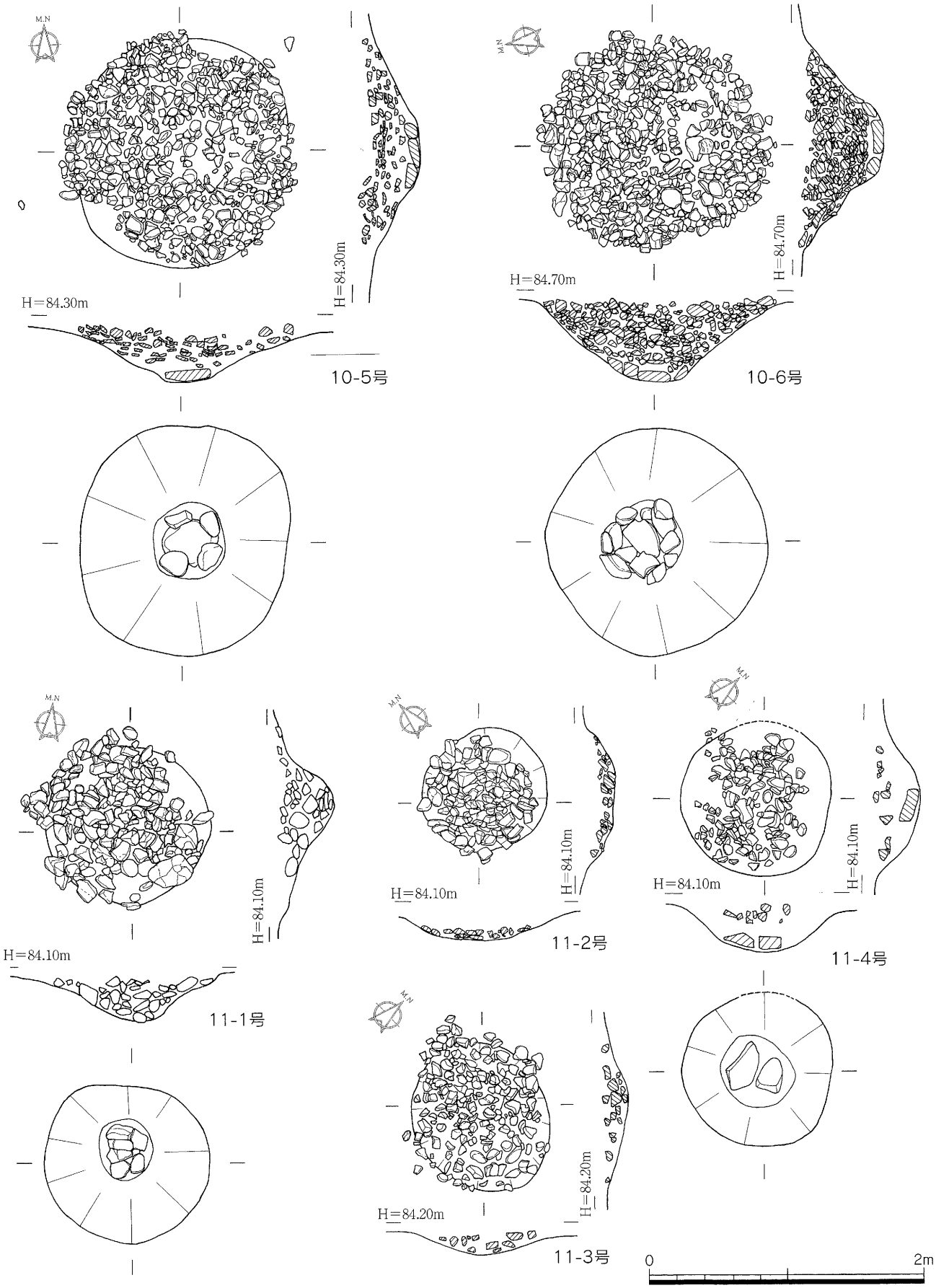


図21　第10・11地点集石遺構実測図（1/40）

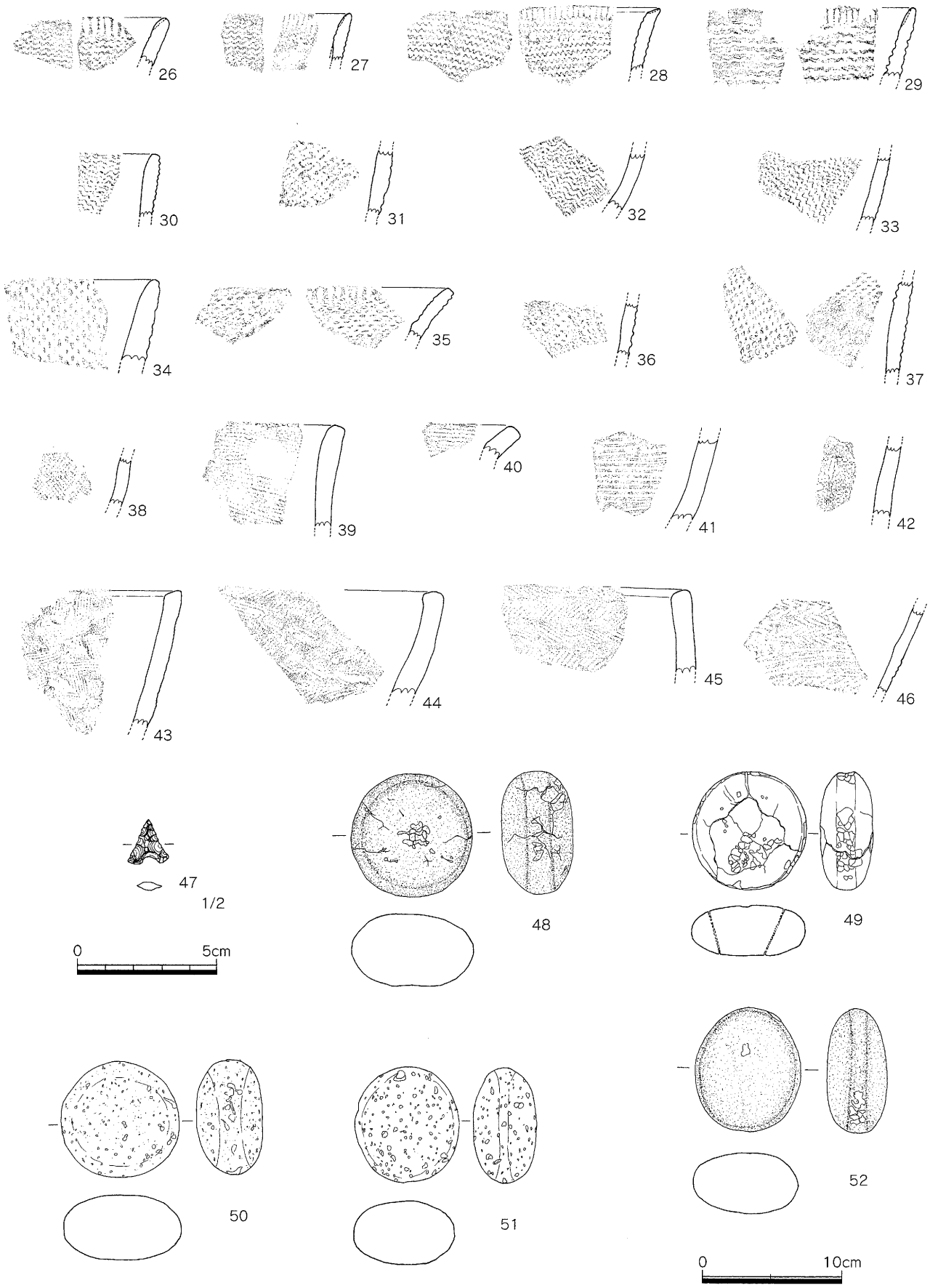


図22　第10・11地点出土遺物実測図（1/4・1/2）

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

10－４号集石遺構

ⅰ立地

本地点の南部で、１号集石遺構の西約3.3mに位置している。

ⅱ規模と構造

径1.25m・深さ0.39mの円形プランのもので、「U」字状の掘込みを有している。床底面の中央部に平たい大きな礫を置き、その上に礫が集積されている。礫は密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

10－５号集石遺構

ⅰ立地

本地点の南部で、４号集石遺構の西約2.3mに位置している。

ⅱ規模と構造

径1.53m・深さ0.42mの円形プランのもので、「U」字状の掘込みを有している。床底面の中央部に長さ0.32mの平たい大きな礫を置き、その周囲に長さ0.2m前後の礫を花弁状に配するタイプのものである。礫は密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物が共伴しているのはこの５号のみであるが、量的にはわずかである。総数７点で、縄文土器５点、黒曜石製の石鏃１点（47）である。縄文土器は楕円押型文（36）と山形押型文（33）、そして、綾杉文（43）が出土している。

10－６号集石遺構

ⅰ立地

本地点の西部に１基だけはずれて位置している。

ⅱ規模と構造

第10地点最大の規模を有するもので、径1.62m・深さ0.62mを測る。円形プランのもので、かなり深い「U」字状の掘込みを有し、５号集石遺構同様、床底面の中央部に長さ0.31mの細く平たい大きな礫を置き、その周囲に長さ0.2m前後の礫を花弁状に配するタイプのものである。礫はかなり密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

11－１号集石遺構

ⅰ立地

本地点の北東部に位置している。

ⅱ規模と構造

径1.20m・深さ0.44mの円形プランのもので、「U」字状の掘込みを有している。床底面の中央部に平たい大きな礫を置き、その上に礫が集積されている。礫は密集しており、礫は角礫が多く、火を

受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

11－2号集石遺構

ⅰ立地

本地点の北東部で、1号集石遺構の西北西約1.1mに位置している。

ⅱ規模と構造

径0.93m・深さ0.26mの円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。礫はそれほど密集していないが、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

11－3号集石遺構

ⅰ立地

本地点の北部で、2号集石遺構の南西約2.05mに位置している。

ⅱ規模と構造

径1.00m・深さ0.18mの円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。礫はそれほど密集していないが、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

11－4号集石遺構

ⅰ立地

本地点の中央部に位置している。

ⅱ規模と構造

径1.10m・深さ0.32mの円形プランのもので、「U」字状の掘込みを有している。床底面の中央部に長さ0.35mと0.25mの大きな礫を置き、その上に礫を集積させている。礫は密集していない。礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

今回、遺構には共伴しなかったが、周辺からは多量の縄文土器片や石器等が出土した。総数約240点が出土しているが、主体を成しているのは押型文土器で、その他、貝殻条痕文系土器、篦描きで綾杉文が施された土器等がある。押型文土器は、ほとんどが楕円押型文と山形押型文であるが、わずかに格子目の押型文が含まれている。26～33は山形押型文土器で、26～29の口縁部内側には原体条痕が施されている。押型文の施文方向は横が多いが、縦・斜めもあり、また、山形が小さく丁寧なものや大きく雑に施されているものがある。34～37は楕円押型文土器で、35は原体条痕が施されている。施文方向は山形押型文同様、横・縦・斜めがある。38は丁寧に仕上げられた格子目の押型文土器の胴部である。39～41は貝殻条痕文系土器である。42は連続刺突文。43～46は篦描きにより綾杉文が施されたもので、46は横位の沈線と綾杉文で構成されている。48～51は敲石で、48・49が砂岩製、50・51が尾鈴山酸成岩製のものである。

2．第14地点

西都原台地の北端部で、隣接して特別史跡・西都原古墳群（第３古墳群）が所在している。北側農道からは、圃場整備の道路整備に伴う発掘調査（２号小道路）の際、焼礫群及び縄文土器等が検出されている。

（1）遺構と遺物

焼礫群

アカホヤ火山灰下層から焼礫群を検出したが、これらに関連した集石遺構等の遺構は検出することができなかった。調査区が細長く、狭範囲に限られていたこともあるが、遺物が多く出土しており、周辺には集落跡の存在が想定される。

遺物は、貝殻条痕文系土器と無文土器が主体を成しており、１点のみ押型文土器（69）が混在している。53～68は貝殻条痕文系土器で、特に61～64は口唇部に貝殻復縁により連続刺突が施された前平式土器、64・65は吉田式土器と呼んでいる土器群に含まれるものと思われる。

71～84は無文土器の一群で、口縁部が直行するもの（71）、若干開きぎみのもの（72～74）、かなり開くもの（75）がある。また、底部は平底がほとんどであるが、直行ぎみに立ち上がるもの（84）も含まれている。

消失円墳周溝

ｉ立地

調査区の南東隅からで、南西約12.5ｍには円墳（西都原第143号墳）が近接して所在している。地形的には平坦である。なお、この円墳が所在する南側隣地は、「西都原風土記の丘」（第３古墳群）で、その最北端にあたる。

ii規模と構造

検出したのは、消失円墳の北西部分にあたる周溝で、遺存しているのは全体の１／４程度である。幅0.95～1.33ｍ、深さ0.53～0.75ｍ、推定復元すると径約12.00ｍの円墳になる。気になるのは、西都原第143号墳との位置関係で、推定復元（周溝まで含む）すると切り合っている可能性が高い。

iii出土遺物

遺物の出土は、東部に集中しており、須恵器が主であるが、その中には須恵器破砕甕（図27）が含まれている。90は須恵器大甕（破砕甕）で、口径24.2cm・胴部最大幅43.9cm・推定器高41.1cmを測る。頸部から底部にかけて平行叩きが施され、内面には同心円状当て具痕が良好に遺存している。91～93は須恵器短頸壺で、いずれも完形あるいは完形に近い状態で出土している。94は土師器高坏であるが、脚部のみで受部は遺存していない。95は完形の土師器鉢で平底から内湾しながら口縁部に至っている。共伴遺物の特徴から７世紀前半に比定される。

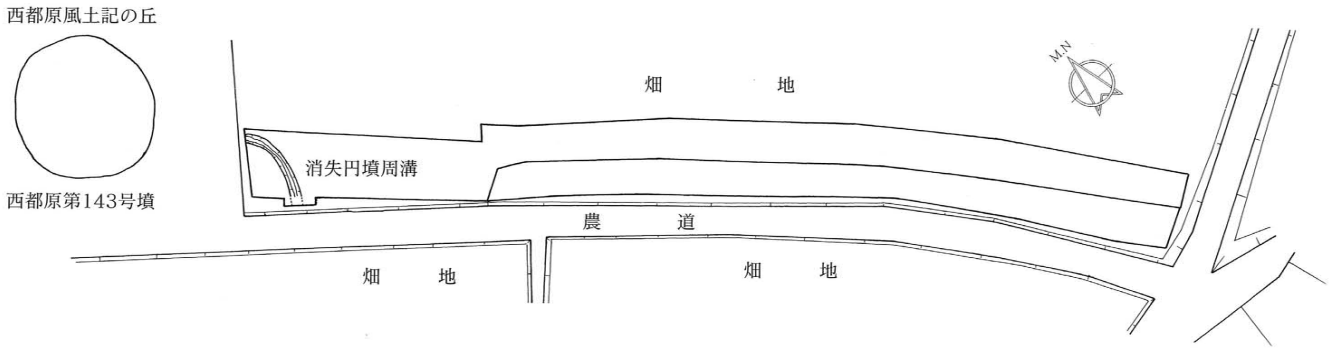


図23　第14地点周辺位置図（1/800）

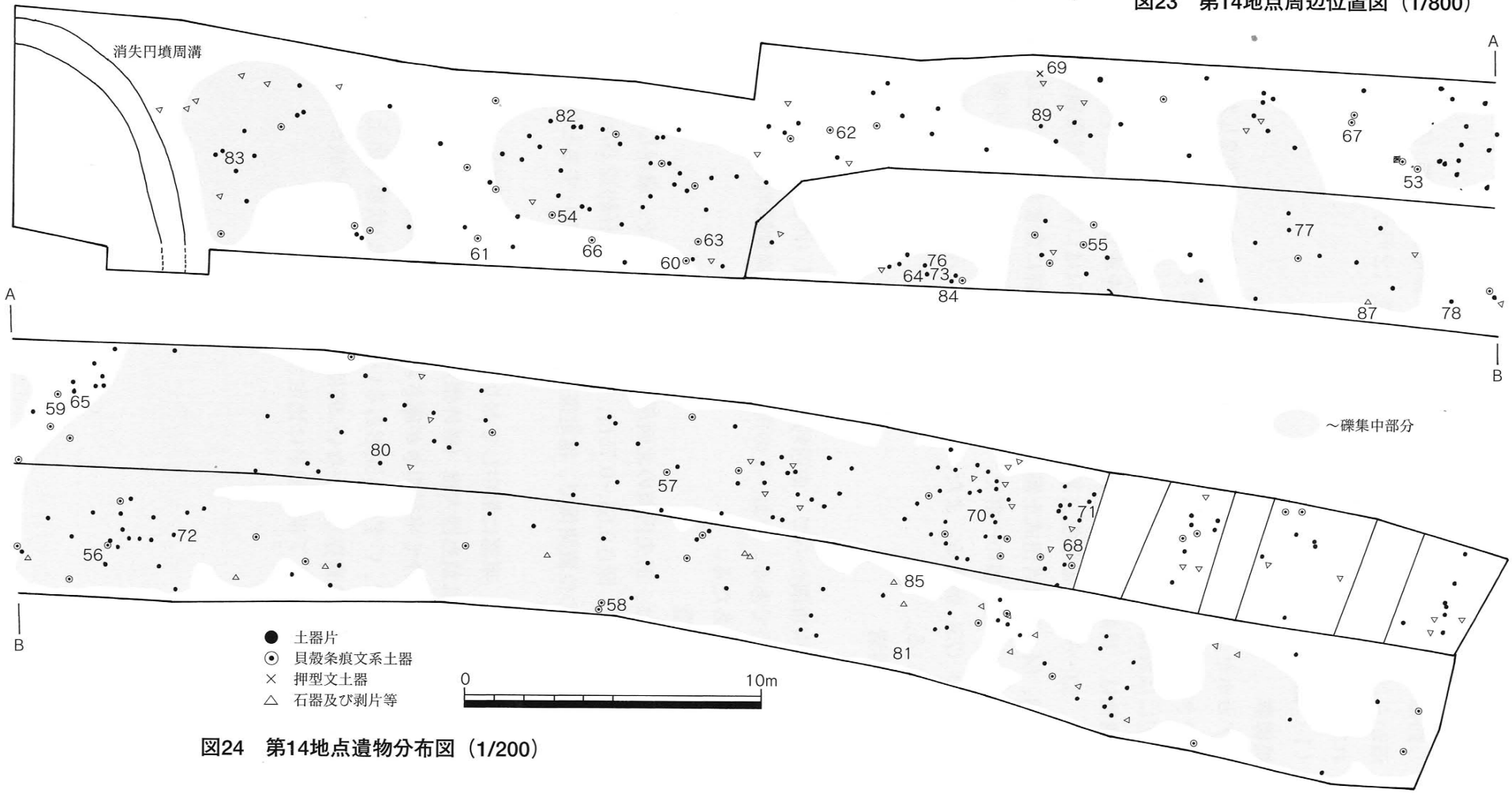


図24　第14地点遺物分布図（1/200）

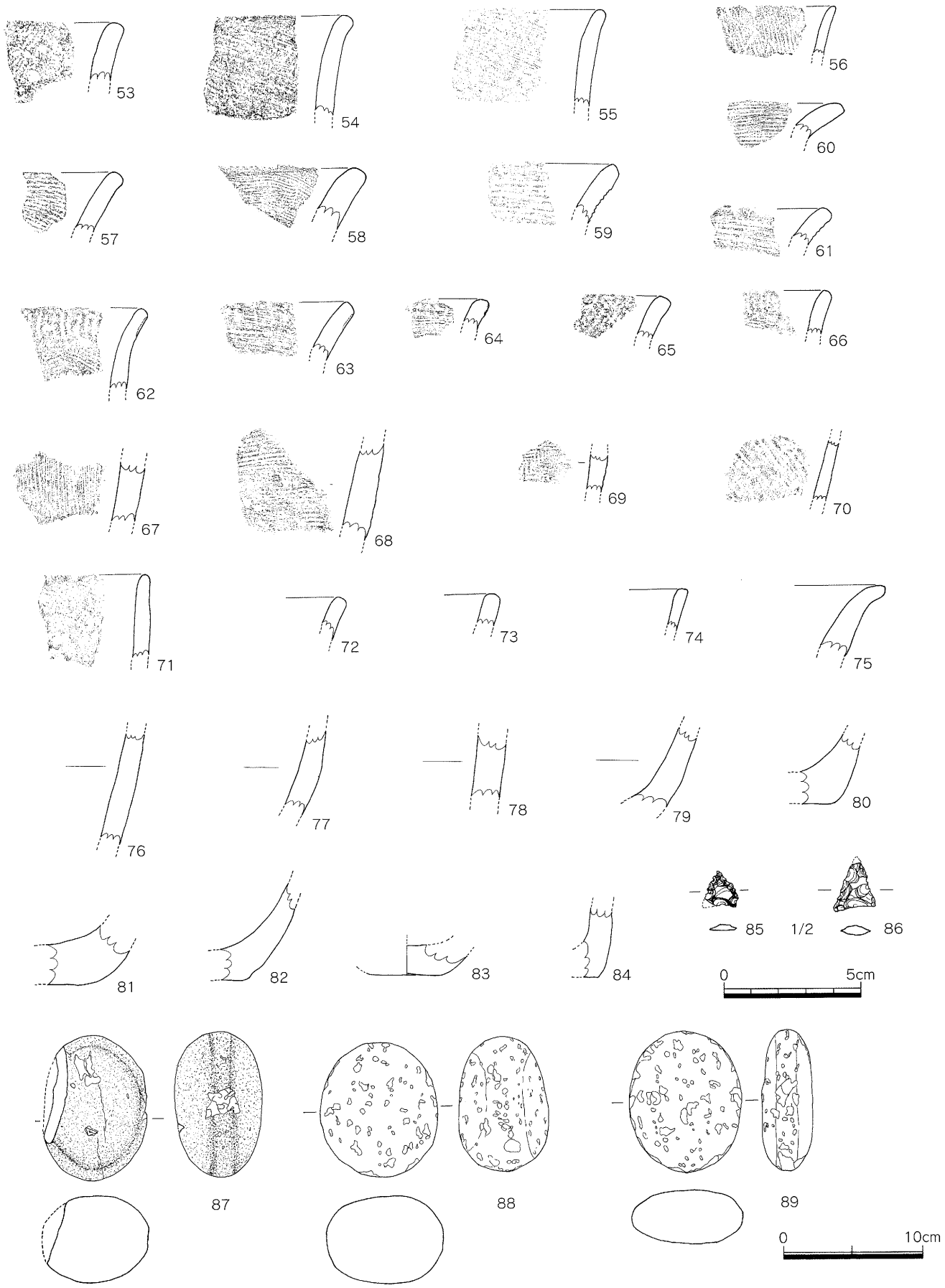


図25　第14地点出土遺物実測図（1/4・1/2）

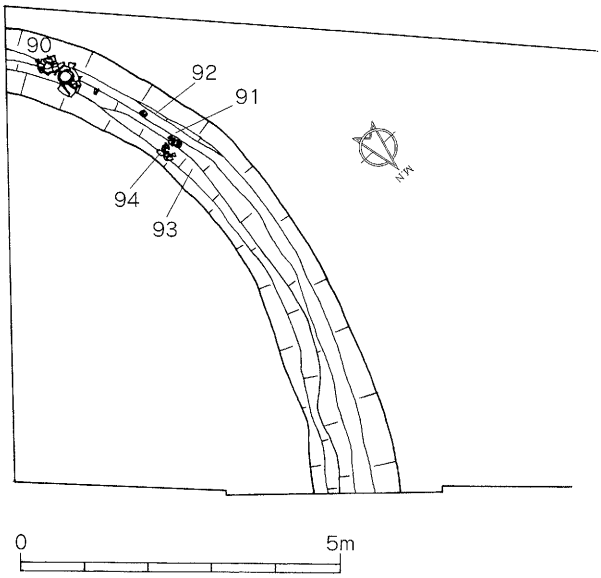


図26　第14地点消失円墳周溝実測図（1/100）

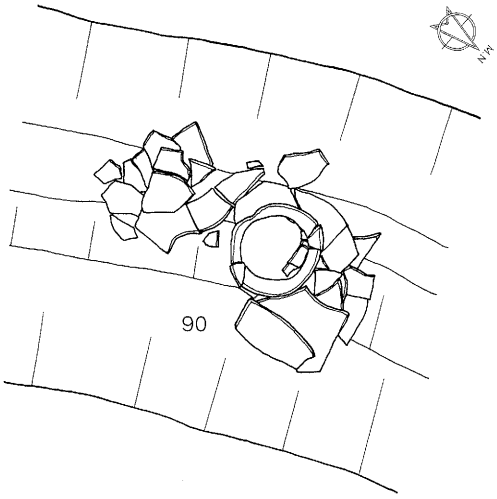
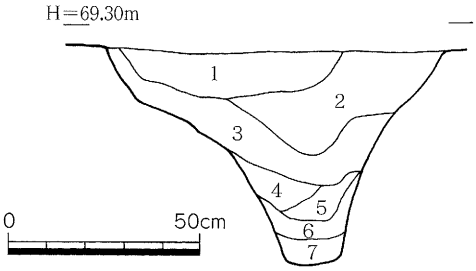
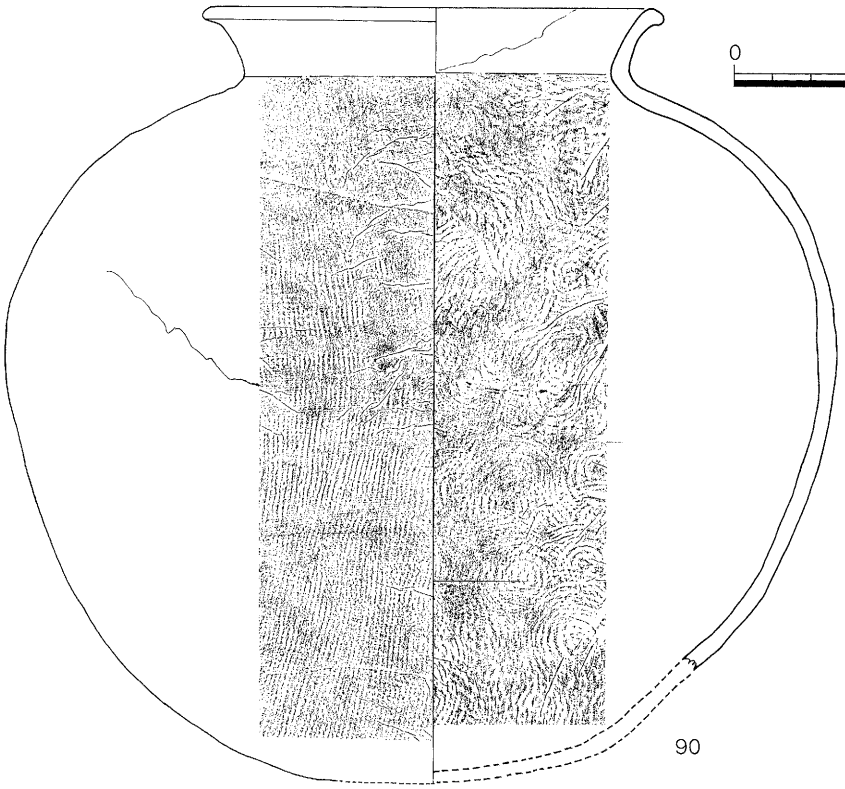


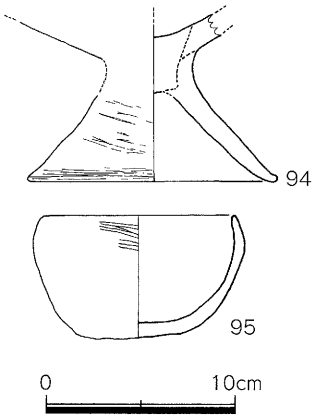
図27　破砕甕実測図（1/20）



1　黒色土　7.5YR2/1　しまりなし
2　黒色土　10YR1.7/1　〃
　キメ細かい
3　黒色土　10YR2/1　〃
4　黒色土　10YR2/1　〃
　アカホヤブロック少量混入
5　黒褐色土 10YR2/2　〃
　アカホヤ・褐色土ブロック多量混入
6　黒色土　7.5YR2/1　〃
　キメ荒い・アカホヤ褐色粒子混入
7　褐色土　7.5YR4/3　〃
　キメ荒い・褐色土ブロック多量混入

図28　第14地点消失円墳周溝層序図（1/20）





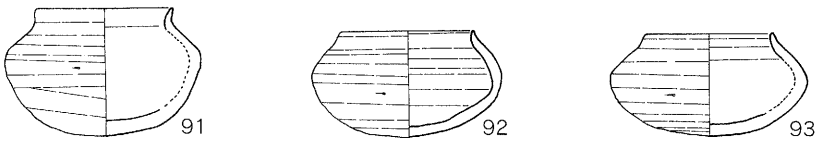


図29　第14地点消失円墳周溝内出土遺物実測図（1/4）

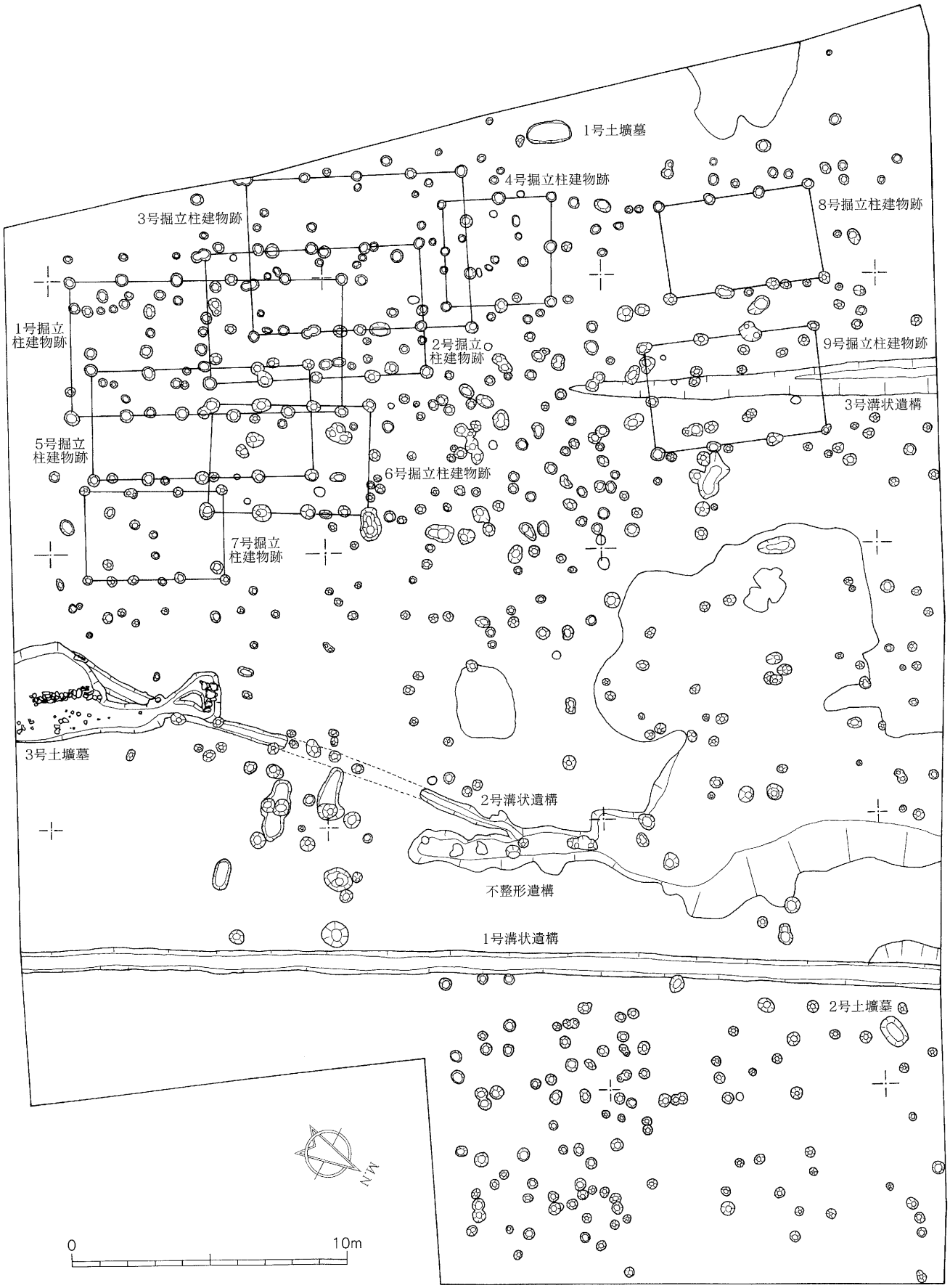


図30　第26地点遺構分布図（1/200）

3．第26地点

第26地点は、県立西都原考古博物館の東側で、第14地点から南西230m程の地点に位置している。前年度の調査で、柱穴や溝状遺構等を検出した地点である。

調査の結果、掘立柱建物跡９棟をはじめ、土壙墓や溝状遺構・柱穴群等を検出した。なかでも、掘立柱建物跡はいずれも南北棟で、１号～７号は何らかの形で切り合っており、時期差をみることができる。１×３間と１×４間のものが多く、規模的には最小のもので約14.8㎡、最大で約50.0㎡を測る。

（1）遺構と遺物

１号掘立柱建物跡

ｉ立地

本地点の南部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

ii規模と構造

１×５間の南北棟で、桁行（NS）5.00m、梁間（EW）1.90～2.00mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.40～0.55m、深さ0.34～0.44mを測る。床面積は約49.5㎡である。

iii出土遺物

東側の柱穴から打製石斧が出土しているのみであるが、流入遺物と判断されるため掲載しなかった。

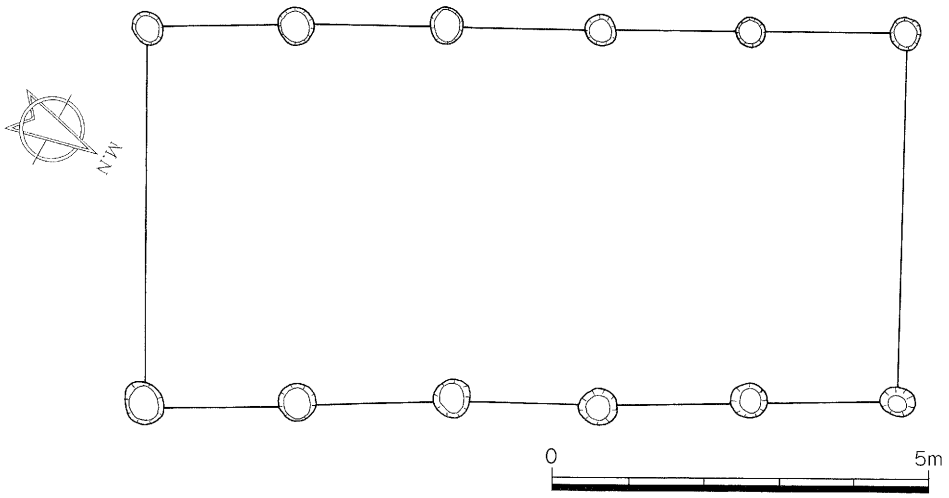


図31　１号掘立柱建物跡実測図（1/100）

２号掘立柱建物跡

ｉ立地

１号の北西部と２号の南東部が重複している。

ii規模と構造

第26地点では最大規模を有するもので、１×４間の南北棟である。桁行（NS）4.70m、梁間（EW）2.00mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.40～0.55m、深さ0.32～0.48mを測る。床面積は約36.9㎡である。

iii出土遺物

遺物は出土していない。

３号掘立柱建物跡

ｉ立地

３号は、南東部が２号と１号、また、北側は４号と重複している。特に、２号と平面の約１／２が重なっている。

ii規模と構造

２号と同じ１×４間の南北棟で、桁行（NS）5.75m、梁間（EW）1.90～2.25mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.32～0.46m、深さ0.30～0.46mを測る。床面積は約45.1㎡である。

iii出土遺物

遺物は出土していない。

４号掘立柱建物跡

ｉ立地

３号の北側で、３号の北部と４号の南部が重複している。

ii規模と構造

本地点では最小規模のもので、２×２間の南北棟である。桁行（NS）1.70～2.00m、梁間（EW）1.80～2.00mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.28～0.50m、深さ0.26～0.32mを測る。床面積は約15.2㎡である。

iii出土遺物

遺物は出土していない。

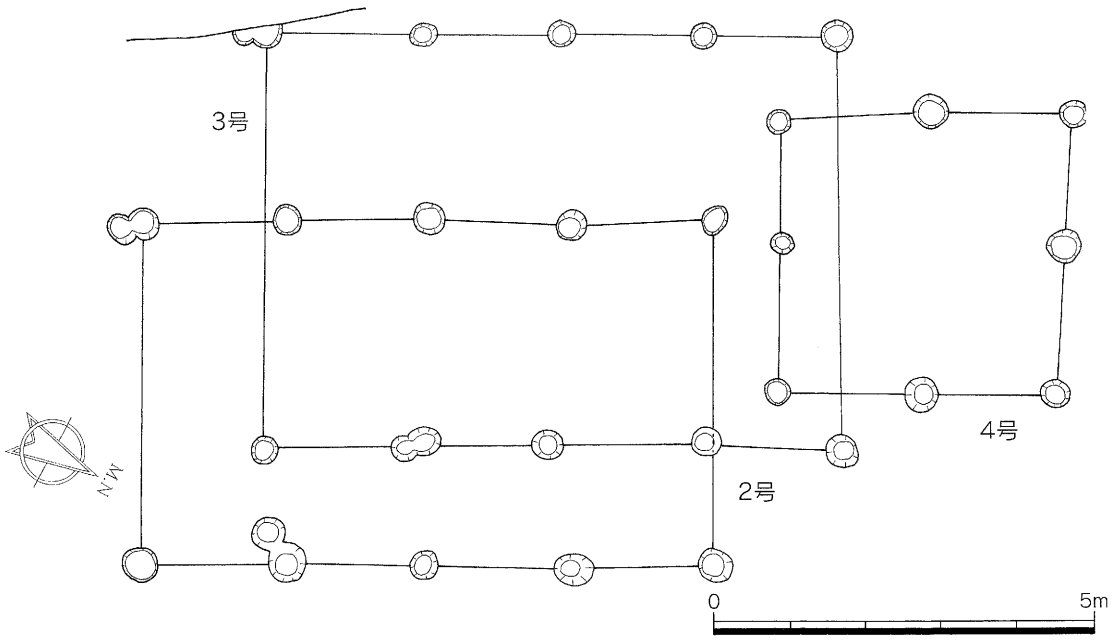


図32　２号～４号掘立柱建物跡実測図（1/100）

５号掘立柱建物跡

ｉ立地

１号の東側で、１号の東部と５号の西部が重複している。

ii規模と構造

１号と同じ１×４間の南北棟で、桁行（NS）4.00m、梁間（EW）2.00～2.05mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.38～0.50m、深さ0.38～0.48mを測る。床面積は約32.0㎡である。

iii出土遺物

遺物は出土していない。

６号掘立柱建物跡

ｉ立地

５号の北東側で、６号の南西部と５号の北東部が重複している。また、７号と南東側がわずかではあるが重複している。

ii **規模と構造**

１×３間の南北棟で、桁行（NS）4.00m、梁間（EW）1.80～2.00mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.40～0.70m、深さ0.52～0.68mを測る。第26地点では一番柱穴が大きく、深い。床面積は約24.0㎡である。

iii **出土遺物**

遺物は出土していない。

７号掘立柱建物跡

i **立地**

５号の東側で６号の南東側である。６号の南東部と７号の北西部がわずかではあるが重複している。

ii **規模と構造**

６号と同じく１×３間の南北棟で、桁行（NS）3.30m、梁間（EW）1.70mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.28～0.32m、深さ0.30～0.46mを測る。床面積は約16.8㎡である。

iii **出土遺物**

西側柱穴から土師器坏（97）１点が出土した。完形で器厚のある坏で、底径5.0cm・口径8.0cm。器高2.2cmを測る。

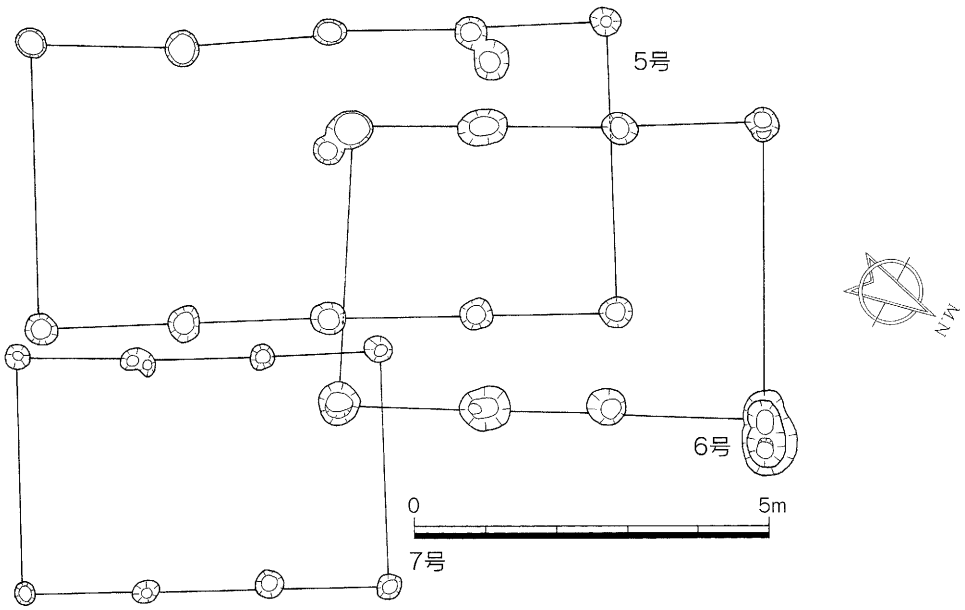


図33　５～７号掘立柱建物跡実測図（1/100）

８号掘立柱建物跡

i **立地**

本地点の西部に２軒（８号・９号）所在しているうちの一軒である。

ii **規模と構造**

１×３間の南北棟で、桁行（NS）3.60m、梁間（EW）1.80mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.34～0.44m、深さ0.33～0.46mを測る。床面積は約20.0㎡である。

iii **出土遺物**

遺物は出土していない。

９号掘立柱建物跡

i **立地**

８号の東側に位置しているが、溝状遺構（３号）と重複している。

ⅱ規模と構造

１×４軒の南北棟で、桁行（NS）4.00m、梁間（EW）2.00～2.10mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.35～0.40m、深さ0.30～0.50mを測る。床面積は約24.8㎡である。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

１号土壙墓

ⅰ立地

本地点の北部に単独で位置している。

ⅱ規模と構造

長軸1.10m・短軸0.70mで、１号土壙墓同様に楕円形プランを呈している。検出面からの深さ0.42mを測る。

ⅲ出土遺物

遺物は、出土していない。

２号土壙墓

ⅰ立地

本地点の西側で、４号掘立柱建物跡の西約3.5mに位置している。

ⅱ規模と構造

長軸1.65m・短軸0.78mの楕円形プランを呈している。検出面からの深さ0.38mを測る。

ⅲ出土遺物

獣骨が出土しているが、何の動物の骨かは判断がつかない。

３号土壙墓

ⅰ立地

本地点の南側中央部に位置しているが、溝状遺構等と重複している。

ⅱ規模と構造

他の遺構と重複しているため、遺構面がはっきりしないが、長軸2.50m・短軸1.50mの長方形状のものと推定される。遺構内西側には10～30cm前後の礫が４～５段一列に積み上げられている。検出面からの深さ0.39mを測る。

ⅲ出土遺物

青磁盤や白磁碗に加え、吉祥字が入った染付皿が２枚（105・106）重ねて埋葬されていた。これらの共伴遺物から、16世紀前後のものと推定される。

その他の遺構

溝状遺構

本地点からは３条検出した。１号は東側に位置しているもので、南北に直線的に延びている。幅約0.90m、深さ約0.40mで、現存長約32.0mを測る。

２号は中央部に位置しているが、途中が確認できない。幅約0.50mで、深さ約0.30mを測る。

３号は西部で、９号掘立柱建物跡と重複している。この３号も途中までしか確認できない。幅約1.30m、深さ0.20mで、現存長約16.0mである。

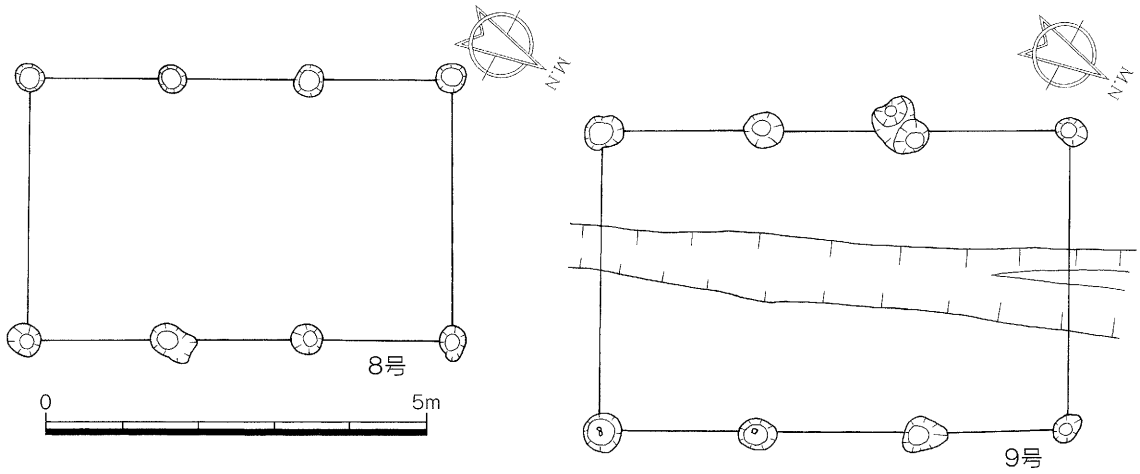


図34　8号・9号掘立柱建物跡実測図（1/100）

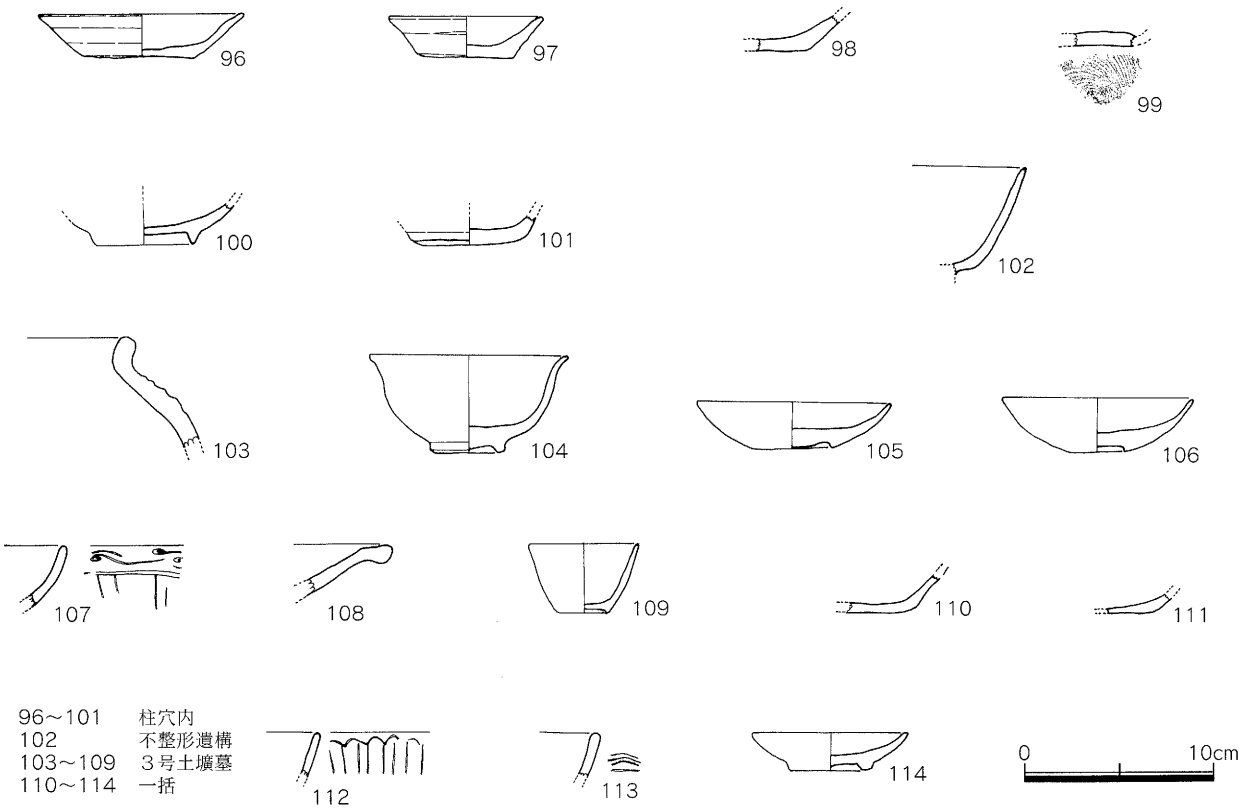


図35　第26地点出土遺物実測図（1/4）

いずれも、時期的なことは特定できないが、1号が最も新しく、現畑地になる以前のもので、畑と畑を区切り、排水路として使用されていたものであると推定される。

柱穴群

柱穴は、掘立柱建物跡のものも含めて多数検出しているが、集中しているのは西側で、一部東側に分布している。現地及び図面上で建物を復元してみたが、9軒以上は特定できなかった。何らかの目的をもって掘り込まれたものと思われるが、残念ながら判断がつかない。

第３節　平成12年度の調査

陵墓の東側で西都原台地の中央部及び寺原集落の東側一帯を中心に20地点（第37～56地点）の確認調査を行った。調査対象面積は約74,000㎡である。

調査の結果、これまでとは違い全体的にアカホヤ火山灰層が遺存しており、第39・51地点から竪穴式住居跡、第53地点から掘立柱建物跡、第52地点から土壙墓等を検出した。

１．第39地点

男狭穂塚古墳の北東約400ｍの地点に位置している。北東側は道路を隔てて西都原古墳群（第２古墳群）が分布している。

本地点から竪穴式住居跡1軒を検出した。なお、平成６年度にこの道路を改良工事した際には、弥生時代中期から後期の竪穴式住居跡を２軒検出している。

（１）遺構と遺物

竪穴式住居跡

ｉ立地

第39地点の東側中央部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

ii規模と構造

長軸5.75ｍ・短軸5.12ｍの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.38ｍを測る。また、床面中央部には2.38×2.20ｍの方形の掘込み（段差）が見られ、その南側には径0.80ｍの窪みがある。床面はほぼ平坦で、主柱は２本である。主柱は径0.41ｍ・深さ0.96～1.01ｍで、方形の掘込みに合わせて掘削されている。

このような、中央部に方形の掘込みを有する竪穴式住居跡は、圃場整備に伴う調査の際、27号支線道路（寺原集落東側）から検出している。

iii出土遺物

出土遺物の主体を占めているのは弥生土器で、その他によく石器に加工される緑色頁岩の破片や陶磁器が出土している。115～119は口縁部が逆「L」字状に外反した甕で、120・121はその甕の胴部で突帯を有している。122は甕の底部に近い部分の破片である。123は特徴的な土器で、口縁部に突帯を持ち、その口縁部と突帯上面、さらに胴部まで小さな竹状の工具で連続刺突を施した壺である。124は鉢の口縁部、125は「く」字状に外反した口縁部で磨き調整が施された土器である。

共伴遺物の特徴から、弥生時代中期末～後期初頭に比定される。

２．第51地点

第51地点は、西都原運動公園から約200ｍ、西都原台地の南部に位置している。北側に隣接した市道の改良工事の際には古墳時代の竪穴式住居跡を検出している。周辺には古墳はなく、一番近い古墳というと西都原古墳群のなかの寺原第２支群で、北西約350ｍに分布している。

調査の結果、竪穴式住居跡1軒を検出した。

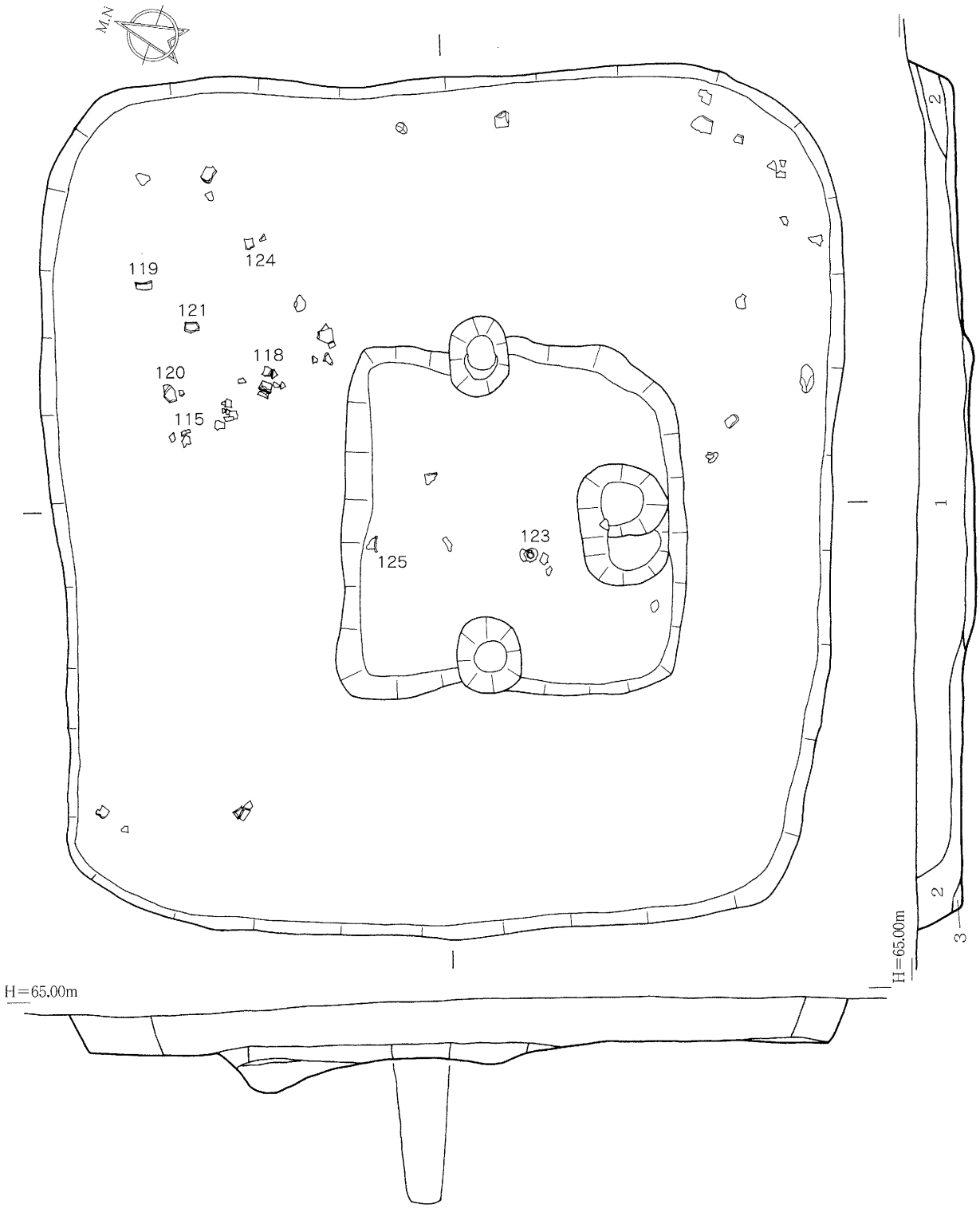
（１）遺構と遺物

竪穴式住居跡

ｉ立地

第51地点の南東部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。周辺は平坦である。

ii規模と構造



1　黒褐色土　7.5YR3/2　アカホヤブロック多量混入
2　黒色土　10YR2/1　アカホヤ小粒子多量混入
3　黒色土　7.5YR1/2
4　黒色土　10YR1/2

0　2m

図36　第39地点住居跡実測図（1/40）

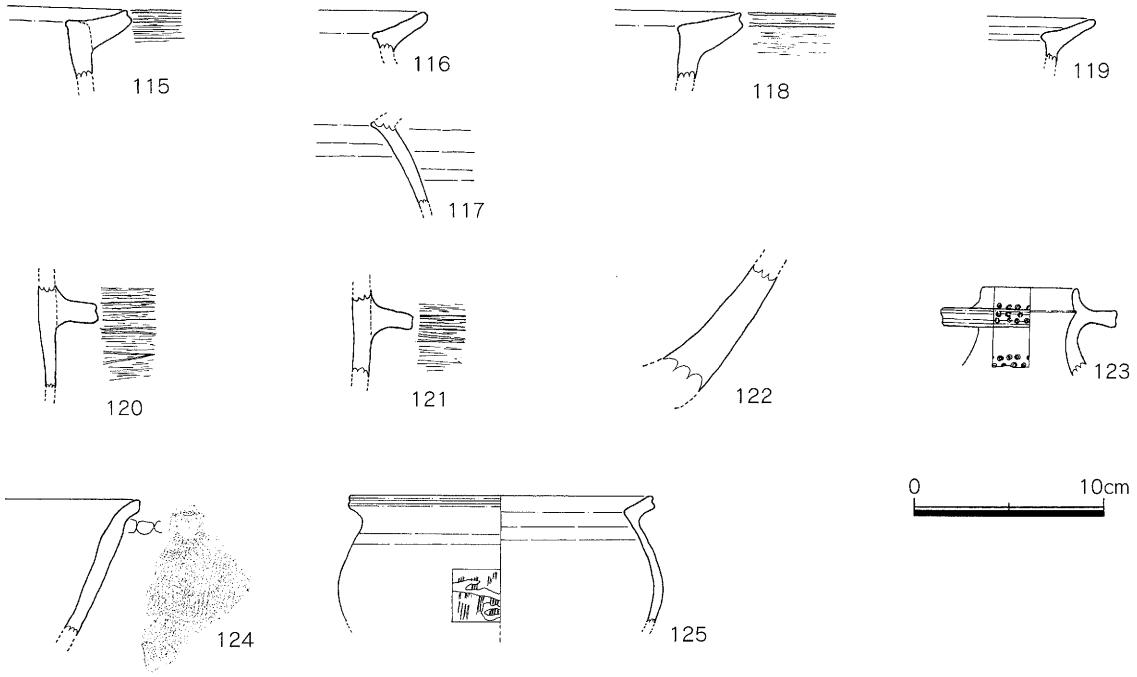


図37　第39地点住居跡内出土遺物実測図（1/4）

長軸5.00m・短軸4.60mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.22mを測る。残念ながら南辺は後世の土坑によって1/2程度が消滅している。床面は平坦で、主柱は４本である。また、中央部に埋甕（129）を有している。掘方の径0.46m・深さ0.20mを測る。主柱の径は0.30～0.36mで、深さは0.35～0.49mである。

ⅲ出土遺物

遺物は、竪穴式住居跡の南東部に集中している。主体を成しているのは土師器で、その他須恵器がわずかに出土している。土師器は、器形的には圧倒的に甕が多く、その他、鉢・壺・高坏等である。126～128は口縁部が「く」字状に外反した甕で、ハケ目・叩き・ヨコナデ調整がされたもの等様々である。129は埋甕として使用されていたもので、口縁部は直行し、底部は丸底ぎみである。130は口縁部が直行し、胴部の張った甕である。131～135は甕の底部で平底のもの（131・132）や丸底に近いもの（133～135）がある。131・132には木の葉痕が遺存している。136～138は鉢で、136・137は口縁部が若干外反している。138はほとんど完形のもので、口縁部は直行し、口唇部は尖っている。底部は尖底である。139は須恵器坏身で、陶邑TK209併行期に対応しており、口径12.8cmを測る。共伴遺物の特徴から古墳時代末（６世紀末～７世紀初頭）に比定される。

３．第52地点

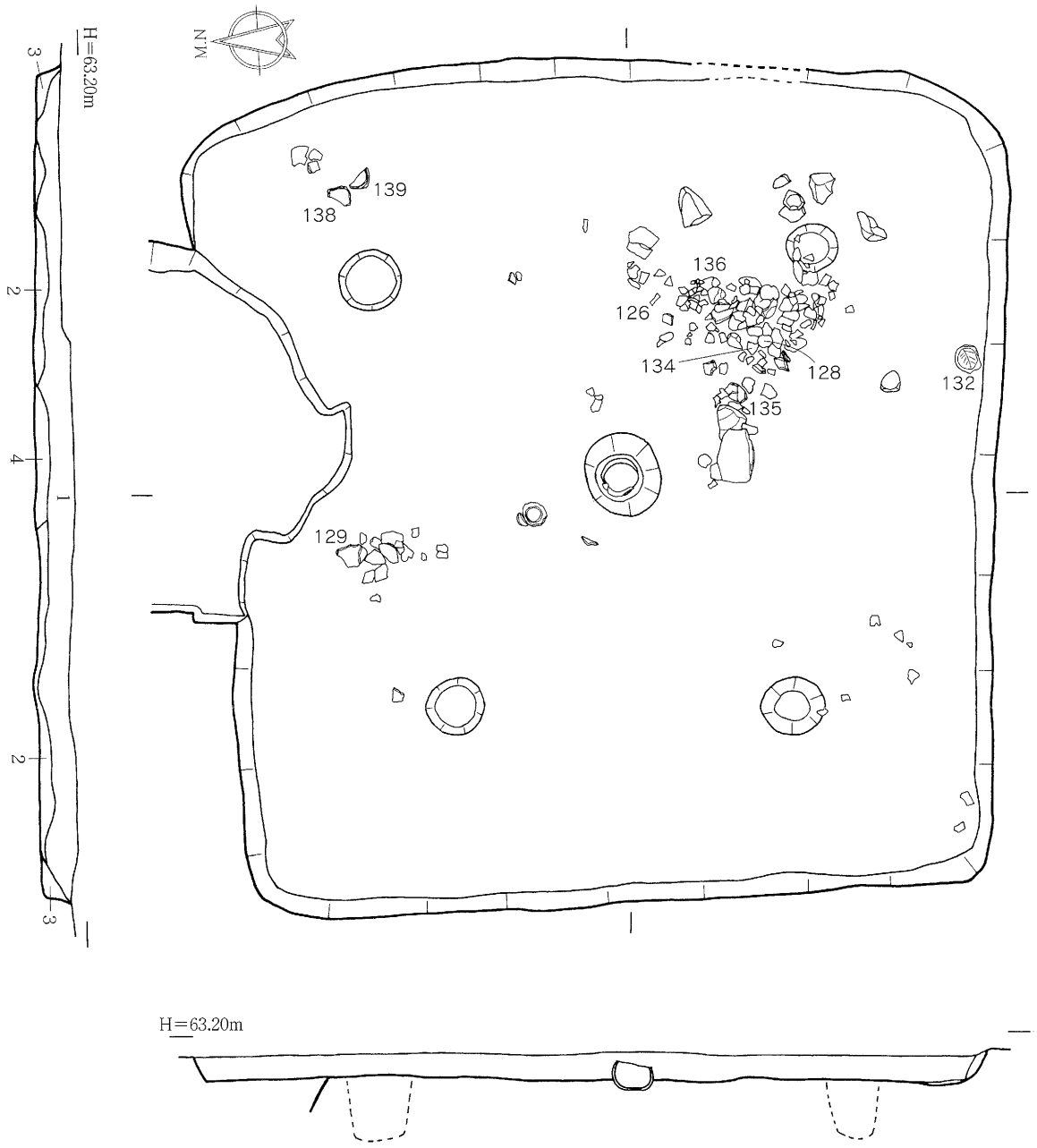
寺原集落の東側畑地帯の東端部で、姫塚古墳（西都原第202号墳）からは西約300m、第51地点からは北に約350の地点に位置している。周辺は平坦である。

調査の結果、土壙墓1基を検出した。

土　壙　墓

ⅰ立地

第52地点のほぼ中央部で、検出面はアカホヤ火山灰層である。



1　黒色土　　7.5YR2/1
2　黒褐色土　7.5YR2/2　アカホヤブロック多量混入
3　黒褐色土　10YR2/2
4　黒褐色土　5YR2/1　焼土混入

0　2m

図38　第51地点住居跡実測図（1/40）

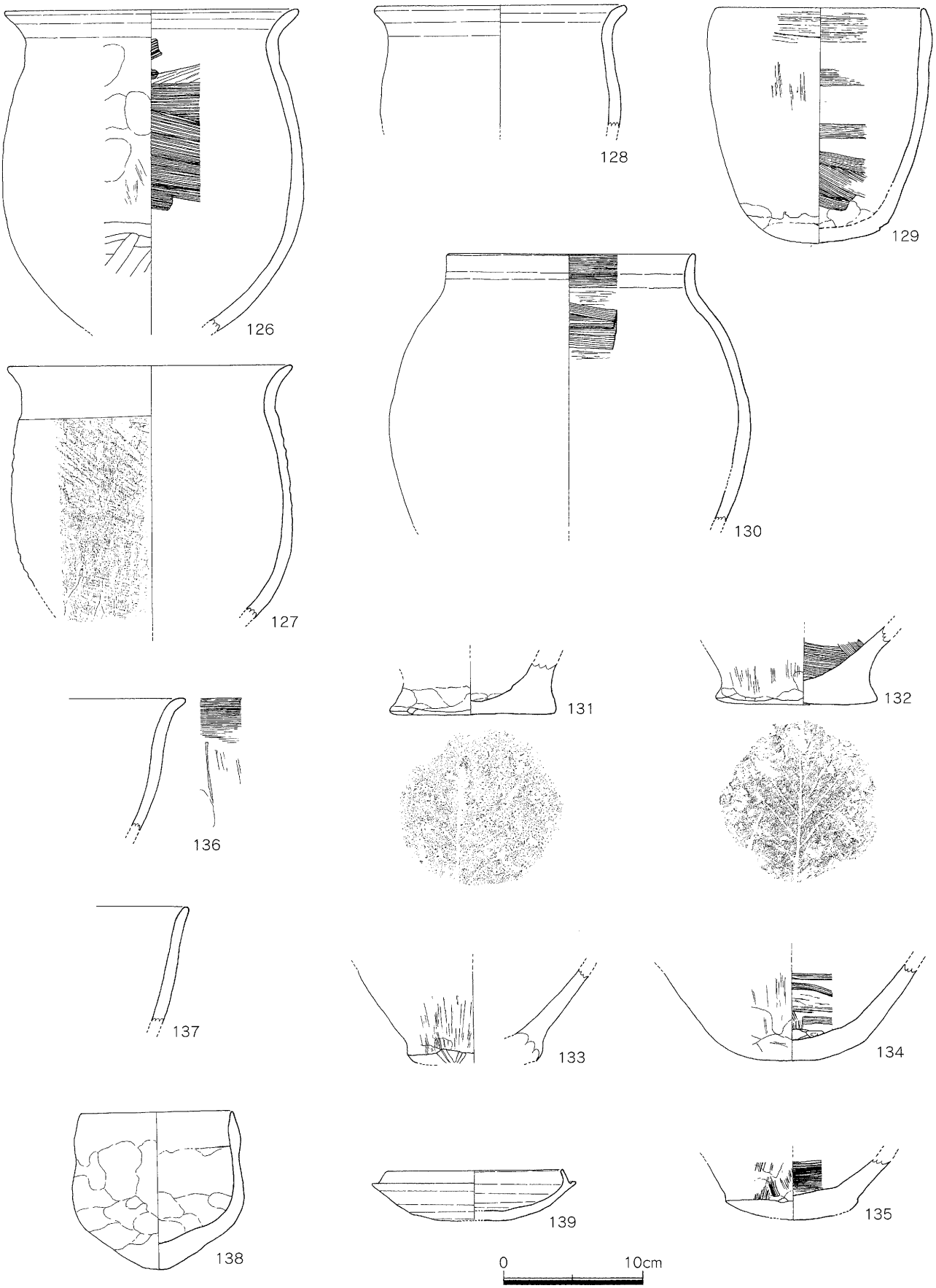


図39　第51地点住居跡内出土遺物実測図（1/4）

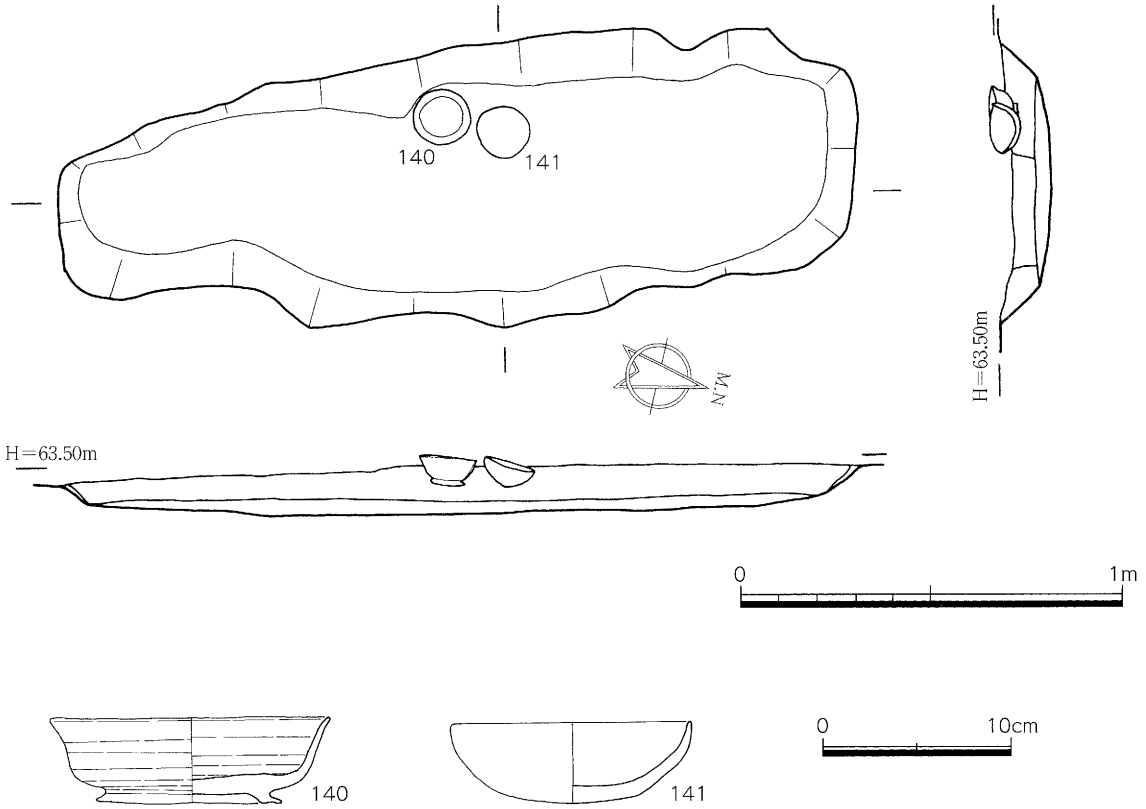


図40　第52地点土壙墓・出土遺物実測図（1/20・1/4）

ii **規模と構造**

長軸2.10m・短軸0.75mの規模を有し、南側が少し狭まった隅丸の長方形（長楕円形）プランのものであるが、上部のほとんどが削平され、検出面からの深さ0.05～0.08mを測る。底面は中央部が少し窪んでいる。

iii **出土遺物**

遺物は、西側中央部から土師器椀1点と須恵器高台付椀１点の計２点が出土した。いずれも完形品で、上を向いて副葬されていた。140は須恵器高台付椀で、体部からやや外反しながら口縁部に至り、高台を有している。141は土師器椀で、丸底から内湾しながら立ち上がり口縁部に至っている。

これらの共伴遺物の特徴から、時期的には７世紀末に比定される。

ちなみに、本地点の近くの29号線道路からは同じような土壙墓を検出しおり、土師質の坏をはじめ黒色土器椀・刀子等が副葬されており、内容的には優位である。

４．第53地点

寺原集落に隣接した畑地で、周辺は平坦である。

（1）遺構と遺物

掘立柱建物跡

i **立地**

本地点の北西部で、検出面はアカホヤ火山灰層である。

ii **規模と構造**

１×３間の南北棟で、桁行（NS）6.50m、梁間（EW）3.80～4.20mを測る。柱穴はすべて円形で、径0.40～0.48m、深さ0.13～0.26mを測る。埋土は黒色土で、1個だけ灰白色粘質土の柱痕を確認でき

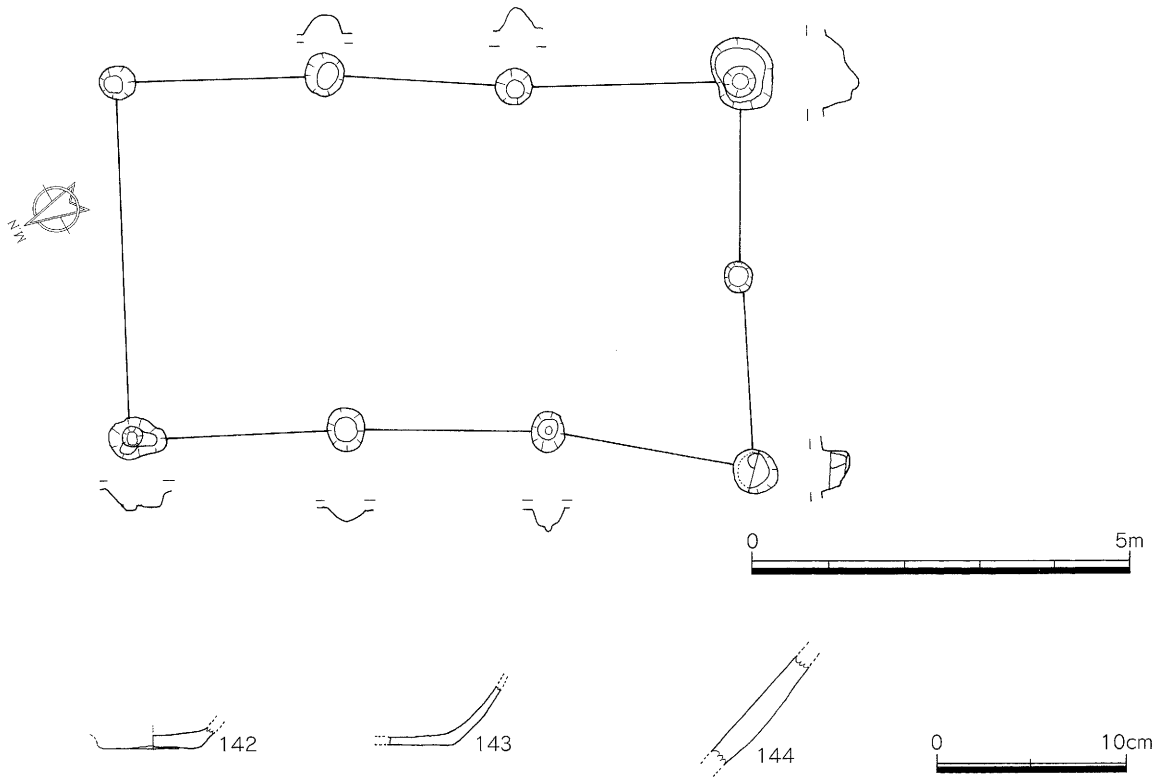


図41　第53地点掘立柱建物跡・出土遺物実測図（1/100・1/4）

た。床面積は約23.7㎡である。

iii **出土遺物**

遺物は須恵器甕や土師器坏等が出土しているが、量的には少なく、しかもほとんどが小破片であるため、掲載可能な３点のみ取り上げた。142・143は土師器坏で、いずれもヘラ切り底の回転ナデ調整が施されている。144は須恵器甕と思われるが、表面は平行叩きで、内面には同心円状当て具痕が遺存している。

第４節　平成13年度の調査

平成13年度は、陵墓の南側で寺原集落の東側畑地を中心に12地点（第57～68地点）の確認調査を行った。アカホヤ火山灰層の遺存率は全体の２/３程度で良好であった。調査対象面積は約60,500㎡である。

調査の結果、第65地点から焼礫群、第60・62・65地点から竪穴式住居跡等を検出した。このなかで、第65地点については遺構及び遺物の広がりが確認できたことから、来年度本調査を実施することとなった。

１．第60地点

第60地点は、西都原台地の南部で、西都原運動公園の北東50ｍの地点に位置している。

（１）遺構と遺物

竪穴式住居跡

ｉ立地

本地点の北東部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。茶畑に囲まれた畑地で、地形的には平坦である。

ii規模と構造

長軸4.48ｍ・短軸4.20ｍの規模を有する方形プランのものであるが、西側を南北に延びた溝状遺構に切られている。検出面からの深さ0.16ｍ前後で、床面は平坦、主柱は４本である。主柱は円形で径0.26～0.30ｍ、深さ0.56～0.59ｍを測る。

iii出土遺物

遺物は量的には少ないが、弥生土器甕をはじめ特徴的な器台等が出土している。145・146は口縁部が「く」字状に外反した甕で、145は、推定口径24.0㎝、器高29.4㎝を測る。底部は上げ底で、見た目にはスマートな甕である。147は、器台で、口縁部から体部そして底部と曲線的にスムースに移行するタイプのものであると推定される。上下２段に並行して直径1.7㎝程の円孔を穿っている。口縁部が遺存していないのが残念である。

共伴遺物の特徴から弥生時代後期に比定される。

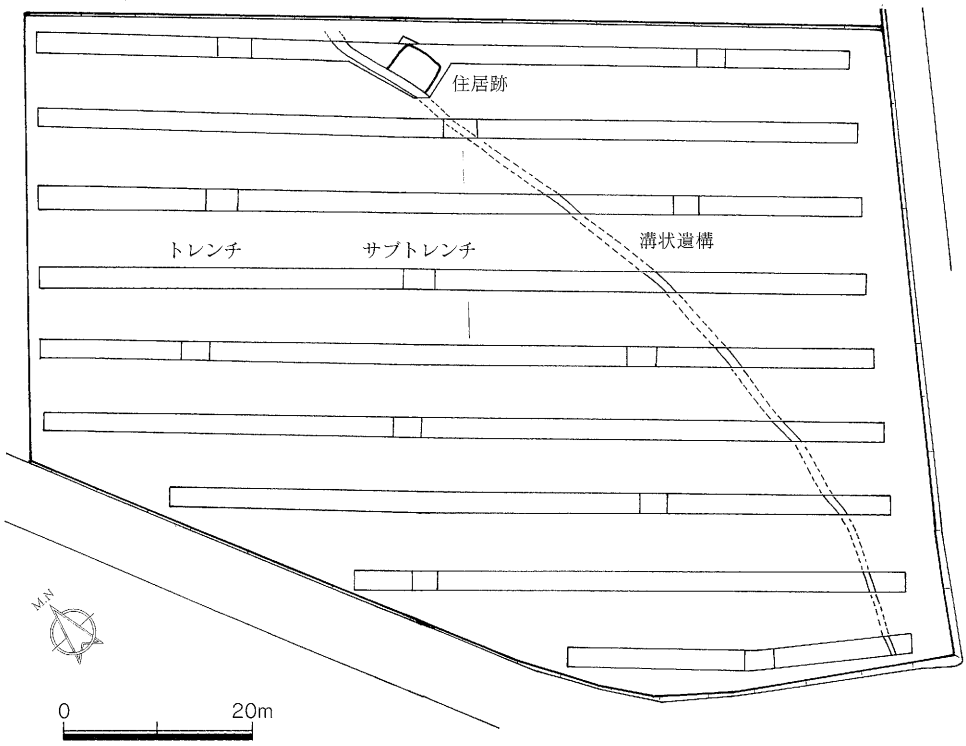


図42　第60地点調査状況（トレンチ）図（1/800）

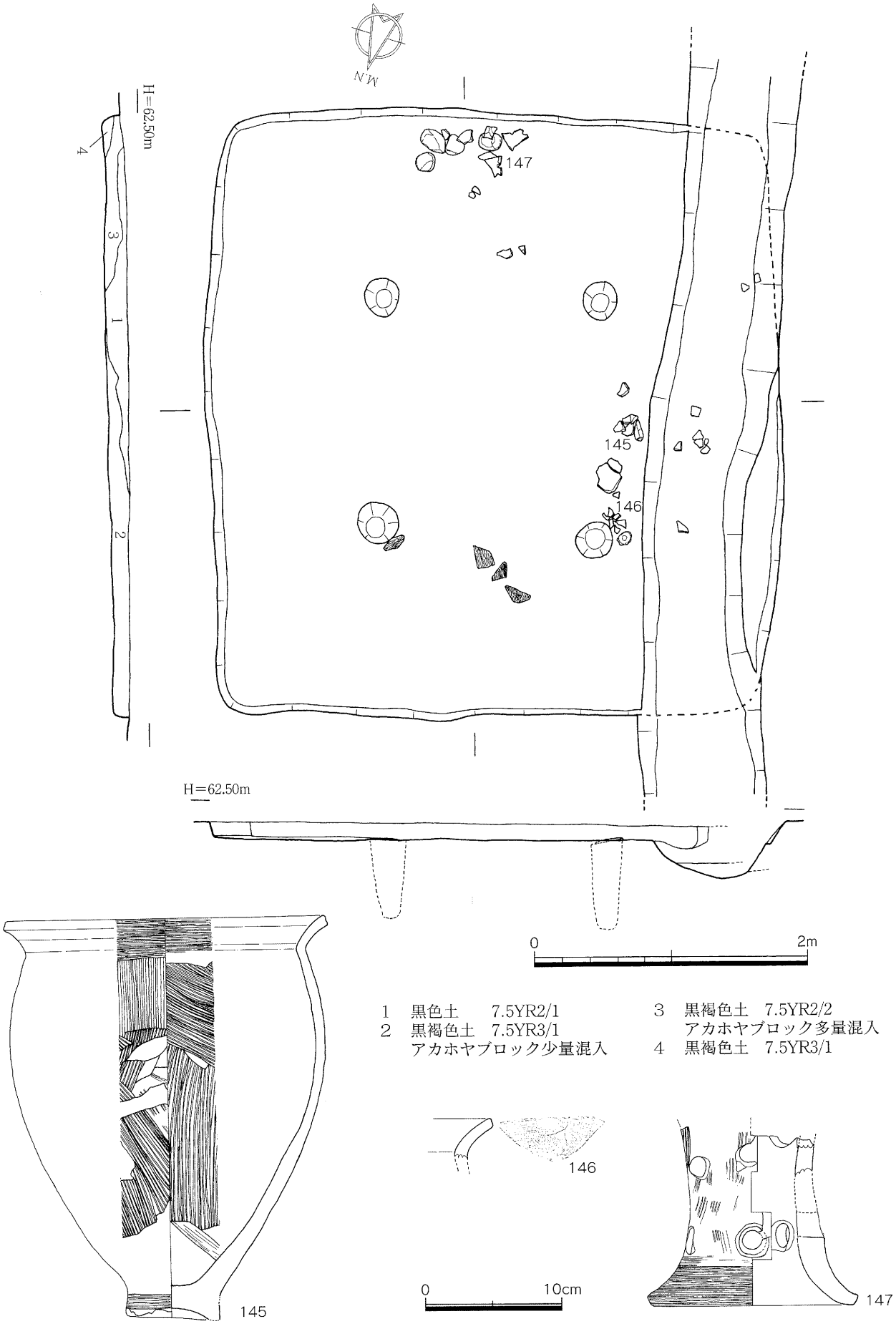


図43 第60地点住居跡・出土遺物実測図（1/40・1/4）

2．第62地点

西都原台地の北端部、西都原考古博物館の北約350mに位置している。圃場整備の際、弥生時代中期末から後期初頭の竪穴式住居跡の一角を検出した地点（２号小道路）と隣接している。

（1）遺構と遺物

竪穴式住居跡

ⅰ立地

本地点の北部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。農道を挟んだ北側は急傾斜地で、台地縁辺部に位置している。地形的には平坦である。

ⅱ規模と構造

長軸3.36m・短軸3.30mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.55mを測る。床面は平坦で、主柱は２本である。主柱は円形で径0.48～0.55m、深さ0.33～0.41mを測る。

なお、本住居跡は、北側の一部分を欠損しているが、図面を照合した結果、圃場整備の際検出したものと同一であることが判明した。

ⅲ出土遺物

遺物のほとんどは弥生土器で、緑色頁岩がわずかに出土している。148～150は甕の口縁部から胴部にかけてのもので、いずれも刻目突帯を有している。さらに、148～150は口唇部にも刻目が施されている。151・152は甕の胴部から底部にかけてのもので、151は若干の上底、152は平底と思われる。

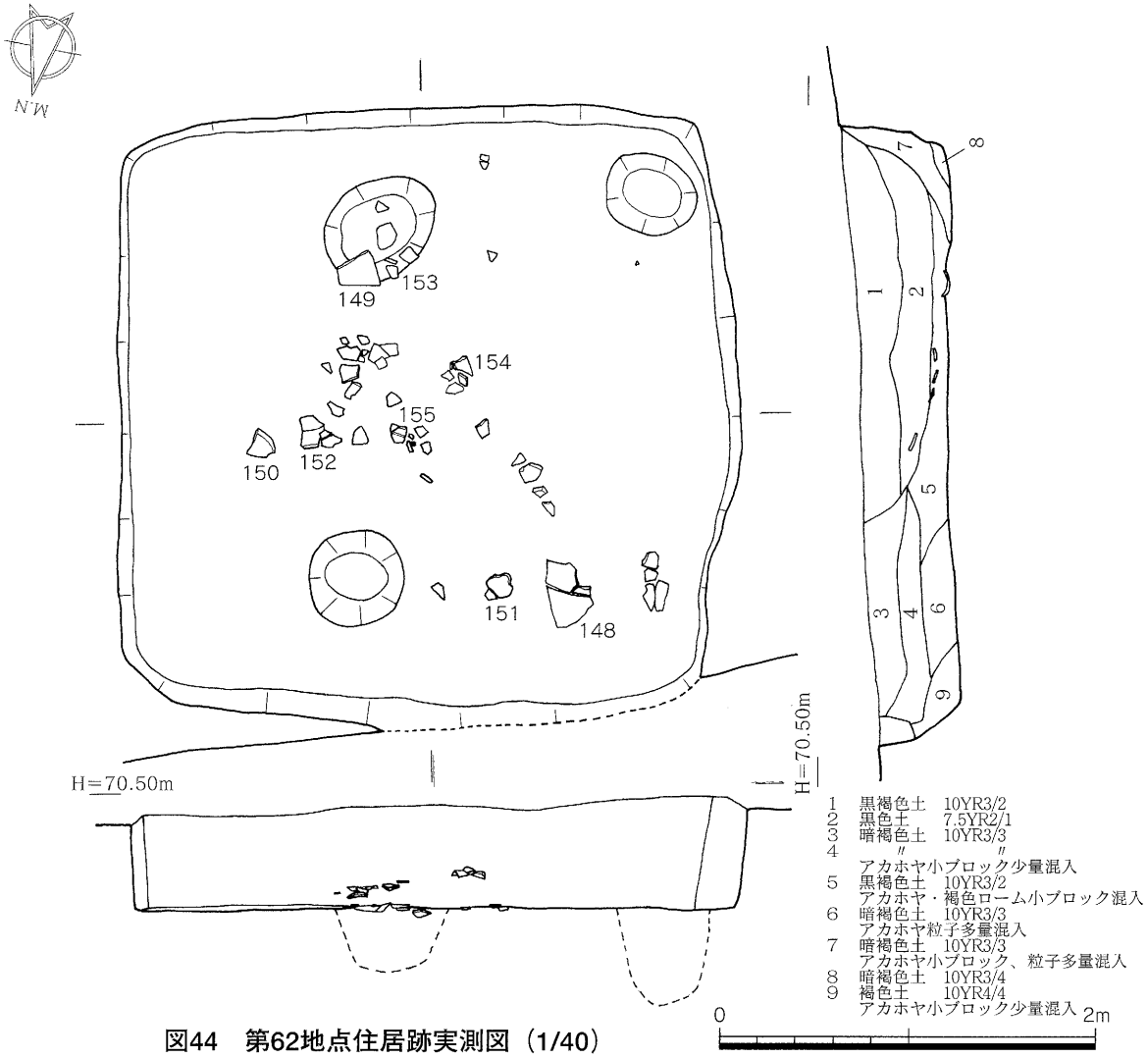


図44　第62地点住居跡実測図（1/40）

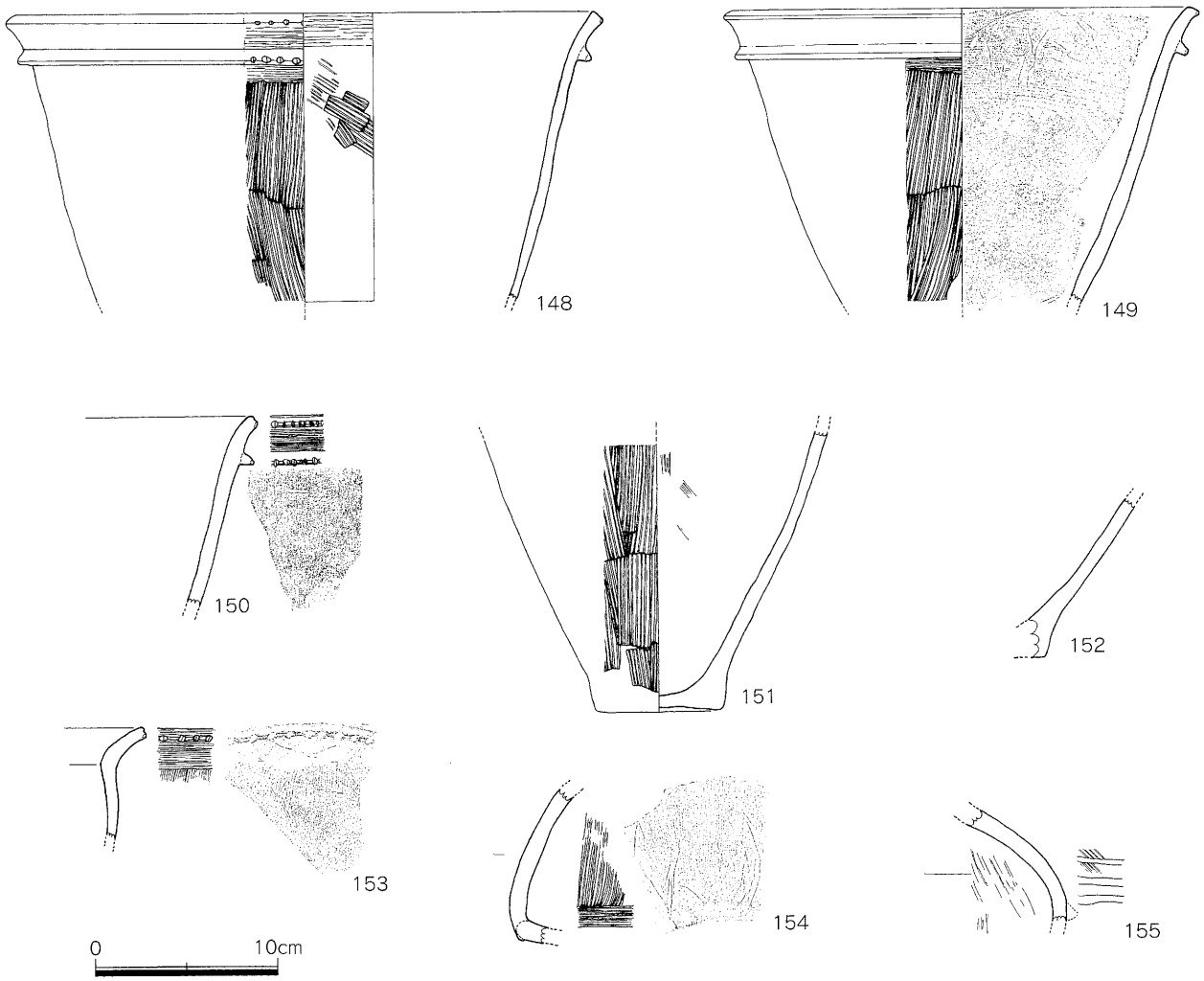


図45　第62地点住居跡内出土遺物実測図（1/4）

153は鉢の口縁部で、口唇部には刻目が施されている。154はかなり大きな「L」字状の口縁部を有する壺の頸部、155は同上部である。155には突帯が剥離した痕が見て取れる。

共伴遺物の特徴から、弥生時代中期末～後期初頭に比定される。

3．第65地点

（1）遺構と遺物

本地点は、圃場整備の際、縄文時代早期の集石遺構７基を検出したところ（Ｅ区）と同一畑地内の南側半分であり、今回の調査で焼礫群及び一辺5.4ｍと長軸5.20ｍ・短軸4.10ｍの方形プランの竪穴式住居跡を検出し、さらに、遺構・遺物の広がりを確認できたことから、地権者の協力を得て、次年度本調査することとなった。よって、本年度は遺構の平面プラン等を確認したのみで調査を終了した。

第５節　平成14年度の調査

平成14年度は、西都原台地の北部で県立西都原考古博物館の北側、西都原台地南部で西都原運動公園の北側畑地を中心に12地点（第69～80地点）の確認調査と、前年度焼礫群や竪穴式住居跡を検出した第65地点の本調査を行った。調査対象面積は60,500㎡である。

調査の結果、第65地点から集石遺構・竪穴式住居跡、第69地点から焼礫群や竪穴式住居跡、第74地点から竪穴式住居跡、第72地点から掘立柱建物跡等を検出した。

なお、第69地点については、遺構・遺物の広がりが確認できたことから、地権者の協力を得て、平成15年度に本調査することとなった。

１．第65地点

西都原運動公園の北西約400m、姫塚古墳（西都原第202号墳）の南西約230mで、台地縁辺部に位置している。本調査の対象となったのは、遺構・遺物が集中している南東側1,200㎡である。調査の結果、集石遺構7基、竪穴式住居跡３軒を検出した。

なお、本畑地の北西側は圃場整備の際、Ｅ区として調査を行ったところで、縄文時代早期の集石遺構７基と溝状遺構２条を検出している。

（1）遺構と遺物

１号集石遺構

ｉ立地

本地点の南部で、検出面はアカホヤ火山灰下層の黒褐色ローム層からである。

ii規模と構造

径0.90m・深さ0.10mの規模を有する円形プランのもので、凹レンズ状の浅い掘込みを有している。礫はあまり密集しておらず、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii出土遺物

遺物は出土していない。

２号集石遺構

ｉ立地

本地点の南西部で、１号の約10.5mに位置している。

ii規模と構造

径0.85m・深さ0.10mの規模を有する円形プランのもので、凹レンズ状の浅い掘込みを有している。礫はあまり密集しておらず、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

iii出土遺物

遺物は出土していない。

３号集石遺構

ｉ立地

２号の北側に隣接している。

ii規模と構造

径1.00m・深さ0.23mの規模を有する円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。床底面の中央部に平たい礫を置き、その周囲にさらに礫を花弁状に配するタイプのものである。礫はあ

まり密集していないが、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

４号集石遺構

ⅰ立地

本地点の西部で、５号と隣接している。

ⅱ規模と構造

径1.37mの規模を有する楕円形プランのもので、掘込みはなく平坦である。礫のみが集中している。礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

５号集石遺構

ⅰ立地

４号と隣接している。

ⅱ規模と構造

径1.14m・深さ0.05mの規模を有する円形プランのもので、掘込みは浅く平坦に近い。礫はかなり集積している。礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

６号集石遺構

ⅰ立地

本地点の北部に位置している。

ⅱ規模と構造

径1.31m・深さ0.12mの隅丸方形に近い円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。床底面に大きな平たい礫を置き、その周囲に礫を集積するタイプのものである。礫は密集しており、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

７号集石遺構

ⅰ立地

本地点の北部で、６号の北約8.0mに位置している。

ⅱ規模と構造

本地点では最小規模のもので、径0.62m・深さ0.10mを測る。円形プランのもので、凹レンズ状の掘込みを有している。礫はあまり密集していないが、礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。掘込みは黒褐色ローム層からである。

ⅲ出土遺物

遺物は出土していない。

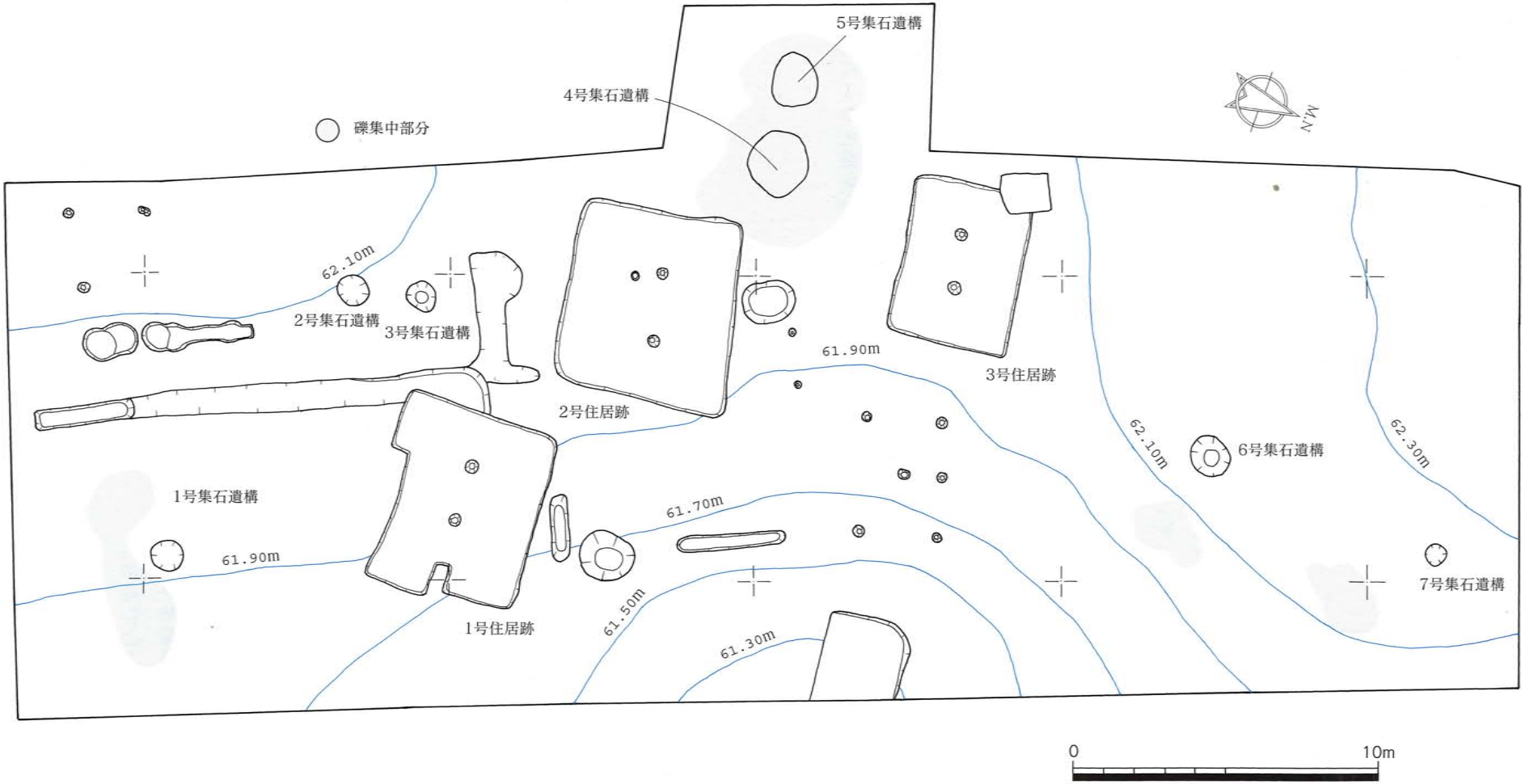


図46　第65地点遺構分布図（1/40）

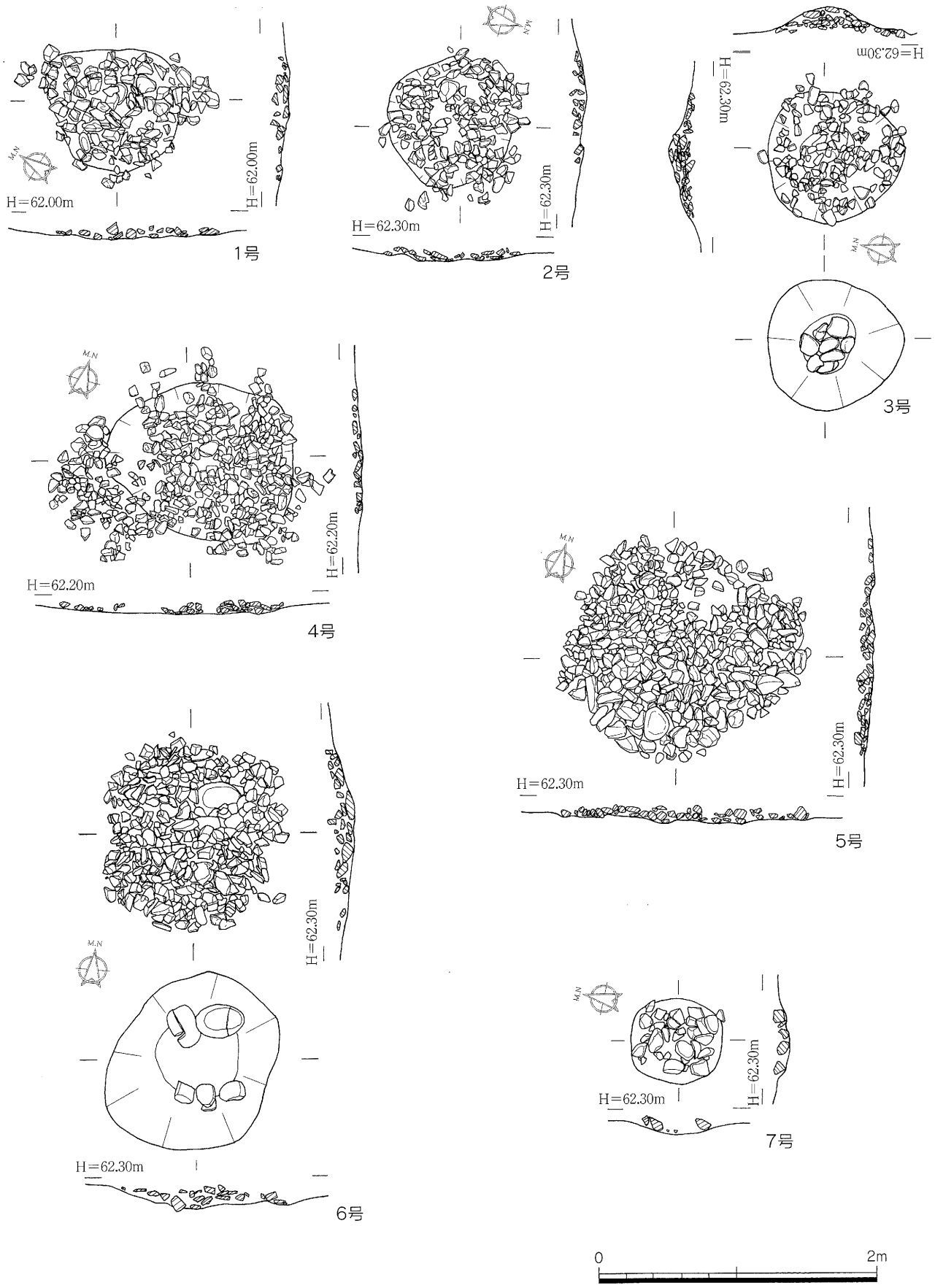


図47　第65地点集石遺構実測図（1/40）

１号住居跡

ｉ立地

第65地点の南側で、検出面はアカホヤ火山灰層である。地形的には東側に向かって少し傾斜している。

ii規模と構造

長軸6.06m・短軸4.60mの規模を有する長方形プランのものであるが、東辺中央部は内側に突出壁を持ち、南辺西部は外側に向かって長方形状に張り出している。検出面からの深さ0.26mを測り、床面は平坦で、主柱は２本である。主柱は円形で、径0.43～0.46m、深さ0.72～0.90mを測る。

iii出土遺物

器形的には甕・壺・鉢等が出土しているが、量的には甕・壺が全体の90%以上を占めている。156・157は口縁部が少し外反した甕で、下がり気味の突帯を有している。158は刻目突帯、159・160は「く」字状に外反した甕の口縁部である。161・162は上げ底の甕の底部である。162・163は特徴的な壺の口縁部で、163の口唇部には並行した5条の沈線を巡らせている。164は鋤先状口縁に鋸歯状の沈線が施されている。165は壺の胴上部である。166・167は幅広い底部の鉢で、器厚は薄く、丁寧なヨコハケ調整が施されている。その他の地点ではあまり見られない器形の鉢である。

２号住居跡

ｉ立地

第65地点のほぼ中央部で、1号住居跡の北西10.7m（中央から中央）に位置している。検出面はアカホヤ火山灰層で、地形的には平坦である。

ii規模と構造

第65地点では最大のもので、長軸6.10m・短軸5.60mの規模を有する方形プランのものであるが、わずかに北東隅が外側に出ている。検出面からの深さ0.18mを測り、床面は平坦で、主柱は２本である。主柱は円形で、径0.35～0.38m、深さ0.70～0.73mを測る。

iii出土遺物

形態的には甕・壺で、量的には甕が圧倒的に多い。168・169は口縁部が「く」字状に外反した甕の口縁部である。168は突帯を有しており、縄目状の刻目が施されている。170・171は甕の底部から胴部にかけてのもので、いずれも上げ底の底部から外方向に直線的に立ち上がるスマートな甕である。172は壺の頸部から胴部で、器厚は薄く、丁寧なハケ目調整が全面に施されている。

３号住居跡

ｉ立地

第65地点の北西部で、２号住居跡の北約10.0mに位置している。検出面はアカホヤ火山灰層で、地形的には平坦である。

ii規模と構造

第65地点では最小のもので、長軸5.34m・短軸3.92mの規模を有する長方形プランのものである。南辺は内側に若干膨らみ、北西隅は撹乱を受けている。検出面からの深さ0.30mを測り、床面は平坦で、主柱は２本である。主柱は円形で、径0.37m、深さ0.58～0.66mを測る。

iii出土遺物

弥生土器が少量と鉄片が出土しているが、小片のため掲載しなかった。

これらは、共伴遺物の特徴から、弥生時代後期に比定される。

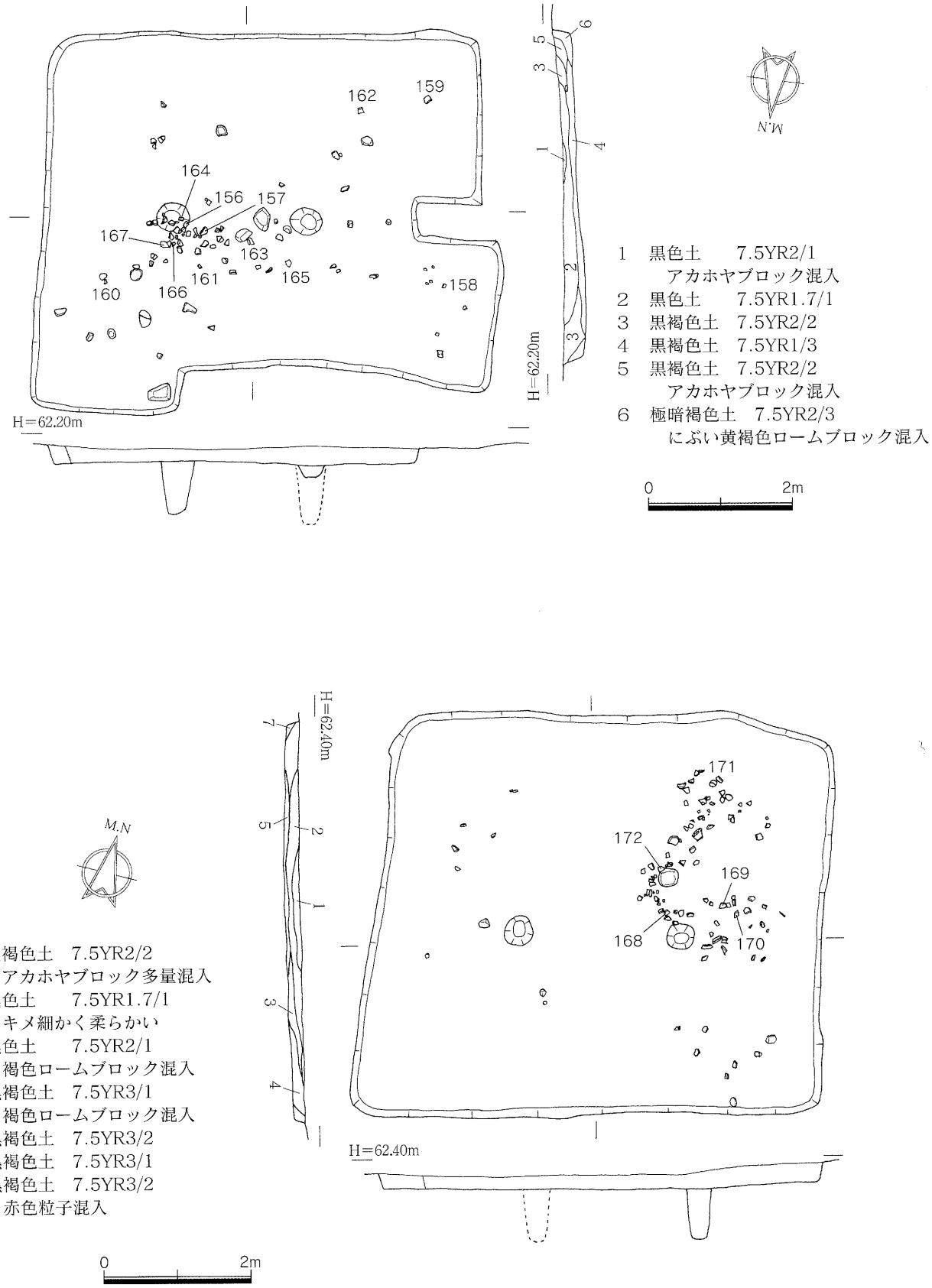
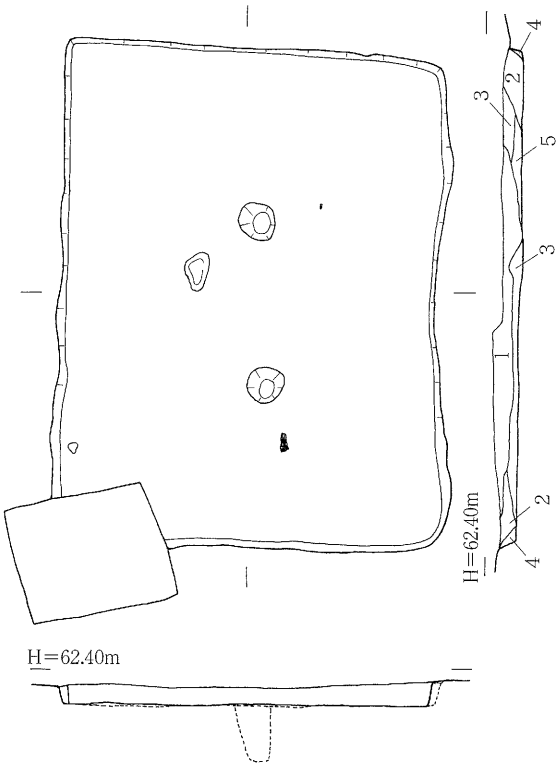


図48 第65地点1号・2号住居跡実測図（1/80）



1　黒色土　　7.5YR2/1　　しまりなし
　透明粒子混入
2　黒褐色土　7.5YR2/2　　〃
　少し荒い　アカホヤ小ブロック混入
3　黒褐色土　7.5YR3/1　　〃
　少し荒い　橙色・白色粒子混入
4　黒褐色土　7.5YR2/3　　〃
　少し荒い　透明・橙色・白色粒子混入
5　黒褐色土　7.5YR3/1　　〃
　アカホヤ小ブロック混入

0　2m

図49　3号住居跡実測図（1/80）

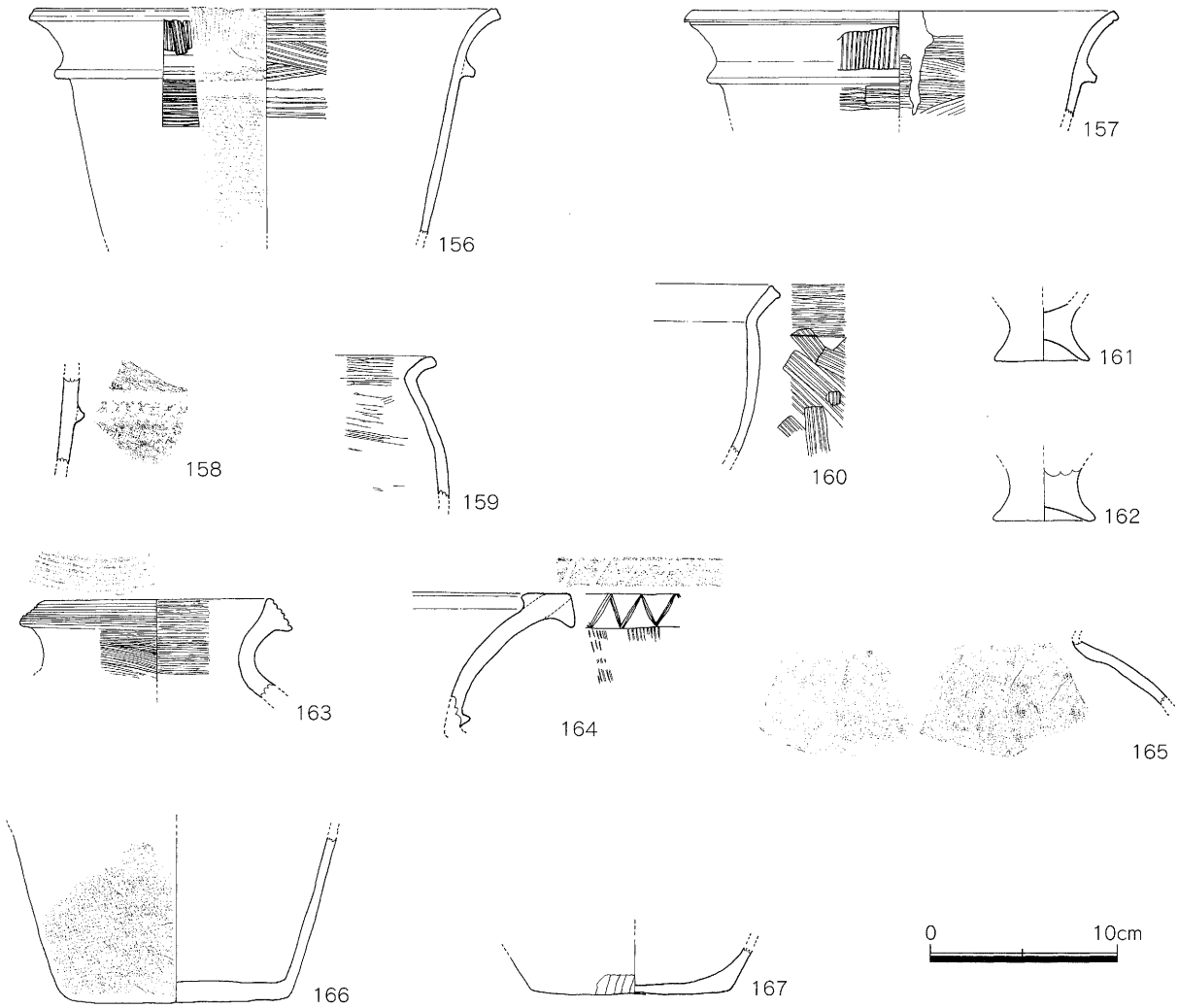


図50　1号住居跡内出土遺物実測図（1/4）

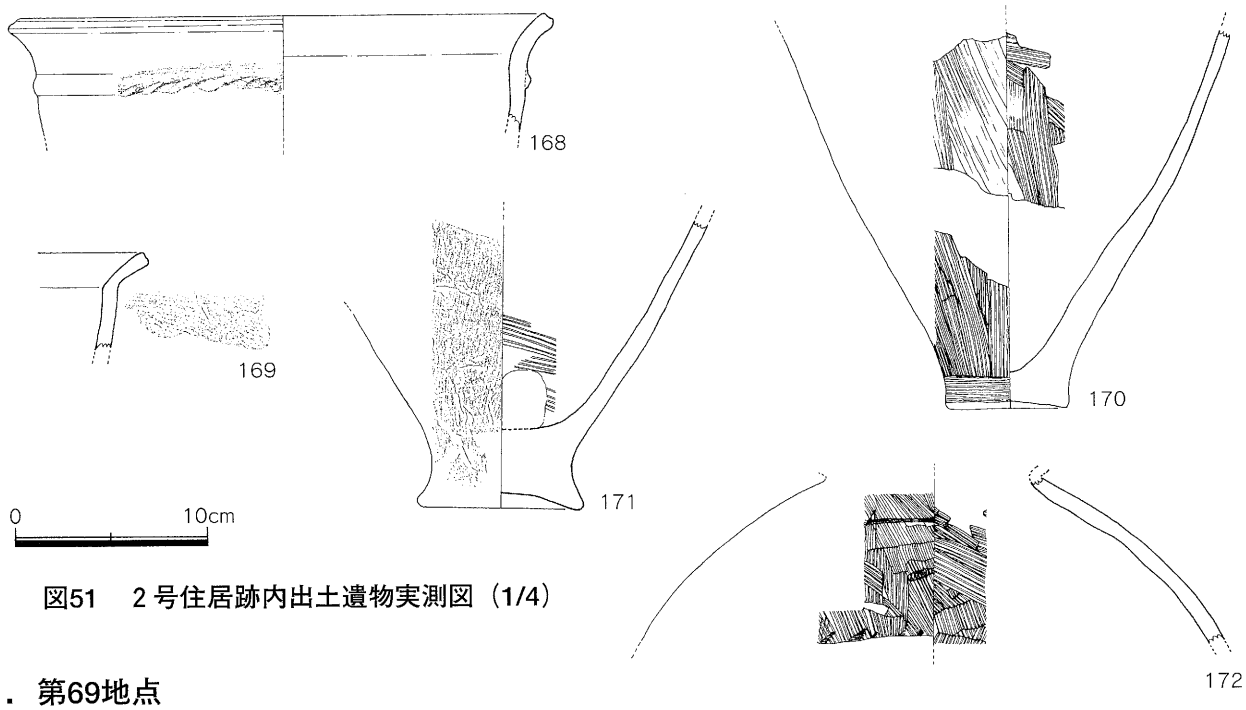


図51　2号住居跡内出土遺物実測図（1/4）

2．第69地点

（1）遺構と遺物

第69地点は、西都原台地の北部で、県立西都原考古博物館の北約300mに位置している。調査にて、焼礫群及び竪穴式住居跡２軒を検出したが、遺構・遺物の広がりが確認できたことから、次年度本調査することとなった。

なお、この竪穴式住居跡のなかで東側の円形プランのものは、出土遺物から縄文時代晩期のものである可能性が高く、市内でも初めての検出例であることから、貴重な資料である。

3．第72地点

第72地点は、西都原台地南部で、西都原運動公園の北東約250mに位置している。調査の結果、掘立柱建物跡を検出した。

（1）遺構と遺物

掘立柱建物跡

ｉ立地

本地点の北部から検出している。検出面はアカホヤ火山灰層である。

ii規模と構造

２×３間の南北棟で、柱穴は径0.42～0.56m、深さ0.40～0.61m、柱穴間1.75～1.90mを測る。主軸の方向はＮ－14°－Ｅで、床面積は約19.6㎡と推定される。

iii出土遺物

遺構と共伴して遺物は全く出土しておらず、時期的なことはまったく不明である。

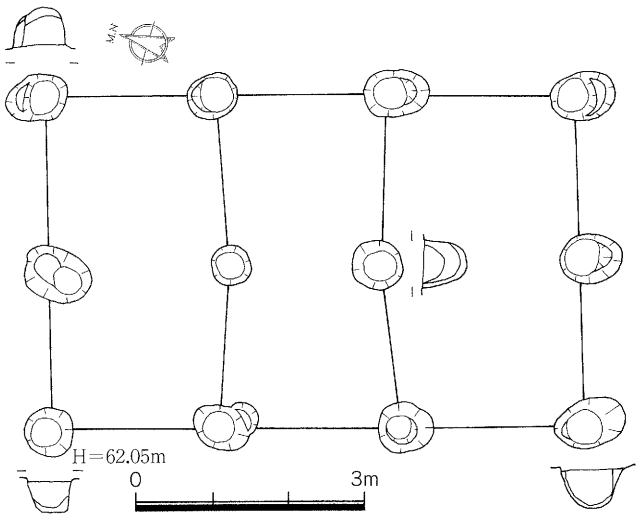


図52　第72地点掘立柱建物跡実測図（1/100）

4．第74地点

第74地点は、西都原台地の西部で、寺原集落の東側に位置している。調査の結果、竪穴式住居跡や溝状遺構等を検出した。なお、この竪穴式住居跡については、地権者のご好意により、現状保存することとなった。

（1）遺構と遺物

竪穴式住居跡

ⅰ立地

第74地点の北端部から検出したもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

ⅱ規模と構造

南辺約6.10m・東辺約7.50mの規模を有する長方形プランのものであるが、北部を東西に延びる溝状遺構に切られている。また、東辺には長方形、西辺には台形状の張出しを有している。検出面からの深さ0.30mを測り、床面は平坦で、主柱は４本である。主柱は円形で、径0.41～0.54m、深さ0.64～0.75mを測る。

ⅲ出土遺物

形態的には甕・壺・高坏等にミニチュア土器が含まれている。量的には甕・壺が圧倒的に多いが、他地点の竪穴式住居跡と比較して高坏が多いことが注目される。173～177は口縁部が「く」字状に外反した甕で、特に173は円柱状の平底から少しずつ内湾しながら立ち上がるスマートな甕で口径26.3cm、器高29.5cmを測る。178は甕の胴部で、低い突帯を有している。179～185は甕の底部で、平底のもの（179～182）や上げ底のもの（183～185）がある。186・187は甕のミニチュア土器の底部と思われる。188～193は壺の口縁部で、188～191はいずれも上部分が逆「く」字状を呈した二重口縁壺である。188は逆「く」の下の部分がかなり長く、頸部には突帯を有している。表面の風化が著しく調整等ははっきりしない。口径18.0cmを測る。189の口縁部には凹線、190には並行した斜線と横位の沈線、191には波状沈線が施されている。194・195は壺の頸部から胴部、196は壺の胴部である。197～202は壺の底部で、いずれも平底である。中には197のように円柱状の底部を有するものも含まれている。203～206は高坏の坏部で、207～215は高坏の脚部である。脚部で見ると、脚端部の外側と内側にかえりを有しているもの（209・210・213）、外側のみ有しているもの（208・214・215）、かえりを有していないもの（211・212）に分類できる。ヘラ磨き・ハケ目・ヨコナデ調整等で仕上げられている。216は高坏のミニチュア土器と思われる。

共伴遺物の特徴から、弥生時代終末に比定される。

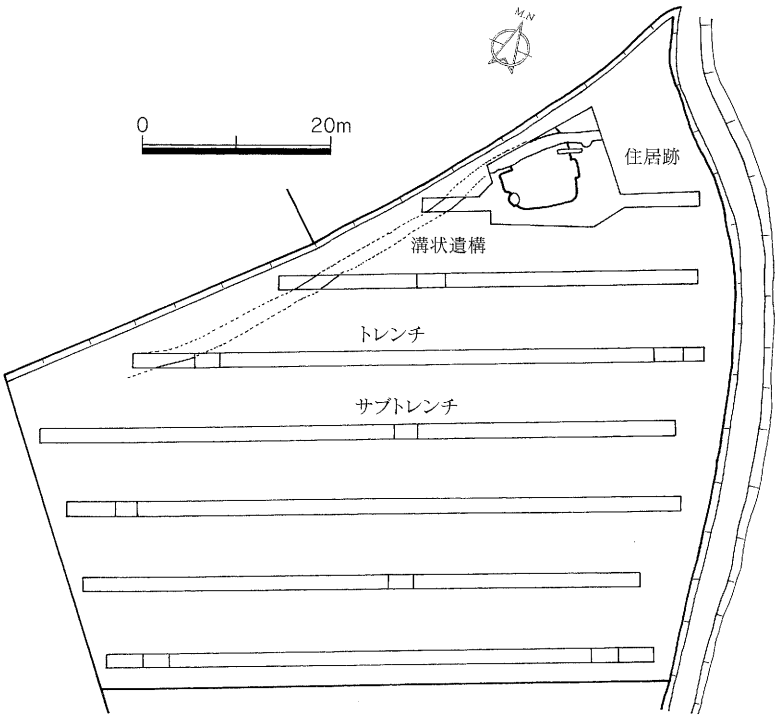
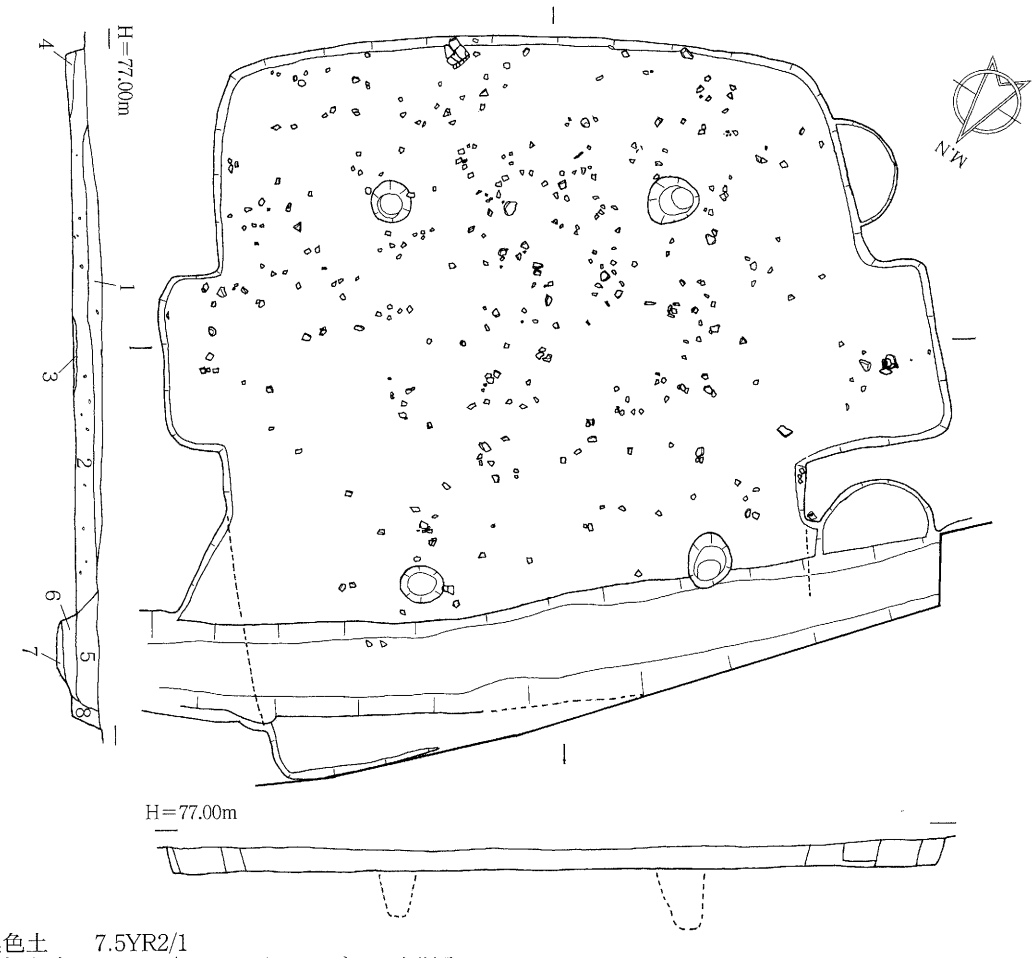


図53　第74地点調査状況（トレンチ）図（1/800）



1　黒色土　7.5YR2/1
2　黒褐色土　7.5YR3/1　アカホヤブロック混入
3　黒褐色土　7.5YR3/2　アカホヤブロック多量混入
4　黒色土　7.5YR1.7/1
5　黒色土　7.5YR2/1
6　黒色土　7.5YR1.7/1
7　黒色土　7.5YR2/1　溝
8　黒色土　7.5YR3/1
アカホヤブロック少量混入

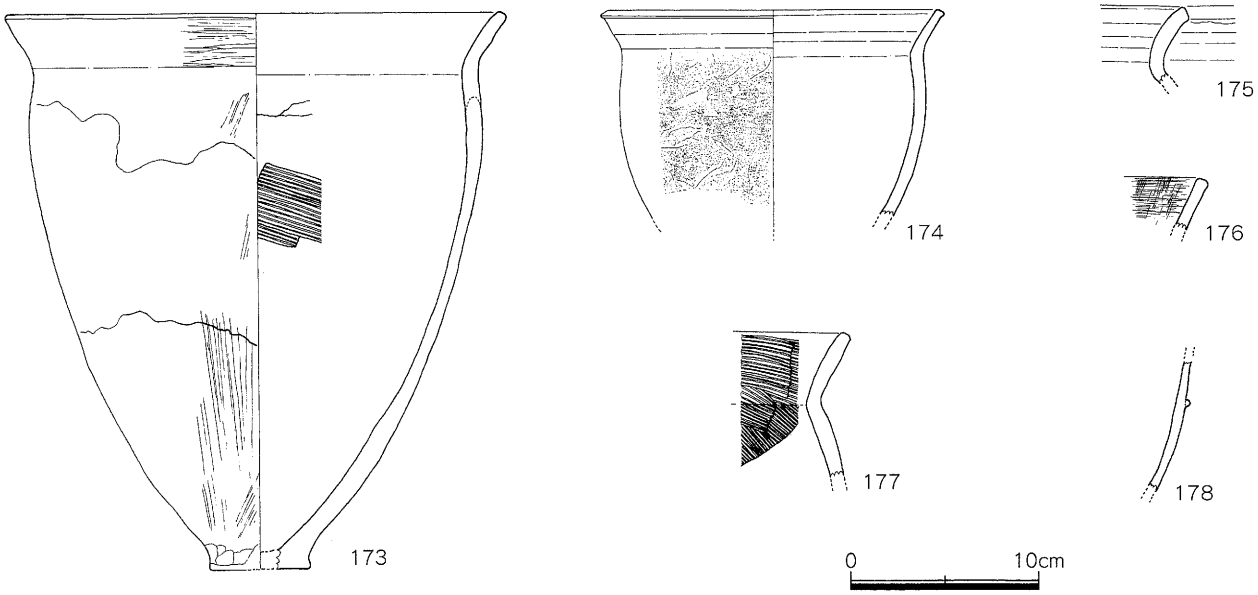


図54　第74地点住居跡・出土遺物実測図（1/80・1/4）

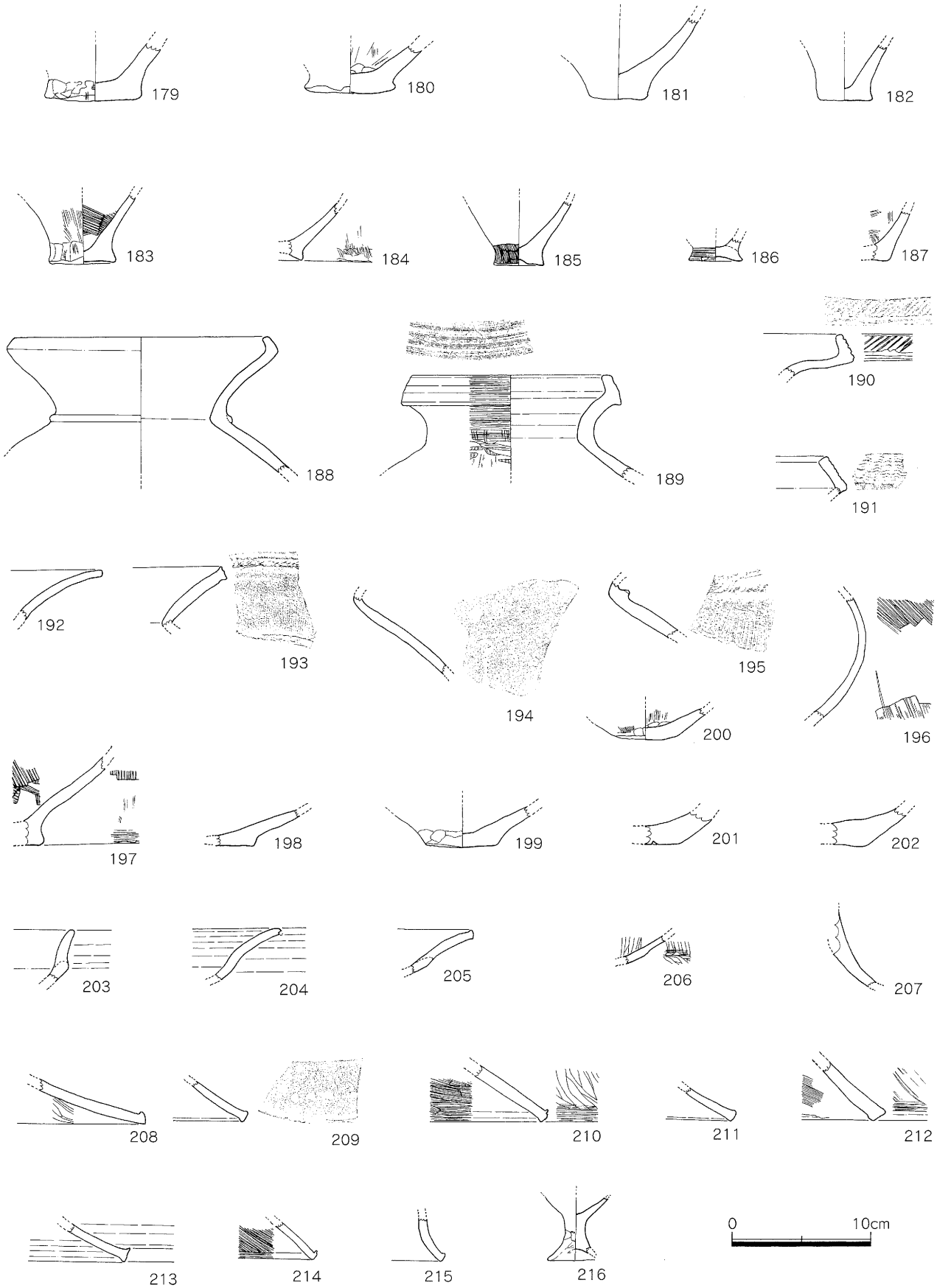


図55　第74地点住居跡内出土遺物実測図（1/4）

第６節　平成15年度の調査

平成15年度は、西都原台地の南部の２地点（81・82地点）の確認調査と、昨年度焼礫群及び竪穴式住居跡を検出した第69地点及び本年度確認調査で竪穴式住居跡群を検出した第81地点の本調査を行った。

調査の結果、第69地点から集石遺構・竪穴式住居跡・土壙墓、第81地点から竪穴式住居跡群及び溝状遺構等を検出した。

なお、このなかで第81地点については、南側が西都原古墳群として整備された地域（寺原第２支群）、北側が圃場整備の道路改良に伴う調査にて竪穴式住居跡群を検出した道路に隣接している。さらに、この道路から北側畑地では耕している際に竪穴式住居跡が多数目視されることから、集落の復元を目的に保存整備をすることが計画されたところでもある。残念ながら承諾が得られずに実現はできなかったものの、第81地点はこれらに関連した重要なところであることは明白であることから、将来の保存整備のことも考慮したうえで地権者と協議を重ねた結果、ご好意により現状保存することで合意にいたった。

１．第69地点

西都原台地の北部で、県立西都原考古博物館から北約300ｍに位置している。昨年度焼礫群及び竪穴式住居跡を検出したところで、圃場整備の際、焼礫群を検出したところ（２号小道路）とも隣接している。調査の結果、集石遺構・竪穴式住居跡・土壙墓等を検出した。

（1）遺構と遺物

１号集石遺構

ｉ立地

第69地点の西部で検出したもので、１号住居跡の南西約24.0ｍに位置している。検出面は黒褐色ローム層である。

ii規模と構造

径1.60ｍ、深さ0.44ｍの規模で、凹レンズ状の掘込みを有している。床底面の中央に約30㎝の平たい礫を２個置き、その周囲に礫を配している。礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。

iii出土遺物

遺物は全く出土していない。

２号集石遺構

ｉ立地

１号集石遺構の南東約3.6ｍで、検出面は１号と同じく黒褐色ローム層である。

ii規模と構造

径0.91ｍ、深さ0.16ｍの規模で、浅い凹レンズ状の掘込みを有している。礫は角礫が多く、火を受け赤く変色している。

iii出土遺物

遺物は全く出土していない。

今回、遺構とは共伴しないが、多くの縄文土器や石器が出土している。217～221は貝殻条痕文系土器の口縁部、222・223は貝殻条痕文系土器の胴部である。表面に横位あるいは斜位に貝殻復縁による

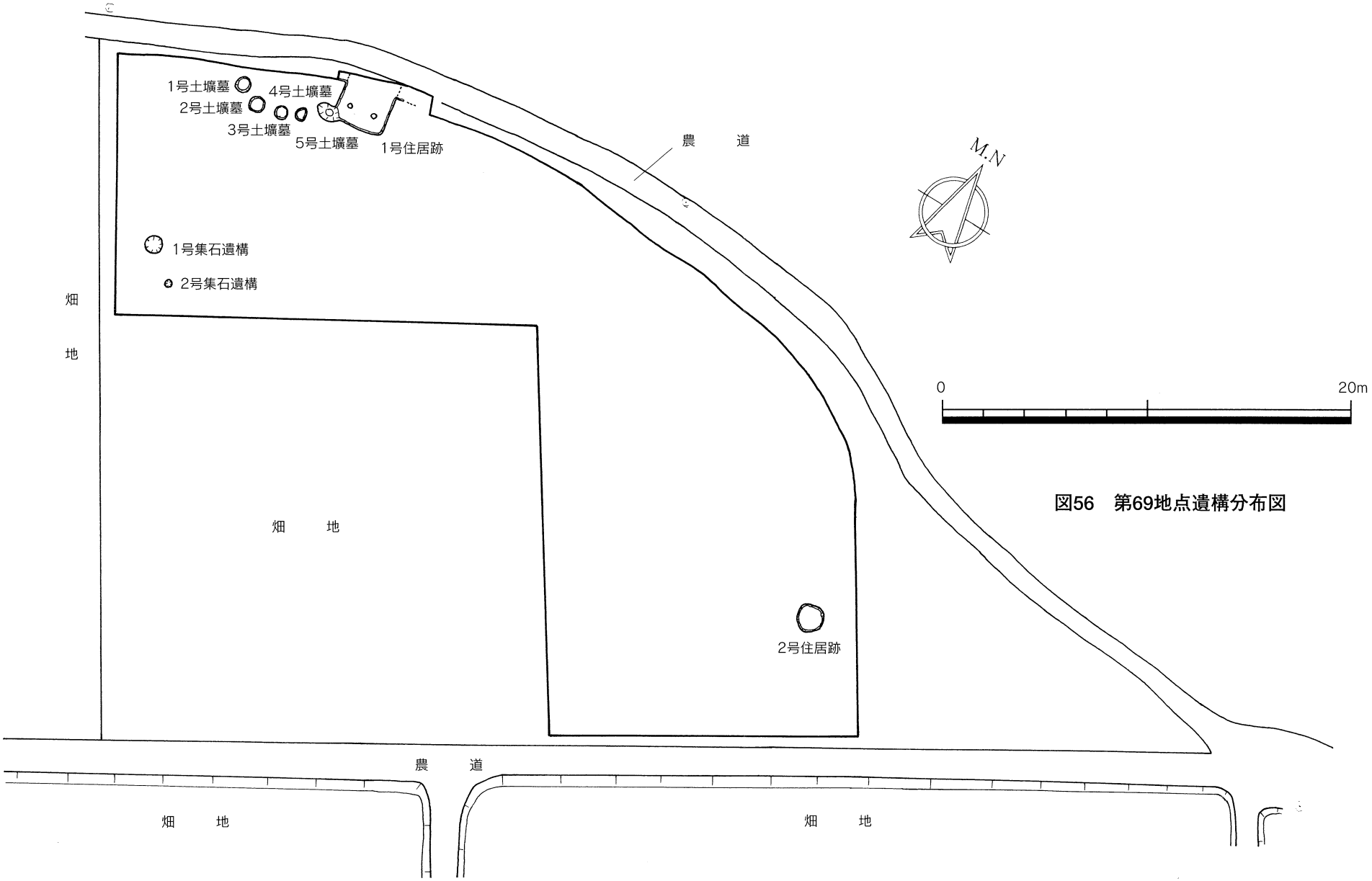


図56　第69地点遺構分布図

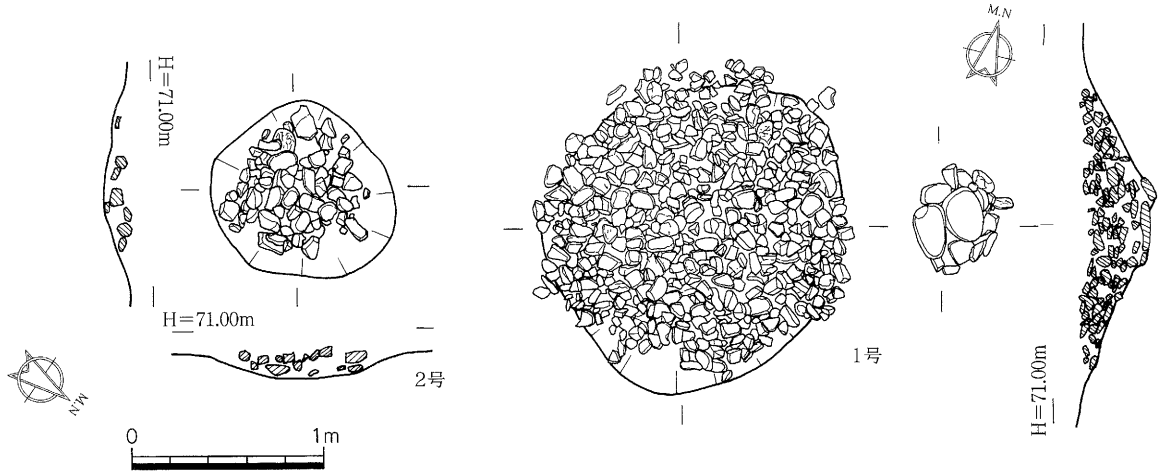


図57　第69地点集石遺構実測図（1/40）

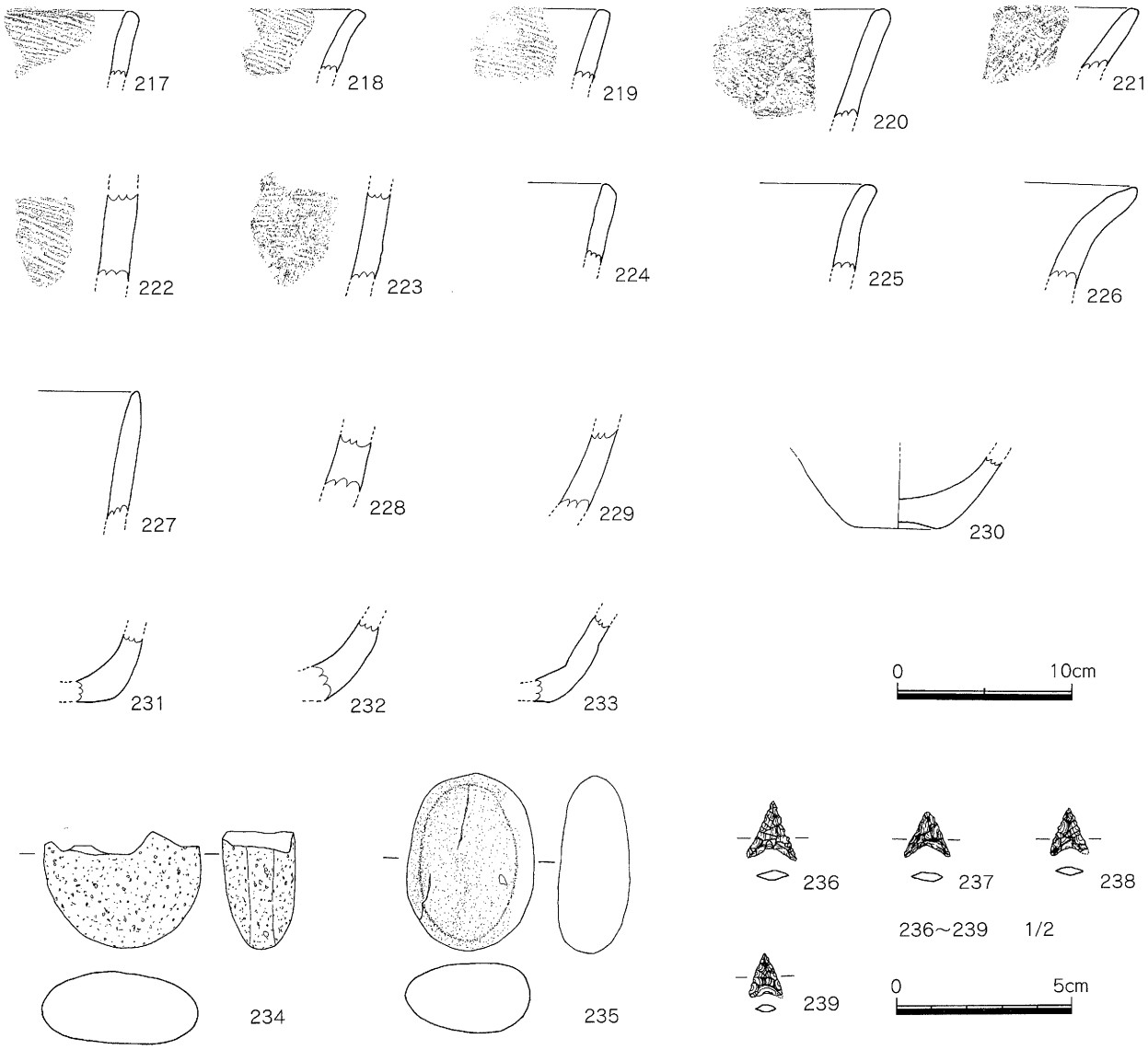


図58　第69地点出土遺物実測図（1/4・1/2）

文様が施されている。224～227は無文土器の口縁部で、直線的なもの（224・227）と外反するもの（225・226）がある。228・229は無文土器の胴部、230～233は無文土器の底部で、平底と上げ底がある。234・235は敲石で、石材は234が尾鈴山酸成岩製、235が砂岩製である。236～239は石鏃で、石材は236～238はチャート、239は黒曜石である。いずれも基部が凹基式のものである。

１号住居跡

ｉ立地

第69地点の北部で、５号土壙墓と重複している。北側部分は農道により削平されている。検出面はアカホヤ火山灰層である。

ii規模と構造

一辺2.80mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.33mを測る。床面は平坦であるが、主柱は２本である。主柱の径は0.35m・深さ0.74～1.04mを測る。この主柱と主柱の間には焼土が確認できる。炉として使用していたところと思われる。

iii出土遺物

遺物は量的にはかなり少なく、小片が多いことから、石器１点を含む４点を掲載した。240・241は口縁部が外反した壺の口縁部、242は壺の胴上部で円形の浮文と突帯を有している。243は緑色頁岩の石鏃で、基部は凹基式である。

共伴遺物の特徴から、弥生時代中期末から後期初頭に比定される。

２号住居跡

ｉ立地

第69地点の南東部で、検出面はアカホヤ火山灰層である。

ii規模と構造

径2.60mの規模を有する円形プランのものであるが、きちんとした円形ではなく、凸凹している。検出面からの深さは浅く0.12mを測る。床面は平坦であるが、主柱は確認できなかった。

iii出土遺物

２号住居跡はさらに遺物の量は少ない。本調査ではほとんど出土しなかったことから、確認調査の際出土したものを２点掲載した。243は深鉢の口縁部で、胎土も調整もかなり荒い仕上がりとなっている。244は底部で、平底である。

共伴遺物の特徴から、縄文時代晩期に比定される。

１号土壙墓

ｉ立地

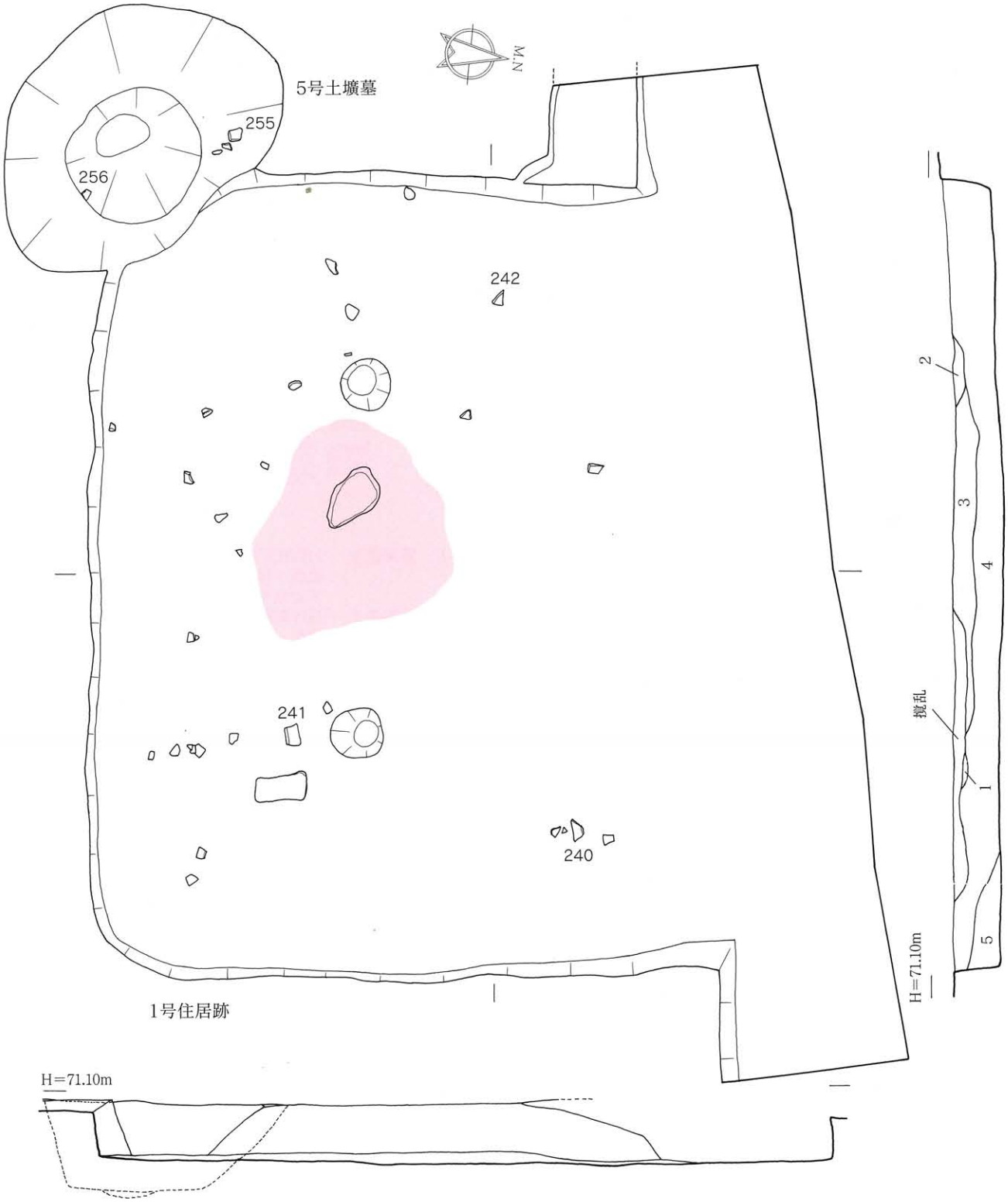
土壙墓は第69地点の北部で、１号住居跡を検出した西側周辺に集中している。１号土壙墓はそのなかでも一番西に位置しているもので、検出面はアカホヤ火山灰層である。

ii規模と構造

長軸1.79m・短軸1.48mの規模を有する楕円形プランである。検出面からの深さ0.33～0.45mを測る。検出面は南から北に向かって、床面は北から南に向かって下がっている。

iii出土遺物

５基検出した中で最も出土量が多い。総数で22点出土している。245・246は口縁部が直行し、刻目突帯を有する甕、247・248は口縁部が外反した壺の口縁部及び頸部、249は壺の底部で平底である。250は鉢の底部と思われる。



1	褐色土	10YR4/1	しまりなし	サラサラ
2	暗褐色土	10YR3/4	〃	〃
3	黒褐色土	10YR2/2	〃	〃
4	黒褐色土	10YR3/2	しまりあり	硬質
5	暗褐色土	10YR3/3	しまりなし	サラサラ

0　2m

図59　第69地点１号住居跡・５号土壙墓実測図（1/40）

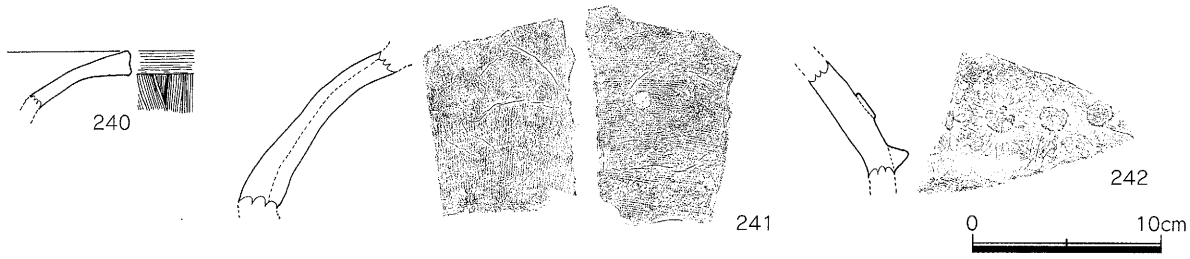


図60　1号住居跡内出土遺物実測図（1/4）

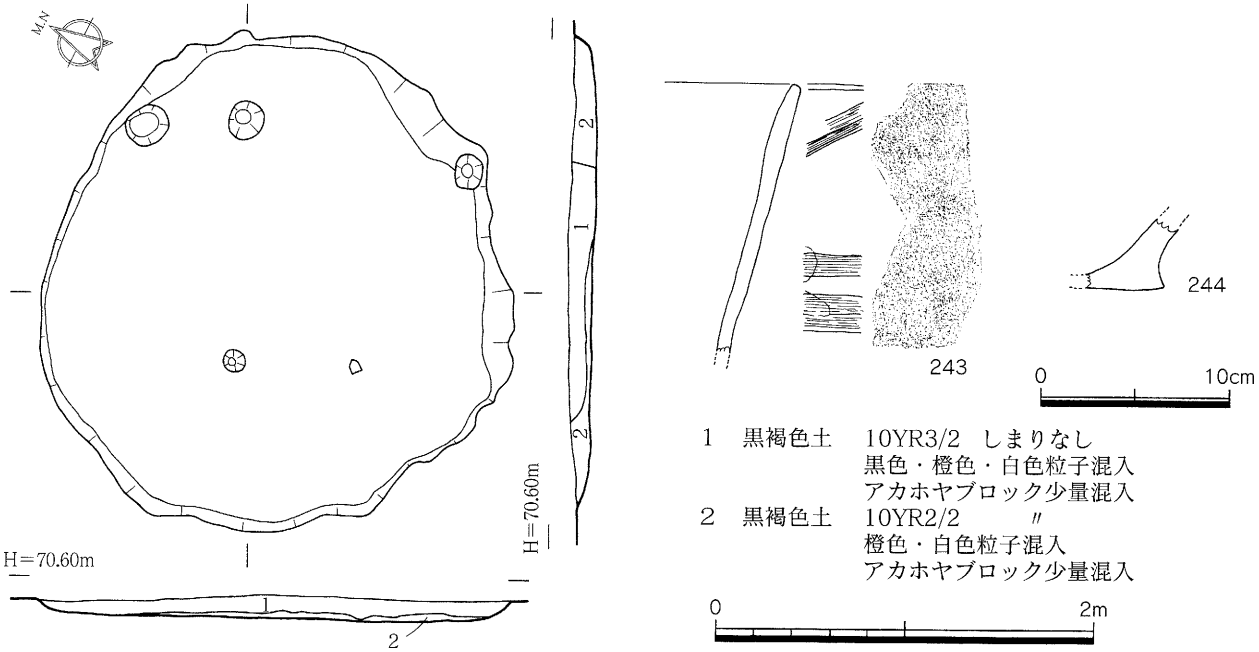


図61　2号住居跡・出土遺物実測図（1/40・1/4）

2号土壙墓

i 立地

1号土壙墓の南東約2.6mに位置している。検出面はアカホヤ火山灰層である。

ii 規模と構造

径1.70mの規模を有する少し変形した円形プランのものである。検出面からの深さ0.34mを測る。床面は平坦である。

iii 出土遺物

量的には少なく、総数6点である。251は口縁部が「く」字状に外反した甕の口縁部で、刻目突帯を有している。また、口唇部にも刻目が施されている。252は甕の胴部である。

3号土壙墓

i 立地

2号土壙墓の南東約2.4mに位置している。検出面はアカホヤ火山灰層である。

ii 規模と構造

長軸1.43m・短軸1.27mの規模を有する楕円形プランのもので、このなかで最小のものである。検出面からの深さ0.43mを測る。床面はほぼ平坦である。

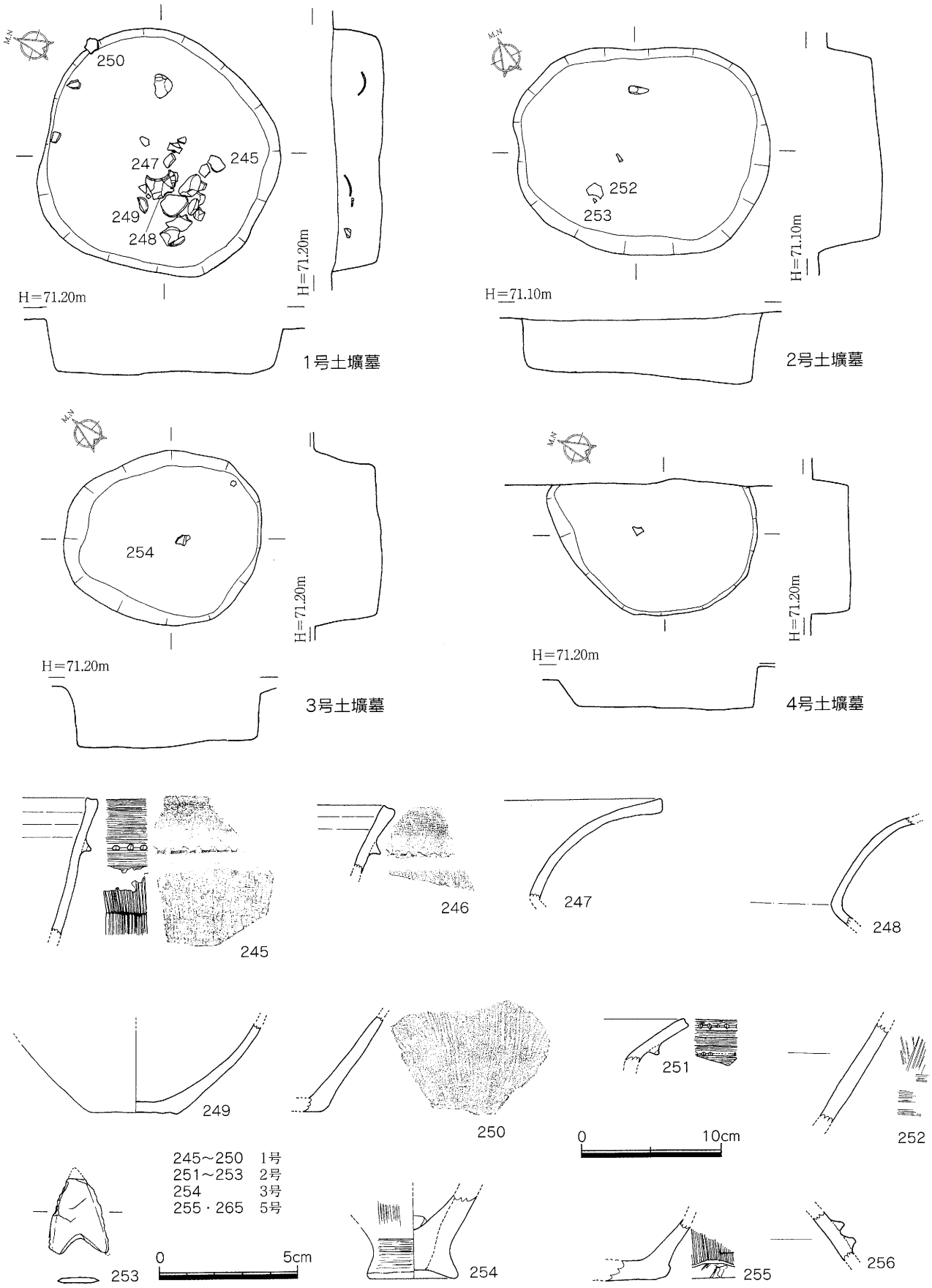


図62　第69地点土壙墓・出土遺物実測図（1/40・1/4）

ⅲ出土遺物

総数２点で、その内１点を掲載した。254は甕の底部で上げ底である。

４号土壙墓

ⅰ立地

３号土壙墓の東約1.8mに位置している。検出面はアカホヤ火山灰層である。

ⅱ規模と構造

長軸は推定1.45m・短軸1.30mの規模を有する楕円形プランのものと思われる。検出面からの深さ0.26mで、その他のものと比較するとかなり浅い。床面は平坦である。

ⅲ出土遺物

遺物は１点のみである。

５号土壙墓

ⅰ立地

４号土壙墓の東約2.2mに位置し、１号住居跡の南西部と重複している。検出面はアカホヤ火山灰層である。

ⅱ規模と構造

長軸2.15m・短軸1.47mの規模を有する楕円形プランのもので、このなかで最大のものである。検出面からの深さ0.56mを測る。

ⅲ出土遺物

総数５点で、その内２点を掲載した。256は壺の胴上部で２条の突帯を有している。255は鉢の底部で平底である。

２．第81地点

西都原台地の南西部で、寺原集落の南側に位置している。姫塚古墳（西都原第202号墳）からは西約680mである。調査の結果、竪穴式住居跡群及び溝状遺構等を検出した。なお、本地点のその後の措置については前述したとおりである。なお、各住居跡の時期については第Ⅴ章のまとめのなかで考察するのでここでは省略する。

地形的には、東から西に向かって緩やかに傾斜し、その比高差約0.50mを測る。

（１）遺構と遺物

１号住居跡

ⅰ立地

本地点のほぼ中央部で、東約7.5mには２号住居跡が位置している。南部隅が５号溝状遺構と重複している。検出面は１号～８号住居跡までいずれもアカホヤ火山灰層である。

ⅱ規模と構造

長軸6.35m・短軸6.00mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.28mを測る。床面は平坦であるが、周囲の地形に合わせて東から西に向かって若干傾斜している。主柱は４本で、径0.33～0.45m、深さ0.32～0.49mを測る。南部隅部分が溝状遺構と重複しているが、掘削前から確認できたことから、時期的には溝状遺構の方が新しいものである。

ⅲ出土遺物

遺物の量としては、第81地点の中では最も多く、総数約2,090点を出土しているが、小片がほとんどである。257・258は口縁部が「く」字状に外反した甕の口縁部、259～262は甕の底部である。260

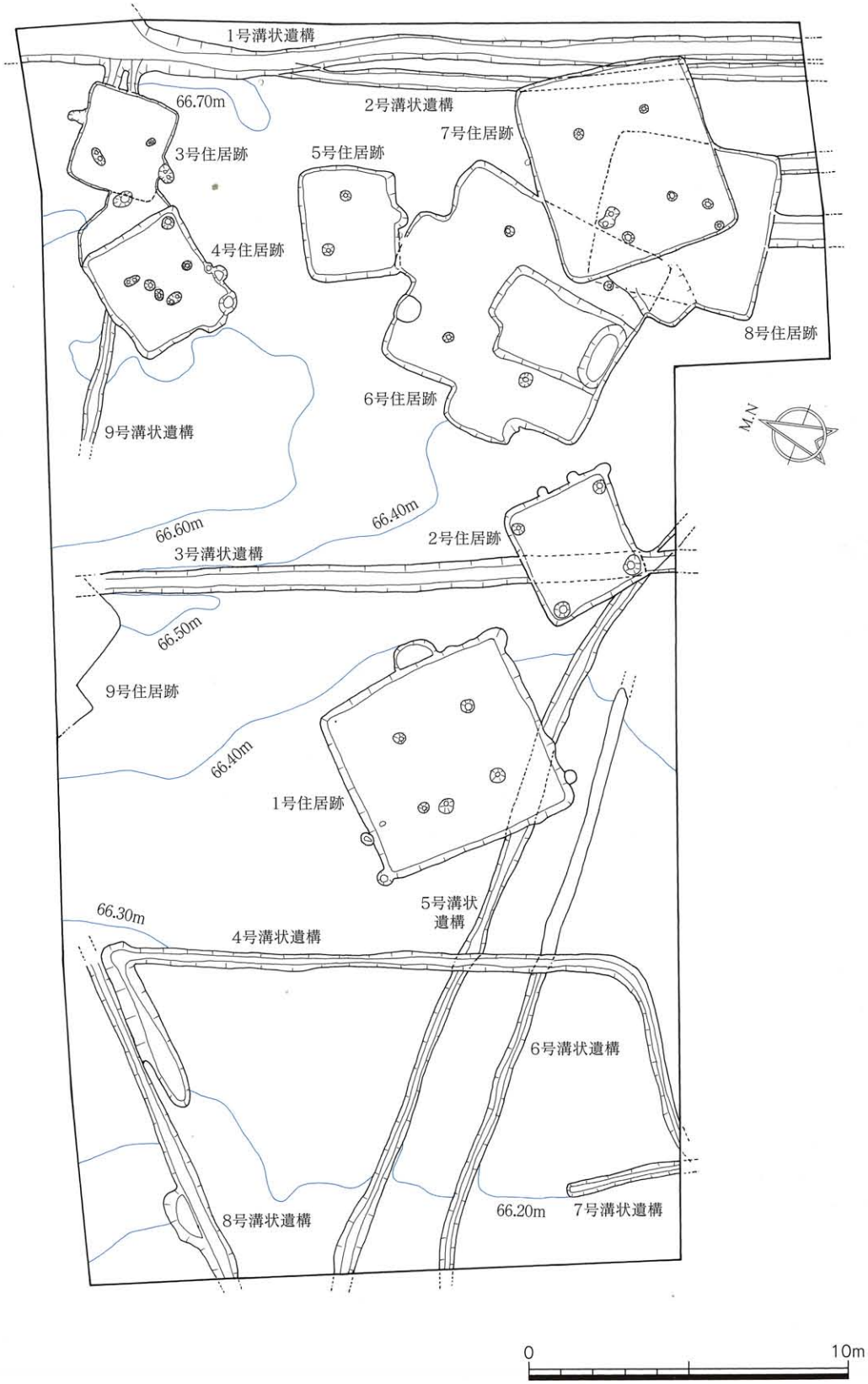
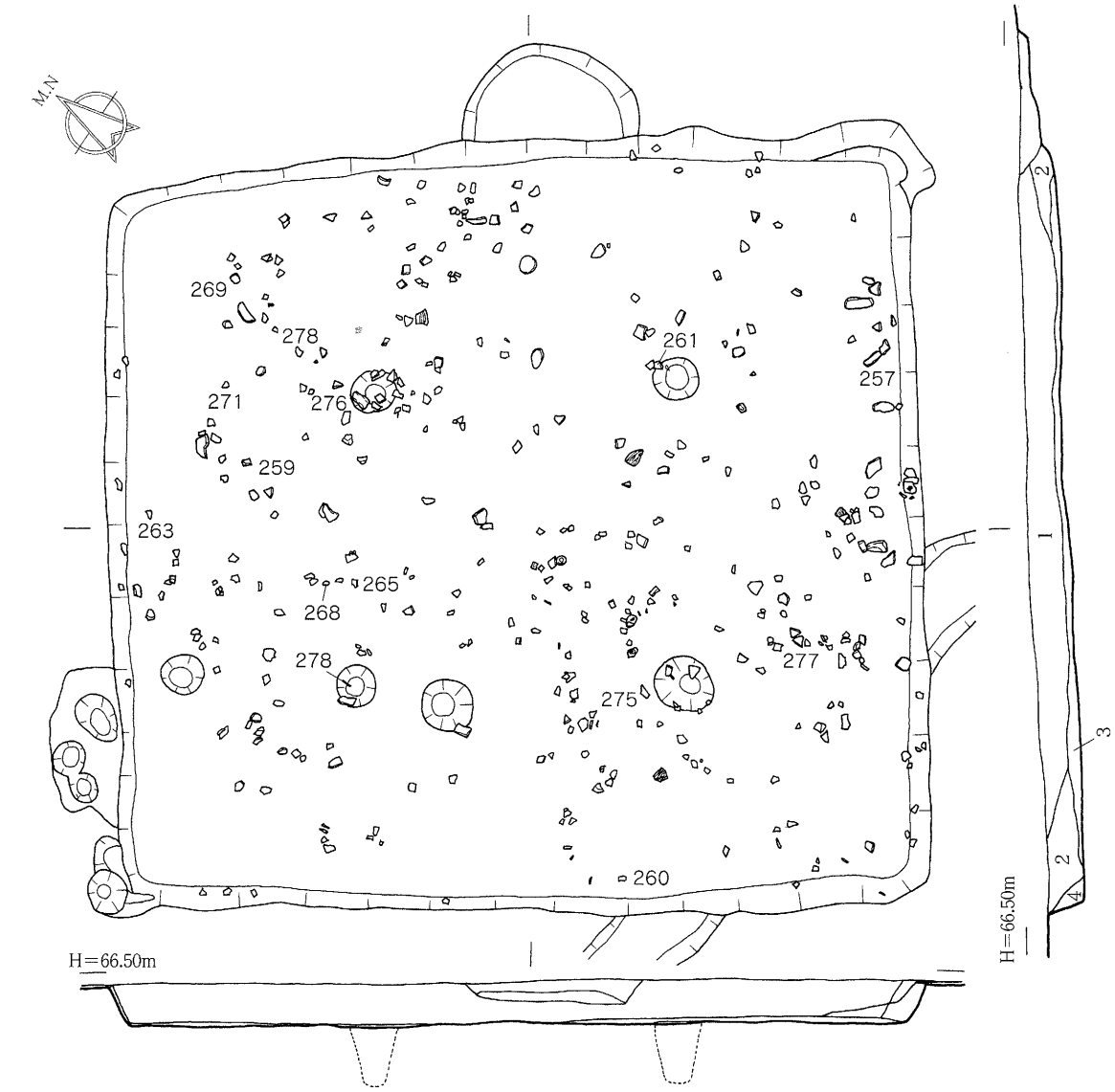


図63　第81地点遺構分布図（1/200）



1	黒褐色土	10YR2/2	しまりなし	黒色・橙色・白色粒子混入 アカホヤ小ブロック混入
2	黒色土	10YR1/2	〃	黒色・橙色・白色粒子混入 アカホヤ小ブロック混入
3	黒褐色土	10YR2/2	〃	黒色・橙色・白色粒子混入
4	黒褐色土	10YR3/1	〃	黒色・橙色・白色粒子混入

0　2m

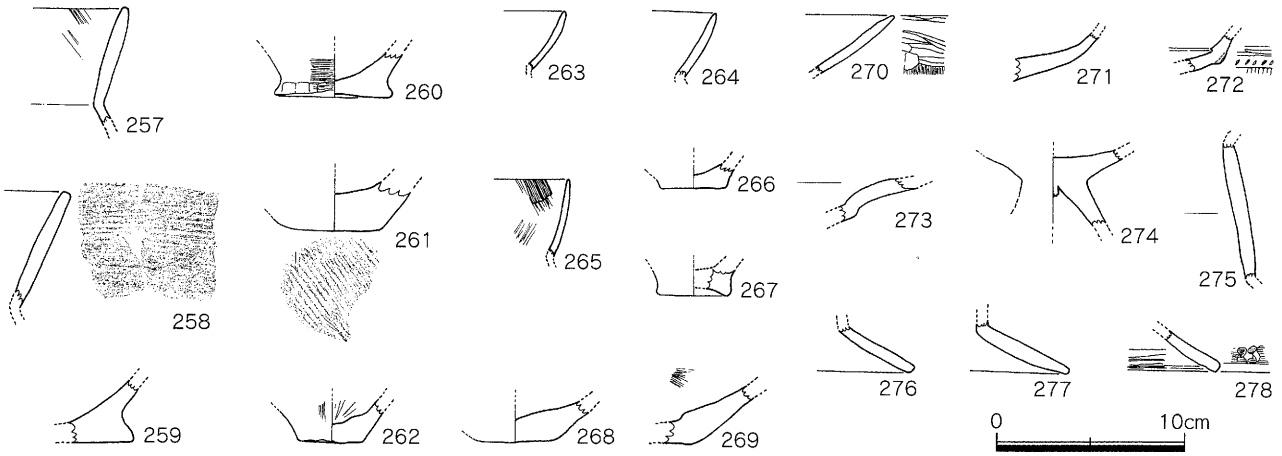


図64　1号住居跡・出土遺物実測図（1/60・1/4）

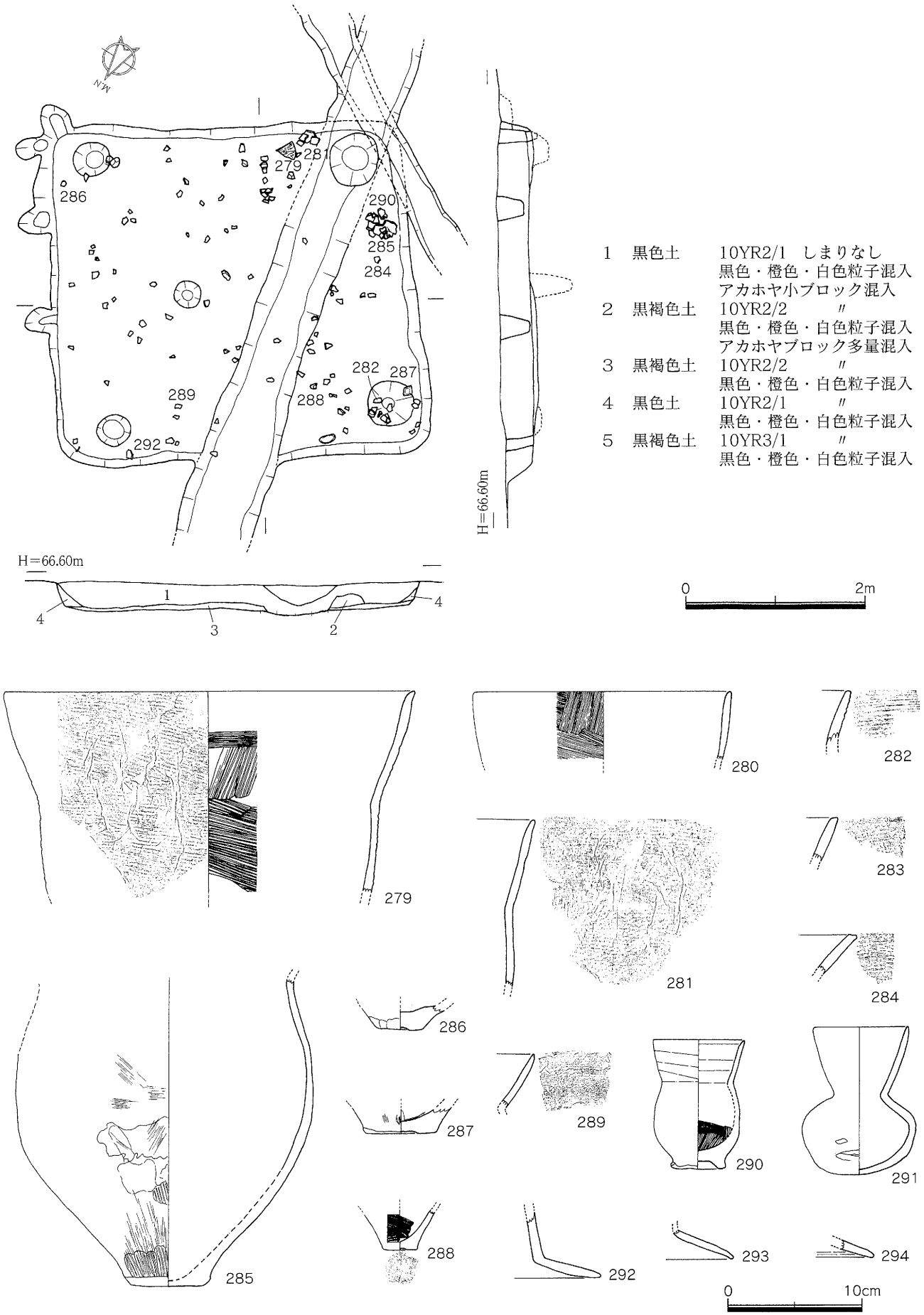


図65　2号住居跡・出土遺物実測図（1/60・1/4）

は上げ底で、それ以外は平底である。263～265は小型丸底壺の口縁部、266・267は底部である。268・269は壺の底部で、平底である。270～273は高坏の坏部で、272には刻目が施されている。ヘラ磨き調整のものが多い。274は高坏の基部、275～278は高坏の脚部で、脚端部は丸まっているもの(277)と平坦(276・278)があるが、第74地点のようにかえりのあるものは見られない。

２号住居跡

ｉ立地

１号住居跡の東約7.5m、対象地の南側中央部に位置している。３号及び５号溝状遺構と重複している。

ii規模と構造

長軸3.80m・短軸3.45mの規模を有する方形プランのもので、検出面からの深さ0.25mを測る。床面は平坦である。主柱は４本であるが、かなり四隅によって掘り込まれている。径0.36～0.50m、深さは浅く0.06～0.18mを測る。溝状遺構は２号住居跡の南西隅と北辺中央部から南西隅に向かって延びているが、住居跡を掘削する前から確認できたことから、溝状遺構の方が新しい時期のものである。

iii出土遺物

総数約550点が出土している。器形的には、甕・壺・高坏に加え、ミニチュア土器や小型丸底壺が含まれている。279～284は口縁部が「く」字状に外反した甕の口縁部であるが、279～282はその角度が緩やかである。285～287は甕の底部で、いずれも平底である。285は胴部中央部に最大幅を有するもので、22.0cmを測る。288は甕のミニチュア土器の底部で、底面には木の葉痕が遺存している。289・290は小型丸底壺であるが、289は口縁部小片、290は完形である。290は口径6.8cm・底径4.2cm・器高9.6cmを測る。291も小型の長頸壺で、丸底である。口径6.8cm・器高11.0cmを測る。292～294は高坏の脚部で、脚端部は丸い。

３号住居跡

ｉ立地

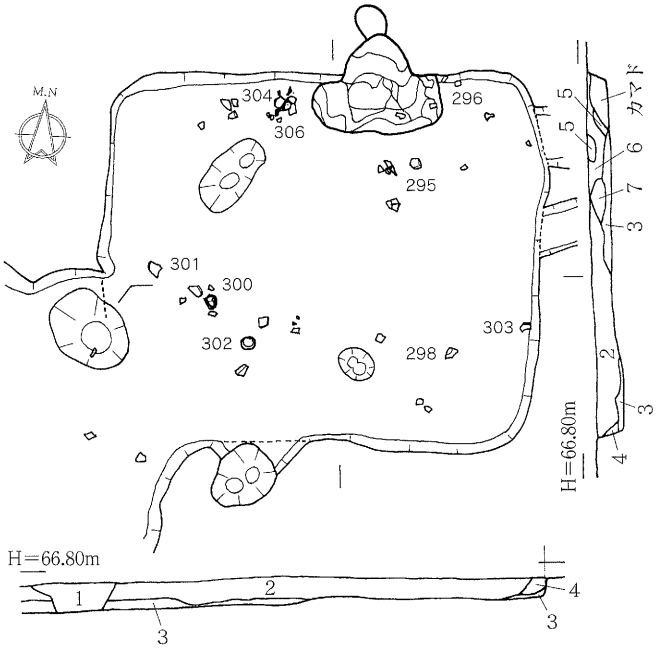
本地点の北東部隅に位置し、９号溝状遺構と重複している。

ii規模と構造

本地点では最小のもので、長軸3.20m・短軸2.80mの長方形プランである。北辺中央部にはカマドを有している。カマドは、幅0.95m・奥行き0.75m・高さ0.15mで、押し潰された状態で検出した。位置的には北壁やや東寄りに、灰白色粘土にて造られている。煙道は伴わない。カマド内の中央部には炭化物と橙色・白色の小粒子を多量に含んだ層と、焼けて赤味を帯びた灰白色粘質土が見られた。検出面からの深さ0.15mを測る。床面は南側が若干低くなっている。柱穴は北西隅と南東隅で検出したが、上屋を支持する主柱とは思われない。カマドを有しているのは３号のみで本地点では一番新しい時期の住居跡である。

iii出土遺物

総数約150点が出土している。295～297は口縁部が「く」字状に外反した甕の口縁部である。298～303は土師器坏で、いずれもヘラ切り底で回転ナデ調整が施されている。298は推定口径14.1cm・底径2.4cm・器高2.4cm、299は推定口径13.6cm・底径7.4cm・器高4.0cmを測る。304～306は粗雑な作りで、内面にはいずれも布目痕が遺存している布痕土器である。見た目にはかなり赤味(橙色2.5ＹＲ6／8)を帯びており、土器群の中から容易に探し出すことができる。



3号住居跡

1　黒褐色土　10YR2/3　しまりなし
黒色・橙色・白色粒子混入
アカホヤブロック少量混入
2　黒褐色土　10YR3/1　〃
黒色粒子混入
アカホヤブロック少量混入
3　黒褐色土　10YR3/2　〃
黒色粒子混入
4　黒褐色土　10YR3/1　〃
黒色・白色粒子混入
5　暗褐色土＋灰黄色　〃
粒子粗い
6　暗褐色土　10YR3/4　〃
灰黄色粒子多量混入
7　灰黄色土　2.5Y6/2　〃
粒子粗い・ザラザラ・粘質

0　2m

1　黒褐色土　10YR2/2　しまりなし
黒色・橙色・白色粒子混入
アカホヤブロック少量混入
2　黒色土　10YR2/1　〃
黒色・橙色・白色粒子混入
アカホヤブロック少量混入
3　黒褐色土　10YR3/1　〃
黒色・橙色・白色粒子混入
アカホヤ粒子多量混入
4　黒色土　10YR1.7/1　〃
黒色粒子混入
5　黒褐色土　10YR2/3　〃
黒色・橙色・白色粒子混入
アカホヤ小ブロック多量混入
6　黒褐色土　10YR3/1　〃
黒色粒子混入
アカホヤブロック混入

0　2m

4号住居跡

図66　3号・4号住居跡実測図（1/60）

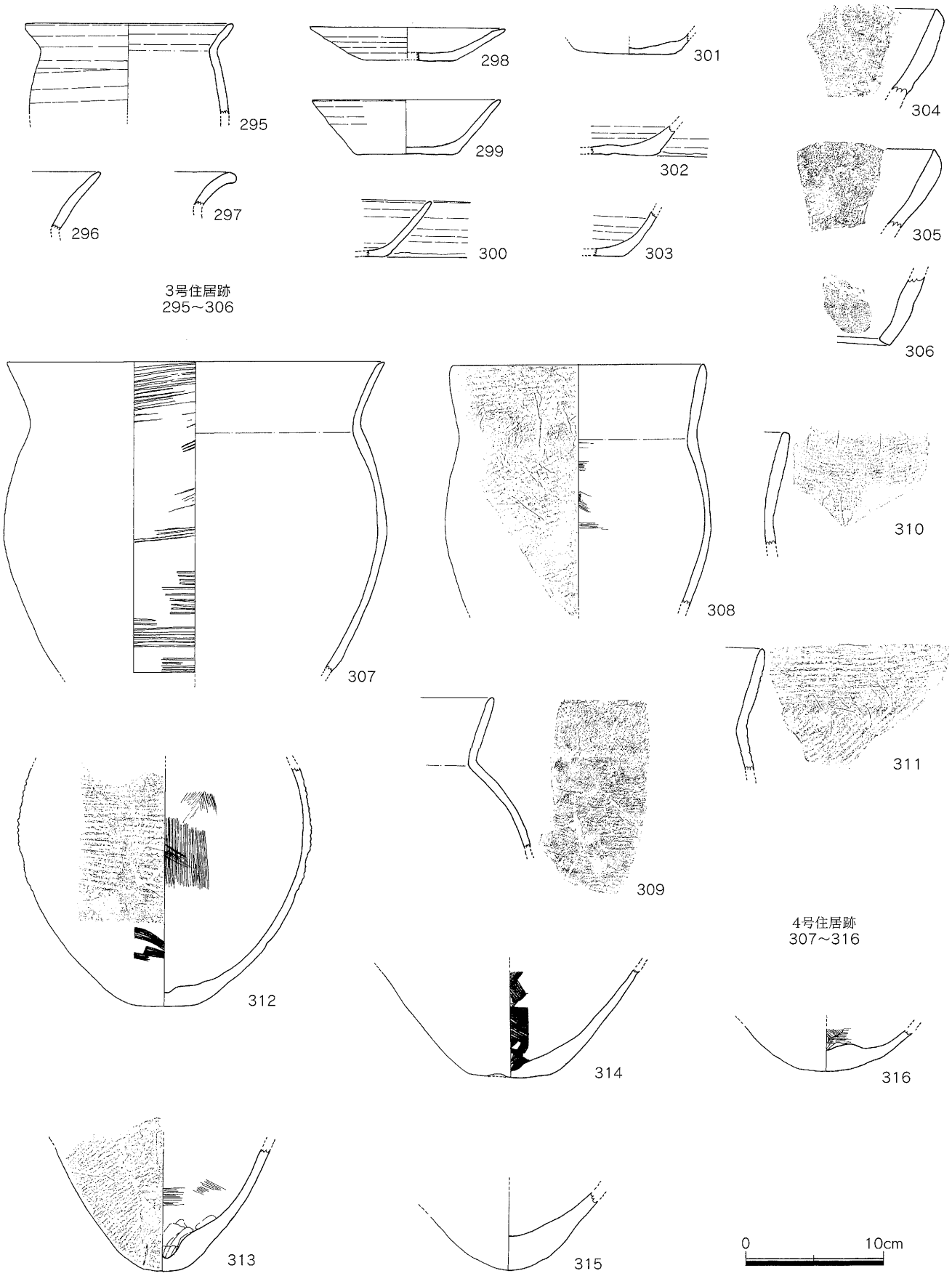


図67　3号・4号住居跡内出土遺物実測図（1/4）

４号住居跡

ｉ立地

３号住居跡の西側に隣接している。

ii規模と構造

長軸3.73m・短軸3.28mの規模を有する長方形プランのものであるが、北辺は不明遺構に、西辺は９号溝状遺構と重複し、南辺は一部分が外方向に変形している。検出面からの深さ0.30mを測る。床面は３号同様南側に向かって少し傾斜している。柱穴はいくつか検出したが、主柱ははっきりできなかった。

iii出土遺物

４号住居跡は小さい割には多くの遺物が出土している。総数約1,000点で、器形的には甕・壺・高坏等である。307～311は口縁部が「く」字状を呈する甕の口縁部から胴部にかけてのものであるが、その角度が緩やかなもの（308・310・311）や直行気味のもの（309）がある。調整はヨコナデに加え横あるいは斜め方向の叩きが施されているもの（308・309・311・312）が多く含まれている。313～316は甕の底部であるが、314は平底で、それ以外は丸底である。317は壺の頸部から胴部、318は壺の底部で丸底である。320はほぼ完形の小型丸底壺で、320は推定口径6.0cm・底径2.2cm・器高5.5cmを測る。321～323は高坏の脚部で、いずれもヘラ磨き調整が施されている。321は脚端部が丸く、脚部径15.5cmを測る。

５号住居跡

ｉ立地

４号住居跡の南約6.0mに位置している。南西隅が６号住居跡の北辺と重複している。

ii規模と構造

長軸3.50m・短軸2.90mの規模を有する長方形プランのものであるが、南辺中央部の一部が半円形に張り出している。検出面からの深さ0.26mを測る。床面は平坦である。主柱は２本と思われるが、位置関係があまりにも対象でなく、不安が残る。径0.27～0.33m、深さは浅く0.34～0.48mを測る。

iii出土遺物

遺物は極端に少なく、総数約80点である。325・326は平底の甕の底部、327は二重口縁壺の口縁部である。328は高坏の脚部で、柱状部がないタイプのものである。脚端部は丸く、脚部径13.2cmを測る。329は頁岩製で、長軸側抉入の石包丁、330は砂岩製の砥石である。

６号住居跡

ｉ立地

５号住居跡の南辺と６号住居跡の北辺の中央部が張り出した部分とが重複している。さらに、６号住居跡は南東部分が７号と８号住居跡と重複している。

ii規模と構造

本地点最大のもので、長軸6.90m・短軸6.72mの規模を有する方形プランのものである。北辺及び西辺中央部には、外側に向かった長方形状の張り出しを有している。また、南側中央部には長方形状の掘り込みがあり、その中央部には焼土が確認できることから、炉として使用していたものと思われる。掘り込みの幅2.5m・長さ4.0m・深さ0.15mを測る。検出面からの深さ0.40mを測り、床面は平坦である。主柱は４本で、径0.34～0.43m、深さは0.27～0.48mを測る。

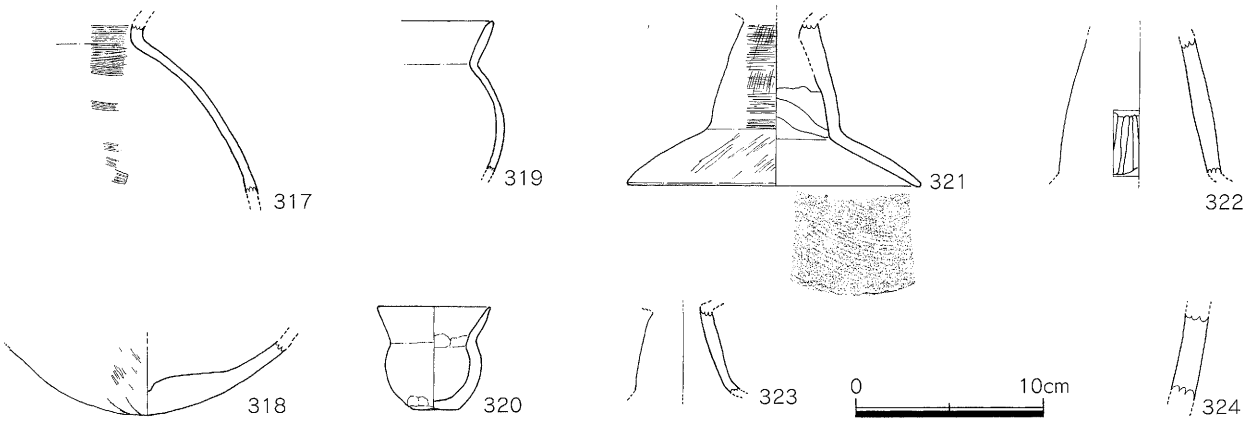
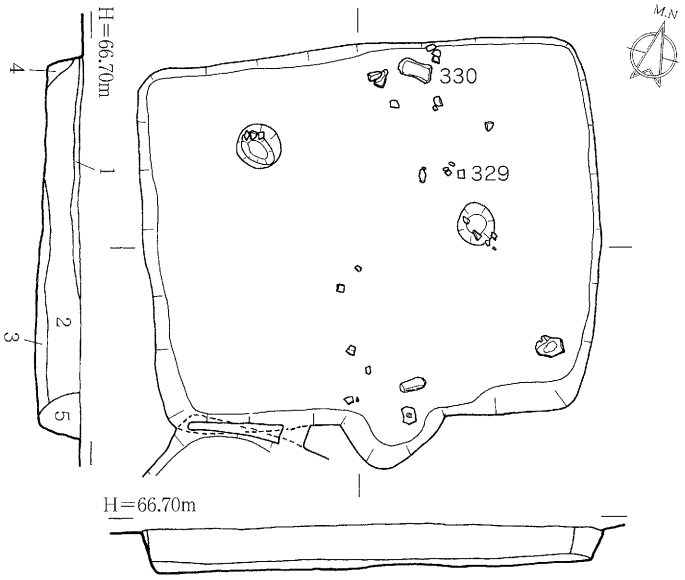


図68　4号住居跡内出土遺物実測図（1/4）

1　黒色土　10YR2/1　しまりなし
　　黒色・橙色・白色粒子混入
2　黒色土　10YR2/1　〃
　　黒色・橙色・白色粒子混入
　　アカホヤ小ブロック多量混入
3　黒褐色土　10YR2/2　〃
　　黒色・橙色・白色粒子混入
　　アカホヤ小ブロック多量混入
4　黒褐色土　10YR2/2　〃
　　黒色・橙色・白色粒子混入
5　黒褐色土　10YR3/1　〃
　　黒色・橙色・白色粒子混入



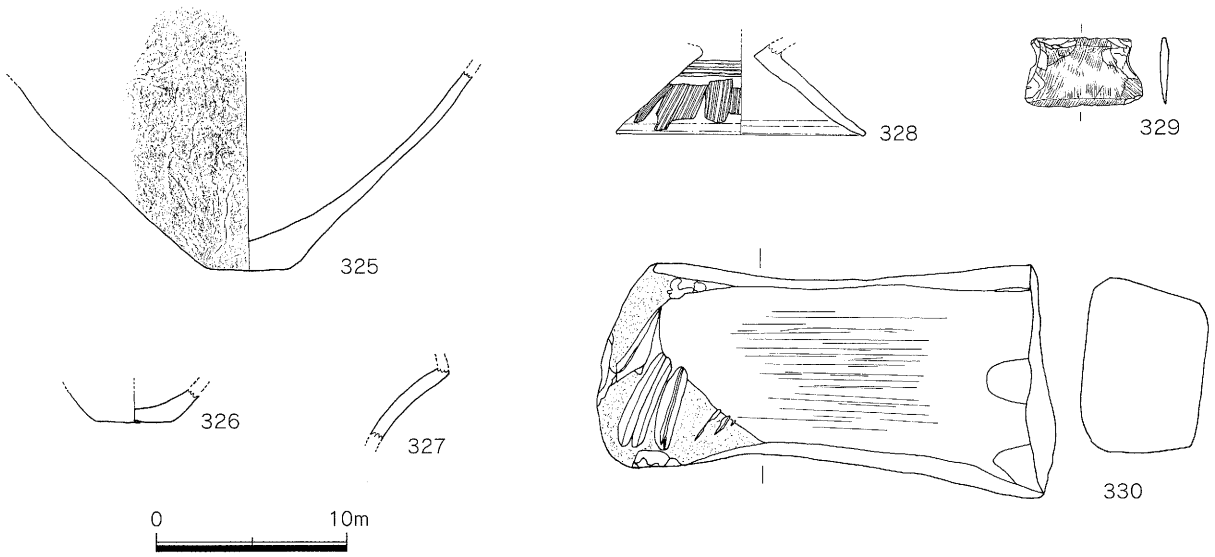


図69　5号住居跡・出土遺物実測図（1/60・1/8／1/4）

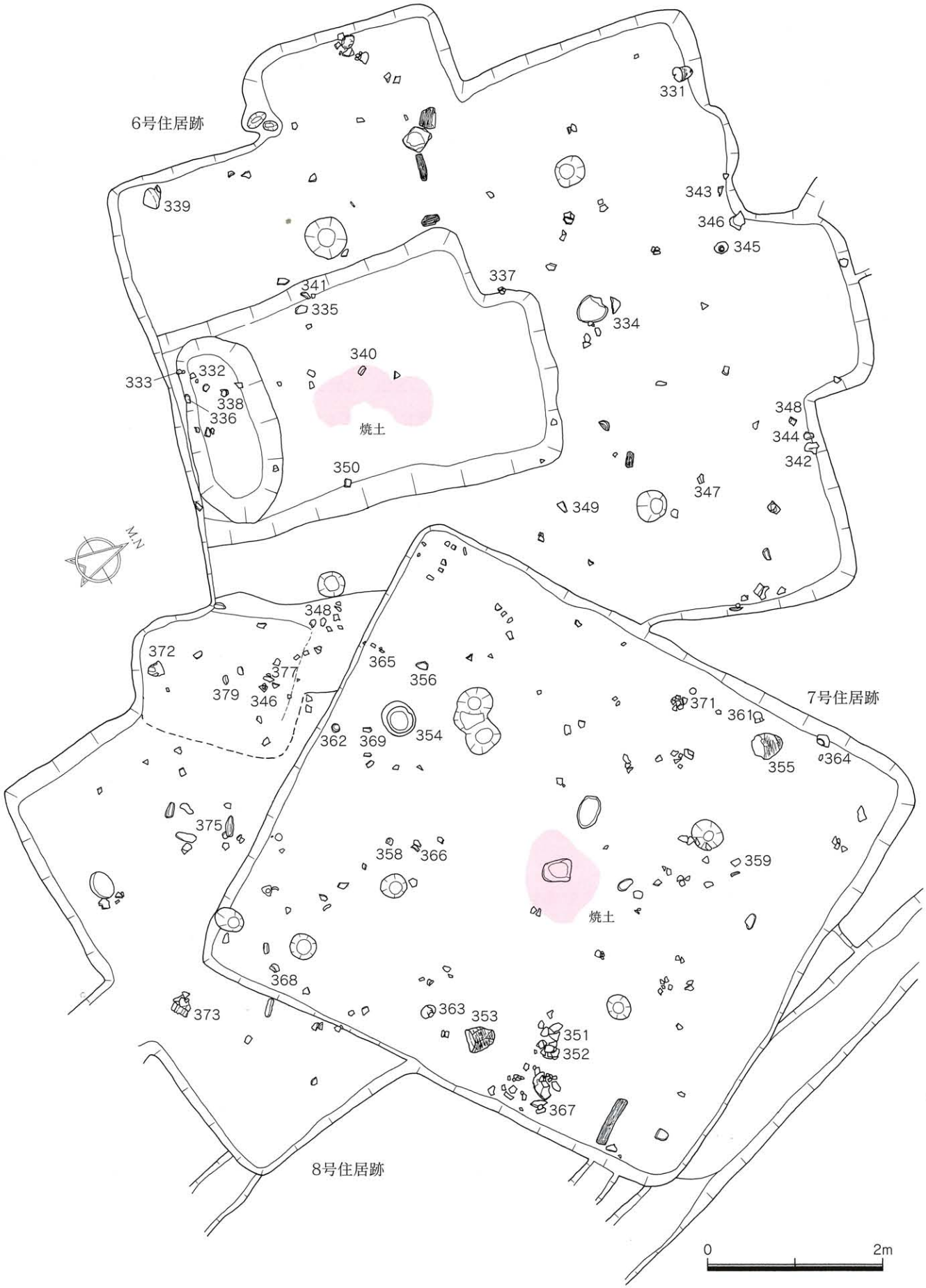


図70　6号～8号住居跡実測図（1/60）

ⅲ出土遺物

出土遺物の量は総数約560点と多くはないが、器形的に特徴的なものが含まれている。331～333は甕であるが、331は口縁部が外反し、底部が丸底に近い平底の甕の完形で、横・斜め方向の叩きが施されている。口径15.1cm・底径3.5cm・器高15.5cmを測る。334～338は甕の底部で上げ底のもの（335）、中央部が円形に窪んでいるもの（348）等がある。339は二重口縁壺で、口縁部には波状文が施されている。器形的には安定の悪い丸底から大きく内湾しながら立ち上がり、頸部で「く」字状に外反し口縁部に至っている。外面は風化著しくはっきりにないが、ヘラ磨き調整が施されている。全体の４／５程度が遺存しており、口径13.8cm・底径2.8cm・胴部最大幅19.6cm・器高20.2cmを測る。340は二重口縁壺の口縁部で、波状文が施されている。341は口縁部が立った壺、342は算盤玉のような胴部をした壺である。343は壺の底部で、丸底である。344はコップ状のもので、底部の中央部が円形に窪んでいる。外面はヘラ磨き、内面は丁寧なハケ目調整が施されている。全体の３／５が遺存しているが、残念ながら口縁部が出土していない。底径5.1cmを測る。345・346は鉢で、345は丸底から大きく内湾しながら立ち上がり、頸部で「く」字状に外反し口縁部に至っている。外面は風化著しくはっきりしないがタテ・ヨコナデ調整が施されている。胴部最大幅18.4cm・底径2.6cmを測る。347～349は高坏の坏部で、ヘラ磨き調整が施されている。350は頁岩製の石包丁で、長方形で抉入はない。

７住居跡

ⅰ立地

６号住居跡の東で、８号住居跡とも重複している。６号住居跡とは南西隅の一部分しか重複していないが、８号住居跡とはそれぞれ１／２程度が重複している。また、東辺は、１号・２号溝状遺構とも重複している。

ⅱ規模と構造

長軸6.10m・短軸5.55mの規模を有するが、北辺よりも南辺が短く、平面的には台形状を呈している。中央部には径0.80の範囲で焼土が確認できる。検出面からの深さ0.42mを測る。床面は平坦で、主柱は４本である。径0.27～0.30m、深さは0.49～0.55mを測る。６号～８号住居跡を床面で見ると、７号住居跡が一番深く、プランがはっきりと確認できる。

ⅲ出土遺物

出土遺物の量は、総数で約1,280点で多い。特徴的なのは甕が押し潰れた状態で何点か出土していることと、大きな甕（354）が円形の穴に口縁部を上にして立てた状態で収められていたことで、何かを貯蔵するために意図的に埋め込まれたもと思われる。351～355は口縁部が「く」字状を呈した甕で、いずれも叩き調整が施されている。351と352は同一個体で、推定口径24.3cm・底径3.3cm・胴部最大幅23.6cmを測る。353は１／２遺存しており、推定口径21.2cm・底径4.0cm・器高26.0を測る。354は丸底で、口径30.1cm・胴部最大幅30.8cm・器高38.1cmを測る。355は推定口径22.0cm・胴部最大幅18.0cmを測る。356～358は甕の底部で、いずれも丸底である。ちなみに、甕は粗い叩きが施されているものが多く、胴部には炭化物が付着していることから、煮炊き用として使用されていたものと思われる。359は外反した壺の口縁部小片、360は小型丸底壺の口縁部と思われる。361は小型丸底壺の完形で、口径8.7cm・底径3.5cm・器高9.7cmを測る。外面ヘラ磨き調整が施されている。362は小さな完形の鉢で、口径8.8cm・底径3.3cm・器高5.45cmを測る。調整は風化著しく不明である。363は高坏の坏部から脚部半分で、口径17.2cmを測る。丁寧なヘラ磨きが施されている。364は高坏の坏部で、口径11.5cmを測る。調整は風化著しく不明である。365・366は高坏の坏部小片である。367は高坏の脚

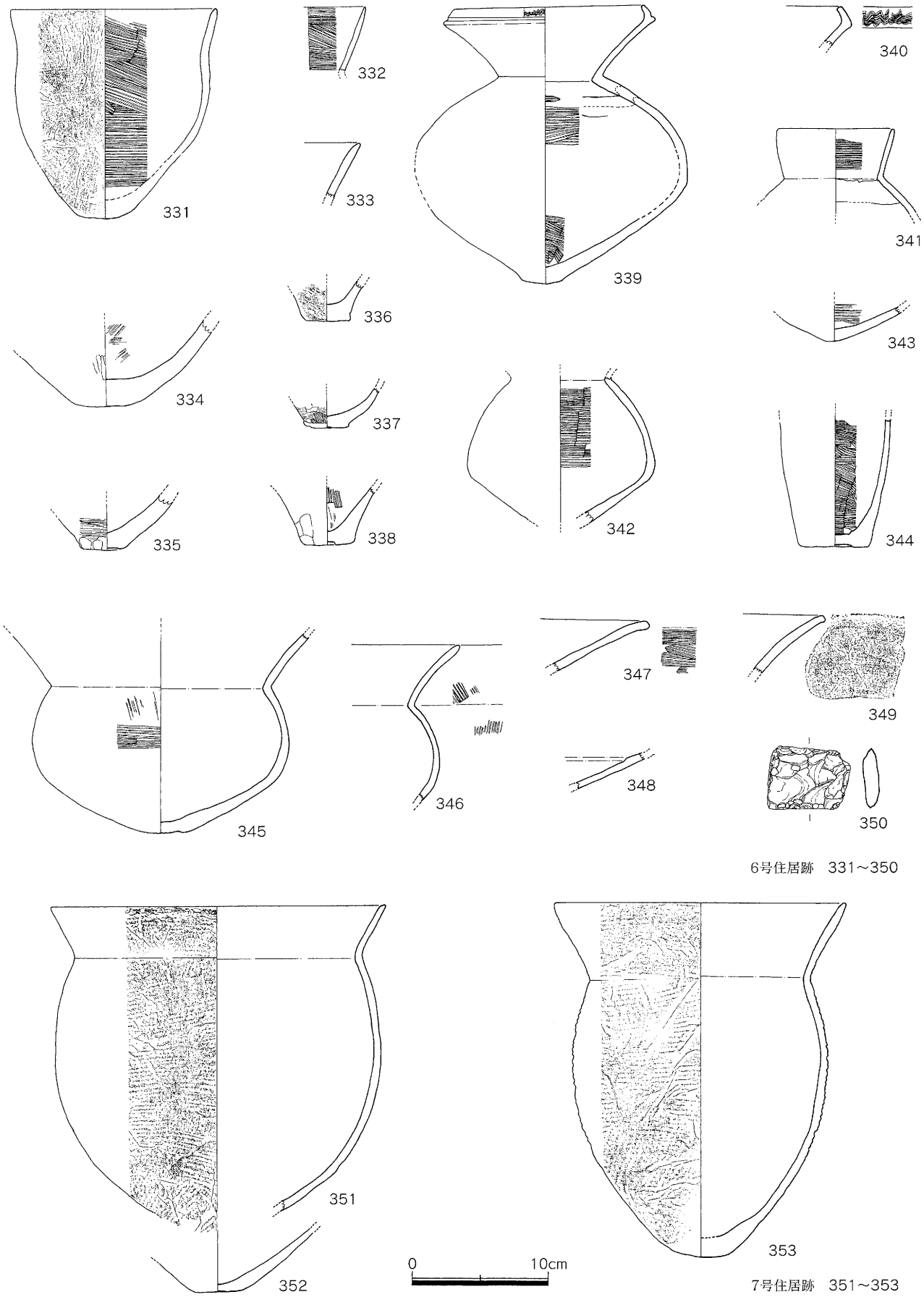


図71　6号・7号住居跡内出土遺物実測図（1/4）

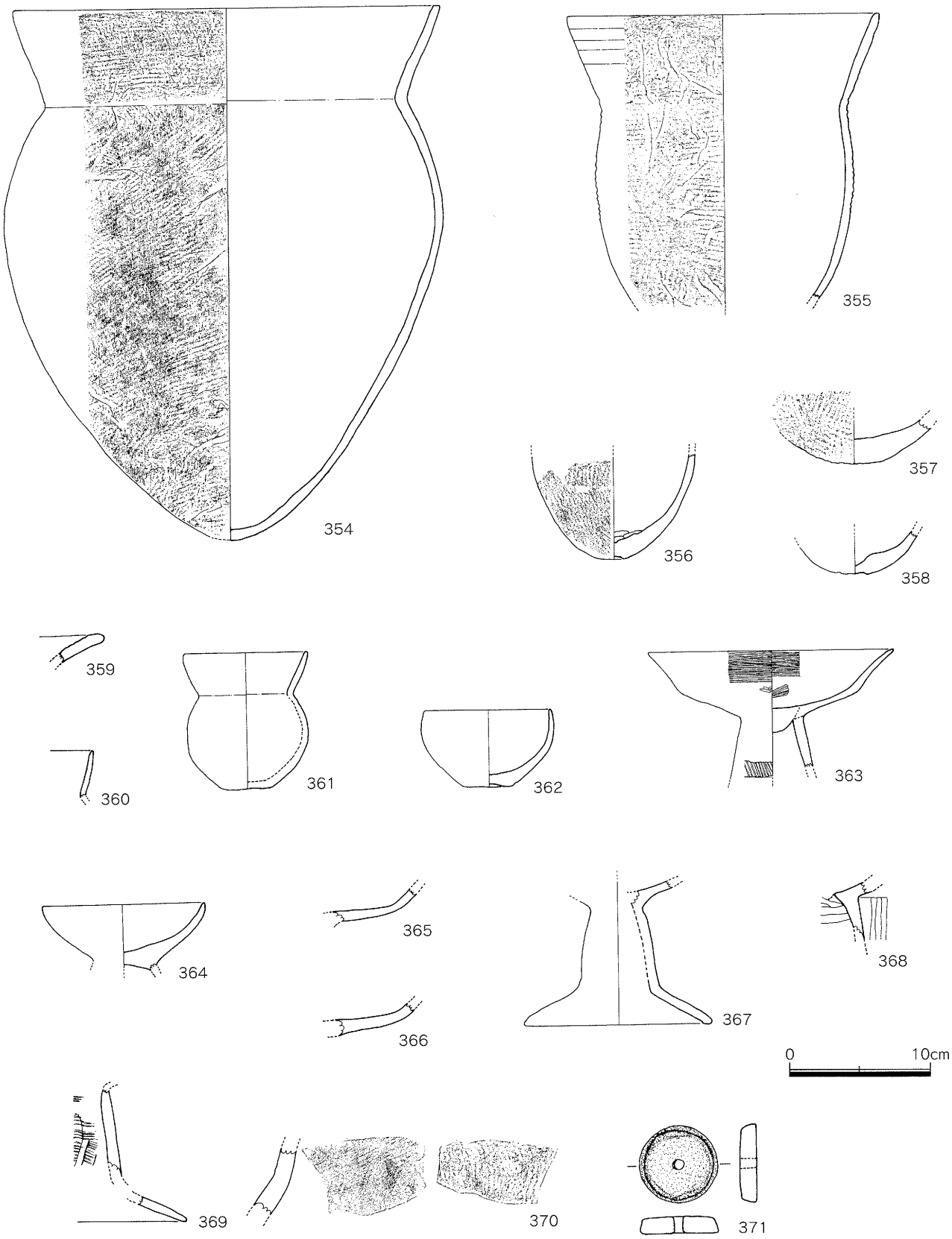


図72　7号住居跡内出土遺物実測図（1/4）

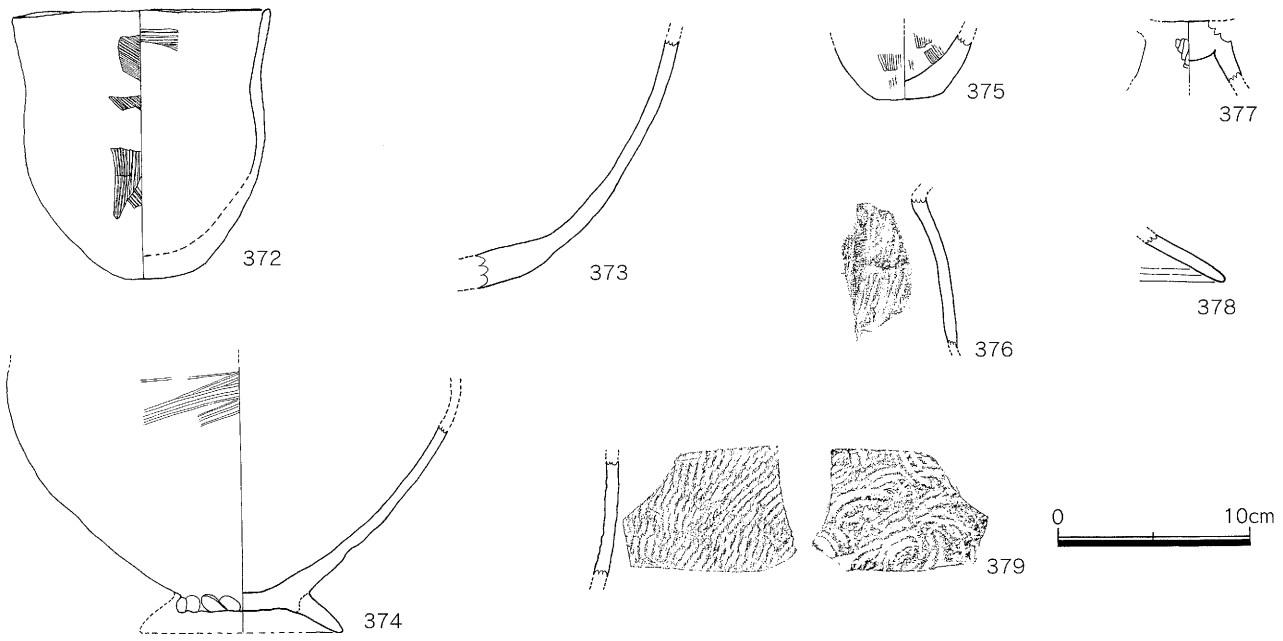


図73　8号住居跡内出土遺物実測図（1/4）

部で脚裾径13.4cm、368は基部、369は脚部で、いずれも外面ヘラ磨き調整が施されている。370は須恵器甕の胴部と思われる。両面叩き調整が施されている。371は円形の紡錘車で、砂岩製である。直径5.6cm・円孔径0.8cm・厚さ1.2cmを測る。

８号住居跡

ｉ立地

６号住居跡の南東側で、７号住居跡の南側に位置している。

ii規模と構造

重複している部分が多くはっきりしないが、掘削前の埋土状態から判断すると、一辺5.2mの方形プランのものと推定される。検出面からの深さ0.25mを測り、床面は平坦である。主柱は２本と思われるが、はっきりしない。

iii出土遺物

出土遺物の量は少なく、総数約310点である。372は口縁部が外反した甕の完形で、口径13.4cm・底径3.3cm・器高14.3cmを測る。両面ハケ目調整が施されている。373は鉢の胴部で、374は外方向に向いた高台の付いた鉢と思われるが、その他の住居跡では見られない器形である。375は小型丸底壺の底部で、底径4.2cmを測る。376は高坏の基部、377・378は高坏の脚部である。379・380は須恵器甕の胴部と思われる。379の外面は並行の叩きで、内面は同心円状当て具痕が遺存している。

９号住居跡

ｉ立地

９号住居跡は１号住居跡の北側に位置しているが、南隅部分しか検出していない。それは、この北側部分は地権者のご協力により現状保存されることから、掘削しないまま残すこととなったためである。

ii規模と構造

全体のプランを検出していないため、規模と構造については不明である。

iii出土遺物

遺物は。須恵器甕が１点埋土上層から出土している。外面は擬格子目叩き、内面は同心円状当て具痕が遺存している。

その他の遺構

溝状遺構

溝状遺構は９条検出しているが、後世のものがほとんどである。規模的には幅0.45～0.80m、深さ0.14～0.30mで、時期的には埋土の状態から一番東側に位置している１号と２号が最も古いと思われるが、遺物が全体的に極端に少なく、不明な点が多い。

その他の土器

墨書土器

１号住居跡からは、墨書土器が２点出土している。379は「作」という文字が土師器高台付椀の側面に書かれている。380の文字は残念ながら判読できないが、これも土師器坏の側面に書かれている。これらは、時期的には９世紀後葉のものと推定され、１号住居跡の遺物とはかなりの時期差が認められるため、何らかの形で混入したものと思われる。住居跡内及び周辺から柱穴を検出していることから、１号住居跡内に柱穴があり、その掘方を見落としてしまったのかもしれない。いずれにしても、注目される資料であるため、１号住居跡とは別資料として掲載した。

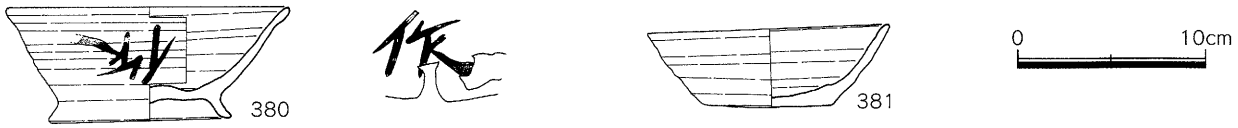


図74　１号住居跡出土墨書土器（1/4）

Tab.1　主な検出遺構一覧表

集石遺構

地点	番号	時期	プラン	掘込み	径（m）	深さ（m）	底面配石	検出面	共伴遺物	備　考
10	1	縄文早期	円形	有	1.10	0.22	無	黒褐色土		
〃	2	〃	〃	〃	1.00	0.21	〃	〃		
〃	3	〃	〃	〃	1.31	0.31	有	〃		底面に花弁状配石
〃	4	〃	〃	〃	1.25	0.39	無	〃		
〃	5	〃	〃	〃	1.53	0.42	〃	〃	縄文土器	底面に花弁状配石
〃	6	〃	〃	〃	1.62	0.62	有	〃		底面に花弁状配石
11	1	〃	〃	〃	1.20	0.44	〃	〃		底面に平たい礫
〃	2	〃	〃	〃	0.93	0.26	無	〃		
〃	3	〃	〃	〃	1.00	0.18	〃	〃		
〃	4	〃	〃	〃	1.10	0.32	有	〃		底面に平たい礫
65	1	〃	〃	〃	0.90	0.10	無	〃		
〃	2	〃	〃	〃	0.85	0.10	〃	〃		
〃	3	〃	〃	〃	1.00	0.23	有	〃		底面に花弁状配石
〃	4	〃	〃	無	1.37	―	無	〃		
〃	5	〃	〃	〃	1.14	0.05	〃	〃		
〃	6	〃	〃	有	1.31	0.12	有	〃		底面に平たい礫
〃	7	〃	〃	〃	0.62	0.10	無	〃		
69	1	〃	〃	〃	1.60	0.44	〃	〃		底面に２個の礫
〃	2	〃	〃	〃	0.91	0.16	〃	〃		

土壙墓

地点	番号	時期	プラン	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	検出面	共伴遺物	備　考
26	1	16世紀	長方形	2.50	1.50	0.39	アカホヤ火山灰層	青磁盤、白磁椀、染付皿当	染付皿には吉祥字
〃	2	不明	楕円形	1.65	0.78	0.38	〃	獣骨	
〃	3	〃	〃	1.10	0.70	0.42	〃		
52	1	７世紀末	長楕円形	5.75	5.12	0.08	〃	土師器・須恵器	
69	1	弥生中期末～後期初頭	楕円形	1.79	1.84	0.33～0.45	〃	弥生土器甕・壺	
〃	2	〃	円形	1.70	1.70	0.34	〃	弥生土器甕・石鏃	石鏃は緑泥岩製
〃	3	〃	楕円形	1.43	1.27	0.43	〃	弥生土器甕	
〃	4	〃	〃	1.45	1.30	0.26	〃		
〃	5	〃	〃	2.15	1.47	0.56	〃	弥生土器甕・壺	

竪穴式住居跡

地点	番号	時期	プラン	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	主体（本）	検出面	共伴遺物	備　考
8	1	弥生中期末～後期初頭	方形			0～0.10	2	アカホヤ火山灰層	弥生土器甕・壺等	
17	1	弥生後期	〃	4.35	4.05	0.35	2	〃	弥生土器甕、石錘、石鏃	石鏃は緑泥岩製
24	1	不明	長方形	4.7	3.00	0.40	2	〃		主柱を壁面に掘削
39	1	弥生中期末～後期初頭	方形	5.75	5.12	0.38	2	〃	弥生土器甕・壺・鉢等	
51	1	古墳終末	〃	5.00	4.60	0.22	4	〃	土師器甕・鉢、須恵器坏身等	
60	1	弥生後期	〃	4.48	4.20	0.16	4	〃	弥生土器甕、器台等	溝状遺構と重複
62	1	弥生中期末～後期初頭	〃	3.36	3.30	0.55	2	〃	弥生土器甕・壺等	
65	1	弥生後期前半	長方形	6.06	4.60	0.26	2	〃	弥生土器甕等	長方形状張出し
〃	2	〃	方形	6.10	5.60	0.18	2	〃	弥生土器壺・鉢等	
〃	3	弥生後期	長方形	5.34	3.92	0.30	2	〃	弥生土器甕・壺	
69	1	弥生中期末～後期初頭	方形	2.80	2.80	0.74～1.04	2	〃	弥生土器甕・壺等	北側は農道の下
〃	2	縄文晩期	円形	2.60	2.60	0.12	0	〃	縄文土器深鉢	
74	1	弥生終末	長方形	7.50	6.10	0.30	2	〃	弥生土器甕・壺・高坏等	
81	1	古墳前期前半	方形	6.35	6.00	0.32～0.49	4	〃	土師器甕・壺・高坏等	
〃	2	古墳時代中期前半	〃	3.80	3.45	0.06～0.18	4	〃	土師器甕・壺・高坏等	
〃	3	〃	長方形	3.20	2.80	0.15	—	〃	土師器甕・壺等	カマド
〃	4	８世紀前半	〃	3.73	3.28	0.30	—	〃	土師器甕・壺・高坏等	3号と重複
〃	5	古墳時代中期前半	〃	3.50	2.90	0.34～0.48	2	〃	土師器甕・壺・高坏、石包丁	6号と重複
〃	6	古墳前期前半	方形	6.90	6.72	0.27～0.48	4	〃	土師器甕・壺・高坏等	5・7・8号と重複
〃	7	古墳前期後半	長方形	6.10	5.55	0.49～0.55	4	〃	土師器甕・壺・高坏等	6・8号と重複
〃	8	古墳前期後半前葉	〃	−5.20	−5.20	0.25	2?	〃	土師器甕・壺・高坏等	6・7号と重複
〃	9	不明	—	—	—	—	—	〃	須恵器甕	

掘立柱建物跡

地点	番号	時期	主軸方位	桁行（m）	梁行（m）	規模（軒）	柱穴径（m）	柱穴深（m）	床面積（㎡）	共伴遺物	備　考
26	1	16世紀	N-29°-W	5.00	1.90～2.00	1軒×5軒	0.40～0.55	0.34～0.44	49.5	打製石斧	2・3・5・6号と重複
〃	2	〃	N-31°-W	4.70	2.00	1軒×4軒	0.40～0.55	0.32～0.48	36.9		1・3・5号と重複
〃	3	〃	N-31°-W	5.75	1.90～2.25	1軒×4軒	0.32～0.46	0.30～0.46	45.1		1・2・4号と重複
〃	4	〃	N-31°-W	1.70～2.00	1.80～2.00	2軒×2軒	0.28～0.50	0.26～0.32	15.2		3号と重複
〃	5	〃	N-30°-W	4.00	2.00～2.05	1軒×4軒	0.38～0.50	0.38～0.48	32.0		1・2・6号と重複
〃	6	〃	N-28°-W	4.00	1.80～2.00	1軒×3軒	0.40～0.70	0.52～0.68	24.0		1・5・7号と重複
〃	7	〃	N-30°-W	3.30	1.70	1軒×3軒	0.28～0.32	0.30～0.46	16.8	土師器	6号と重複
〃	8	〃	N-38°-W	3.60	1.80	1軒×3軒	0.34～0.44	0.33～0.46	20.0		
〃	9	〃	N-28°-W	4.00	2.00～2.10	1軒×4軒	0.35～0.40	0.30～0.50	24.8		溝状遺構と重複
53	1	不明	N-27°-E	6.50	3.80～4.20	1軒×3軒	0.40～0.48	0.13～0.26	23.7	土師器・須恵器	
72	1	〃	N-14°-W	5.65	3.50	2軒×3軒	0.42～0.56	0.40～0.61	19.6		

Tab.2　出土遺物観察表

○第 8 地点

1 号住居跡

No.	器　種	残存率	法　量 口径／底径／脚裾径 胴部最大径／器高	調整・文様 外面／内面	調整・文様 外面		調整・文様 内面		胎　土
1	弥生土器／甕	口縁部	−/−/−/−/−	ヨコナデ・タテハケ／ヨコハケ・ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	橙色	5YR7/8	荒い、1~3mm前後の粒子
2	弥生土器／甕	〃	(30.3) /−/−/27.5/−	ヨコナデ・タテハケ/ヨコハケ・ヨコナデ	灰色	5Y4/1	灰色	5Y4/1	荒い、1~3mm前後の粒子
3	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ・ナデ／ナデ	褐灰色	10YR6/1	灰黄色	10YR7/1	少し荒い、白雲母混入、1mm前後の粒子
4	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ・ナナメハケ/ヨコナデ・ナナメハケ	褐灰色	10YR4/1	灰黄褐色	10YR6/2	少し荒い、白雲母混入、1mm前後の粒子
5	弥生土器／甕	〃	(35.0) /−/−/34.0/−	回転ナデ／回転ナデ	灰色	10YR8/2	灰色	10YR8/2	細かい、1mm前後の粒子、黒粒子
6	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	回転ナデ／回転ナデ	灰色	10Y6/1	灰色	7.5Y5/1	細かい、1mm前後の粒子、黒粒子
7	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	にぶい橙色	7.5YR7/4	荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
8	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ナデ	にぶい橙色	5YR7/4	にぶい黄橙色	10YR7/3	荒い、1~2mm前後の粒子
9	弥生土器／甕	底部	−/7.4/−/−/−	風化／ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	にぶい橙色	10YR7/2	荒い、1~4mm前後の粒子
10	弥生土器／甕	〃	−/6.2/−/−/−	ナデ／ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/3	灰褐色	7.5YR5/6	荒い、1~4mm前後の粒子
11	弥生土器／甕	〃	−/6.7/−/−/−	磨き／ナデ	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	荒い、1~3mm前後の粒子
12	弥生土器／甕	〃	−/4.7/−/−/−	タテハケ後磨き／風化	灰黄色	10YR7/2	灰白色	10YR8/1	少し荒い、白雲母混入、1mm前後の粒子
13	弥生土器／壺	口縁部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／	灰白色	10YR8/2	灰白色	10YR8/2	荒い、1~3mm前後の粒子
14	弥生土器／壺	〃	−/−/−/−/−	タテハケ／ヨコハケ・ヨコナデ	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	少し荒い、白雲母混入、1mm前後の粒子
15	弥生土器／壺	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ・タテナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/6	灰白色	7.5YR8/2	荒い、1~4mm前後の粒子、白雲母混入
16	弥生土器／壺	頸部	−/−/−/−/−	ヨコナデ・ヘラ磨き／剥離	浅黄橙色	10YR8/3	褐灰色	10YR6/1	荒い、1~3mm前後の粒子
17	弥生土器／壺	胴部	−/−/−/−/−	ヨコナデ・ヘラ磨き／剥離	浅黄橙色	10YR8/3	灰色	N5/	荒い、1~3mm前後の粒子
18	弥生土器／壺	口縁部	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ナデ	浅黄橙色	10YR8/3	褐灰色	10YR6/1	荒い、1~3mm前後の粒子
19	弥生土器／壺	胴部~底部	−/−/−/−/−	タテ・ナナメハケ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、1~3mm前後の粒子
20	弥生土器／壺	底部	−/−/−/−/−	タテハケ後磨き／ナデ	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	少し荒い、白雲母混入

○第10・11地点

26	縄文土器／深鉢	口縁部	−/−/−/−/−	山形押型文／原体条痕・山形押型文	にぶい黄橙色	10YR7/2	にぶい黄橙色	10YR7/2	細かい、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
27	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	山形押型文／原体条痕・山形押型文	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	細かい、白雲母・黒雲母混入
28	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	山形押型文／原体条痕・山形押型文	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/3	細かい、白雲母・黒雲母混入
29	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	山形押型文／原体条痕・山形押型文	橙色	2.5YR6/6	にぶい橙色	5YR7/4	細かい、白雲母・黒雲母混入
30	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	山形押型文／ナデ	にぶい橙色	5YR7/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、白雲母混入
31	縄文土器／深鉢	胴部	−/−/−/−/−	山形押型文／ヨコナデ	橙色	2.5YR6/8	橙色	7.5Y6/6	少し荒い、1~4mmの粒子
32	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	山形押型文／ナデ	浅黄橙色	10YR8/3	にぶい黄橙色	10YR7/3	少し荒い、白雲母・金雲母混入
33	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	山形押型文／ヨコナデ	橙色	7.5Y7/6	灰褐色	7.5Y4/1	細かい、白雲母・黒雲母混入
34	縄文土器／深鉢	口縁部	−/−/−/−/−	楕円押型文／原体条痕・楕円押型文	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	細かい、白雲母混入
35	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	楕円押型文／原体条痕・楕円押型文	灰色	7.5Y6/1	灰色	7.5Y5/1	細かい、白雲母多量混入
36	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	楕円押型文／ヨコナデ	橙色	2.5YR6/8	黒褐色	7.5Y3/1	少し荒い、白雲母混入
37	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	楕円押型文／楕円押型文・ナデ	にぶい橙色	5YR7/4	明赤褐色	5YR5/6	荒い、白雲母混入
38	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	格子目押型文／ナデ	橙色	5YR6/6	明赤褐色	5YR5/8	少し荒い、白雲母・金雲母混入
39	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ナデ	淡黄色	2.5Y8/4	灰白色	2.5Y8/2	少し荒い、白雲母混入
40	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ナデ	淡黄色	2.5Y8/3	淡黄色	2.5Y8/3	細かい、白雲母多量混入
41	縄文土器／深鉢	胴部	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	灰黄褐色	10YR6/2	少し荒い、白雲母・黒雲母
42	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	連続刺突・ナデ／ナデ	明赤褐色	2.5YR5/6	にぶい赤褐色	5YR4/4	少し荒い、白雲母・黒雲母混入
43	縄文土器／深鉢	口縁部	−/−/−/−/−	綾杉文／ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	橙	5YR6/6	少し荒い、白雲母混入
44	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	綾杉文／ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	にぶい橙色	10YR7/3	荒い、黒雲母・白雲母
45	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	綾杉文／ナデ	褐灰色	10YR4/1	浅黄橙色	10YR8/3	少し荒い、白雲母混入
46	縄文土器／深鉢	胴部	−/−/−/−/−	綾杉文／ナデ	にぶい黄橙色	10YR6/3	褐灰色	10YR4/1	荒い、白雲母・黒雲母混入

○第14地点

53	縄文土器／深鉢	口縁部	−/−/−/−/−	貝殻条痕文（右下斜め）／磨き	灰白色	7.5YR8/2	褐灰色	7.5YR6/1	少し荒い、白雲母混入
54	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文（右下斜め）／ナデ	灰色	10YR7/1	浅黄橙色	10YR8/3	少し荒い、白雲母・金雲母混入
55	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文（右下斜め）後ナデ／	灰白色	10YR7/1	灰白色	10YR8/2	少し荒い、白雲母・金雲母混入
56	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文（縦・右下斜め）／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/3	細かい、白雲母・黒雲母・金雲母混入
57	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文（右下斜め）／ナデ	灰褐色	5YR4/2	浅黄橙色	7.5YR8/3	細かい、白雲母・黒雲母混
58	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ナデ	灰白色	10YR7/1	浅黄橙色	10YR8/3	細かい、白雲母・黒雲母混
59	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文（横・右下斜め）／ナデ	褐灰色	10YR4/1	灰白色	10YR8/2	少し荒い、白雲母混入
60	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文（横）／磨き	褐灰色	10YR5/1	褐灰色	10YR5/1	少し荒い、白雲母混入
61	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文（横）／ナデ	灰白色	7.5YR8/1	にぶい黄橙色	10YR7/2	少し荒い、白雲母・黒雲母混入
62	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻腹縁による連続刺突・貝殻条痕文／ナデ	にぶい黄橙色	10YR7/2	にぶい黄橙色	10YR7/2	細かい、白雲母・金雲母混入
63	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻腹縁による連続刺突・貝殻条痕文／ナデ	灰白色	10YR7/1	浅黄橙色	10YR8/3	少し荒い、白雲母混入
64	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻腹縁による連続刺突・貝殻条痕文／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、白雲母混入
55	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻腹縁による連続刺突・貝殻条痕文／ナデ	褐白色	10YR6/1	褐白色	10YR6/1	細かい、白雲母混入
56	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻腹縁による連続刺突・貝殻条痕文／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	灰白色	10YR7/1	細かい、白雲母混入

No.	器　種	残存率	法　量 口径／底径／脚裾径 胴部最大径／器高	調整・文様 外面／内面	調整・文様 外面		調整・文様 内面		胎　土
67	縄文土器／深鉢	胴部	−/−/−/−/−	貝殻腹縁による連続刺突／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	細かい、白雲母混入
68	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/3	少し荒い、白雲母・黒雲母混入
69	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、白雲母混入
70	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	山形押型文／ナデ	褐白色	7.5YR5/1	浅黄橙色	7.5YR8/3	少し荒い、白雲母・黒雲母混入
71	縄文土器／深鉢	口縁部	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	10YR8/3	灰白色	10YR8/2	細かい、白雲母多量混入
72	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	灰白色	10YR7/1	灰白色	7.5YR8/1	荒い、1〜3mm前後の粒子
73	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	褐灰色	10YR5/1	褐灰色	10YR6/1	少し荒い、白雲母・黒雲母混入
74	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	褐灰色	10YR4/1	灰白色	10YR8/2	細かい、白雲母混入、白粒子
75	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/3	にぶい橙色	7.5YR7/4	荒い、白雲母・黒雲母、白粒子
76	縄文土器／深鉢	胴部	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	褐灰色	7.5YR4/1	細かい、白雲母・黒雲母、白粒子
77	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	淡黄色	2.5Y8/3	細かい、白雲母・黒雲母、白粒子
78	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	灰白色	10YR8/2	細かい、白雲母・黒雲母混入
79	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	灰白色	10YR8/2	細かい、白雲母・黒雲母混入
80	縄文土器／深鉢	底部	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	橙色	2.5YR6/8	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、白雲母・黒雲母混入
81	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	風化／風化	浅黄橙色	10YR8/3	黄橙色	10YR8/3	荒い、1〜3mm前後の粒子
82	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	風化／風化	橙色	2.5YR7/6	淡黄色	2.5Y8/3	細かい
83	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	磨き／ナデ	にぶい橙色	2.5YR6/4	褐灰色	7.5YR6/1	少し荒い、白雲母混入
84	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/6	灰白色	10YR8/2	少し荒い、白雲母混入

古墳周溝

90	須恵器／大甕	4/5	24.2/−/−/43.9/ (41.1)	ヨコナデ、叩き、カキ目／同心円状当て具痕	灰色	7.5YR7/1	灰色	N4/	細かい、白雲母・黒粒子混入
91	須恵器／短頸壺	4/5	7.1/−/−/−/6.8	回転ナデ、ヘラ切り底／回転ナデ	灰色	7.5YR6/1	灰色	7.5YR6/1	細かい、白雲母・黒粒子混入
92	須恵器／短頸壺	完形	7.1/−/−/−/6.7	回転ナデ、ヘラ切り底／回転ナデ	灰色	N6/1	灰色	N6/1	細かい、白雲母・黒粒子混入
93	須恵器／短頸壺	〃	6.8/−/−/−/6.45	回転ナデ、ヘラ切り底／回転ナデ	灰色	N6/	灰色	N6/	細かい、白雲母・黒粒子混入
94	土師器／高坏	坏部欠損	−/−/13.2/−/−	ヘラ磨き／回転ナデ、ヘラ磨き	赤橙色	10YR6/5	浅黄橙色	7.5YR8/6	細かい、白雲母混入
95	土師器／鉢	完形	10.3/5.5/−/−/6.5	ヘラ磨き／ヘラ磨き	明赤褐色	5YR5/6	明赤褐色	5YR5/6	細かい、白雲母多量混入

○第17地点

21	弥生土器／甕	口縁部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	少し荒い、白雲母混入
22	弥生土器／甕	胴部	−/−/−/−/−	横方向・縦方向ハケ目／ナデ	灰白色	10YR8/2	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1〜3mm前後の粒子

○第26地点

柱穴群

96	土師器／坏	2/3	10.8/6.0/−/−/2.3	回転ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	細かい、白雲母混入
97	土師器／坏	完形	8.0/5.0/−/−/2.2	回転ナデ／ナデ	橙色	5YR6/6	橙色	5YR6/6	細かい、白雲母混入
98	土師器／坏	底部	−/−/−/−/−	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、白雲母多量混入
99	土師器／坏	〃	−/−/−/−/−	糸切り底／ナデ	にぶい橙色	5YR6/4	にぶい橙色	5YR6/4	細かい、白雲母多量混入
100	染付／椀	〃	−/5.1/−/−/−		明緑灰色	10GY7/1	明緑灰色	10GY7/1	
101	土師器／坏	〃	−/5.5/−/−/−	回転ナデ、ヘラ切り底／回転ナデ	にぶい橙色	5YR7/4	橙色	5YR7/5	細かい、白雲母多量混入

1号土壙墓

102	染付／椀	1/4	−/−/−/−/−		明緑灰色	7.5GY8/1	明緑灰色	7.5GY8/1	細かい

3号土壙墓

103	陶器／甕	口縁部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	灰褐色	5YR5/2	褐灰色	10YR5/1	細かい、白粒子混入
104	白磁／椀	1/2	10.2/3.9/−/−/5.2		灰白色	7.5Y8/1	灰白色	7.5Y8/1	細かい
105	染付／皿	完形	10.0/2.8/−/−/2.7		明オリーブ灰色	5GY7/1	明オリーブ灰色	5GY7/1	
106	染付／皿	〃	10.2/4.0/−/−/2.6		明緑灰色	7.5GY7/1	明緑灰色	7.5GY7/1	
107	青磁／椀	口縁部	−/−/−/−/−		オリーブ灰色	10Y5/2	オリーブ灰色	10Y5/2	
108	青磁／盤	〃	−/−/−/−/−		オリーブ灰色	10Y5/2	オリーブ灰色	10Y5/2	
109	染付／猪口	完形	−/−/−/−/−		灰白色	10YR8/2	灰白色	10YR8/2	

その他

110	土師器／坏	底部	−/−/−/−/−	ヨコナデ、ヘラ切り底／ヨコナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	7.5YR7/4	細かい、白雲母多量混入
111	土師器／坏	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ、ヘラ切り底／ヨコナデ	にぶい橙色	5YR7/4	にぶい橙色	7.5YR7/4	細かい
112	青磁／椀	口縁部	−/−/−/−/−		緑灰色	5G6/1	緑灰色	5G6/1	
113	青磁／椀	〃	−/−/−/−/−		オリーブ灰色	5GY6/1	オリーブ灰色	5GY6/1	
114	陶器／皿	完形	(8.1) /4.4/−/−/2.1		灰白色	7.5YR8/2	灰白色	7.5YR8/2	

○第39地点

1号住居跡

115	弥生土器／甕	口縁部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	橙色	5YR7/6	橙色	5YR7/6	荒い、1〜3mm前後の粒子、金雲母・白雲母
116	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	にぶい橙色	5YR7/3	にぶい橙色	5YR7/4	荒い、1〜3mm前後の粒子、白雲母混入

No.	器　種	残存率	法　量 口径／底径／脚裾径 胴部最大径／器高	調整・文様 外面／内面	調整・文様 外面		調整・文様 内面		胎　土
117	弥生土器／甕	胴部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	にぶい橙色	5YR7/3	にぶい橙色	5YR7/4	荒い、1～3mm前後の粒子、白雲母混入
118	弥生土器／甕	口縁部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	橙色	2.5YR7/8	橙色	7.5Y6/8	荒い、1～3mm前後の粒子、金雲母・白雲母
119	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	にぶい橙色	5YR7/4	にぶい橙色	5YR7/4	細かい、1～2mm前後の粒子
120	弥生土器／甕	胴部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ナデ	橙色	7.5Y6/6	灰黄褐色	10YR6/2	荒い、2～5mm前後の粒子、金雲母・白雲母
121	弥生土器／甕	胴部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	橙色	5YR7/6	にぶい橙色	7.5YR6/4	荒い、1～3mm前後の粒子、金雲母・白雲母
122	弥生土器／甕	胴部	−/−/−/−/−	タテハケ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	灰黄褐色	10YR4/1	荒い、1～3mm前後の粒子、白雲母混入
123	弥生土器／壺	口縁部	5.0/−/−/−/−	竹連続刺突・ヨコナデ／ヨコナデ	にぶい黄橙色	10YR6/2	にぶい橙色	7.5YR7/3	少し荒い、白雲母混入
124	弥生土器／鉢	〃	5.0/−/−/−/−	タテハケ／ヨコナデ	にぶい橙色	5YR7/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1～3mm前後の粒子、金雲母・白雲母
125	弥生土器／鉢	〃	(15.9) /−/−/ (16.9) /−	ヨコナデ後タテハケ・磨き／ヨコナデ、磨き	灰白色	10YR8/2	灰白色	10YR8/2	細かい、白雲母混入

○第51地点

1号住居跡

126	土師器／甕	口縁部	(21.0) /−/−/ (21.5) /−	ヨコ・ナナメハケ・ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、1～3mm前後の粒子
127	土師器／甕	〃	(20.5) /−/−/20.1/−	ナナメ叩き・ヨコナデ／ヨコナデ、ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	橙色	7.5Y7/6	荒い、1～5mm前後の粒子
128	土師器／甕	〃	(17.9) /−/−/−/−	ヨコナデ・ナデ／ヨコナデ	淡黄色	5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、1～5mm前後の粒子、白雲母混入
129	土師器／甕	3／5	(15.0) /8.0/−/16.3/17.2	ヨコナデ、ナナメナデ／ヨコナデ、タテナで	浅黄橙色	7.5YR8/6	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1～5mm前後の粒子、白雲母混入
130	土師器／甕	口縁部	(17.8) /−/−/ (20.6) /−	風化／ヨコ・ナナメナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	黄白色	2.5Y6/1	荒い、1～5mm前後の粒子、白雲母混入
131	土師器／甕	底部	−/11.8/−/−/−	ヨコナデ・木ノ葉痕／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	灰白色	2.5YR8/3	荒い、1～5mm前後の粒子、白雲母混入
132	土師器／甕	〃	−/11.7/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	にぶい橙色	5YR6/4	にぶい橙色	5YR6/4	荒い、2～5mm前後の粒子
133	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1～5mm前後の粒子
134	土師器／甕	〃	−/5.9/−/−/−	タテナデ／ヨコ・ナナメナデ	にぶい黄橙色	10YR7/3	黄灰色	2.5Y6/1	荒い、1～5mm前後の粒子、白雲母混入
135	土師器／甕	〃	−/9.5/−/−/−	ナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	10YR8/4	灰色	7.5YR5/1	荒い、1～6mm前後の粒子、黒雲母・白雲母
136	土師器／鉢	口縁部	−/−/−/−/−	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1～5mm前後の粒子、白雲母混入
137	土師器／鉢	〃	−/−/−/−/−	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1～5mm前後の粒子、白雲母混入
138	土師器／鉢	3／5	10.9/1.5/−/12.5/11.3	風化／風化	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1～5mm前後の粒子
139	須恵器／坏身	1／2	12.8/6.0/−/−/3.7	回転ナデ・ヘラ切り底／回転ナデ	灰色	N6/	灰色	N6/	細かい、1～3mm前後の粒子

○第52地点

1号土壙墓

149	土師器／椀	完形	12.4/6.0/−/−/4.3	ナデ／ナデ	橙色	5YR7/6	橙色	5YR7/6	細かい、金雲母多量混入
141	須恵器／高台付椀	〃	14.7/9.6/−/−/4.6	回転ナデ／回転ナデ	灰黄色	2.5Y6/1	灰黄色	2.5Y6/1	細かい、黒粒子混入

○第53地点

1号掘立柱建物跡

142	土師器／坏	底部	−/5.2/−/−/−	回転ナデ／回転ナデ	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	細かい
143	土師器／坏	〃	−/−/−/−/−	回転ナデ／回転ナデ	橙色	2.5YR6/8	橙色	2.5YR6/8	細かい、白雲母混入
144	須恵器／甕	胴部	−/−/−/−/−	叩き／同心円状当て具痕	灰色	2.5Y5/1	灰色	2.5Y5/1	細かい、黒粒子混入

○第60地点

1号住居跡

145	弥生土器／甕	3／5	(24.0) /6.8/−/−/29.4	タテ・ナナメハケ、ヨコナデ／タテ・ナナメハケ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/3	荒い、1～5mm前後の粒子、白雲母混入
146	弥生土器／甕	口縁部	−/−/−/−/−	タテハケ、ヨコナデ／ヨコナデ	橙色	5YR7/6	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、1～5mm前後の粒子
147	弥生土器／器台	底部	−/14.5/−/−/−	タテハケ、ヨコナデ／ヨコナデ・ナデ	橙色	5YR7/6	橙色	5YR7/6	荒い、1～5mm前後の粒子、白雲母混入

○第62地点

1号住居跡

148	弥生土器／甕	口縁部	32.5/−/−/−/−	連続刻目、タテハケ／ヨコナデ・ナナメハケ	明黄褐色	10YR7/6	にぶい黄橙色	10YR5/3	荒い、1～6mm前後の粒子、黒雲母・白雲母
149	弥生土器／甕	〃	21.0/−/−/−/−	連続刻目、タテハケ／ヨコナデ・ナナメハケ	にぶい橙色	5YR7/4	橙色	5YR6/6	細かい、1～3mm前後の粒子
150	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	連続刻目、タテハケ／ヨコハケ	橙色	2.5YR6/6	橙色	5YR6/6	荒い、1～6mm前後の粒子、黒雲母・白雲母
151	弥生土器／甕	〃	−/5.8/−/−/−	連続刻目、タテハケ／ヨコナデ・ナナメハケ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	7.5YR7/4	細かい、1～2mm前後の粒子
152	弥生土器／甕	底部	−/7.0/−/−/−	タテハケ／ナデ	橙色	7.5Y7/6	にぶい橙色	7.5YR7/4	細かい、1～3mm前後の粒子
153	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	タテハケ／ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	少し荒い、白雲母・金雲母
154	弥生土器／壺	頸部	−/−/−/−/−	タテハケ／ナデ	明黄褐色	10YR7/6	明黄褐色	10YR7/6	細かい、1～2mm前後の粒子
155	弥生土器／壺	胴部	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ナデ	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	少し荒い、白雲母混入

○第65地点

1号住居跡

156	弥生土器／甕	口縁部	25.4/−/−/−/−	タテ・ヨコハケ／ヨコハケ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい黄橙色	10YR7/3	荒い、1～3mm前後の粒子
157	弥生土器／甕	〃	23.5/−/−/−/−	凹線、タテ・ヨコハケ／ヨコナデ	明褐灰色	7.5YR7/2	明褐灰色	7.5YR7/2	細かい、1～3mm前後の粒子、白雲母混入

No.	器　種	残存率	法　量 口径／底径／脚裾径 胴部最大径／器高	調整・文様 外面／内面	調整・文様 外面		調整・文様 内面		胎　土
158	弥生土器／甕	胴部	−/−/−/−/−	刻目突帯、ヘラ工具による連続	褐灰色	5YR6/1	灰褐色	5YR5/2	少し荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
159	弥生土器／甕	口縁部	−/−/−/−/−	ヨコナデ後磨き／ヨコハケ後磨き、ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、1~2mm前後の粒子
160	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ、ナナメハケ／ヨコハケ、ナデ	にぶい橙色	5YR7/4	浅黄橙色	10YR7/3	荒い、1~2mm前後の粒子、白雲母・金雲母混入
161	弥生土器／甕	底部	−/4.9/−/−/−	ヨコナデ、ヘラ磨き／ナデ	黒褐色	2.5Y3/1	黄灰色	2.5Y4/1	細かい、1~5mm前後の粒子、白雲母混入
162	弥生土器／甕	〃	−/5.4/−/−/−	ナデ／ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、2~3mm前後の粒子
163	弥生土器／壺	口縁部	−/−/−/−/−	凹線、ヨコナデ／ヨコナデ	灰黄褐色	10YR6/2	灰黄褐色	10YR6/2	少し荒い、1~3mm前後の粒子
164	弥生土器／壺	〃	−/−/−/−/−	鋸歯状沈線、ヨコナデ、ヨコハケ／ヨコハケ	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい橙色	7.5YR6/4	荒い、2~5mm前後の粒子、金雲母混入
165	弥生土器／壺	頸部	−/−/−/−/−	ヨコナデ、タテハケ／ナナメハケ	浅黄橙色	7.5YR8/4	灰白色	5Y7/1	細かい、1~2mm前後の粒子、白雲母混入
166	弥生土器／鉢	底部	−/12.0/−/−/−	ヨコハケ目／ヨコハケ、ナデ	にぶい黄橙色	10YR7/3	にぶい黄橙色	10YR7/3	細かい、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
167	弥生土器／鉢	〃	−/10.7/−/−/−	ヘラ磨き、ヨコナデ／ナデ	灰白色	N7/	灰白色	N6/	荒い、1~2mm前後の粒子、白雲母混入

2号住居跡

168	弥生土器／甕	口縁部	(28.4) /−/−/−/−	タテ・ヨコハケ／ナナメハケ	灰白色	10YR7/1	灰白色	10YR7/1	荒い、4~7mm前後の粒子、金雲母
169	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ、ヨコ・ナナメハケ／ヨコハケ	橙色	5YR7/6	橙色	7.5YR7/6	荒い、1~5mm前後の粒子、白雲母
170	弥生土器／甕	底部	−/6.3/−/−/−	タテ・ナナメハケ／タテ・ナナメハケ	灰白色	10YR7/1	褐灰色	10YR4/1	荒い、1~4mm前後の粒子
171	弥生土器／甕	〃	−/8.8/−/−/−	ヨコ・タテハケ、ヘラ磨き／ナデ	にぶい黄橙色	10YR7/4	灰黄褐色	10YR6/2	荒い、1~4mm前後の粒子
172	弥生土器／壺	胴部	−/−/−/−/−	タテ・ナナメハケ／ナナメハケ	にぶい黄橙色	10YR7/4	灰黄褐色	10YR6/2	少し荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母

○第69地点

217	縄文土器／深鉢	口縁部	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ヨコナデ	褐灰色	10YR5/1	灰白色	10YR8/2	荒い、白雲母・黒雲母
218	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	灰白色	7.5YR8/2	少し荒い、白雲母混入
219	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、白雲母・黒雲母
220	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ヨコナデ	淡黄色	2.5Y8/3	灰白色	2.5YR8/2	少し荒い、白雲母混入、白粒子
221	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／風化	浅黄橙色	7.5YR8/4	にぶい橙色	7.5YR7/4	少し荒い、白雲母混入、白粒子
222	縄文土器／深鉢	胴部	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	7.5YR7/4	少し荒い、1~3mm前後の粒子、金雲母混入
223	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	貝殻条痕文／ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	7.5YR6/4	少し荒い、1~3mm前後の粒子、金雲母混入
224	縄文土器／深鉢	口縁部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	灰白色	10YR8/2	浅黄橙色	10YR8/4	細かい、白雲母混入
225	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	5YR7/4	少し荒い、白雲母混入、白粒子
226	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ヨコナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	7.5YR7/4	荒い、白雲母混入、白粒子
227	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	にぶい橙色	5YR7/4	にぶい橙色	5YR7/4	荒い、白雲母・黒雲母
228	縄文土器／深鉢	胴部	−/−/−/−/−	風化／ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	7.5YR7/3	少し荒い、白雲母混入、白粒子
229	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	明褐灰色	7.5YR7/1	少し荒い、白雲母混入、白粒子
230	縄文土器／深鉢	底部	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	灰白色	7.5YR8/2	少し荒い、白雲母混入、白粒子
231	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	少し荒い、白雲母混入、白粒子
232	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	淡黄色	2.5Y8/3	少し荒い、白雲母混入、白粒子
233	縄文土器／深鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/3	少し荒い、白雲母混入、白粒子

1号住居跡

240	弥生土器／壺	口縁部	−/−/−/−/−	タテハケ／ヨコナデ	淡黄色	2.5Y8/3	淡黄色	2.5Y8/3	少し荒い、白雲母混入
241	弥生土器／壺	〃	−/−/−/−/−	タテハケ／ヨコハケ	浅黄橙色	10YR8/3	灰白色	7.5YR8/2	細かい、白雲母混入
242	弥生土器／壺	胴部	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	灰白色	7.5YR8/2	褐灰色	7.5YR6/1	少し荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入

2号住居跡

243	縄文土器／深鉢	口縁部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	褐灰色	10YR4/1	灰白色	10YR8/2	少し荒い、白雲母混入
244	縄文土器／深鉢	底部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ナデ	褐灰色	7.5YR5/1	褐灰色	7.5YR5/1	荒い、金雲母・白雲母混入

1号土壙墓

245	弥生土器／甕	口縁部	−/−/−/−/−	ヨコナデ、タテナデ／ヨコナデ・ナデ	灰白色	7.5YR8/2	灰白色	7.5YR8/2	細かい、白雲母混入
246	弥生土器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ、タテナデ／ヨコナデ・ナデ	灰白色	7.5YR8/2	灰白色	7.5YR8/2	細かい、白雲母混入
247	弥生土器／壺	〃	−/−/−/−/−	風化／風化	橙色	5YR7/5	橙色	5YR7/5	細かい、白雲母・黒雲母
248	弥生土器／壺	頸部	−/−/−/−/−	風化／風化	橙色	5YR7/6	浅黄橙色	7.5YR8/6	細かい、白雲母混入
249	弥生土器／壺	底部	−/6.2/−/−/−	ナナメハケ／風化	にぶい黄橙色	10YR7/2	灰白色	7.5YR8/2	少し荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
250	弥生土器／鉢	〃	−/−/−/−/−	ナデ／風化	にぶい橙色	7.5YR7/4	褐灰色	10YR6/1	荒い、1~2mm前後の粒子、白雲母混入

2号土壙墓

251	弥生土器／甕	口縁部	−/−/−/−/−	連続刻目、刻目突帯／ヨコナデ	にぶい橙色	5YR7/4	にぶい橙色	5YR7/4	荒い、1~5mm前後の粒子
252	弥生土器／甕	胴部	−/−/−/−/−	タテハケ／タテハケ	浅黄橙色	10YR8/3	褐灰色	10YR6/1	少し荒い、白雲母多混入

3号土壙墓

254	弥生土器／甕	底部	−/6.6/−/−/−	ヨコナデ／ナデ	褐灰色	10YR6/1	褐灰色	10YR6/1	荒い、1~2mm前後の粒子、白雲母混入

5号土壙墓

255	弥生土器／鉢	底部	−/−/−/−/−	タテハケ／ヨコナデ	灰白色	10YR7/2	灰白色	10YR7/2	少し荒い、白雲母多混入
256	弥生土器／壺	胴部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ナデ	橙色	7.5YR5/6	浅黄橙色	7.5YR8/6	荒い、1~2mm前後の粒子、白雲母・黒雲母

○第74地点

1号住居跡

No.	器種	残存率	法量 口径／底径／脚裾径 胴部最大径／器高	調整・文様 外面／内面	調整・文様 外面		調整・文様 内面		胎土
173	弥生土器／甕	1／2	26.3/5.3/－/23.8/29.5	タテハケ・ヨコナデ/ナナメハケ、ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/6	浅黄橙色	7.5YR8/6	荒い、1~4mm前後の粒子、白雲母混入
174	弥生土器／甕	口縁部	18.0/－/－/16.0/－	タテハケ・ヨコナデ/ナナメハケ、ヨコナデ	にぶい橙色	5YR7/4	橙色	2.5YR7/6	荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
175	弥生土器／甕	〃	－/－/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ	灰褐色	7.5YR5/2	灰褐色	7.5YR5/2	細かい、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
176	弥生土器／甕	〃	－/－/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1~3mm前後の粒子
177	弥生土器／甕	〃	－/－/－/－/－	ナナメハケ、ナデ／ナナメハケ	にぶい橙色	5YR7/4	にぶい橙色	5YR7/4	荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
178	弥生土器／甕	胴部	－/－/－/－/－	タテナデ／ヨコナデ	黒褐色	10YR3/2	黄灰色	2.5Y5/1	荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
179	弥生土器／甕	底部	－/7.0/－/－/－	ナデ／ナデ	浅黄橙色	10YR8/3	黒色	10YR1.7/1	荒い、1~4mm前後の粒子
180	弥生土器／甕	〃	－/6.5/－/－/－	ナデ／ナデ	橙色	5YR7/6	橙色	7.5YR6/6	細かい、2~3mm前後の粒子、白雲母混入
181	弥生土器／甕	〃	－/4.0/－/－/－	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、1~4mm前後の粒子、白雲母混入
182	弥生土器／甕	〃	－/3.8/－/－/－	風化／ナデ	明褐灰色	10YR7/1	明褐灰色	10YR7/1	荒い、1~3mm前後の粒子
183	弥生土器／甕	〃	－/4.8/－/－/－	ナデ／ナナメハケ、ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	7.5YR7/4	細かい、2~3mm前後の粒子、白雲母混入
184	弥生土器／甕	〃	－/－/－/－/－	ナデ/ナデ、ヘラ状工具による調整	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	少し荒い、1~2mm前後の粒子、白雲母混入
185	弥生土器／甕	〃	－/3.7/－/－/－	ナナメハケ、ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、1mm前後の粒子
186	弥生土器／甕	〃	－/3.9/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	灰白色	7.5YR8/2	荒い、1~4mm前後の粒子、白雲母混入
187	弥生土器/コップ状	〃	－/－/－/－/－	ヘラ磨き／ヨコ・ナナメハケ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	少し荒い、1~4mm前後の粒子
188	弥生土器／壺	口縁部	18.0/－/－/－/－	風化、ヘラ磨き、ヨコナデ/ナナメハケ、ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/6	浅黄橙色	7.5YR8/6	少し荒い、1~4mm前後の粒子、白雲母混入
189	弥生土器／壺	〃	14.1/－/－/－/－	ヨコ・タテハケ・ヨコナデ/ナナメハケ、ヨコナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	浅黄橙色	7.5YR8/3	少し荒い、2~3mm前後の粒子
190	弥生土器／壺	〃	－/－/－/－/－	風化、連続沈線文／風化	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	少し荒い、2~3mm前後の粒子、白雲母混入
191	弥生土器／壺	〃	－/－/－/－/－	波状文、ヨコナデ／ヨコナデ	褐灰色	10YR4/1	褐灰色	10YR4/1	少し荒い、白雲母・黒雲母混入
192	弥生土器／壺	〃	－/－/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ	橙色	5YR7/6	橙色	5YR7/6	少し荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
193	弥生土器／壺	〃	－/－/－/－/－	連続刻目、タテハケ/ナナメハケ、ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	細かい、1mm前後の粒子
194	弥生土器／壺	頸部	－/－/－/－/－	ナナメハケ、ヨコナデ/ヨコナデ、ナデ	橙色	5YR7/6	浅黄橙色	7.5YR8/6	少し荒い、1~2mm前後の粒子
195	弥生土器／壺	〃	－/－/－/－/－	タテハケ、刻目突帯／ナナメハケ	橙色	5YR6/6	橙色	5YR6/6	細かい、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
196	弥生土器／壺	胴部	－/－/－/－/－	ナナメハケ／ナナメハケ	橙色	2.5YR6/8	褐灰色	10YR6/1	少し荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
197	弥生土器／壺	底部	－/－/－/－/－	ナナメハケ、ナデ/タテ・ナナメハケ	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	細かい、白雲母・金雲母混入
198	弥生土器／壺	〃	－/－/－/－/－	風化／ナデ	橙色	2.5YR6/8	橙色	7.5YR7/6	少し荒い、1~2mm前後の粒子、白雲母混入
199	弥生土器／壺	〃	－/5.1/－/－/－	ヘラ磨き／ヘラ磨き	浅黄橙色	7.5YR8/4	黒色	7.5YR2/1	細かい、1~2mm前後の粒子、白雲母混入
200	弥生土器／壺	〃	－/3.7/－/－/－	ナナメハケ／ナナメハケ	浅黄橙色	7.5YR8/4	明褐灰色	7.5YR7/1	細かい、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
201	弥生土器／壺	〃	－/－/－/－/－	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	明褐灰色	7.5YR7/1	荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
202	弥生土器／壺	〃	－/－/－/－/－	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
203	弥生土器／高坏	坏部	－/－/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ後ヘラ磨き	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	細かい、白雲母・金雲母混入
204	弥生土器／高坏	坏部	－/－/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ	淡橙色	5YR8/4	淡橙色	5YR8/4	細かい、1~2mm前後の粒子、白雲母混入
205	弥生土器／高坏	〃	－/－/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ後ヘラ磨き	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	7.5YR7/4	細かい、1~2mm前後の粒子、白雲母混入
206	弥生土器／高坏	〃	－/－/－/－/－	ヘラ磨き／ヘラ磨き	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
207	弥生土器／高坏	脚部	－/－/－/－/－	風化、ヘラ磨き／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/3	細かい、白雲母混入
208	弥生土器／高坏	〃	－/－/－/－/－	ヘラ磨き、ヨコナデ／ヘラ磨き	橙色	5YR7/5	橙色	5YR7/5	細かい、1~2mm前後の粒子
209	弥生土器／高坏	〃	－/－/－/－/－	ヘラ磨き／ヘラ磨き	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	細かい、白雲母・金雲母混入
210	弥生土器／高坏	〃	－/－/－/－/－	ヘラ磨き／ナナメハケ	浅黄橙色	7.5YR8/3	灰褐色	7.5YR5/2	細かい、白雲母混入
211	弥生土器／高坏	〃	－/－/－/－/－	ヘラ磨き／ナナメハケ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	細かい、白雲母混入
212	弥生土器／高坏	〃	－/－/－/－/－	ヨコナデ、ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	細かい、1mm前後の粒子、白雲母・金雲母
213	弥生土器／高坏	〃	－/－/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	橙色	5YR7/6	細かい、白雲母混入
214	弥生土器／高坏	〃	－/－/－/－/－	縦方向ヘラ磨き、ヨコナデ/ナナメハケ、ヨコナデ	にぶい橙色	5YR7/4	にぶい橙色	5YR7/4	細かい、1~3mm前後の粒子、白雲母混入
215	弥生土器／高坏	〃	－/－/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ	橙色	5YR7/6	橙色	5YR7/6	細かい、1~2mm前後の粒子
216	弥生土器/ミニチュア	4／5	－/－/－/－/－	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/6	浅黄橙色	7.5YR8/6	細かい、1~2mm前後の粒子

○第81地点

1号住居跡

257	土師器／甕	口縁部	－/－/－/－/－	風化、タテハケ/風化、ヨコハケ	黄橙色	10YR8/6	黄橙色	10YR8/6	荒い、1~3mm前後の粒子
258	土師器／甕	〃	－/－/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、1~3mm前後の粒子
259	土師器／甕	底部	－/－/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ	にぶい黄橙色	10YR7/3	にぶい黄橙色	10YR7/3	荒い、1~2mm前後の粒子
260	土師器／甕	〃	－/6.3/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、1~3mm前後の粒子
261	土師器／甕	〃	－/5.0/－/－/－	横・斜め方向叩き／ナデ	黄橙色	10YR8/6	にぶい黄橙色	10YR7/3	荒い、1~2mm前後の粒子
262	土師器／甕	〃	－/3.0/－/－/－	ヨコナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、1~2mm前後の粒子
263	土師器/小型丸底壺	口縁部	－/－/－/－/－	磨き／ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	少し荒い、1mm前後の粒子
264	土師器/小型丸底壺	〃	－/－/－/－/－	ヘラ磨き／ヘラ磨き	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1~3mm前後の粒子
265	土師器/小型丸底壺	〃	－/－/－/－/－	ヨコナデ／ヨコナデ	黄橙色	10YR8/6	浅黄橙色	10YR8/4	細かい
266	土師器/小型丸底壺	底部	－/3.3/－/－/－	タテハケ／ヨコハケ、ヨコナデ	浅黄橙色	10YR8/4	灰黄褐色	10YR6/2	荒い、1~2mm前後の粒子
267	土師器/小型丸底壺	〃	－/(3.8)/－/－/－	ヨコナデ／風化	にぶい黄橙色	10YR7/2	にぶい黄橙色	10YR7/2	荒い、1~2mm前後の粒子
268	土師器／壺	〃	－/4.1/－/－/－	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、1~3mm前後の粒子
269	土師器／壺	〃	－/－/－/－/－	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1~3mm前後の粒子

No.	器　種	残存率	法　量 口径／底径／脚裾径 胴部最大径／器高	調整・文様 外面／内面	調整・文様 外面		調整・文様 内面		胎　土
270	土師器／高坏	口縁部	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ヘラ磨き	にぶい黄橙色	10YR7/4	にぶい黄橙色	10YR7/4	細かい、白雲母混入
271	土師器／高坏	坏部	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／風化	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	細かい、白雲母混入
272	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ヘラ磨き	橙色	7.5Y7/6	橙色	7.5Y7/6	細かい
273	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ヘラ磨き	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	10YR8/3	細かい、1mm前後の粒子
274	土師器／高坏	脚部	−/−/−/−/−	ヨコナデ、へら磨き？／ヘラ磨き	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1〜2mm前後の粒子
275	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/3	細かい
276	土師器／高坏	脚部	−/−/−/−/−	風化／風化	橙色	5Y7/6	橙色	5Y7/6	細かい、白雲母混入
277	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/6	細かい
278	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヘラ磨き	灰黄褐色	10YR6/2	にぶい黄橙色	10YR7/3	細かい
380	土師器／高台付椀	4／5	15.0/8.7/−/−/6.0	回転ナデ、ヘラ切り底／回転ナデ	橙色	7.5Y7/6	橙色	7.5Y7/6	細かい
381	土師器／坏	3／5	12.6/6.4/−/−/4.2	回転ナデ、ヘラ切り底／回転ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	7.5YR7/4	細かい、1mm前後の粒子

2号住居跡

279	土師器／甕	口縁部	30.3/−/−/−/−	横・斜め方向叩き／ヨコ・ナナメハケ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1〜3mm前後の粒子
280	土師器／甕	〃	(18.9) /−/−/−/−	ナナメナデ／ナナメナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1〜3mm前後の粒子
281	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	横・斜め方向叩き／ヨコナデ	淡黄色	2.5Y8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1〜3mm前後の粒子
282	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	横方向叩き／風化	淡黄色	2.5Y8/4	淡黄色	2.5Y8/4	荒い、1〜2mm前後の粒子
283	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	横方向叩き／風化	橙色	5YR7/6	橙色	5YR7/6	荒い、1〜3mm前後の粒子
284	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	横方向叩き／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	橙色	5YR7/6	荒い、1〜3mm前後の粒子
285	土師器／甕	胴部〜底部	−/5.3/−/22.0/−	ナデ／ナデ	にぶい橙色	10YR7/2	にぶい橙色	10YR7/3	荒い、2〜4mm前後の粒子
286	土師器／甕	底部	−/3.5/−/−/−	ナデ／ナデ	にぶい橙色	7.5YR8/4	灰黄褐色	10YR6/2	荒い、1〜3mm前後の粒子
287	土師器／甕	〃	−/6.2/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1〜3mm前後の粒子
288	土師器/甕ミニチュア	〃	−/2.6/−/−/−	ナデ／ナナメハケ	にぶい橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	10YR8/3	細かい
289	土師器/小型丸底壺	口縁部	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	細かい、白雲母混入
290	土師器/小型丸底壺	完形	6.8/4.2/−/6.3/9.6	ヨコナデ／タテ・ナナメハケ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	細かい
291	土師器/小型丸底壺	〃	6.8/−/−/8.4/11.0	丁寧なヘラ磨き／ナデ	橙色	5YR7/6	橙色	5YR7/6	細かい、白雲母混入
292	土師器／高坏	脚部	−/−/−/−/−	風化／風化	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	細かい
293	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ヘラ磨き	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/3	細かい、白雲母混入
294	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／回転ナデ	明黄褐色	10YR7/6	明黄褐色	10YR7/6	細かい、白雲母混入

3号住居跡

295	土師器／甕	口縁部	(15.0) /−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	にぶい橙色	5YR7/4	にぶい橙色	5YR7/4	少し荒い、1〜3mm前後
296	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ヨコナデ	浅黄橙色	10YR8/3	灰色	7.5Y6/1	細かい、白雲母混入
297	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	灰色	N5/	灰色	N5/	細かい
298	土師器／坏	1／3	(14.1) / (6.5) /−/2.4	回転ナデ、ヘラ切り底／回転ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、1mm前後の粒子
299	土師器／坏	〃	(13.6) / (7.4) /−/−/4.0	回転ナデ、ヘラ切り底／回転ナデ	にぶい橙色	10YR7/4	にぶい橙色	10YR7/4	細かい、1mm前後の粒子
300	土師器／坏	1／5	−/−/−/−/4.2	ヨコナデ／ヨコナデ	橙色	2.5YR6/6	褐灰色	10YR4/1	細かい、角閃石混入
301	土師器／坏	底部	−/6.9/−/−/−	風化／風化	橙色	5YR7/6	橙色	5YR7/6	細かい、1〜3mm前後の粒子
302	土師器／坏	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	黒色	5YR1.7/1	橙色	5YR7/6	細かい、白雲母混入
303	土師器／坏	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	細かい
304	土師器／製塩土器	口縁部	−/−/−/−/−	風化／布目	橙色	2.5YR6/8	橙色	2.5YR6/8	荒い、1〜3mm前後の粒子
305	土師器／製塩土器	〃	−/−/−/−/−	風化／布目	橙色	5YR6/8	橙色	2.5YR6/8	荒い、1〜3mm前後の粒子
306	土師器／布痕土器	〃	−/−/−/−/−	風化／布目	浅黄橙色	7.5YR8/6	橙色	5YR7/6	荒い、1〜3mm前後の粒子

4号住居跡

307	土師器／甕	口縁部〜胴部	(27.2) /−/−/ (27.8) /−	ヨコ・ナナメハケ／風化	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、2〜5mm前後の小石
308	土師器／甕	〃	(18.2) /−/−/ (19.0) /−	横・斜め方向叩き／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、2〜4mm前後の小石多量
309	土師器／甕	口縁部	−/−/−/−/−	横方向叩き、ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1〜3mm前後の小石多量
310	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ、ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/3	荒い、1〜3mm前後の小石多量
311	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	横・斜め方向叩き／ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1〜3mm前後の小石多量
312	土師器／甕	胴部〜底部	−/−/−/ (21.3) /4.4	横方向叩き／タテ・ナナメハケ	にぶい黄橙色	10YR5/3	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1〜4mm前後の小石
313	土師器／甕	底部	−/2.8/−/−/−	横方向叩き、タテ・ナナメハケ/ナナメハケ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1〜3mm前後の小石多量
314	土師器／甕	〃	−/5.5/−/−/−	斜め方向叩き、ナデ／ナナメハケ	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1〜3mm前後の小石多量
315	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	淡黄色	2.5Y8/4	にぶい橙色	7.5YR8/4	荒い、1〜4mm前後の小石多量
316	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	にぶい黄橙色	10YR7/3	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1〜3mm前後の小石多量
317	土師器／壺	胴部	−/−/−/−/−	横方向叩き／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1〜2mm前後の小石多量
318	土師器／壺	底部	−/−/−/−/−	叩き後磨き／ナデ	淡黄色	2.5Y8/4	淡黄色	2.5Y8/4	荒い、1〜3mm前後の小石多量
319	土師器/小型丸底壺	口縁部〜胴部	−/−/−/−/−	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/6	浅黄橙色	7.5YR8/6	細かい
320	土師器/小型丸底壺	完形	(6.0) /2.2/−/5.0/5.5	ヘラ磨き／ヨコナデ、ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/3	少し荒い、1〜3mm前後の小石
321	土師器／高坏	脚部	−/−/15.5/−/−	ヘラ磨き、風化／ナデ、ヨコハケ	にぶい橙色	2.5YR6/4	褐灰色	7.5YR6/1	細かい、白雲母多量混入
322	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ヨコナデ、風化	浅黄橙色	7.5YR8/4	淡橙色	5YR8/4	細かい、白雲母多量混入
323	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ナデ、風化	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	少し荒い、1〜2mm前後の小石
324	須恵器／甕	胴部	−/−/−/−/−	擬格子目状叩き／同心円状当て具痕	灰色	N5/	灰色	N6/	少し荒い、白雲母混入

5号住居跡

No.	器　種	残存率	法　量 口径／底径／脚裾径 胴部最大径／器高	調整・文様 外面／内面	調整・文様 外面		調整・文様 内面		胎　土
325	土師器／甕	底部	−/4.4/−/−/−	横・斜め方向叩き／風化	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	少し荒い、1～2mm前後の粒子
326	土師器／甕	〃	−/(4.0)/−/−/−		浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/6	荒い、1～3mm前後の粒子多量
327	土師器／二重口縁壺	口縁部	−/−/−/−/−	風化／風化	橙色	2.5YR7/8	橙色	5YR7/8	少し荒い、1～2mm前後の粒子
328	土師器／高坏	脚部	−/−/13.2/−/−	ヨコナデ後タテハケ／ヨコナデ	橙色	5YR7/6	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、金雲母混入

6号住居跡

331	土師器／甕	完形	15.1/3.5/−/14.2/15.5	横・斜め方向叩き／ヨコ・ナナメハケ	浅黄橙色	10YR8/6	浅黄橙色	10YR8/6	荒い、1～3mm前後の粒子
332	土師器／甕	口縁部	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ヨコ・ナナメハケ	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	細かい、白雲母多量混入
333	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	橙色	7.5YR7/6	荒い、1～3mm前後の粒子
334	土師器／甕	底部	−/3.7/−/−/−	ヘラ磨き／ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/3	荒い、1～3mm前後の粒子多量
335	土師器／甕	〃	−/3.0/−/−/−	ナデ／ナデ	にぶい褐色	7.5YR6/3	にぶい橙色	5YR7/3	荒い、1～3mm前後の粒子、白雲母混入
336	土師器／甕	〃	−/3.4/−/−/−	斜め方向叩き／ナデ	淡黄色	2.5Y7/3	浅黄橙色	10YR8/3	荒い、1～2mm前後の粒子
337	土師器／甕	〃	−/3.4/−/−/−	ヘラ磨き、タテハケ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/6	浅黄橙色	7.5YR8/6	細かい、白雲母多量混入
338	土師器／甕	〃	−/−/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1～2mm前後の粒子
339	土師器／二重口縁壺	4／5	13.8/2.8/−/19.6/20.2	風化、ヘラ磨き／ヨコ・ナナメハケ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1～3mm前後の粒子
340	土師器／二重口縁壺	口縁部	−/−/−/−/−	波状文／ヨコナデ	橙色	5YR7/8	橙色	5YR7/8	荒い、1～2mm前後の粒子
341	土師器／壺	〃	8.4/−/−/−/−	風化／ヨコハケ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、白雲母多量混入
342	土師器／壺	胴部	−/−/−/13.6/−	風化／ヨコハケ	橙色	5YR7/8	橙色	5YR7/8	細かい、白雲母多量混入
343	土師器／壺	底部	−/1.0/−/−/−	風化／風化、ヨコハケ	浅黄橙色	7.5YR8/6	浅黄橙色	7.5YR8/6	細かい
344	土師器／コップ状	3／5	−/5.1/−/−/−	ヘラ磨き／ヨコ・ナナメハケ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	5YR7/4	細かい、白雲母混入
345	土師器／鉢	口縁部～底部	−/2.6/−/18.4/−	ヨコ・タテナデ／風化、ヨコナデ、ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	橙色	5YR7/8	荒い、1～3mm前後の粒子
346	土師器／鉢	口縁部～胴部	−/−/−/−/−	風化／風化、ヨコナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	橙色	5YR7/8	荒い、1～3mm前後の粒子
347	土師器／高坏	坏部	−/−/−/−/−	ヨコナデ、ヨコ・ナナメハケ／ヘラ磨き	明黄褐色	10YR6/6	浅黄橙色	10YR8/6	細かい、白雲母混入
348	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヨコハケ／風化	黄橙色	7.5YR7/8	橙色	5YR7/8	細かい、白雲母・金雲母混入
349	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/6	細かい

7号住居跡

351	土師器／甕	1／2	(24.3)/−/−/23.6/−	横・斜め方向叩き／ヨコナデ、ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	橙色	2.5YR7/8	荒い、2～4mm前後の粒子多量
352	土師器／甕	底部	−/3.3/−/−/−	横・斜め方向叩き／ヨコナデ、ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	橙色	2.5YR7/8	荒い、2～4mm前後の粒子多量
353	土師器／甕	1／2	(21.2)/4.0/−/(18.4)/26.0	ヨコナデ、横・縦方向叩き／ヨコナデ、ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	浅黄橙色	10YR8/4	荒い、1～3mm前後の粒子
354	土師器／甕	完形	30.1/−/−/30.8/38.1	ヨコナデ、斜め方向叩き／ヨコナデ、ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/6	浅黄橙色	7.5YR8/4	荒い、1～3mm前後の粒子
355	土師器／甕	口縁部～胴部	(22.0)/−/−/(18.0)/−	ヨコナデ、横・縦方向叩き／ヨコナデ、ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	橙色	2.5YR7/8	荒い、1～3mm前後の粒子多量
356	土師器／甕	胴部～底部	−/1.9/−/−/−	斜め方向叩き／ナデ	明褐灰色	7.5YR7/2	にぶい橙色	7.5YR7/3	荒い、1～3mm前後の粒子多量
357	土師器／甕	底部	−/3.5/−/−/−	斜め方向叩き／ナデ	にぶい橙色	10YR7/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、1～3mm前後の粒子
358	土師器／甕	〃	−/2.1/−/−/−	ナデ／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	褐灰色	7.5YR5/1	荒い、1～2mm前後の粒子
359	土師器／壺	口縁部	−/−/−/−/−	横方向ハケ目／風化	橙色	2.5YR6/8	橙色	2.5YR6/8	荒い、1～4mm前後の粒子
360	土師器／小型丸底壺	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	少し荒い、1mm前後の粒子
361	土師器／小型丸底壺	完形	8.7/3.5/−/−/9.7	風化、ヘラ磨き／ヨコハケ、ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	にぶい橙色	7.5YR7/4	荒い、1～2mm前後の粒子多量
362	土師器／鉢	完形	8.8/3.3/−/−/5.45	風化／風化	橙色	5YR7/8	橙色	5YR6/8	細かい
363	土師器／高坏	坏部～脚部	17.2/−/−/−/−	ヘラ磨き、タテハケ／ヨコナデ、ヘラ磨き	橙色	7.5Y7/6	橙色	7.5Y7/6	細かい、白雲母混入
364	土師器／高坏	坏部	11.5/−/−/−/−	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	少し荒い、1mm前後の粒子
365	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	風化／風化	浅黄橙色	7.5YR8/6	にぶい橙色	7.5YR7/4	細かい、白雲母多量混入
366	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	風化／風化	橙色	5YR7/8	橙色	5YR7/8	細かい
367	土師器／高坏	脚部	−/−/13.4/−/−	ヘラ磨き／ヘラ磨き、ヨコハケ	橙色	5YR7/6	明黄褐色	10YR7/6	細かい、白雲母多量混入
368	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ヨコナデ	淡黄色	5YR8/6	淡黄色	5YR8/6	細かい、白雲母混入
369	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ヨコハケ、ヘラ磨き	にぶい赤褐色	5YR5/4	にぶい橙色	7.5YR7/4	細かい、白雲母多量混入
390	須恵器／甕	胴部	−/−/−/−/−	叩き／叩き	暗灰色	N3/	黄灰色	2.5Y5/1	細かい、白雲母混入

8号住居跡

372	土師器／甕	完形	13.4/3.3/−/−/14.3	ヨコ・ナナメハケ／ヨコ・ナナメハケ	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3	荒い、1～3mm前後の粒子
373	土師器／甕	胴部～底部	−/−/−/−/−	風化／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/6	にぶい黄橙色	10YR7/2	荒い、1～3mm前後の粒子
374	土師器／甕	〃	−/(10.5)/−/−/−	横方向叩き、ナデ／風化	灰白色	10YR8/2	橙色	2.5YR7/6	荒い、1～3mm前後の粒子
375	土師器／甕	底部	−/4.2/−/−/−	ナデ／ナナメハケ、ナデ	にぶい橙色	7.5YR7/4	にぶい黄橙色	10YR7/3	荒い、1～3mm前後の粒子
376	土師器／高坏	脚部	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ナデ	橙色	5YR7/6	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、白雲母混入
377	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヘラ磨き／ナデ	浅黄橙色	7.5YR8/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	細かい、白雲母混入
378	土師器／高坏	〃	−/−/−/−/−	ヨコナデ／ヨコナデ	浅黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	10YR8/3	少し荒い、1mm前後の粒子
379	須恵器／甕	胴部	−/−/−/−/−	叩き／同心円状当て具痕	灰色	N5/	灰色	N5/	細かい、白粒子混入

（　）内の数字は反転復元

石　器

No.	出土地点	出土遺構	器　種	石　材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	備　考
47	第10地点	５号集石	石　鏃	黒曜石	1.5	1.45	0.3	
48	〃	－	敲　石	砂　岩	9	8.8	5.1	
49	〃	－	敲　石	〃	8.7	8.2	3.7	
50	〃	－	敲　石	尾鈴山酸成岩	8.4	8.5	4.7	
51	〃	－	敲　石	〃	8.4	7.5	4.6	
52	第11地点	－	敲　石	砂　岩	9.1	7.6	4.4	
23	第17地点	－	石　錘	頁　岩	7.9	5.7	1.6	
24	〃	－	石　鏃	緑色頁岩	－	2.05	0.25	磨製石鏃
25	〃	－	石　鏃	〃	3.2	1.7	0.2	磨製石鏃
85	第14地点	－	石　鏃	チャート	1.4	1.3	0.25	
86	〃	－	石　鏃	〃	1.8	1.5	0.4	
87	〃	－	敲　石	尾鈴山酸成岩	10.6	8.3	4	
88	〃	－	敲　石	〃	10	8.6	6.4	
89	〃	－	敲　石	砂　岩	10.8	－	6.4	
234	第69地点	－	敲　石	尾鈴山酸成岩	－	9	4.1	
235	〃	－	敲　石	砂　岩	10.2	7.2	4	
236	〃	－	石　鏃	チャート	1.8	1.4	0.3	
237	〃	－	石　鏃	〃	1.3	1.3	0.25	
238	〃	－	石　鏃	〃	1.4	1.1	0.25	
239	〃	－	石　鏃	黒曜石	1.3	1	0.2	
243	〃	２号土壙墓	石　鏃	緑色頁岩	2.7	2.15	0.2	
329	第81地点	５号住居跡	磨製石包丁	頁　岩	6.1	3.1	0.4	
330	〃	〃	砥　石	砂　岩	23.4	12.4	9.1	
350	〃	６号住居跡	打製石包丁	頁　岩	6	4.4	1.3	
371	〃	７号住居跡	紡錘車	砂　岩	5.6	5.6	1.2	

第V章　ま　と　め

縄文時代の遺構・遺物について

今回の調査で、最古の時期のものとして、第10・11・14・65・69地点から集石遺構や焼礫群、そして縄文土器等を検出した。これまでには、新立遺跡[1]をはじめ西都原地区遺跡[2]（１号支線道路・２号小道路・23号支線道路・E区）からも同様の遺構や遺物を検出している。

集石遺構は、いずれも拳大の礫を0.62～1.62mの範囲に集積させているが、掘込みを有するものと有しないもの、さらに、掘込みを有するものは底面に配石を有するものと有しないものに分類される。なお、配石には花弁状のものが含まれる。この集石遺構の使用目的は、形態や礫が焼けて赤く変色していること、炭化物が検出されることから、調理用の石蒸炉と考えられ、焼礫は礫の散乱状況から廃棄礫と思われる。

これらの遺構からは、あまり共伴して遺物が出土していないが、周辺からは土器や石器が出土している。第10･11地点からは押型文土器と無文土器、第14・69地点からは貝殻条痕文系土器と無文土器が出土しているが、特に押型文土器が主体を成して出土しているのは西都原台地では極めて珍しい。その他、第14・69地点をはじめ新立遺跡・西都原地区遺跡（１号支線道路・２号小道路・23号支線道路・E区）等いずれも貝殻条痕文系土器が主体を成して出土している。

押型文土器は、山形押型文と楕円押型文、そして、わずかに格子目の押型文が含まれている。形式に当てはめると施文が細かく丁寧で、原体条痕を使用しているものが田村式、大まかで雑なものがヤトコロ式に相当するものと思われる。これらは押型文土器でも比較的新しいもので、早期でも中葉から後葉に位置づけされている。

一方、貝殻条痕文系土器は文様や施文方法等が前平式土器や吉田式土器に類似しているのが出土しており、今回の調査ではないが、新立遺跡からは吉田式土器の特徴であるクサビ形突帯を有するものも出土している。この前平式や吉田式土器は早期でも前葉に位置づけされているもので、いずれにしても、本地域は他地域との交流や影響を受けながら、生活の適地として営まれていたことが窺える。

また、今回の調査で、縄文時代晩期頃の住居跡を検出することができた。第69地点から検出した円形プランの住居跡であるが、共伴遺物の特徴から縄文晩期と判断した。いずれにしても、わずかに１軒のみの検出であるが、西都原では初めての検出例であり、時代の空白を埋めることのできる貴重な資料となった。

弥生時代の遺構・遺物について

弥生時代の遺構としては、竪穴式住居跡と土壙墓等を検出している。中でも、竪穴式住居跡は８地点で９軒検出している。

これら各住居跡からは多くの遺物が出土しているが、そのほとんどが土器で、器種としては甕が主体を成し、その他壺や高坏・鉢・器台等が含まれている。この中で、甕を形態で大まかに分類すると、口縁部が逆「L」字状を呈し胴部に突帯を有しているもの、口縁部が「く」字状を呈し突帯を有するものと有しないもの、口縁部が直線的で刻目突帯を有しているものに分かれる。さらに、口縁部が「く」字状を呈し突帯を有するものは、その突帯に刻目を有しているものと有しないものに分かれる。この中で、口縁部が直線的で刻目突帯を有しているものはいわゆる下城式系の甕で、口縁部が逆「L」

字状で突帯を有する甕と鋤先状口縁で胴部に突帯を有する壺と共伴関係にある場合が多く、西都市のこれまでの調査でも２号小道路（西都原地区遺跡）等からかなりの量が出土している。

壺は量的には少ないものの、口縁部が特徴的で、鋤先状を呈しているもの、長く内湾しながら延びているもの、「く」字状を呈しているもの、二重口縁を呈しているものに分類できる。この中で、第65地点から出土している鋸歯状の沈線が施された鋤先状口縁の壺（164）と凹線が施された壺（163）のセットは新田原遺跡[3]４号住居跡（新富町）から出土している。ちなみに、新田原遺跡は弥生中期末から後期初頭に位置づけられているが、第65地点の住居跡は後期に比定される。その他、形態的に胴部上や最大幅部分に突帯を有しているものや、円形浮文を有しているものも含まれているが、これは鋤先状口縁壺の胴部と思われる。

一方、これらとは別に特徴的なものも存在している。第39地点の123は壺としたが胴部以下が出土しておらず、断定できない。同じ壺で八幡上遺跡[4]10号住居跡（新富町）から出土しているものは、口縁部は破損しているが、胴上部に同じような施文具で文様が描かれている。いずれにしても、見た目ではかなり異様であり、特別な場合のみ使用されたのかもしれない。また、第65地点の166・167は鉢の底部であるが、底面積が広く、方形状に立ち上がっている。器厚が薄く、丁寧なヨコハケ調整が施されている。これまでに見られないタイプのものである。そして、第60地点の147は器台であるが、銀代ケ迫遺跡[5]（新富町）、下那珂遺跡[6]（佐土原町）等から出土しているが、形態的には銀代ケ迫遺跡の方に近く、下那珂遺跡のようには直径が広く、底部及び口縁部は広がらない。しかし、円孔を有している点では下那珂遺跡の器台ではないが、高坏の施文方法と同じである。

このように、全く同じものはないが、他地域との類似点もかなり有している。さらに、今回の出土遺物の中には外来系の影響を受けているものもあり、他地域とも交流し、影響を受けながら在地型の土器として変化していったものと思われる。

これらの遺物については、形態の特徴や共伴関係等を、編年の指標としてきた石川悦雄氏の「宮崎平野における弥生土器編年試案[7]」を基に、これまで検出してきた同遺跡の遺物とも照らし合わせながら各住居跡の時期比定を行った。

プラン的には方形あるいは長方形で、規模的には長軸が4.5mから6.0m前後のものがほとんどで、中には3.36m（第62地点）のものや7.50m（第74地点）とかなり大きなものもある。また、内側に向かって突出壁（第24・65地点）や外側に張出し（第65・74地点）を有しているものある。これらは間仕切り住居と呼ばれている範囲に含まれるものであるが、西都原台地の東方、一ッ瀬川を隔てた対岸の台地上の緑ケ丘遺跡[9]（西都市）、新田原遺跡、八幡上遺跡等からは花弁状の間仕切り住居（花弁状間仕切り住居）が検出されている。西都原では検出されていないことから、その影響を受けていないのか、まだ検出できないのかわからないが興味ある問題である。

また、これら住居跡は単独で遺存している例が多く、まとまって検出しているのは第65地点の３軒のみで、遺構密度としてはかなり低いと考えられる。それが、弥生時代終末から古墳時代初頭にはまとまって検出されるようになり、規模も長軸が7.0mを超える大きな住居跡が確認できるようになる。この頃からかなりの人が流入し、生活が豊かになってきたことを示しているものと思われる。

第81地点の住居跡群について

第81地点の北側に隣接して道路が東西に延びている。この道路はすでに調査され整備は完了しているが、その際に拡幅された部分だけであったが330㎡の範囲内に21軒もの住居跡を検出した。単独で

遺存しているものは少なく、３～６軒が重複していた。また、北側畑地一帯でも耕した後に黒い方形のプランをいくつも確認できる。この地点の南西約10mにあたる畑地が第81地点であるが、この畑地の半分から南側では竪穴式住居跡を全く確認することができなかった。つまり、北側はどこまで範囲が広がっているのかはっきりしないが、第81地点は本地域一帯に想定される大集落跡の南西端に当たるではないかと推定される。

この第81号地点からは、９軒の竪穴式住居跡を検出した。この中で、６号～８号住居跡は重複しており、まず、その相互関係の把握に努めた。掘削前の切り合い関係では、６号住居跡が一番古く、次に８号住居跡、そして７号住居跡であることが見て取れた。それは、土層からも同じような状況が確認できることから、相互関係は間違いないと思われる。よって、６号→８号→７号という相互関係が成り立つ。それぞれの住居跡から出土した土器を見てみると、６号住居跡からは小片ではあるが甕、そして、二重口縁壺や大きく外反した口縁部を持つ壺、また、算盤球のように胴部が膨らんだ壺等が出土している。その他、コップ状のものや口縁部が「く」字状に開いた鉢等も出土している。７号住居跡は、甕が多く出土しており、口縁部が「く」字状に外反するものと、その外反度が少ないものとに分類される。さらに、口縁部が「く」字状に外反する甕は、胴上部に最大幅をもつものと胴部中央に最大幅をもつものに細分される。器形的にはスマートで、均整のとれた甕が含まれている。その他、高坏や小型丸底壺等が出土している。８号住居跡は量的には少なく、甕や高台付の鉢等が出土している。以上がそれぞれの住居跡から出土したものであるが、比較できる器種に乏しく、前後関係を把握することは厳しい。そこで、それぞれを他地域の土器と比較すると、６号住居跡が古墳時代前期前半、７号住居跡が前期後半、８号住居跡が前期後半前葉と推定される。

その他の住居跡について、土器の形態や構成等を考慮して推察すると、１号住居跡が古墳時代前期前半、２号・３号住居跡が中期前半、４号住居跡が８世紀前半、５号住居跡が中期前半のものと推定される。

これらの遺構・遺物を27号支線道路と比較してみると、３号住居跡を除いて全体的に土器形態は酷似しているものが多い。近接しており、同じ集落内に位置する関係にあるからと思われる。この27支線道路の住居跡群は、古墳時代前期前半から前期後半に比定しており、比較的短い期間営まれた集落であると判断した。

その他、第81地点に類似する土器を出土する遺跡に西都原では新立遺跡・周辺地域では八幡上遺跡・銀代ケ迫遺跡等がある。

新立遺跡から出土した土器を比較すると、甕は類似しているものも含まれるが、全体的に外反度合が大きく、壺も直口した口縁部のものはほとんど見られない。また、壺の胴部も球状のものよりも弾丸状のものが多い。その他、小型丸底壺でも新立遺跡のものは、口縁部が大きく開く古いタイプのものが含まれているなど、若干の土器形態の相違が見受けられる。時期的には弥生時代終末から古墳時代初頭に位置づけている。

また、形態的には八幡上遺跡１号・３号住居跡、銀代ケ迫遺跡１号住居跡から出土している甕や壺等が類似している。時期的には４世紀後半から５世紀前半に比定されている。

このようなことを踏まえながら考察すると、本地点の住居跡群は新立遺跡の新しい時期から八幡上遺跡・銀代ケ迫遺跡と同時期、つまり、古墳時代初頭から中期前半を中心に営まれた集落跡であると思われる。

最後に、本地点を含め弥生時代終末から古墳時代前半頃には遺構密度が全体的に非常に高くなって

いる。この頃になるとかなりの人たちが流入し大集落が形成され、生活環境が変化したと同時に繁栄したことがこのことからも理解できる。

掘立柱建物跡について

今回の調査で、第26・52・72地点の３箇所から検出している。特に第26地点からは９軒もの掘立柱建物跡を検出している。残念なのは、柱穴から遺物がほとんど出土しておらず、建物自体は重複しているのに時期及び相互関係を確実に特定できないことである。その他の柱穴や遺構等から判断すると16世紀頃のものと推定される。遺物としては、青磁盤や白磁椀などをはじめとする輸入陶磁器が出土している。さらに、吉祥字の入った染付皿等も出土しているが、青磁盤を含め市内の穂北城跡から出土したものと類似している。穂北城跡[8]は、中世期に日向一円を支配した伊東氏（本城は都於郡城）の支城であり、この時期は都於郡10代城主伊東三位入道義祐の全盛期に相当する時代で、特に南方貿易に尽力した結果、貴重な中国陶磁器が流入したと推察[9]されており、このような観点・関連性からも注目される。

このように、各時代に応じて影響を受けながら様々な様相を呈し、文化をもつ西都原、今回の調査によって少しずつ解明されてはきているものの、まだまだ未解明で謎の部分が多いのが現状であり、これからも、さらに検討を加え、解明していかなければならないと思われる。

註

(1) 西都市教育委員会「新立遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第18集　1992
(2) 西都市教育委員会「西都原地区遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第22集　1996
(3) 新富町教育委員会「新田原遺跡」『新富町文化財調査報告書』第4集　1986
(4) 新富町教育委員会「八幡上遺跡」『新富町文化財調査報告書』第13集 1992
(5) 新富町教育委員会「銀代ヶ迫遺跡」『新富町文化財調査報告書』第13集　1992
(6) 宮崎県総合博物館「下那珂貝塚」『埋蔵文化財調査報告書』II　1988
(7) 石川悦雄が「宮崎平野における弥生土器編年試案―素描（ＭＫII）『宮崎考古』第９号　1984の中で、６期12小期に分類している。
(8) 西都市教育委員会「穂北城跡・三納城跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第24集　1996
(9) 西都市教育委員会「都於郡城址本丸跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第５集　1998　の中で、日高正晴氏が推察されている。

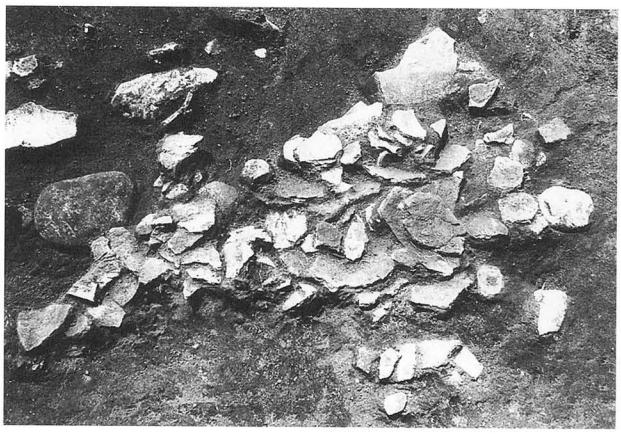
１．西都原地区遺跡全景（真上より）

２．西都原地区遺跡全景（北より）

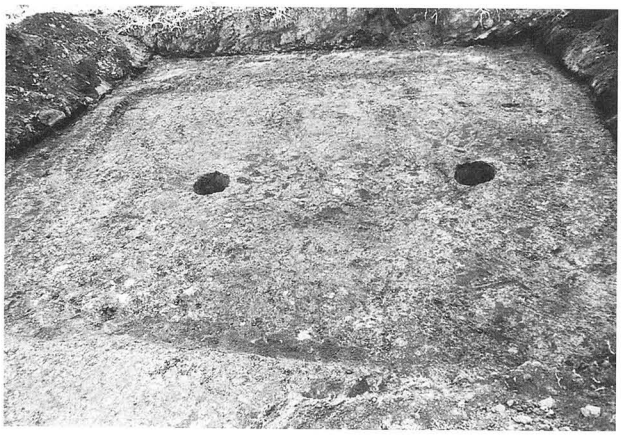
図版２

３．トレンチ内調査状況（第１地点）

４．サブトレンチ内調査状況（第１地点）

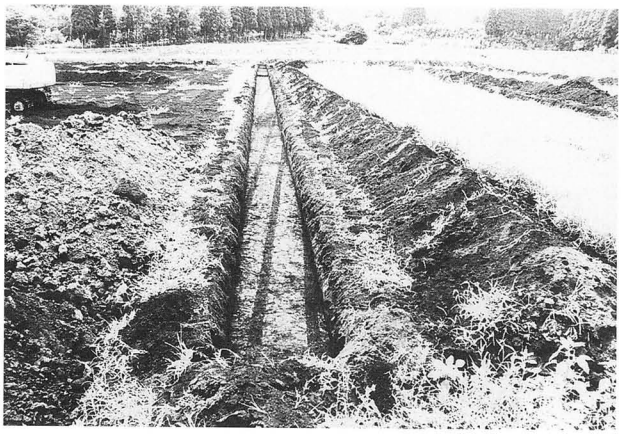


５．第８地点住居跡内遺物出土状況

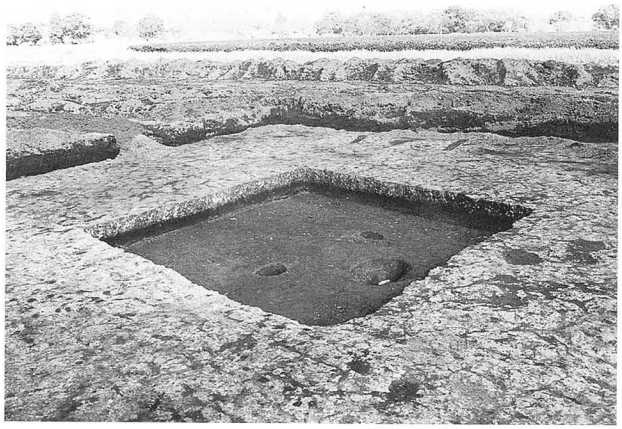


６．第８地点住居跡検出状況

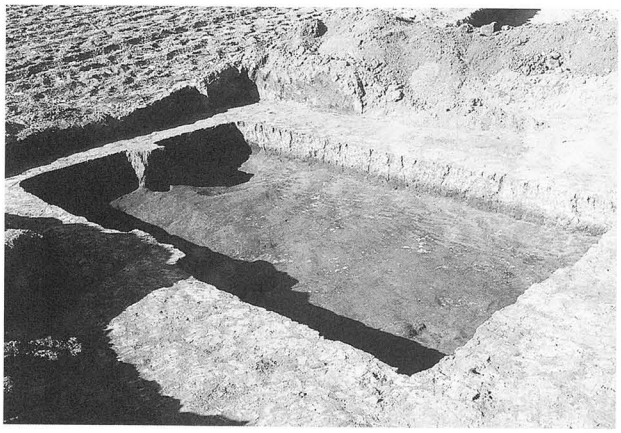
７．西都原遺跡遠景（北より）



８．トレンチ内調査状況（第14地点）

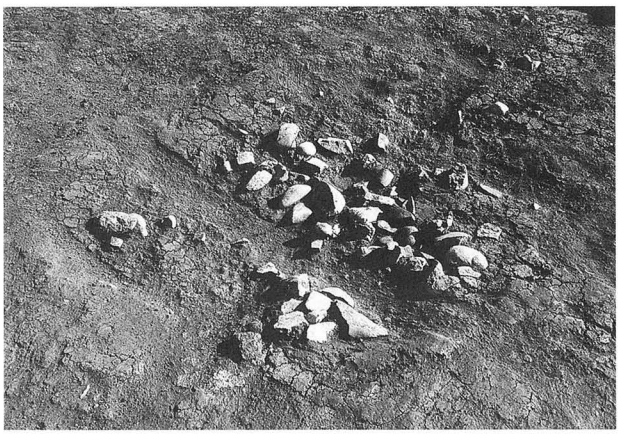


９．第17地点住居跡検出状況



10．第24地点住居跡検出状況

11．第10・11地点遠景（東より）

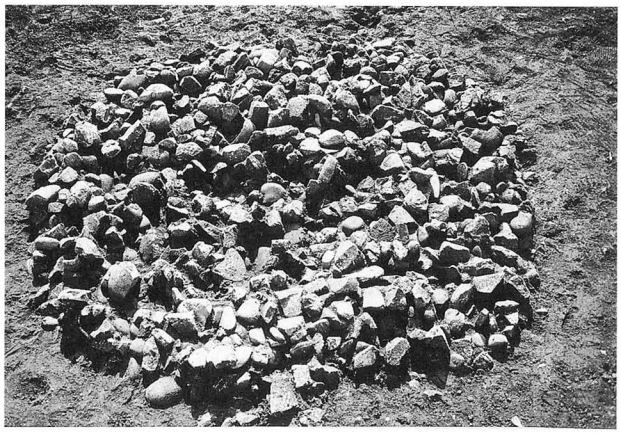


12．第10地点２号集石遺構検出状況

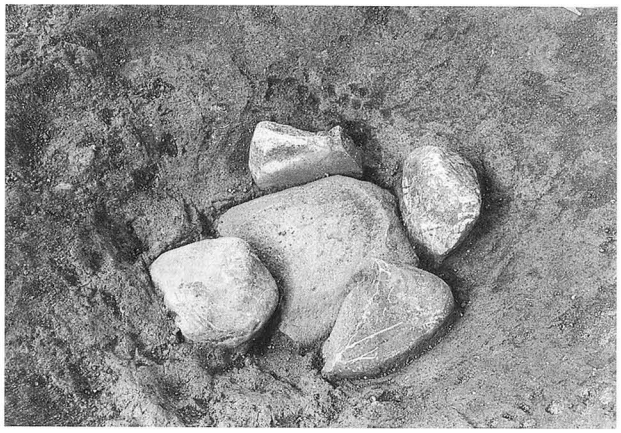
13．第10地点２号集石遺構検出状況

14．第10地点４号集石遺構検出状況

15．第10地点４号集石遺構底面配石検出状況



16．第10地点５号集石遺構検出状況

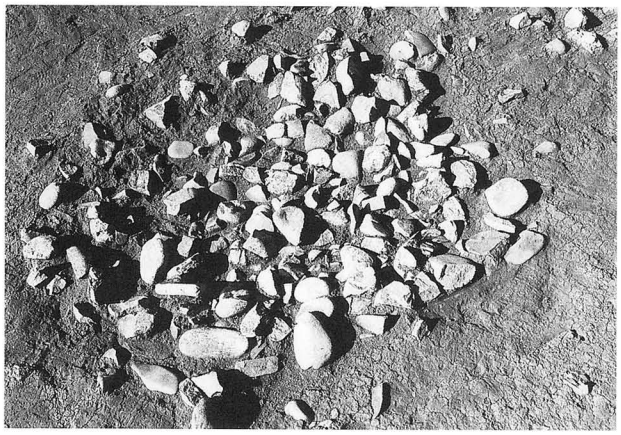


17．第10地点５号集石遺構底面配石検出

18．第10地点６号集石遺構検出状況

19．第10地点６号集石遺構底面配石検出

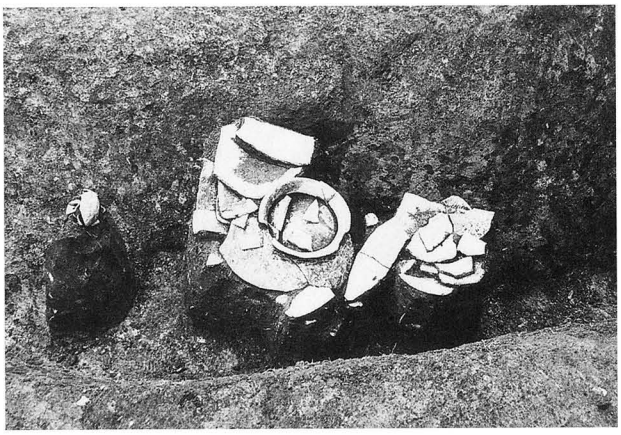
20．第11地点１号集石遺構検出状況



21．第11地点３号集石遺構検出状況

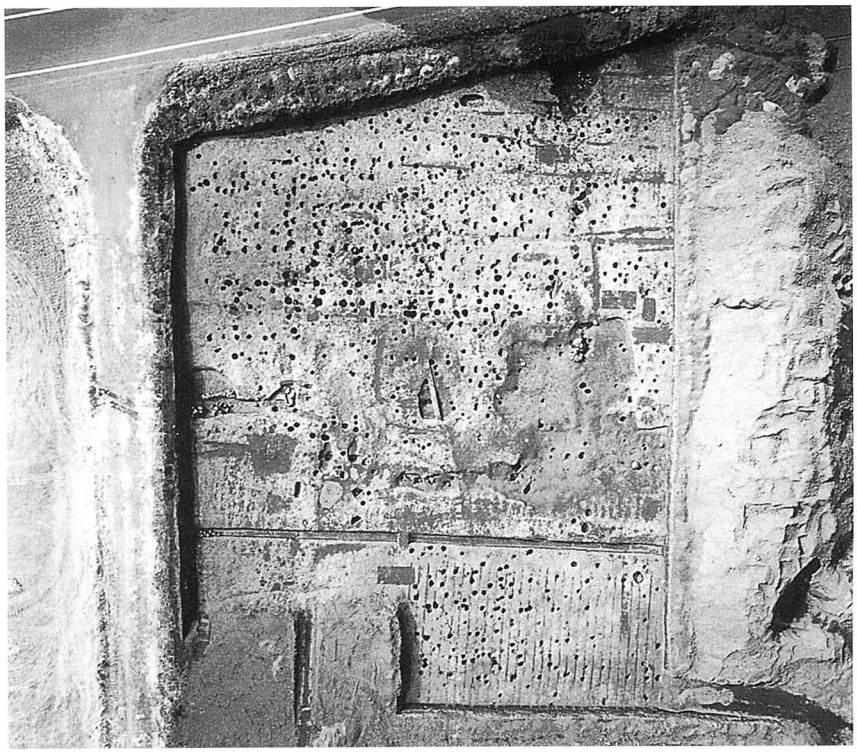
22．第14地点焼礫群検出状況

23．第14地点消失円墳周溝検出状況



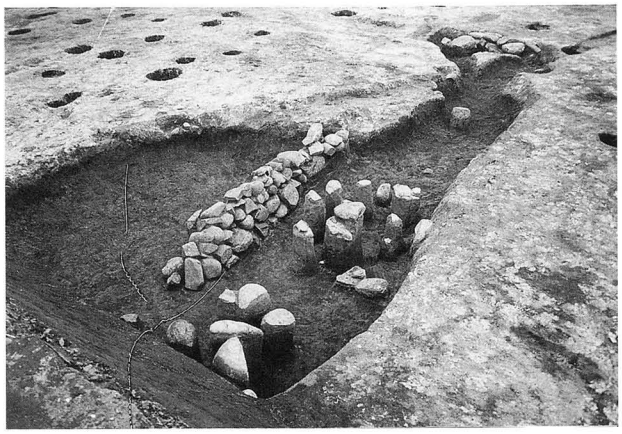
24．第14地点消失円墳周溝内破砕甕出土状況

25．第26地点１～４号掘立柱建物跡検出状況



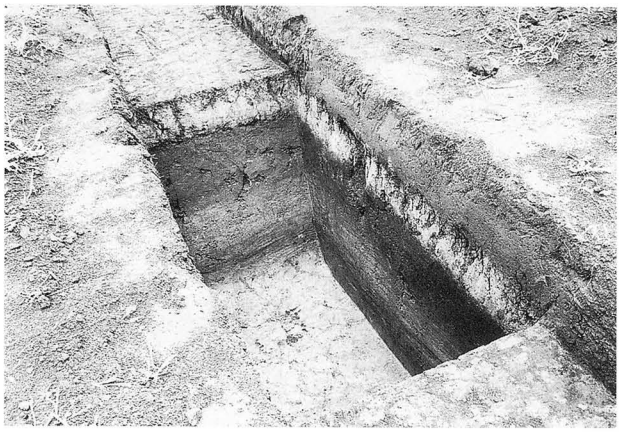
26．第26地点遺構分布状況（真上より）

27．第26地点５・６号掘立柱建物跡検出状況

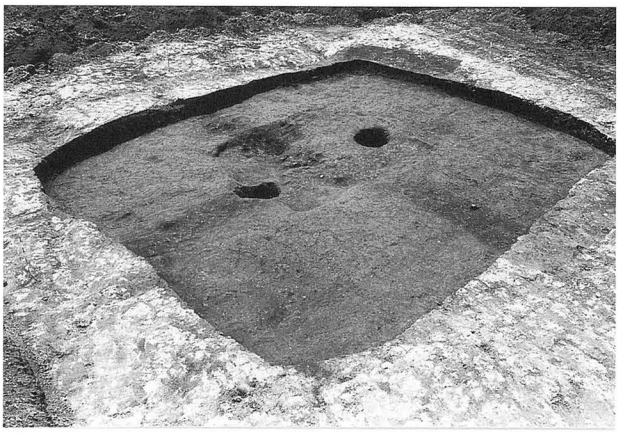


28．第26地点１号土壙墓検出状況

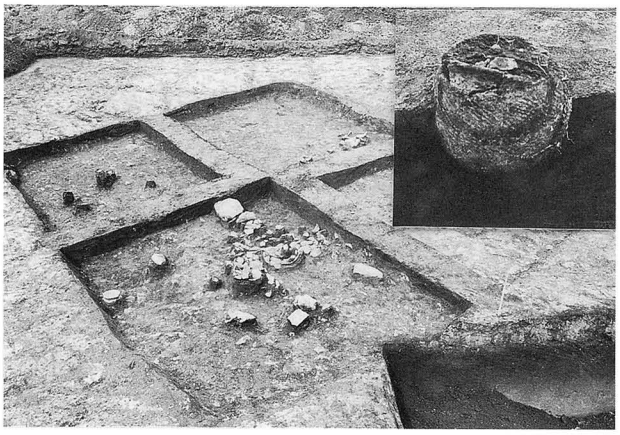
29．トレンチ内調査状況（第38地点）



30．サブトレンチ内調査状況（第38地点）



31．第31地点住居跡検出状況



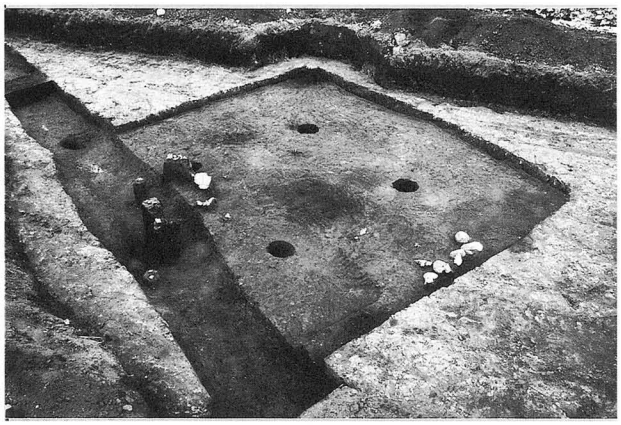
32．第51地点住居跡内遺物出土状況

33．第51地点住居跡検出状況

34．第52地点土壙墓検出状況

35．第52地点土壙墓内遺物出土状況

36．第53地点掘立柱建物跡検出状況



37．第60地点住居跡検出状況

38．第62地点住居跡検出状況

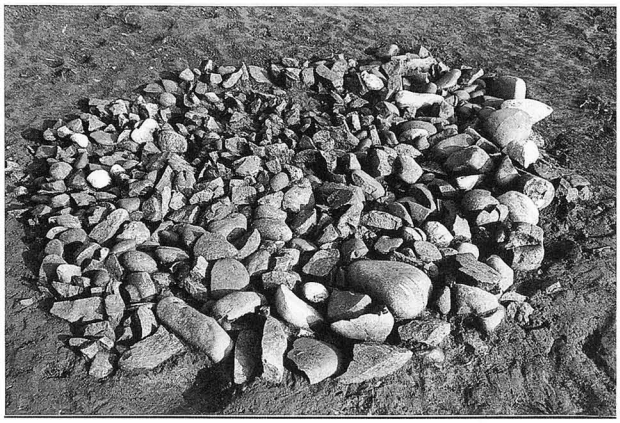
39．第65地点１号集石遺構検出状況

40．第65地点２号集石遺構検出状況

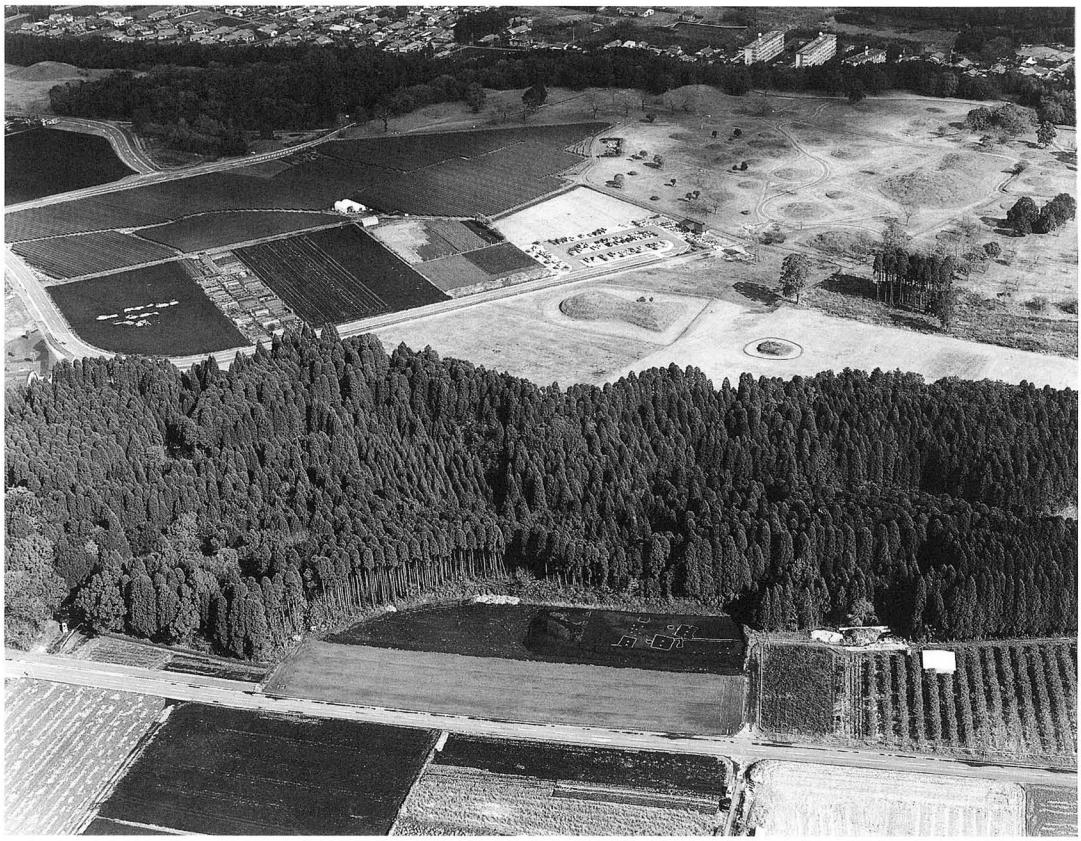
41．第65地点３号集石遺構検出状況

42．第65地点４号集石遺構検出状況

43．第65地点５号集石遺構検出状況

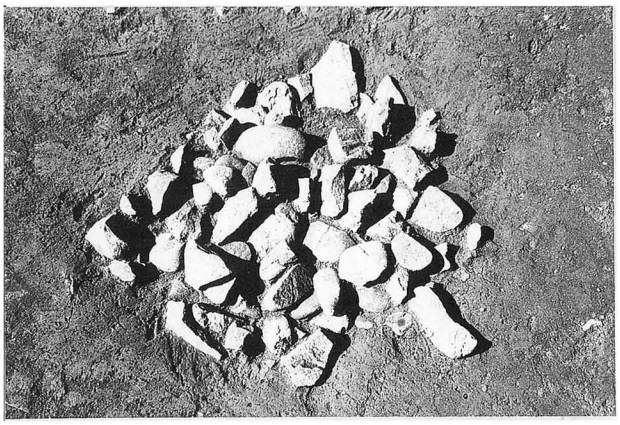


44．第65地点６号集石遺構検出状況



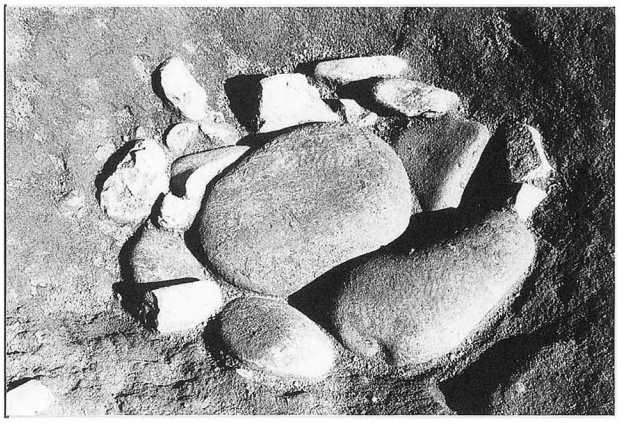
45．第65地点遠景（西より）

46．第65地点遺構分布状況（真上より）

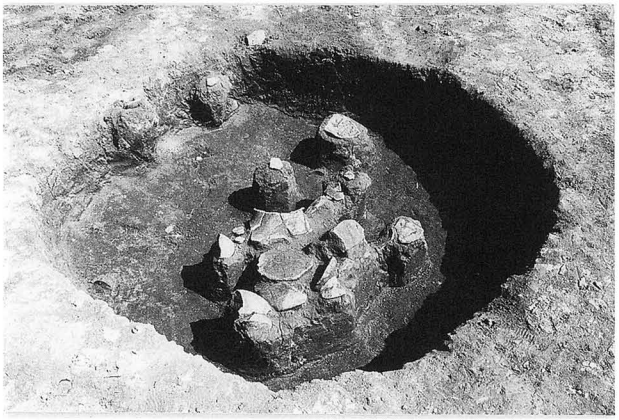


47．第69地点１号集石遺構検出状況

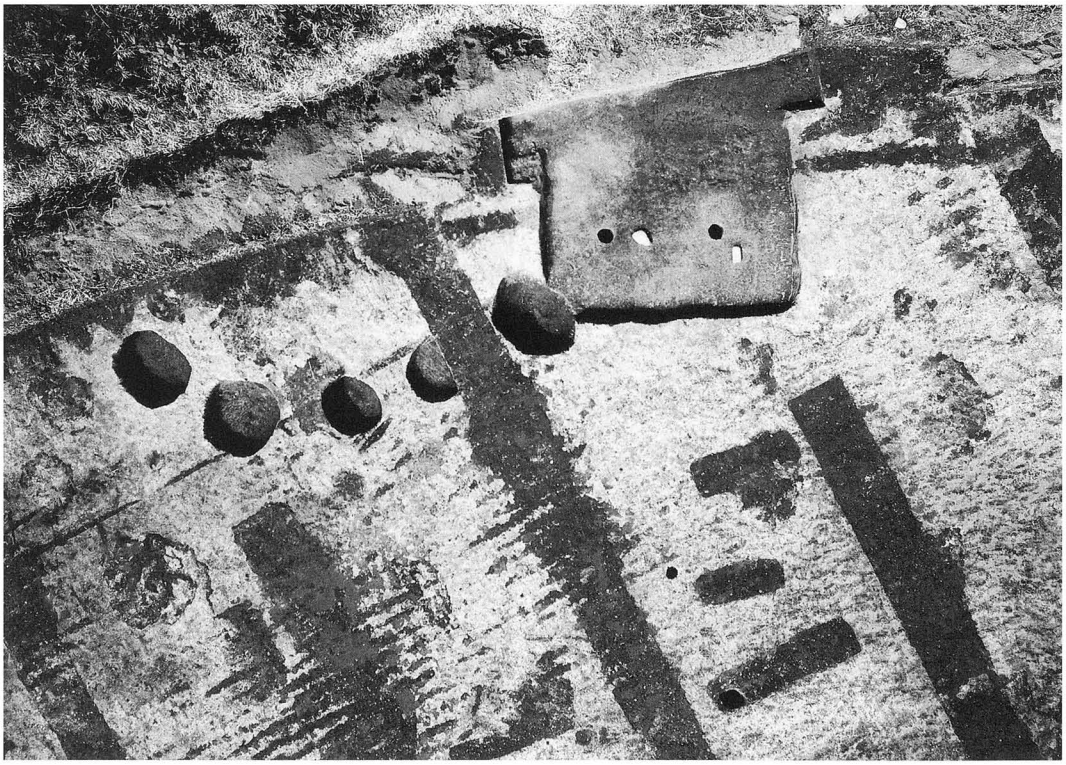
48．第69地点２号集石遺構検出状況



49．第69地点２号集石遺構底面検出状況

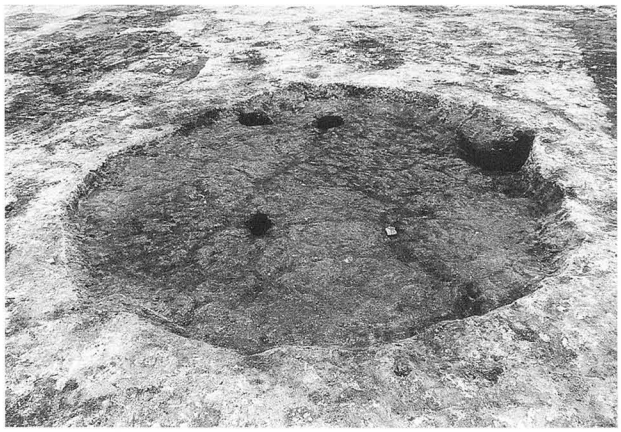


50．第69地点１号土壙検出状況



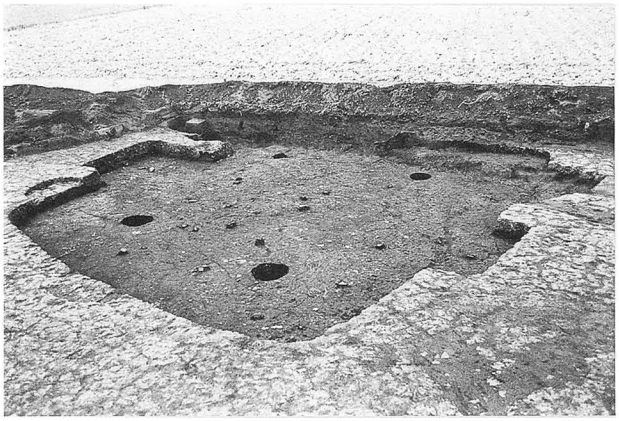
51．第69地点遺構分布状況（真上より）

52．第69地点１号住居跡検出状況

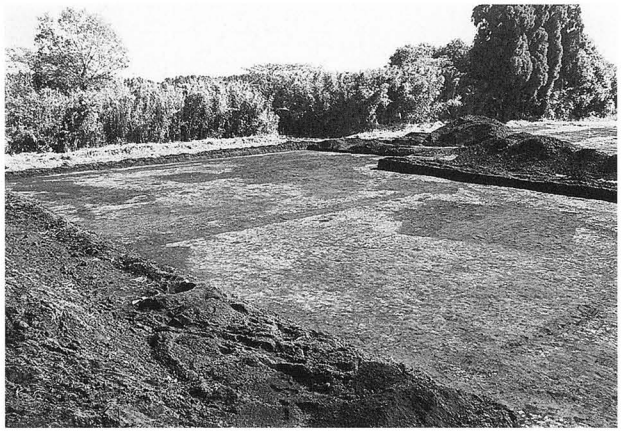


53．第69地点２号住居跡検出状況

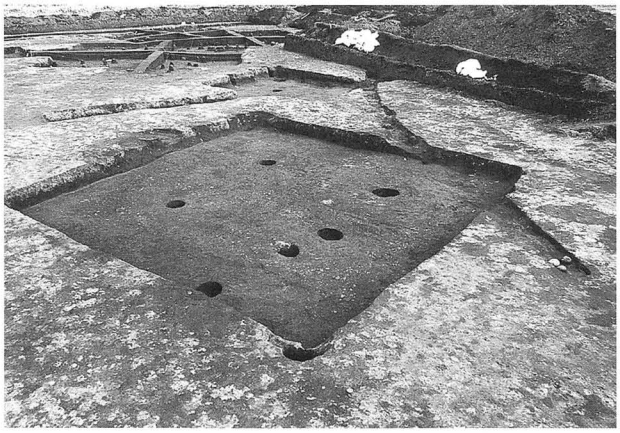
54．第74地点掘立柱建物跡検出状況



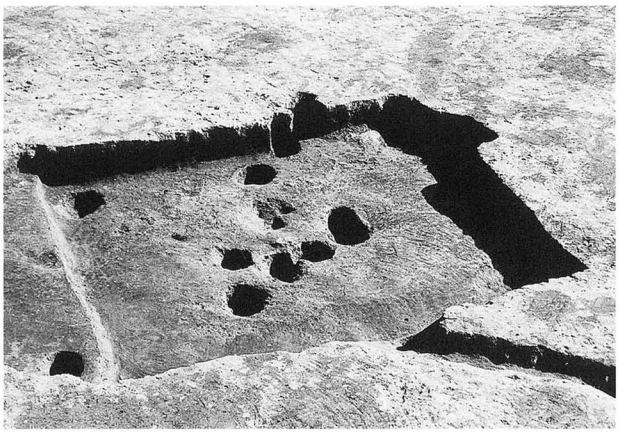
55．第74地点住居跡検出状況



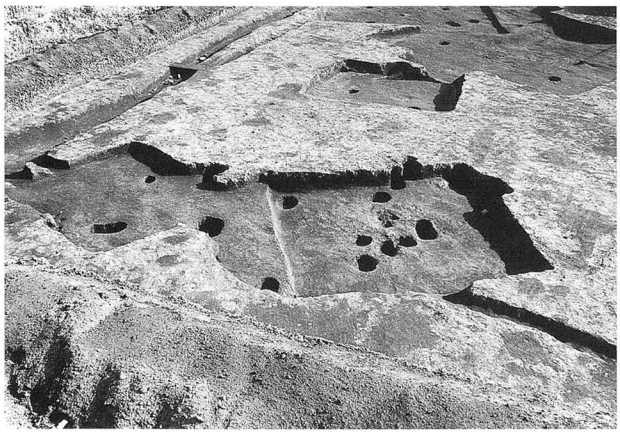
56．第81地点遺構掘削前状況



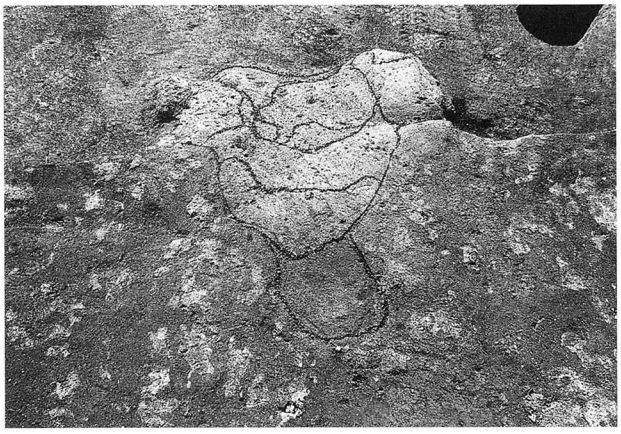
57．第81地点１号住居跡検出状況



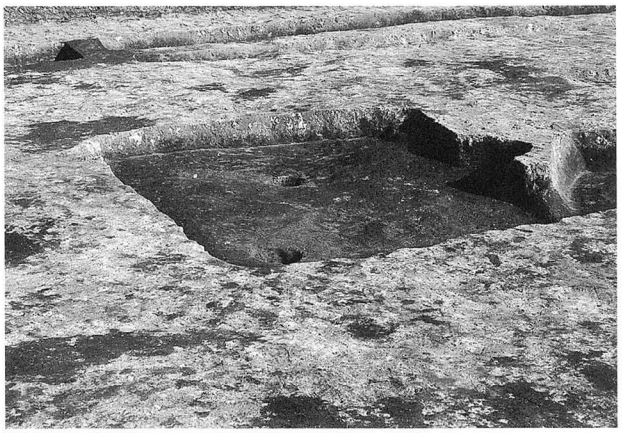
58．第81地点２号住居跡検出状況



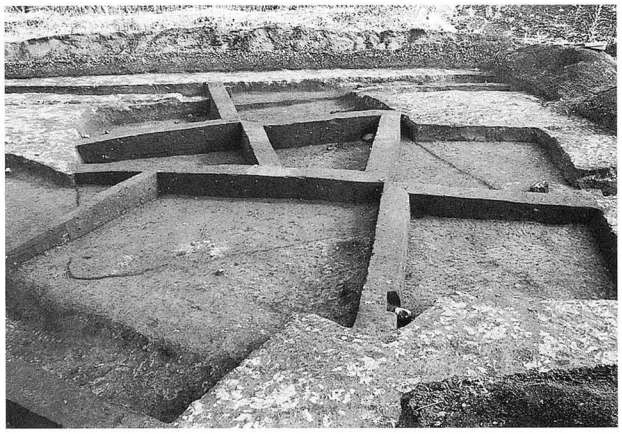
59．第81地点３・４号住居跡検出状況



60．第81地点３号住居跡カマド検出状況

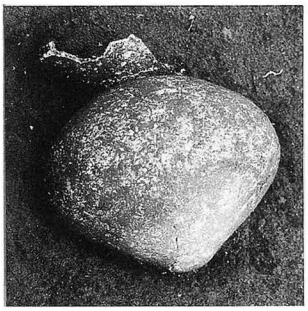


61．第81地点５号住居跡検出状況

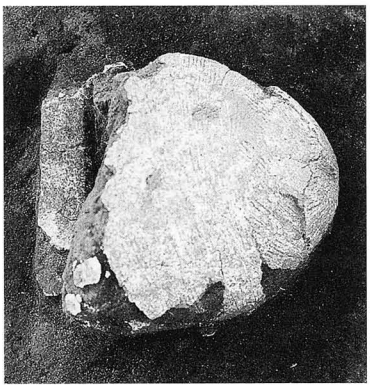


62．第81地点６～８号住居跡検出状況①

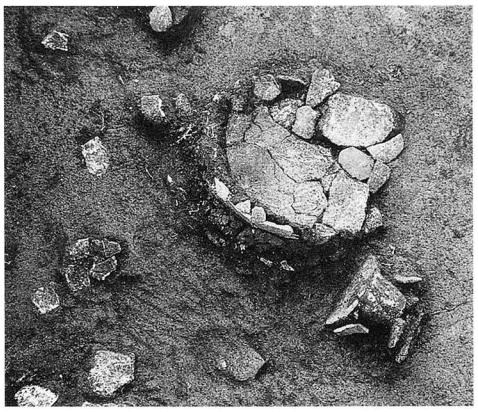
63．第81地点６～８号住居跡検出状況②



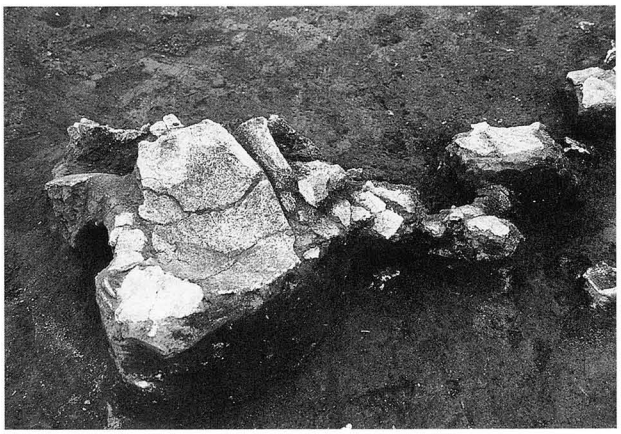
64．６号住居跡遺物出土状況



65．７号住居跡遺物出土状況①

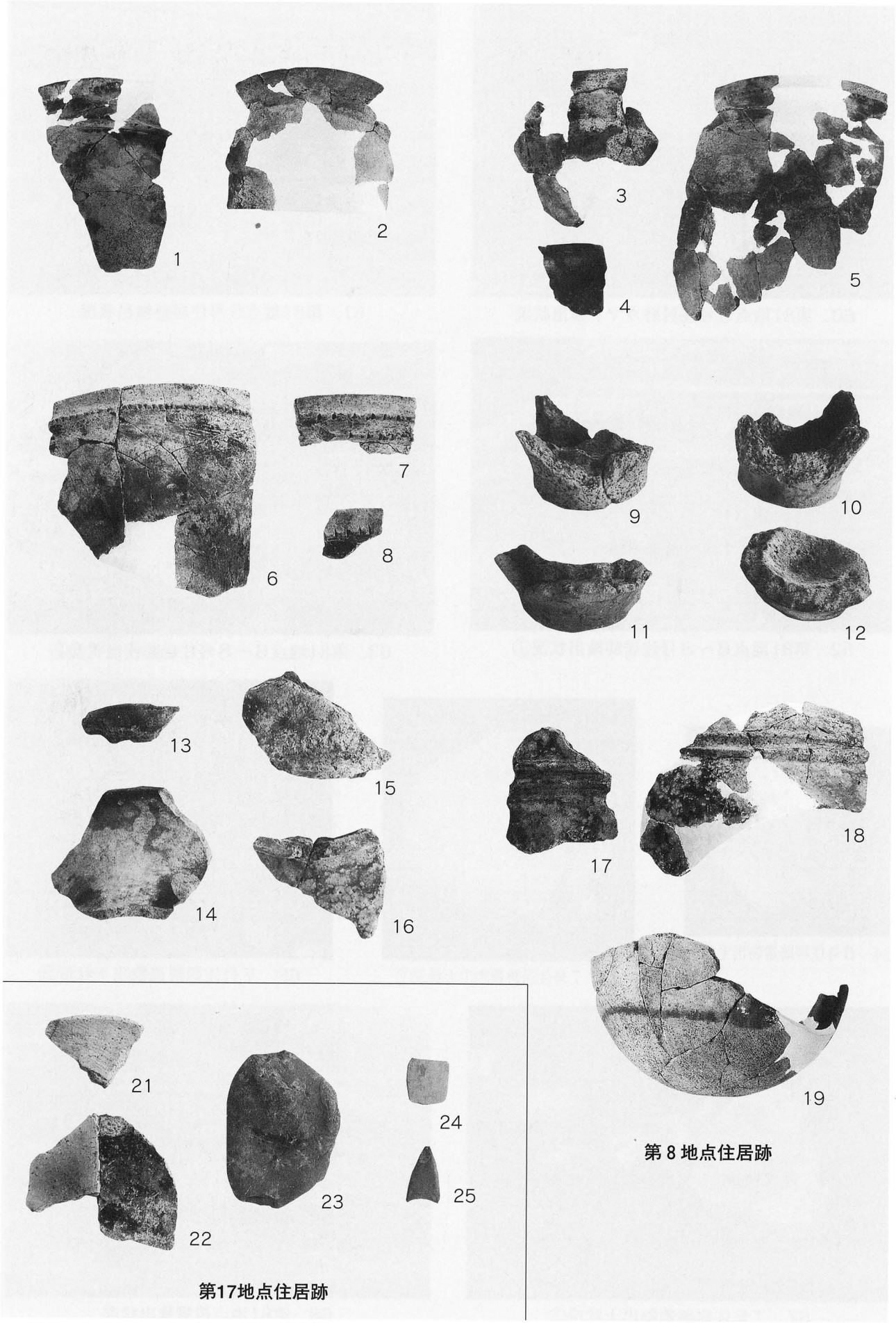


66．７号住居跡遺物出土状況②



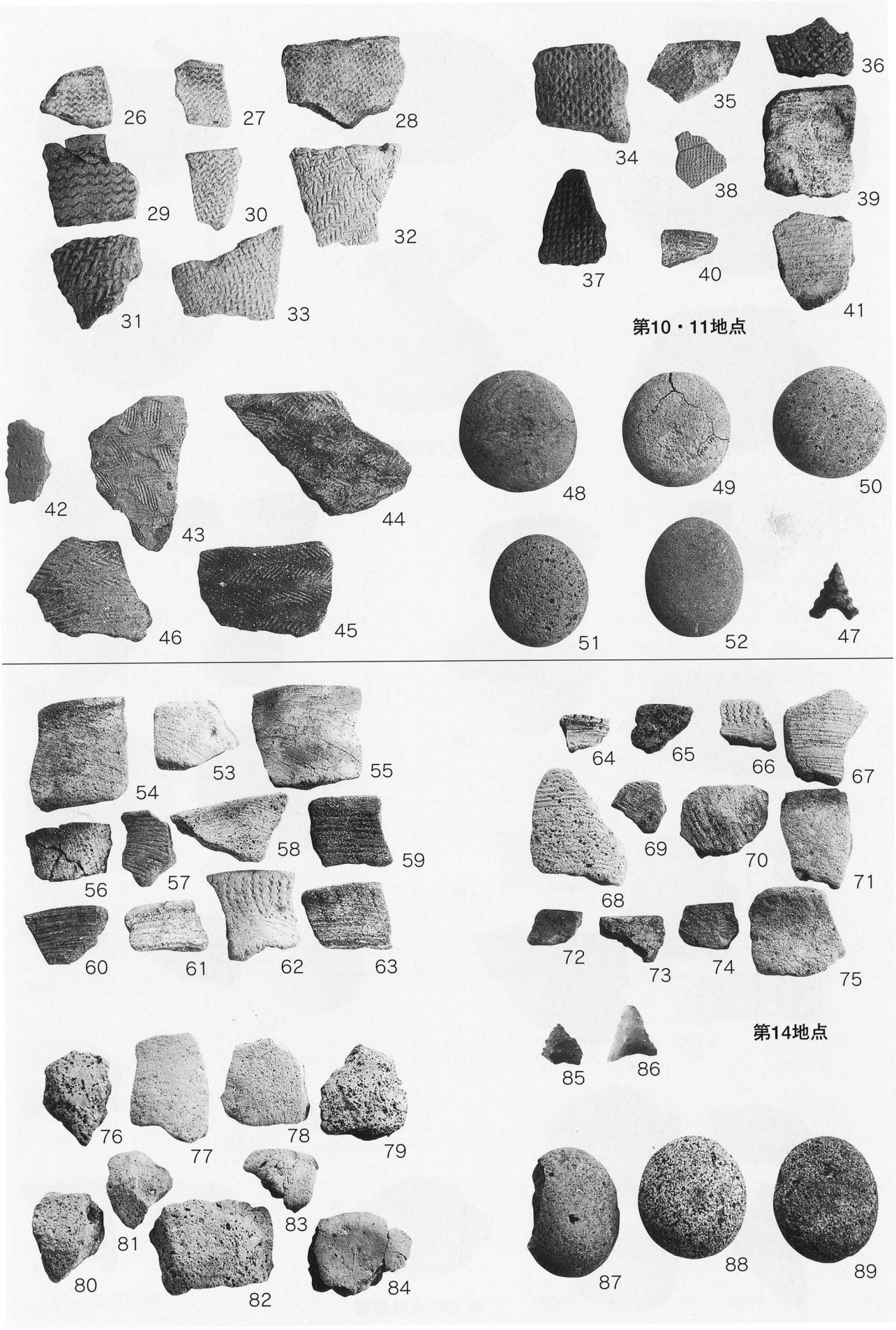
67．７号住居跡遺物出土状況③

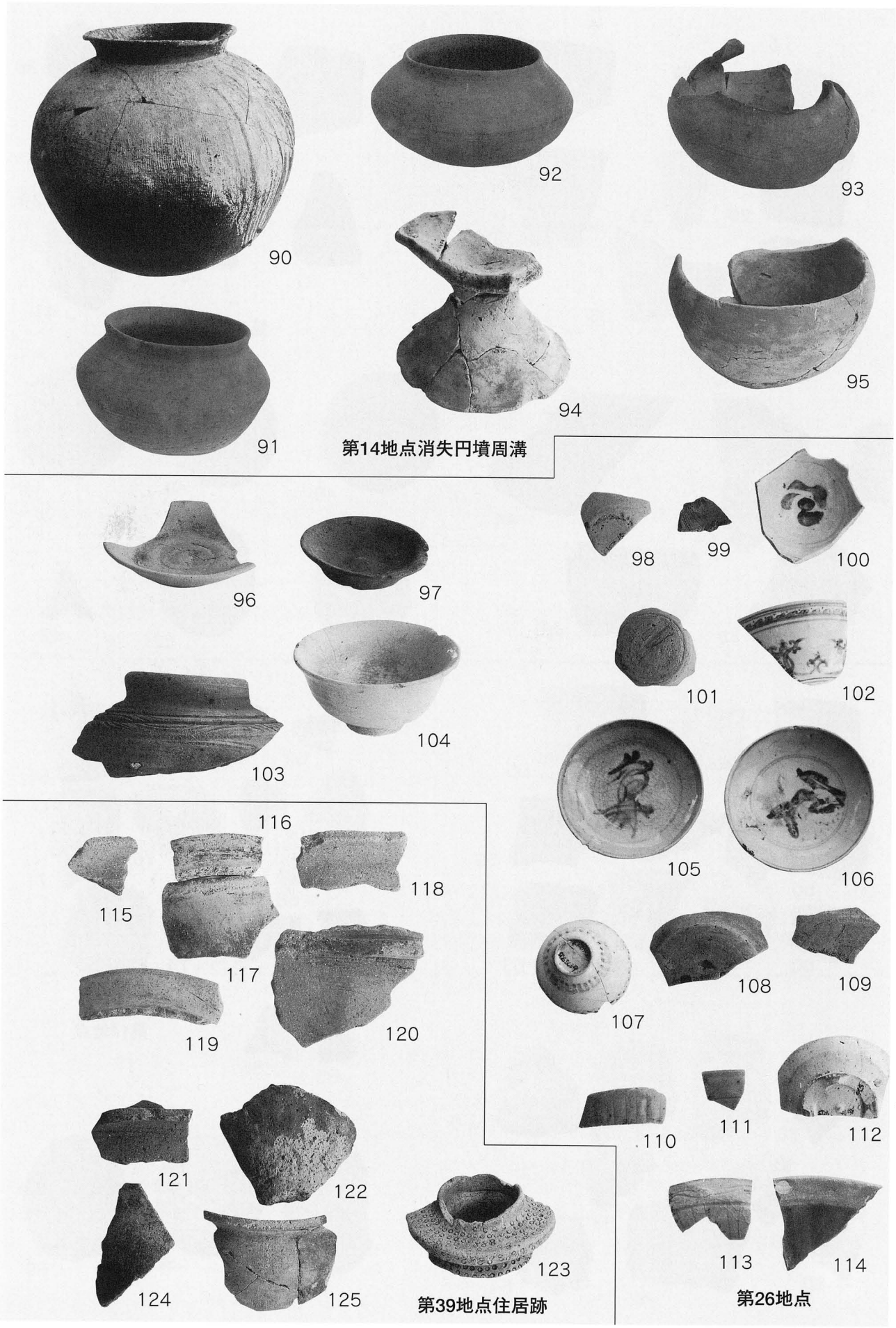
68．第81地点遺構検出状況



第8地点住居跡

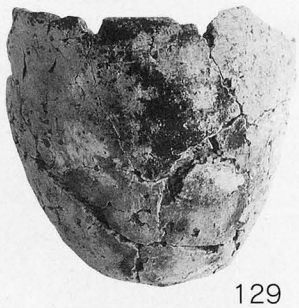
第17地点住居跡

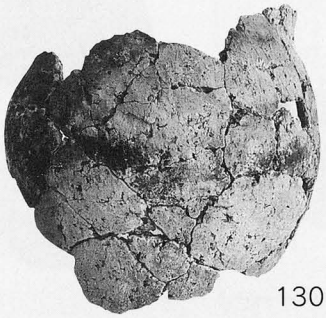

26
27
28
29
30
32
31
33
34
35
36
38
39
37
40
41
第10・11地点
42
43
44
46
45
48
49
50
51
52
47
53
55
54
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
69
70
68
71
72
73
74
75
第14地点
85
86
76
77
78
79
81
83
80
82
84
87
88
89


90
91
92
93
94
95
第14地点消失円墳周溝
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
第39地点住居跡
第26地点

126

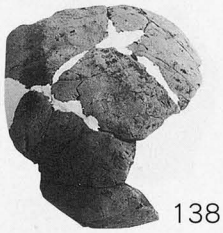
127


129


130

128

137


138

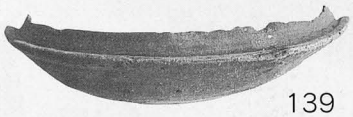
131

132

133

134

135


139

第51地点住居跡

140

141

第52地点土壙墓

142

143

144

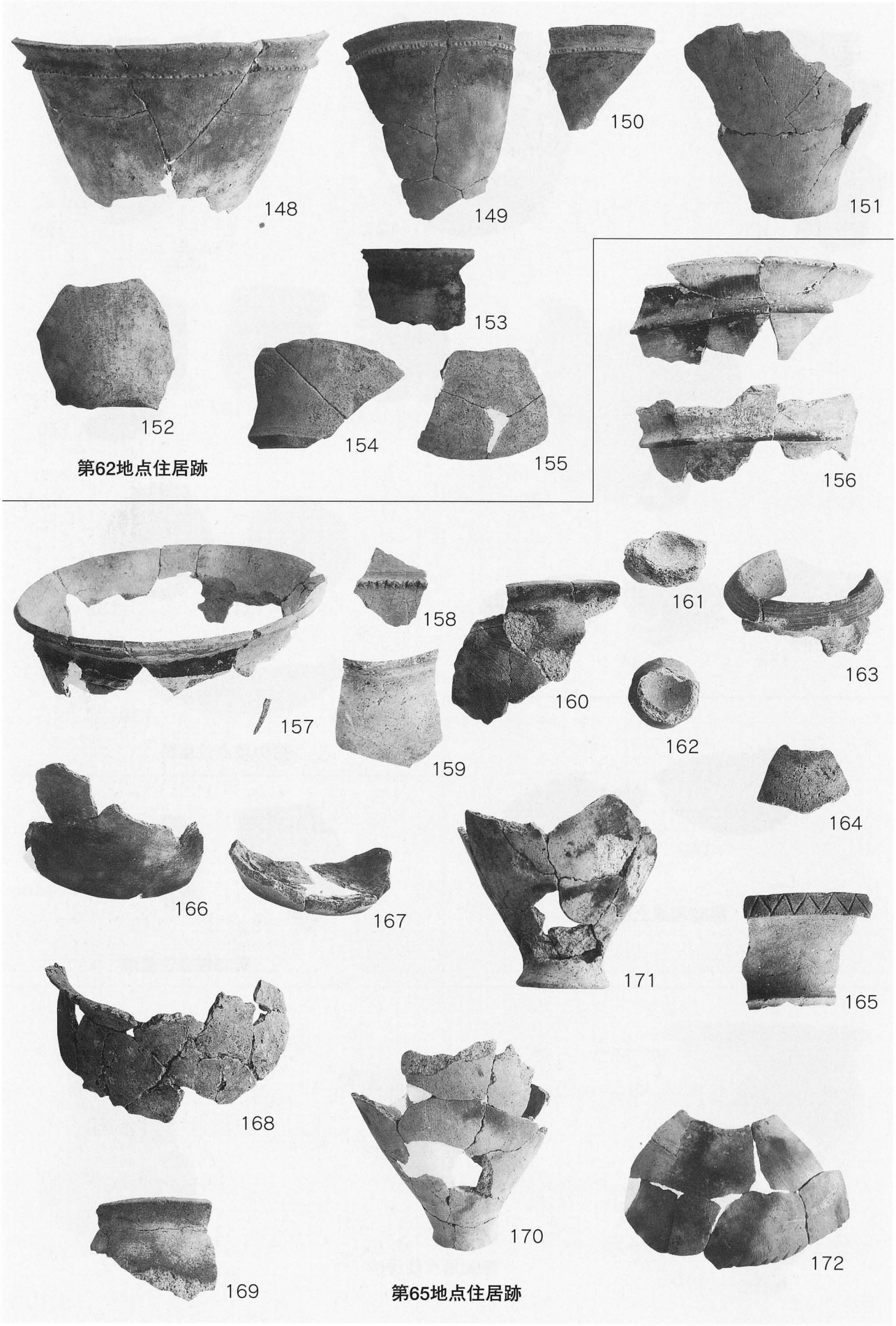
第53地点住居跡

145

146

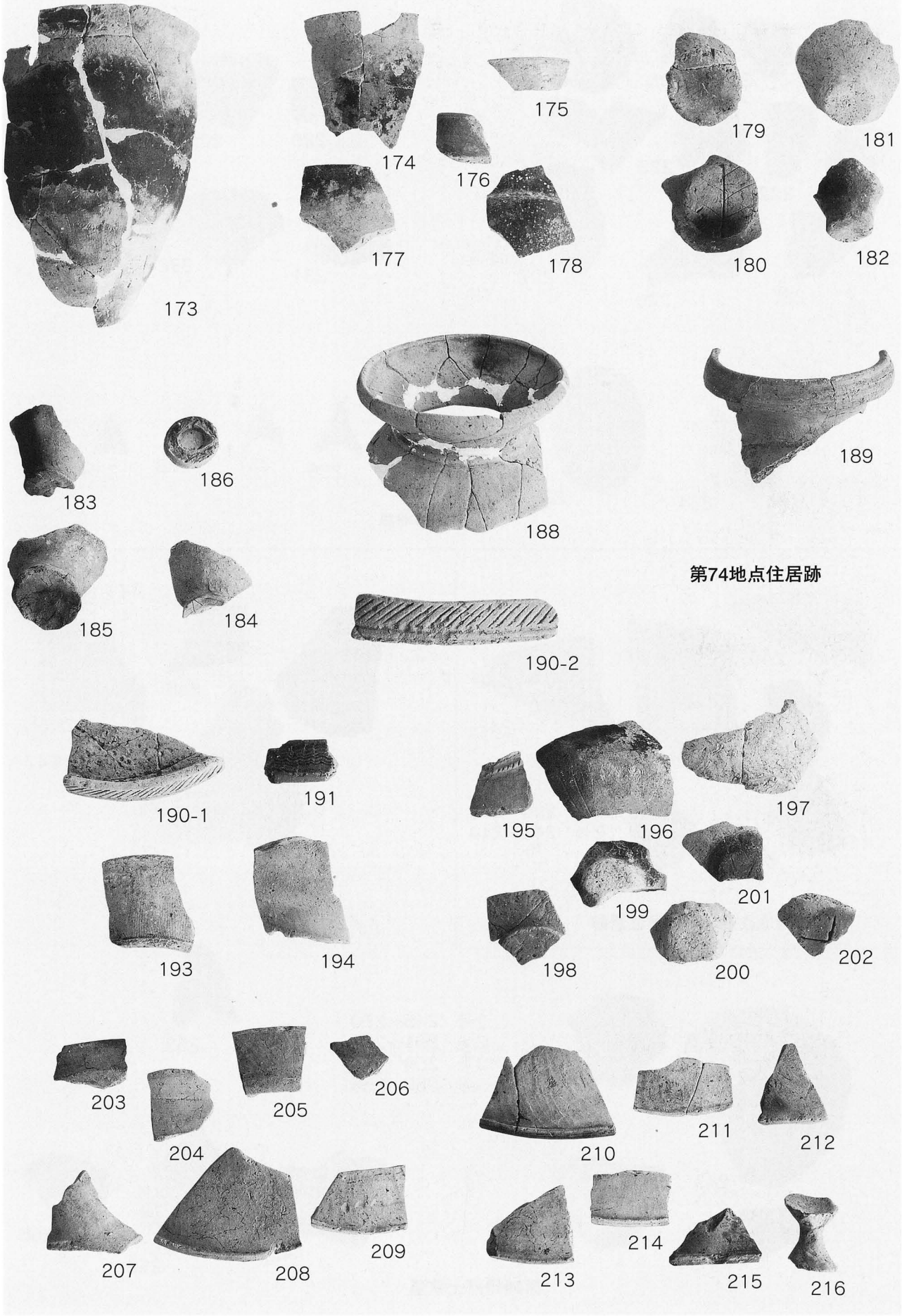
147

第60地点住居跡

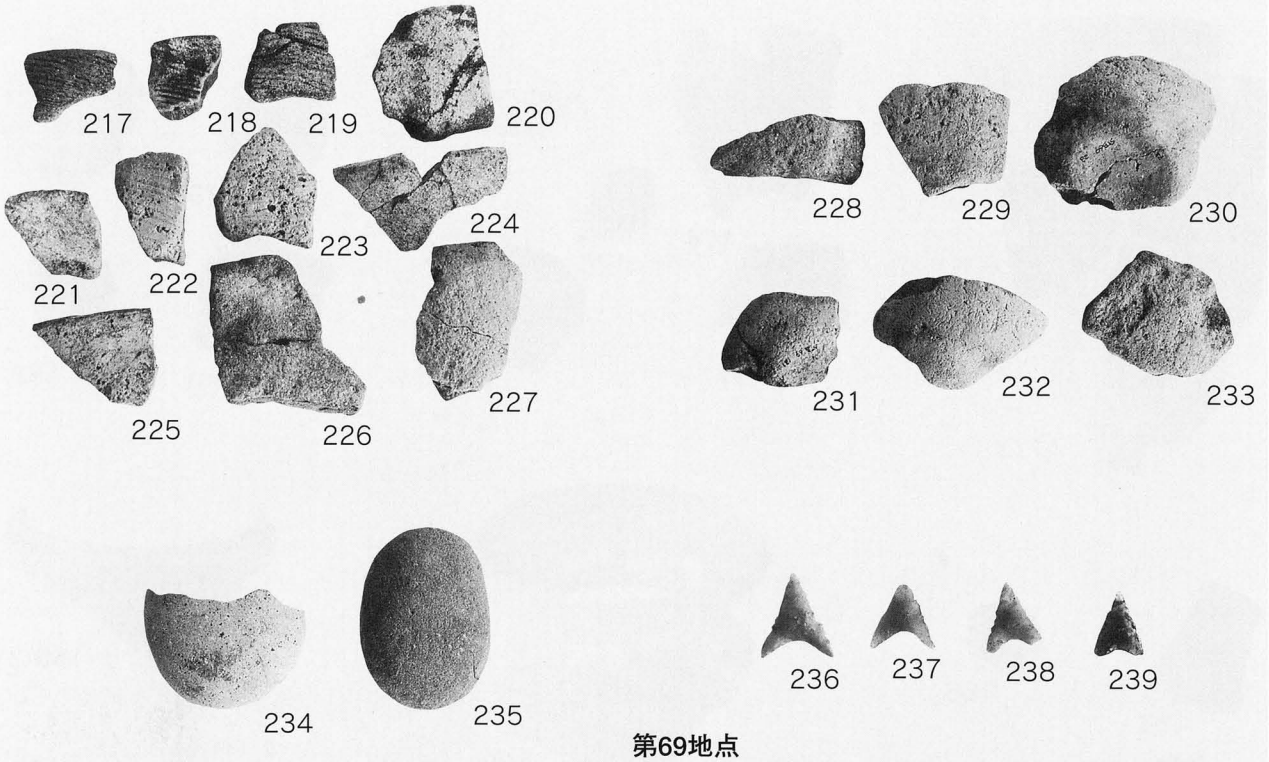


第62地点住居跡

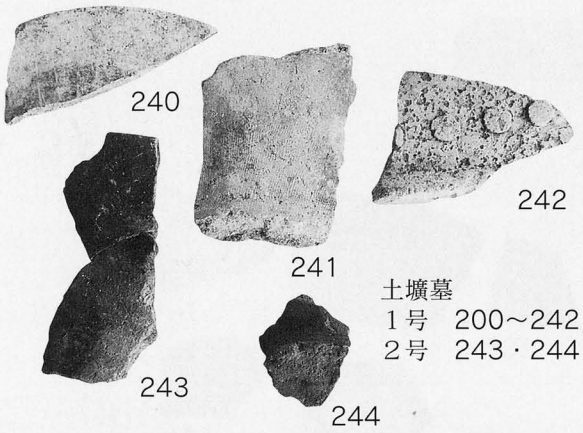
第65地点住居跡


173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
188
189
190-1
190-2
191
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216

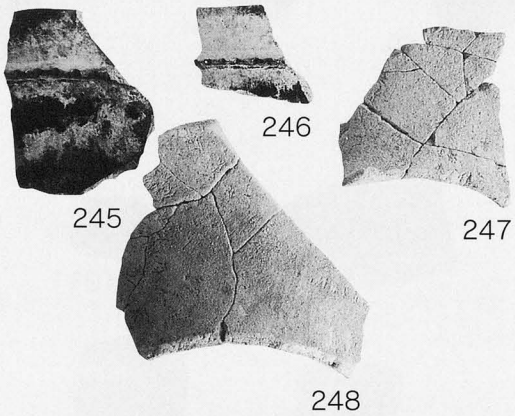
第74地点住居跡

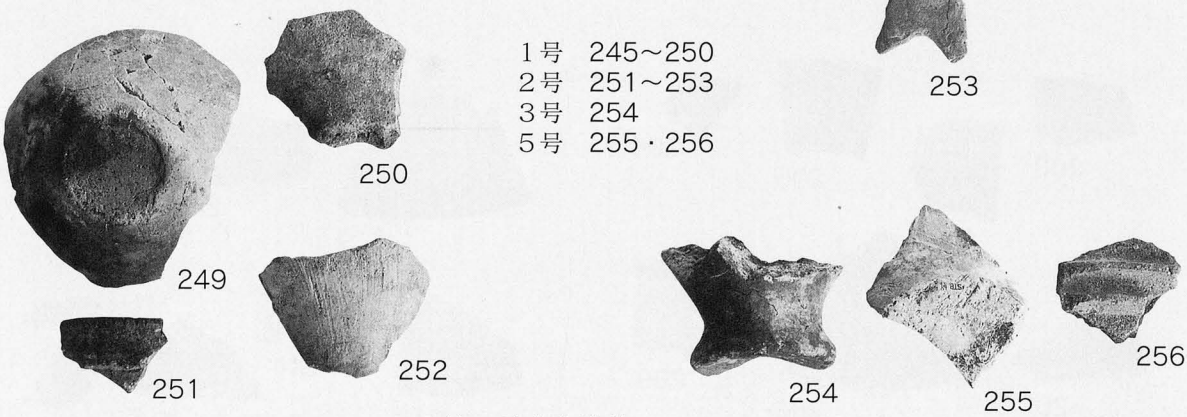


第69地点

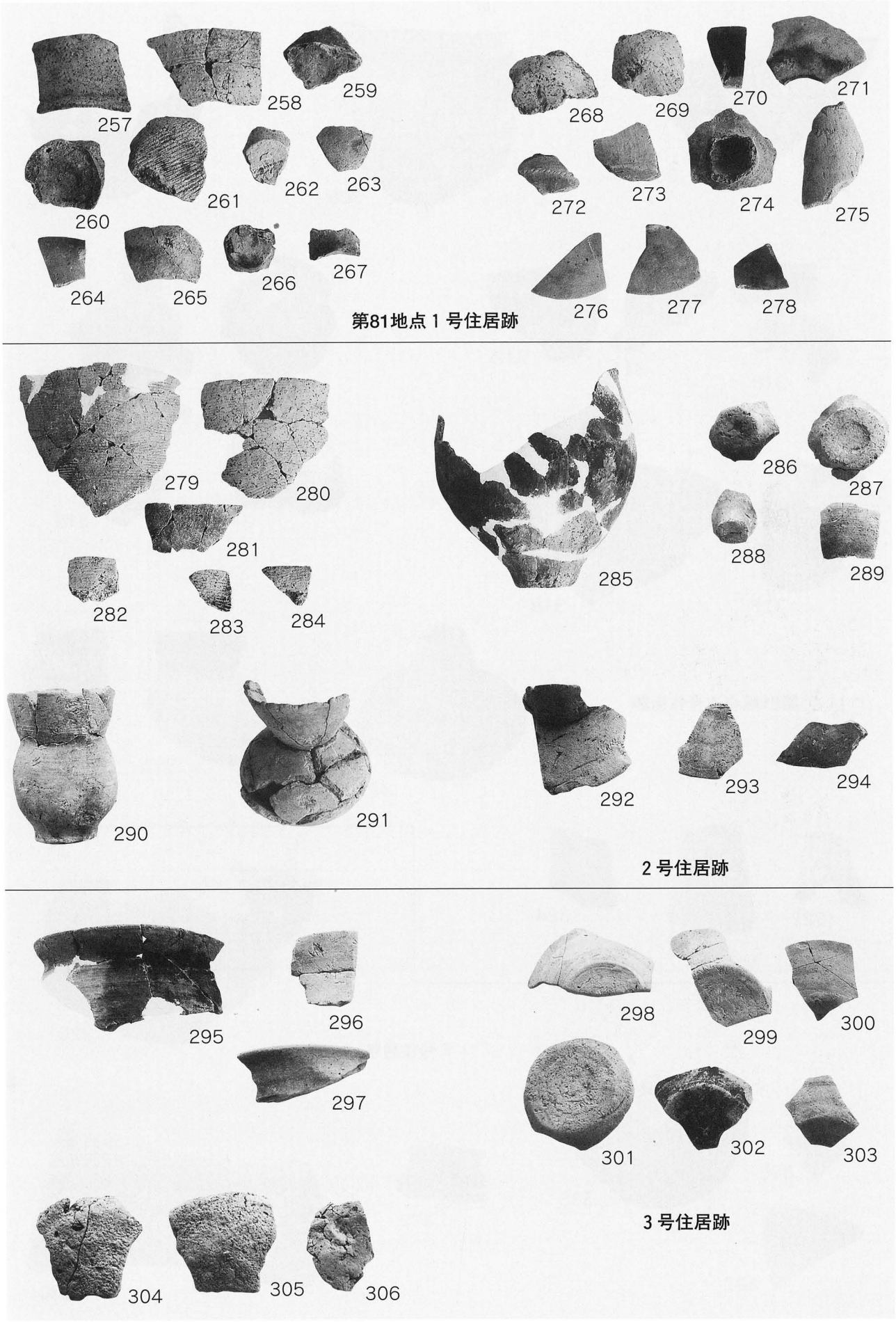


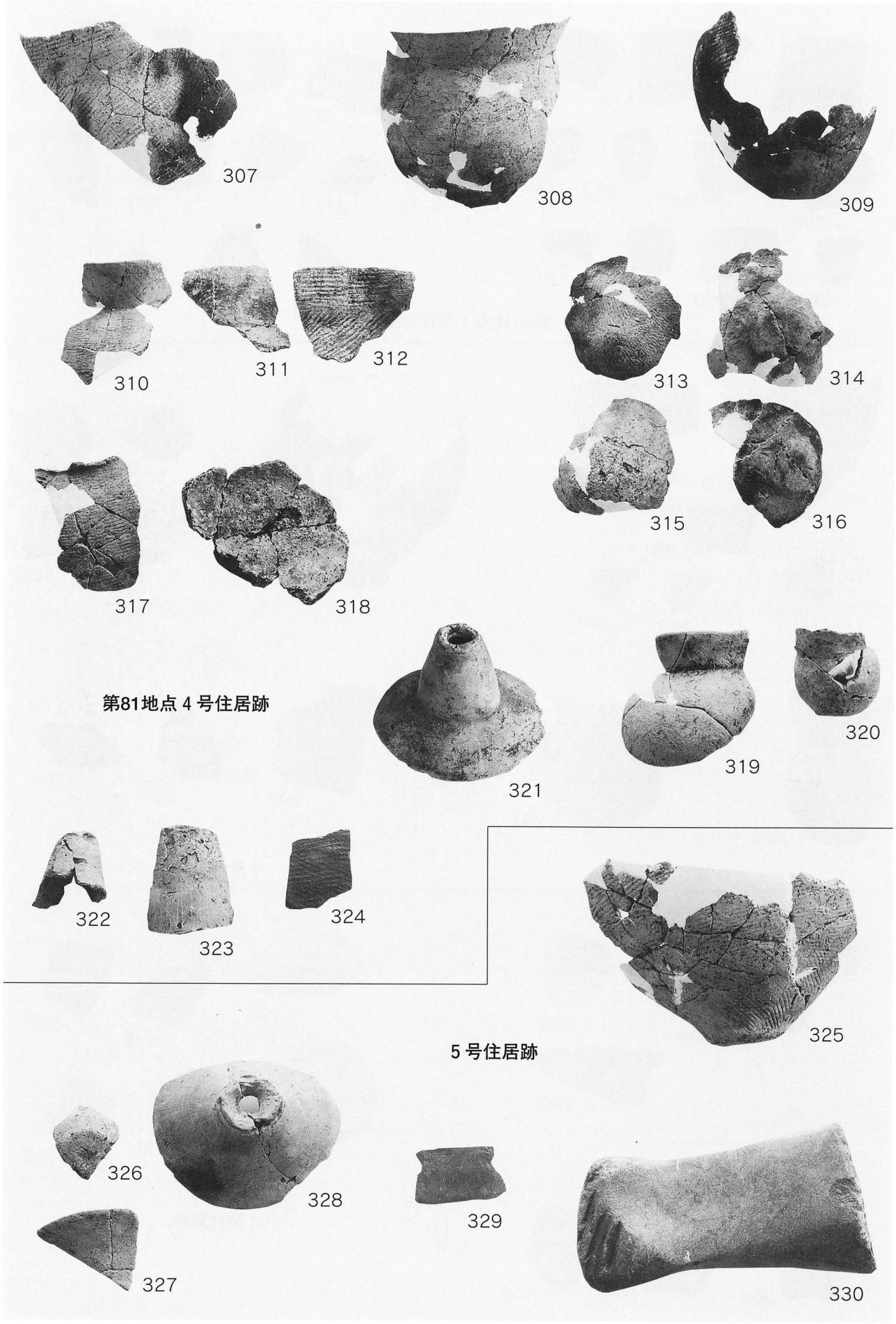
第69地点1号・2号住居跡





第69地点土壙墓


257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
第81地点１号住居跡
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
2号住居跡
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
3号住居跡


307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
第81地点４号住居跡
319
320
321
322
323
324
325
５号住居跡
326
327
328
329
330

331

332

333

334

335

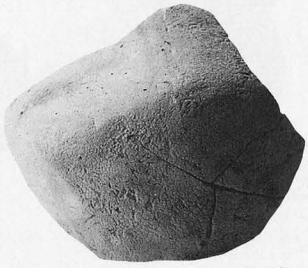
339

336

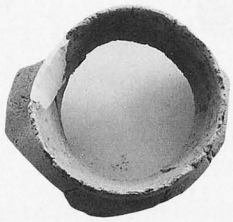
337

338

341-2

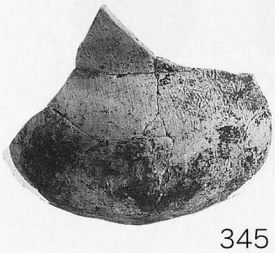

342

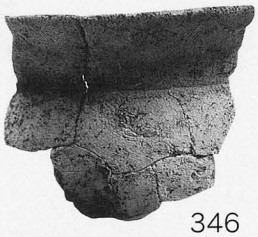
340


341-1

343

344


345


346

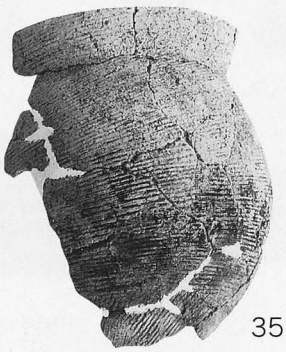
347

348

349

350

6号住居跡


351

353

354

7号住居跡

355

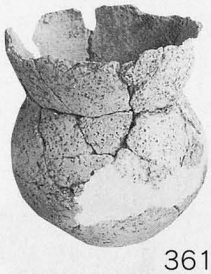
356

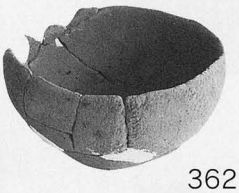
357

358

359

360


361

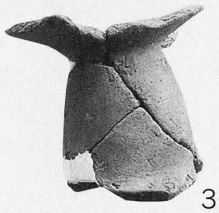

362

363

364

365

366


367

368

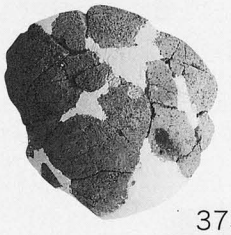
369

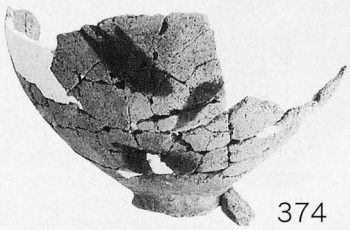
370

371

第81地点７号住居跡

372


373


374

375

376

377

378

379

８号住居跡

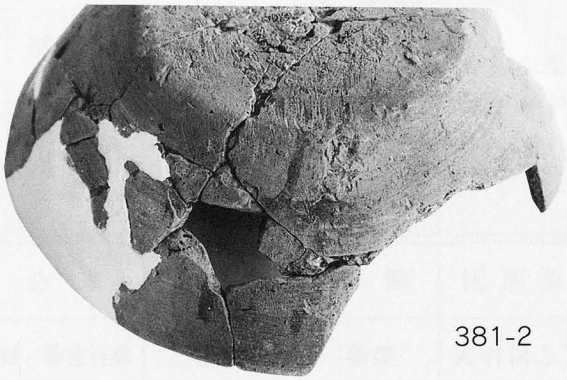
380-1

381-1

墨書土器

1号住居跡

380-2



381-2

第81地点

報告書抄録

ふりがな	さいとばるちくいせき
書名	西都原地区遺跡 II
副書名	農業基盤改良事業（たばこ耕作天地返し）に伴う埋蔵文化財発掘調査〔市内遺跡発掘調査事業〕
巻次	第１集
シリーズ名	西都市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第44集
編著者名	蓑方政幾
編集機関	西都市教育委員会
所在地	〒881-8501　宮崎県西都市聖陵町２丁目１番地　TEL　0983-43-1111
発行年月日	西暦　2006年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)
		市町村	遺跡番号				
さいとばるちくいせき 西都原地区遺跡	みやざきけんさいとし 宮崎県西都市 おおあざみやけあざてらばるわき 大字三宅字寺原脇 他	45208	1026 ～ 1029	32°06′35″ ～ 32°06′35″	131°22′44″ ～ 131°23′15″	19980804 ～ 20040117	70,600

調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
たばこ耕作天地返しに伴う調査	集落 古墳	縄文 ～ 中世	集石遺構・焼礫群 竪穴式住居跡・土壙墓 消失円墳周溝・土坑 掘立柱建物跡・柱穴群 溝状遺構	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器・陶磁器 輸入磁器（青磁・白磁） 石器（石鏃・敲石等）	

『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第44集

「西都原地区遺跡II」

平成18年3月31日発行

編集発行　西都市教育委員会

印刷所　(有)河野印刷所